

2023年度

九州歯科大学 シラバス

大学院歯学研究科 歯学専攻

目次

大学院

歯学研究科 歯学専攻

初年次研究研修プログラム	歯学研究科長	23
	角舘 直樹	
	中島 啓介	
	守下 昌輝	
	瀬田 祐司	
	古株 彰一郎	
	有吉 渉	
	竹内 弘	
	森本 泰宏	
	中島 秀彰	
	〔非常勤講師〕柳楽 隆昌	
生体材料学演習Ⅰ（ベーシックコース）	永松 有紀	25
	池田 弘	
生体材料学演習Ⅱ（アドバンスコース）	池田 弘	27
生体材料学概論	永松 有紀	29
	池田 弘	
生体材料学特論Ⅰ	永松 有紀	30
	池田 弘	
生体材料学特論Ⅱ	永松 有紀	31
	池田 弘	
解剖学Ⅰ（ベーシックコース）	瀬田 祐司	32
	豊野 孝	
	片岡 真司	
	松山 佳永	
解剖学Ⅱ（アドバンスコース）	瀬田 祐司	34
	豊野 孝	
	片岡 真司	
	松山 佳永	
解剖学演習Ⅰ（ベーシックコース）	瀬田 祐司	36
	豊野 孝	
	片岡 真司	
	松山 佳永	
解剖学演習Ⅱ（アドバンスコース）	瀬田 祐司	38
	豊野 孝	
	片岡 真司	
	松山 佳永	
解剖学演習Ⅲ	瀬田 祐司	40
	豊野 孝	
	片岡 真司	
	松山 佳永	
解剖学特論	瀬田 祐司	42
	豊野 孝	
	片岡 真司	
	松山 佳永	
頭頸部解剖実習	瀬田 祐司	43
	豊野 孝	
	片岡 真司	
	松山 佳永	
生理学演習Ⅰ（ベーシックコース）	小野 堅太郎	44
	中富 千尋	
	徐 嘉鍵	
生理学演習Ⅱ（アドバンスコース）	小野 堅太郎	45
	中富 千尋	

生理学演習Ⅲ	徐 嘉鍵 小野 堅太郎	46
生理学講究	中富 千尋 徐 嘉鍵 小野 堅太郎	47
分子生物学Ⅰ（初級編）	中富 千尋 徐 嘉鍵 古株 彰一郎	48
分子生物学Ⅱ（中級編）	松原 琢磨 Addison William 古株 彰一郎	50
分子生物学Ⅲ（上級編）	松原 琢磨 Addison William 古株 彰一郎	52
分子生物学クラブ	松原 琢磨 Addison William 古株 彰一郎	54
口腔病態病理学	松原 琢磨 Addison William 松尾 拓	55
口腔病態病理学演習Ⅰ（ベーシックコース）	矢田 直美 松尾 拓	58
口腔病態病理学演習Ⅱ（アドバンスコース）	松尾 拓	61
口腔病態病理学講究	松尾 拓	63
臨床病理診断学	松尾 拓 矢田 直美	66
臨床病理診断学演習	矢田 直美	69
感染症学Ⅰ	有吉 渉 吉岡 香絵 山崎 亮太	71
感染症学Ⅱ	有吉 渉 吉岡 香絵 山崎 亮太	73
感染症学Ⅲ	有吉 渉 吉岡 香絵 山崎 亮太	74
感染症学Ⅳ	有吉 渉 吉岡 香絵 山崎 亮太	75
薬理学Ⅰ	竹内 弘 東 泉	77
薬理学Ⅱ	竹内 弘 東 泉	80
薬理学Ⅲ	竹内 弘 東 泉	82
薬理学Ⅳ	竹内 弘 東 泉	84
薬理学講究	竹内 弘 東 泉	86
分子薬理学演習	竹内 弘 東 泉	87
細胞分子薬理学演習	竹内 弘 東 泉	89
薬理学演習	竹内 弘 東 泉	91
臨床疫学Ⅰ	角舘 直樹	93
臨床疫学Ⅱ	角舘 直樹	95
臨床疫学Ⅲ	角舘 直樹	97
臨床疫学演習	角舘 直樹	99
臨床疫学講究	角舘 直樹	100

口腔健康学Ⅰ	邵 仁浩 藤井 航 秋房 住郎 園木 一男 辻澤 利行 中道 敦子 泉 繭依 船原 まどか	101
口腔健康学Ⅱ	邵 仁浩 藤井 航 秋房 住郎 園木 一男 辻澤 利行 中道 敦子	104
口腔健康学Ⅲ	邵 仁浩 藤井 航 秋房 住郎 園木 一男 辻澤 利行 中道 敦子	105
口腔健康学実習	口腔保健学科長 邵 仁浩 藤井 航	106
口腔保健福祉学特論Ⅱ	秋房 住郎	107
保健医療特論Ⅰ	福泉 隆喜	110
保健医療特論Ⅱ	福泉 隆喜	112
保健医療特論Ⅲ	福泉 隆喜	114
保健医療特論Ⅳ	福泉 隆喜	116
保健医療特論演習Ⅰ	福泉 隆喜	118
保健医療特論演習Ⅱ	福泉 隆喜	119
保健医療特論講究	福泉 隆喜	120
プライマリ・ケアⅠ（ベーシックコース）	栗野 秀慈 村岡 宏祐 守下 昌輝	121
プライマリ・ケアⅡ（アドバンスコース）	栗野 秀慈 村岡 宏祐 守下 昌輝 邵 仁浩	123
プライマリ・ケアⅢ（症例検討）	栗野 秀慈 村岡 宏祐 守下 昌輝	125
歯科総合臨床教育研究学Ⅰ	栗野 秀慈 村岡 宏祐 守下 昌輝	126
歯科総合臨床教育研究学Ⅱ	栗野 秀慈 村岡 宏祐 守下 昌輝	127
総合診療学Ⅰ（ベーシックコース）	木尾 哲朗 永松 浩 鬼塚 千絵	128
総合診療学Ⅱ（アドバンスコース）	木尾 哲朗 永松 浩 鬼塚 千絵	131
歯科医学教育研究学Ⅰ	木尾 哲朗 永松 浩 鬼塚 千絵	134
歯科医学教育研究学Ⅱ	木尾 哲朗 永松 浩 鬼塚 千絵	136
歯科医学教育研究学Ⅲ	木尾 哲朗	138

総合診療学教育研究 1	永松 浩 鬼塚 千絵 木尾 哲朗	140
総合診療学教育研究 2	永松 浩 鬼塚 千絵 木尾 哲朗	141
総合診療学教育研究 3	永松 浩 鬼塚 千絵 木尾 哲朗	142
口腔保存治療学 I (臨床ベーシックコース)	永松 浩 鬼塚 千絵 北村 知昭 鷺尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将	143
口腔保存治療学 II (臨床アドバンスコースS)	北村 知昭 鷺尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将	146
口腔保存治療学 III (臨床アドバンスコースH)	北村 知昭 鷺尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将	149
口腔保存治療学 IV (研究セミナー)	北村 知昭 鷺尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将	152
口腔保存治療学 V (研究演習)	北村 知昭 鷺尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将	154
歯周病学 I	中島 啓介 白井 通彦 中村 太志 鬼塚 理 佐野 孝太郎 笠井 信吾	156
歯周病学 II	中島 啓介 白井 通彦 中村 太志 鬼塚 理 佐野 孝太郎 笠井 信吾	159
歯周病学 III (症例検討)	中島 啓介 白井 通彦 中村 太志 鬼塚 理 佐野 孝太郎 笠井 信吾	161
歯周病学 IV (歯周外科アドバンス)	中島 啓介 白井 通彦 中村 太志 鬼塚 理 佐野 孝太郎 笠井 信吾	162

補綴治療学Ⅰ（ベーシックコース）	有田 正博	164
	榎原 絵理	
	渡辺 崇文	
補綴治療学Ⅱ（フレンジテクニック）	有田 正博	167
	榎原 絵理	
補綴治療学Ⅲ（マグネットデンチャー）	榎原 絵理	169
	渡辺 崇文	
顎口腔欠損再構築学Ⅰ（睡眠時無呼吸症）	榎原 絵理	171
顎口腔欠損再構築学Ⅱ（TMD）	榎原 絵理	173
顎口腔欠損再構築学Ⅲ（検討会）	有田 正博	175
	榎原 絵理	
口腔インプラント補綴学Ⅰ	細川 隆司	176
	正木 千尋	
	近藤 祐介	
	向坊 太郎	
	宗政 翔	
	野代 知孝	
口腔インプラント補綴学Ⅱ	細川 隆司	178
	正木 千尋	
	近藤 祐介	
	向坊 太郎	
	宗政 翔	
	野代 知孝	
口腔再建リハビリテーション学Ⅰ	細川 隆司	180
	正木 千尋	
	近藤 祐介	
	向坊 太郎	
	宗政 翔	
	野代 知孝	
口腔再建リハビリテーション学Ⅱ	細川 隆司	182
	正木 千尋	
	近藤 祐介	
	向坊 太郎	
	宗政 翔	
	野代 知孝	
口腔再建リハビリテーション学Ⅲ	細川 隆司	184
	正木 千尋	
	近藤 祐介	
	向坊 太郎	
	宗政 翔	
	野代 知孝	
最新口腔再建リハビリテーション学	細川 隆司	185
	正木 千尋	
	近藤 祐介	
	向坊 太郎	
	宗政 翔	
	野代 知孝	
地域口腔保健医療学Ⅰベーシックコース	安細 敏弘	186
	邵 仁浩	
	角田 聡子	
	片岡 正太	
	茂山 博代	
地域口腔保健医療学Ⅱアドバンスコース	安細 敏弘	188
	邵 仁浩	
	角田 聡子	
	片岡 正太	
	茂山 博代	
地域口腔保健医療学演習Ⅰ	安細 敏弘	190
	邵 仁浩	
	角田 聡子	

地域口腔保健医療学演習Ⅱ	片岡 正太 茂山 博代 安細 敏弘	193
地域口腔保健医療学特論Ⅰ	片岡 正太 安細 敏弘 角田 聡子 片岡 正太 茂山 博代	195
歯科と全身疾患	中道 郁夫	196
高血圧患者の診かた	福原 正代	198
内科学入門	福原 正代	200
小児歯科学Ⅰ（ベーシックコース）	西田 郁子 藤田 優子 佐伯 桂 渡辺 幸嗣	203
小児歯科学Ⅱ（アドバンスコース）	西田 郁子 藤田 優子 佐伯 桂 渡辺 幸嗣	208
口腔機能発達学Ⅰ	西田 郁子 藤田 優子 佐伯 桂 渡辺 幸嗣	213
口腔機能発達学Ⅱ（検討会）	西田 郁子 藤田 優子 佐伯 桂 渡辺 幸嗣	217
口腔機能発達学Ⅲ	牧 憲司 西田 郁子 藤田 優子 佐伯 桂 渡辺 幸嗣 向坊 友宏	218
歯科矯正学Ⅰ（ベーシック）	川元 龍夫 郡司掛 香織 黒石 加代子 水原 正博 白川 智彦	219
歯科矯正学Ⅱ（基礎実習）	川元 龍夫 郡司掛 香織 黒石 加代子 水原 正博 白川 智彦	221
歯科矯正学Ⅲ（タイポドント）	川元 龍夫 郡司掛 香織 黒石 加代子 水原 正博 白川 智彦	223
歯科矯正学Ⅳ（臨床研修）	川元 龍夫 郡司掛 香織 黒石 加代子 水原 正博 白川 智彦	225
顎口腔機能矯正学Ⅰ	川元 龍夫 郡司掛 香織 黒石 加代子 水原 正博 白川 智彦	227
顎口腔機能矯正学Ⅱ	川元 龍夫 郡司掛 香織	229

顎口腔機能矯正学 3	黒石 加代子 水原 正博 白川 智彦 川元 龍夫	231
歯科放射線学	郡司掛 香織 黒石 加代子 水原 正博 白川 智彦 森本 泰宏	233
歯科放射線学検討会	小田 昌史 松本 忍 若杉 奈緒 森本 泰宏	236
歯科放射線学概論	小田 昌史 松本 忍 若杉 奈緒 森本 泰宏	237
歯科放射線学演習 I	小田 昌史 松本 忍 若杉 奈緒 森本 泰宏	240
歯科放射線学演習 II	小田 昌史 松本 忍 若杉 奈緒 森本 泰宏	242
歯科放射線学輪読会	小田 昌史 松本 忍 若杉 奈緒 森本 泰宏	244
顎顔面外科学ベーシック治療学コース	笹栗 正明	245
顎顔面外科学ベーシック診断学コース	土生 学 三次 翔 高橋 理 原口 和也 田部 士郎 柳沼 樹 森岡 政彦 福田 晃 笹栗 正明	248
顎顔面外科学 1 (病理・病態解明)	土生 学 三次 翔 高橋 理 原口 和也 田部 士郎 柳沼 樹 森岡 政彦 福田 晃 笹栗 正明	251
顎顔面外科学 2 (薬物・遺伝子導入)	土生 学 三次 翔 高橋 理 原口 和也 田部 士郎 柳沼 樹 森岡 政彦 福田 晃 笹栗 正明	253

	土生 学 三次 翔 高橋 理 原口 和也 田部 士郎 柳沼 樹 森岡 政彦 福田 晃		
顎顔面外科学 3 (検討会)	笹栗 正明	255
	土生 学 三次 翔 高橋 理 原口 和也 田部 士郎 柳沼 樹 森岡 政彦 福田 晃		
口腔内科学ベーシックコース	吉賀 大午	256
	吉岡 泉 鶴島 弘基 坂口 修 田中 純平 大谷 泰志 西牟田 文香		
口腔内科学アドバンスコース I	吉賀 大午	259
	吉岡 泉 鶴島 弘基 坂口 修 田中 純平 大谷 泰志 西牟田 文香		
口腔内科学アドバンスコース II	吉賀 大午	263
	吉岡 泉 鶴島 弘基 坂口 修 田中 純平 大谷 泰志 西牟田 文香		
口腔内科学アドバンスコース III	吉賀 大午	266
	吉岡 泉 鶴島 弘基 坂口 修 田中 純平 大谷 泰志 西牟田 文香		
口腔内科学 I (顎変形症)	吉賀 大午	269
	吉岡 泉 鶴島 弘基 坂口 修 田中 純平 大谷 泰志 西牟田 文香		
口腔内科学 II	吉賀 大午	272
	吉岡 泉 鶴島 弘基 坂口 修 田中 純平 大谷 泰志 西牟田 文香		
口腔内科学 III	吉岡 泉	275

	鶴島 弘基	
	坂口 修	
	田中 純平	
	大谷 泰志	
	西牟田 文香	
歯科麻酔学（障害者歯科コース）	渡邊 誠之	276
	椎葉 俊司	
	原野 望	
	茂山 幸代	
歯科麻酔学（疼痛管理Ⅰ）	椎葉 俊司	277
	左合 徹平	
歯科麻酔学（疼痛管理Ⅱ）	椎葉 俊司	279
	原野 望	
	茂山 幸代	
麻酔学特論	渡邊 誠之	281
	椎葉 俊司	
	原野 望	
	左合 徹平	
	茂山 幸代	
	安藤 瑛香	
麻酔学（ベーシックコース）	渡邊 誠之	282
臨床歯科麻酔学	左合 徹平	284
摂食機能リハビリテーション学Ⅰ（ベーシック）	多田 葉子	286
	久保田 潤平	
	唐木 純一	
摂食機能リハビリテーション学Ⅱ（アドバンス）	多田 葉子	289
	久保田 潤平	
	唐木 純一	
高齢者歯科学セミナーⅠ（摂食機能リハビリ）	多田 葉子	292
	久保田 潤平	
	唐木 純一	
高齢者歯科学セミナーⅡ（統合医学）	多田 葉子	293
	久保田 潤平	
	唐木 純一	
高齢・障害者歯科学特論	多田 葉子	294
	久保田 潤平	
	唐木 純一	
周術期管理と外科基本手技	中島 秀彰	295
大学院特別講義	歯学研究科長	297
	福泉 隆喜	
	北村 知昭	
	池田 弘	
	小野 堅太郎	
	古株 彰一郎	
	有吉 渉	
	竹内 弘	
	安細 敏弘	
	牧 憲司	
	川元 龍夫	
	森本 泰宏	
生命分子形態学	瀬田 祐司	300
	豊野 孝	
	片岡 真司	
	松山 佳永	
分子生物学演習Ⅰ	古株 彰一郎	302
	松原 琢磨	
	Addison William	
分子生物学演習Ⅱ	古株 彰一郎	303
	松原 琢磨	
	Addison William	

神経生理実験法	小野 堅太郎	304
	中富 千尋	
	徐 嘉鍵	
画像撮影技術と解析法	森本 泰宏	305
	小田 昌史	
	松本 忍	
	若杉 奈緒	
摂食脳科学	吉野 賢一	306
保険診療実践演習	福泉 隆喜	308
統計解析の基礎	深井 康成	309
学術基礎英語	海寶 康臣	311
バイオ分析化学特論	〔非常勤講師〕竹中 繁織	313
バイオ計測学特論	〔非常勤講師〕佐藤 しのぶ	316
知的システム構成特論	〔非常勤講師〕神谷 亨	318
微生物機能と化学循環	〔非常勤講師〕前田 憲成	320
生体機能材料	〔非常勤講師〕宮崎 敏樹	322
生体力学	〔非常勤講師〕山田 宏	324
歯科放射線学概論	森本 泰宏	326
顎顔面外科学概論	笹栗 正明	329
骨・骨格筋の分子生物学	古株 彰一郎	332
	松原 琢磨	
	Addison William	
感染症の分子生物学	有吉 渉	334
	山崎 亮太	
臨床研究デザイン I	角館 直樹	336
	唐木 純一	
臨床研究デザイン II	角館 直樹	339
	唐木 純一	
高齢期歯科疾患概論 I	多田 葉子	342
	久保田 潤平	
	磯部 彩香	
	唐木 純一	
高齢期歯科疾患概論 II	多田 葉子	344
	久保田 潤平	
	磯部 彩香	
	唐木 純一	
高分子物性論	〔非常勤講師〕櫻井 和朗	346
	〔非常勤講師〕望月 慎一	
生体材料論	〔非常勤講師〕中澤 浩二	348
物理化学概論	〔非常勤講師〕竹中 繁織	350
	〔非常勤講師〕横野 照尚	
生体力学	〔非常勤講師〕山田 宏	352
産業医学研究基盤コース	医学研究科長（産業医大）	354
医学研究概論	医学研究科長（産業医大）	356
Fresher' s Research Training Program	Dean of Graduate School of Dentistry	358
	Kakudate N.	
	Nakashima K.	
	Morishita M.	
	Seta Y.	
	Kokabu S.	
	Ariyoshi.W	
	Takeuchi H.	
	Morimoto Y.	
	Nakashima H.	
	null	
Seminar in Biomaterials I (Basic Course)	Nagamatsu Y.	360
	Ikeda H.	
Seminar in Biomaterials II (Advanced Course)	Ikeda H.	362
Dental Biomaterials	Nagamatsu Y.	364
	Ikeda H.	

Advanced Biomaterials I	Nagamatsu Y.	365
	Ikeda H.	
Advanced Biomaterials II	Nagamatsu Y.	366
	Ikeda H.	
Anatomy I (Basic course)	Seta Y.	367
	Toyono T.	
	Kataoka S.	
	Matsuyama K.	
Anatomy II (Advanced course)	Seta Y.	369
	Toyono T.	
	Kataoka S.	
	Matsuyama K.	
Anatomy Practice I (Basic course)	Seta Y.	371
	Toyono T.	
	Kataoka S.	
	Matsuyama K.	
Anatomy Practice II (Advanced course)	Seta Y.	373
	Toyono T.	
	Kataoka S.	
	Matsuyama K.	
Anatomy Practice III	Seta Y.	375
	Toyono T.	
	Kataoka S.	
	Matsuyama K.	
Anatomy Advanced course	Seta Y.	377
	Toyono T.	
	Kataoka S.	
	Matsuyama K.	
Head and Neck Dissection Course	Seta Y.	378
	Toyono T.	
	Kataoka S.	
	Matsuyama K.	
Physiology Practice I	Ono K.	379
	Nakatomi C.	
	Hsu C.	
Physiology Practice II	Ono K.	380
	Nakatomi C.	
	Hsu C.	
Physiology Practice III	Ono K.	381
	Nakatomi C.	
	Hsu C.	
Physiology Division Colloquium	Ono K.	382
	Nakatomi C.	
	Hsu C.	
Molecular and Cell Biology Training Program I (Basic Class)	Kokabu S.	383
	Matsubara T.	
	Addison W.	
Molecular and Cell Biology Training Program II (Middle Class)	Kokabu S.	385
	Matsubara T.	
	Addison W.	
Molecular and Cell Biology Training Program III (Advanced Class)	Kokabu S.	387
	Matsubara T.	
	Addison W.	
Molecular Biology Journal Club	Kokabu S.	389
	Matsubara T.	
	Addison W.	
Oral Pathology	Matsuo K.	390
	Yada N.	
Practice of Oral Pathology I (basic course)	Matsuo K.	392
Practice of Oral Pathology II (advanced course)	Matsuo K.	394

Colloquium of Oral Pathology	Matsuo K.	395
Clinical Diagnostic Pathology	Matsuo K.	397
	Yada N.	
Practice of Clinical Diagnostic Pathology	Yada N.	399
Infectious Diseases I	Ariyoshi.W	401
	Yoshioka Y.	
	Yamasaki R.	
Infectious Diseases II	Ariyoshi.W	403
	Yoshioka Y.	
	Yamasaki R.	
Infectious Diseases III	Ariyoshi.W	404
	Yoshioka Y.	
	Yamasaki R.	
Infectious Diseases IV	Ariyoshi.W	405
	Yoshioka Y.	
	Yamasaki R.	
Pharmacology I	Takeuchi H.	407
	Higashi S.	
Pharmacology II	Takeuchi H.	409
	Higashi S.	
Pharmacology III	Takeuchi H.	411
	Higashi S.	
Pharmacology IV	Takeuchi H.	413
	Higashi S.	
Journal Club - Current Topics for Drug Discovery -	Takeuchi H.	415
	Higashi S.	
Seminar in Molecular Pharmacology	Takeuchi H.	416
	Higashi S.	
Seminar in Cellular and Molecular Pharmacology	Takeuchi H.	418
	Higashi S.	
Seminar in Pharmacology	Takeuchi H.	420
	Higashi S.	
Clinical Epidemiology I	Kakudate N.	422
Clinical Epidemiology II	Kakudate N.	424
Clinical Epidemiology III	Kakudate N.	426
Clinical Epidemiology Practice	Kakudate N.	428
Journal Club in Clinical Epidemiology	Kakudate N.	429
Oral Health Science I	Soh I.	430
	Fujii W.	
	Akifusa S.	
	Sonoki K.	
	Tsujisawa T.	
	Nakamichi A.	
	Izumi M.	
	Funahara M.	
Oral Health Science II	Soh I.	433
	Fujii W.	
	Akifusa S.	
	Sonoki K.	
	Tsujisawa T.	
	Nakamichi A.	
Oral Health Science III	Soh I.	434
	Fujii W.	
	Akifusa S.	
	Sonoki K.	
	Tsujisawa T.	
	Nakamichi A.	
Practice of Oral Health Science	Dean of School of Oral Health Sciences	435
	Soh I.	
	Fujii W.	

Advanced Oral Health and Welfare Promotion II	Akifusa S.	436
Training Program I in Public Health and Social Security Policy	Fukuizumi T.	439
Training Program II in Public Health and Social Security Policy	Fukuizumi T.	442
Training Program III in Public Health and Social Security Policy	Fukuizumi T.	445
Training Program IV in Public Health and Social Security Policy	Fukuizumi T.	448
Practice I of Public Health and Social Security Policy	Fukuizumi T.	451
Practice II of Public Health and Social Security Policy	Fukuizumi T.	453
Colloquium of Public Health and Social Security Policy	Fukuizumi T.	455
Primary Dental Care I (Clinical Basic Course)	Awano S.	456
	Muraoka K.	
	Morishita M.	
Primary Dental Care II (Clinical Advance Course)	Awano S.	458
	Muraoka K.	
	Morishita M.	
	Soh I.	
Primary Dental Care III (Clinical Conference)	Awano S.	460
	Muraoka K.	
	Morishita M.	
Educational Research of Comprehensive Clinical Dentistry I	Awano S.	461
	Muraoka K.	
	Morishita M.	
Educational Research of Comprehensive Clinical Dentistry II	Awano S.	462
	Muraoka K.	
	Morishita M.	
Comprehensive dentistry I (Basic course)	Konoo T.	463
	Nagamatsu H.	
	Onizuka C.	
Comprehensive dentistry II (advanced course)	Konoo T.	466
	Nagamatsu H.	
	Onizuka C.	
Research of the dental education I	Konoo T.	468
	Nagamatsu H.	
	Onizuka C.	
Research of the dental education II	Konoo T.	470
	Nagamatsu H.	
	Onizuka C.	
Research of the dental education III	Konoo T.	472
	Nagamatsu H.	
	Onizuka C.	
Education and research of the general dentistry I	Konoo T.	474
	Nagamatsu H.	
	Onizuka C.	
Education and research of the general dentistry II	Konoo T.	475
	Nagamatsu H.	
	Onizuka C.	
Education and research of the general dentistry III	Konoo T.	476
	Nagamatsu H.	
	Onizuka C.	
Endodontics and Restorative Dentistry I (Clinical Basic Course)	Kitamura C.	477
	Washio A.	
	Orimoto A.	
	Aihara R.	
	Murata K.	
Endodontics and Restorative Dentistry II (Clinical Advance Course S)	Kitamura C.	480
	Washio A.	
	Orimoto A.	
	Aihara R.	
	Murata K.	
Endodontics and Restorative Dentistry III (Clinical Advance Course H)	Kitamura C.	483
	Washio A.	

	Orimoto A.		
	Aihara R.		
	Murata K		
Endodontics and Restorative Dentistry IV(Research Seminar)	Kitamura C.	486	
	Washio A.		
	Orimoto A.		
	Aihara R.		
	Murata K		
Endodontics and Restorative Dentistry V(Research Practice)	Kitamura C.	488	
	Washio A.		
	Orimoto A.		
	Aihara R.		
	Murata K		
Periodontology I (Clinical Basic Course)	Nakashima K.	491	
	Usui M.		
	Nakamura T.		
	Onizuka O.		
	Sano K.		
	Kasai S.		
Periodontology II	Nakashima K.	494	
	Usui M.		
	Nakamura T.		
	Onizuka O.		
	Sano K.		
	Kasai S.		
Periodontology III (Clinical Conference)	Nakashima K.	496	
	Usui M.		
	Nakamura T.		
	Onizuka O.		
	Sano K.		
	Kasai S.		
Periodontology IV (Advanced Periodontal Surgery)	Nakashima K.	497	
	Usui M.		
	Nakamura T.		
	Onizuka O.		
	Sano K.		
	Kasai S.		
Removable Prosthesis I (Basic Course)	Arita M.	499	
	Makihara E.		
	Watanabe T.		
Removable Prosthesis II (Flange Technique)	Arita M.	502	
	Makihara E.		
Removable Prosthesis III (Magnet Denture)	Makihara E.	504	
	Watanabe T.		
Removable Prosthodontics I (Obstructive sleep apnea)	Makihara E.	506	
Removable Prosthodontics II (TMD)	Makihara E.	508	
Removable Prosthodontics III (Research Discussion)	Arita M.	510	
	Makihara E.		
Prosthodontics I Implant supported Prosthesis	Hosokawa R.	511	
	Masaki C.		
	Kondou Y.		
	Mukaibou T.		
	Munemasa T.		
	Nodai T.		
Prosthodontics II Implant supported Prosthesis	Hosokawa R.	513	
	Masaki C.		
	Kondou Y.		
	Mukaibou T.		
	Munemasa T.		
	Nodai T.		

Oral Reconstruction and Rehabilitation I	Hosokawa R.	515
	Masaki C.	
	Kondou Y.	
	Mukaibou T.	
	Munemasa T.	
	Nodai T.	
Oral Reconstruction and Rehabilitation II	Hosokawa R.	517
	Masaki C.	
	Kondou Y.	
	Mukaibou T.	
	Munemasa T.	
	Nodai T.	
Oral Reconstruction and Rehabilitation III	Hosokawa R.	519
	Masaki C.	
	Kondou Y.	
	Mukaibou T.	
	Munemasa T.	
	Nodai T.	
Advanced Oral Reconstruction and Rehabilitation	Hosokawa R.	520
	Masaki C.	
	Kondou Y.	
	Mukaibou T.	
	Munemasa T.	
	Nodai T.	
Basic Studies in Community Oral Health	Ansai T.	521
	Soh I.	
	Kakuta S.	
	Kataoka S.	
	Shigeyama H.	
Advanced Studies in Community Oral Health	Ansai T.	523
	Soh I.	
	Kakuta S.	
	Kataoka S.	
	Shigeyama H.	
Practice in Community Oral Health I	Ansai T.	525
	Soh I.	
	Kakuta S.	
	Kataoka S.	
	Shigeyama H.	
Practice in Community Oral Health II	Ansai T.	528
	Kataoka S.	
Current Topics in Community Oral Health I	Ansai T.	530
	Kakuta S.	
	Kataoka S.	
	Shigeyama H.	
Internal Medicine for Dentistry	Nakamichi I.	531
Diagnosis and Treatment of Hypertension	Fukuhara M.	533
Introduction of Internal Medicine	Fukuhara M.	535
Pediatric Dentistry I (Basic Course)	Nishida I.	538
	Fujita Y.	
	Saeki K.	
	Watanabe K.	
Pediatric Dentistry II (Advanced Course)	Nishida I.	543
	Fujita Y.	
	Saeki K.	
	Watanabe K.	
Developmental Stomatognathic Function Science I	Nishida I.	549
	Fujita Y.	
	Saeki K.	
	Watanabe K.	

Developmental Stomatognathic Function Science II (Case Conference)	Nishida I. Fujita Y. Saeki K. Watanabe K.	553
Developmental Stomatognathic Function Science III	Maki K. Nishida I. Fujita Y. Saeki K. Watanabe K. null	554
Orthodontics I (Basic)	Kawamoto T. Gunjigake K. Kuroishi K. Mizuhara M. Shirakawa T.	555
Orthodontics II (Basic)	Kawamoto T. Gunjigake K. Kuroishi K. Mizuhara M. Shirakawa T.	559
Orthodontics III (Typodont exercise)	Kawamoto T. Gunjigake K. Kuroishi K. Mizuhara M. Shirakawa T.	562
Orthodontics IV (Clinical training)	Kawamoto T. Gunjigake K. Kuroishi K. Mizuhara M. Shirakawa T.	565
Orofacial Function and Orthodontics I	Kawamoto T. Gunjigake K. Kuroishi K. Mizuhara M. Shirakawa T.	567
Orofacial Function and Orthodontics II	Kawamoto T. Gunjigake K. Kuroishi K. Mizuhara M. Shirakawa T.	569
Orofacial Function and Orthodontics III	Kawamoto T. Gunjigake K. Kuroishi K. Mizuhara M. Shirakawa T.	571
Oral and Maxillofacial Radiology	Morimoto Y. Oda M. Matsumoto S. Wakasugi-Sato N.	573
Conference of Oral and Maxillofacial Radiology	Morimoto Y. Oda M. Matsumoto S. Wakasugi-Sato N.	577
Outline of Oral and Maxillofacial Radiology	Morimoto Y. Oda M. Matsumoto S. Wakasugi-Sato N.	578
Practice of Oral and Maxillofacial Radiology I	Morimoto Y. Oda M. Matsumoto S.	582

Practice of Oral and Maxillofacial Radiology II	Wakasugi-Sato N. Morimoto Y. Oda M. Matsumoto S. Wakasugi-Sato N.	585
A reading circle on Oral and Maxillofacial Radiology	Morimoto Y. Oda M. Matsumoto S. Wakasugi-Sato N.	588
Basic treatment strategy of Oral and Maxillofacial Surgery	Sasaguri M. Habu M. Mitsugi S. Takahashi O. Haraguchi K. Tabé S. Yaginuma T. Morioka M. Fukuda H.	589
Basic diagnostic strategy of Oral and Maxillofacial Surgery	Sasaguri M. Habu M. Mitsugi S. Takahashi O. Haraguchi K. Tabé S. Yaginuma T. Morioka M. Fukuda H.	592
Oral and Maxillofacial Surgery 1(Pathology and disease mechanisms)	Sasaguri M. Habu M. Mitsugi S. Takahashi O. Haraguchi K. Tabé S. Yaginuma T. Morioka M. Fukuda H.	595
Oral and Maxillofacial Surgery 2 (Drug and gene induction)	Sasaguri M. Habu M. Mitsugi S. Takahashi O. Haraguchi K. Tabé S. Yaginuma T. Morioka M. Fukuda H.	597
Oral and Maxillofacial Surgery 3 (Conferences)	Sasaguri M. Habu M. Mitsugi S. Takahashi O. Haraguchi K. Tabé S. Yaginuma T. Morioka M. Fukuda H.	599
Oral Medicine (Basic Course)	Yoshiga D. Yoshioka I. Tsurushima H. Sakaguti O. Tanaka J. Ohtani T.	600

Oral Medicine (Advanced Course I)	Nishimuta F. Yoshiga D. Yoshioka I. Tsurushima H. Sakaguti O. Tanaka J. Ohtani T. Nishimuta F.	603
Oral Medicine (Advanced Course II)	Yoshiga D. Yoshioka I. Tsurushima H. Sakaguti O. Tanaka J. Ohtani T. Nishimuta F.	608
Oral Medicine (Advanced Course III)	Yoshiga D. Yoshioka I. Tsurushima H. Sakaguti O. Tanaka J. Ohtani T. Nishimuta F.	611
Oral Medicine I (Jaw Deformity)	Yoshiga D. Yoshioka I. Tsurushima H. Sakaguti O. Tanaka J. Ohtani T. Nishimuta F.	614
Oral Medicine II	Yoshiga D. Yoshioka I. Tsurushima H. Sakaguti O. Tanaka J. Ohtani T. Nishimuta F.	617
Oral Medicine III	Yoshioka I. Tsurushima H. Sakaguti O. Tanaka J. Ohtani T. Nishimuta F.	620
Dentistry for disabled persons	Watanabe S. Shiiba S. Harano N. Shigeyama Y.	621
Dental Anesthesiology Pain management I	Shiiba S. Sagou T.	622
Dental Anesthesiology Pain management II	Shiiba S. Harano N. Shigeyama Y.	624
Anesthesiology	Watanabe S. Shiiba S. Harano N. Sagou T. Shigeyama Y. Ando E	626
Anesthesiology(Basic course)	Watanabe S.	627
Clinical Dental Anesthesiology	Sagou T.	629
Oral Care and Rehabilitation I (Basic)	Tada Y.	631

	Kubota J.	
	Karaki J.	
Oral Care and Rehabilitation II (Advanced)	Tada Y.	634
	Kubota J.	
	Karaki J.	
Geriatric Dentistry I	Tada Y.	637
	Kubota J.	
	Karaki J.	
Geriatric Dentistry II	Tada Y.	638
	Kubota J.	
	Karaki J.	
Geriatric and Special Needs Dentistry (Advanced)	Tada Y.	639
	Kubota J.	
	Karaki J.	
Basic surgical skills	Nakashima H.	640
Advanced Lecture	Dean of Graduate School of Dentistry	642
	Fukuizumi T.	
	Kitamura C.	
	Ikeda H.	
	Ono K.	
	Kokabu S.	
	Ariyoshi.W	
	Takeuchi H.	
	Ansai T.	
	Maki K.	
	Kawamoto T.	
	Morimoto Y.	
Molecular Biological Morphology	Seta Y.	644
	Toyono T.	
	Kataoka S.	
	Matsuyama K.	
Molecular Biology Training Program I	Kokabu S.	646
	Matsubara T.	
	Addison W.	
Molecular Biology Training Program II	Kokabu S.	648
	Matsubara T.	
	Addison W.	
Neurophysiological Techniques	Ono K.	649
	Nakatomi C.	
	Hsu C.	
Imaging technique and its analysis	Morimoto Y.	650
	Oda M.	
	Matsumoto S.	
	Wakasugi-Sato N.	
Brain Science for Eating Behavior	Yoshino K.	652
Practice of Appropriate Dental Treatment in Health Care Insurance System	Fukuizumi T.	654
Theory of Statistical Analysis	Fukai Y.	655
Academic English for Research Purposes		657
Advanced Bioanalytical Chemistry	Takenaka S.	659
Advanced Bioanalytical chemistry	Satou S.	661
Advanced Intelligent System	null	663
Clean Cycle Chemistry based on Microbial Functions	Maeda K.	665
Functional Biomaterials	Miyazaki T.	668
Biomechanics	Yamada H.	670
Introduction to Oral and Maxillofacial Radiology	Morimoto Y.	673
Oral and Maxillofacial Surgery	Sasaguri M.	675
Molecular Biology for Bone and Skeletal muscle	Kokabu S.	677
	Matsubara T.	
	Addison W.	
Molecular Biology for Infectious Diseases	Ariyoshi.W	679

Clinical Research Design I	Yamasaki R. Kakudate N.	681
Clinical Research Design II	Karaki J. Kakudate N.	684
Introduction to Geriatric Dentistry I	Karaki J. Tada Y.	686
Introduction to Geriatric Dentistry II	Kubota J. Isobe A. Karaki J. Tada Y.	688
Introduction to Polymer Physics	Kubota J. Isobe A. Karaki J. Sakurai K.	690
Biomaterials	Mochiduki S. Nakazawa K.	692
Introduction to physical chemistry	Takenaka S.	694
Biomechanics	Yokono T. Yamada H.	697
Basic Course on Research in Occupational Medicine		700
Introduction of Medical Research		702

大学院

歯学研究科 歯学専攻

2023年度

初年次研究研修プログラム (Fresher's Research Training Program)

開講年次	1年	期区分	前期	必修/選択	副科目 (必修)	単位数	1.0
授業方法	講義	時間数	16.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	歯学研究科長						
担当教員	角館 直樹, 中島 啓介, 守下 昌輝, 瀬田 祐司, 古株 彰一郎, 有吉 渉, 竹内 弘, 森本 泰宏, 中島 秀彰, [非常勤講師] 柳楽 隆昌						

授業の概要

大学院での研究を開始する上で、知っておかなければならない基本的知識の実際と理論について理解する。

学生の到達目標

- 1 大学院での学修・研究活動を通して、将来のキャリアパスについて考えることができる。
- 2 科学研究に関する法令や各種指針を理解し対応できる。
- 3 大学における研究成果を産業界で活用するために、知的財産権の取得、産業界との連携について最低限の知識を身につける。
- 4 動物実験施設にあるエックス線撮影装置を利用する上で必要な放射線被曝に関する最低限の知識を身につけ実践できる。実験動物の代表的な感染症、とくに「人獣共通感染症」について詳細に説明できる。
- 5 使用している試薬が医薬用外劇物及び毒物であるか判断できる。医薬用外劇物及び毒物の管理方法を説明できる。実験室における安全対策を説明できる。
- 6 医療人として必要な医の倫理を説明できる。
- 7 標準感染予防策を踏まえて、診療中に必要とされる院内感染対策の基本手技を理解し、実施できる。
- 8 図書館の利用方法、PubMedを用いたデータ検索法を習得し実践できる。生命倫理・医療倫理の基本問題 (課題) を理解し、医療人として実践的に取り組むことができる。
- 9 エビデンスに基づく医療および歯科診療 (EBM/EBD) の概念およびその実践手順について説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
EBMの工具箱 Pub-Med活用マニュアル		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポートまたは小テスト	100%

講義ごとの小テストまたはレポートにより、評価を行う。各評価の60点以上を合格とする。

その他

2023年度

初年次研究研修プログラム (Fresher' s Research Training Program)

開講年次	1年	期区分	前期	必修/選択	副科目 (必修)	単位数	1.0
授業方法	講義	時間数	16.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	歯学研究科長						
担当教員	角館 直樹, 中島 啓介, 守下 昌輝, 瀬田 祐司, 古株 彰一郎, 有吉 渉, 竹内 弘, 森本 泰宏, 中島 秀彰, [非常勤講師] 柳楽 隆昌						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	大学院修了後のキャリアパス 研究倫理に関するe-learningについて研究倫理に関するe-learningの受講方法について説明し、各自受講させる。	講義・e-learning 4/5(水)13:00-14:30 コンピュータ演習室	研究科長	e-learningを完了させる
2	動物実験の進め方・遺伝子組み換え動物実験の遂行にあたって必要な動物由来の感染症について学ぶ。 ・動物実験の進め方 (施設長) ・遺伝子組み換え (竹内) ・X線の影響 (森本) ・感染症 (有吉)	講義 4/5(水)14:40-16:10 301講義室	研究科長 動物実験施設長 竹内 森本 有吉	講義内容の復習
3	産学連携大学における研究成果を産業界で活用するために、知的財産権の取得、産業界への技術移転、共同研究等の産学連携等について学ぶ。	講義 4/5(水)16:20-17:50 301講義室	九州工業大学 イノベーション推進機構知的財産部門長	講義内容の復習
4	診療活動における感染制御と実際標準感染予防策を踏まえながら、診療中に必要とされる院内感染対策や医療事故対策を学ぶ。	講義 4/6(木)08:50-10:20 301講義室	中島秀彰	講義内容の復習
5	科学研究における倫理	講義 4/6(木)10:30-12:00 301講義室	中原	関連分野に関する予習、復習
6	毒物劇物の取り扱い・実験室の管理実験で使用する毒物及び劇物の取り扱いに関する注意点や実験室における安全対策について学ぶ。	講義 4/6(木)13:00-14:30 301講義室	竹内	事後に各実験室に戻り、試薬の保管・使用状況を確認する。
7	科学的根拠に基づく歯科診療エビデンスに基づく医療および歯科診療 (EBM/EBD) の概念を理解し、その実践のための手順について学ぶ。	講義 4/6(木)14:40-16:10 301講義室	角館	講義の復習
8	文献検索・図書館の利用図書館の利用方法、PubMedを用いたデータ検索法を習得することで研究の実践に役立てる。 ①生命倫理②原点と現代の医療技術 ③生命倫理と医療倫理の諸問題	講義 4/6(木)16:20-17:50 301講義室 附属図書館ラーニングコモンズ	中島啓介 瀬田	予習、復習として参考書を読む

2023年度

生体材料学演習 I (ベーシックコース) (Seminar in Biomaterials I (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	池田 弘						
担当教員	永松 有紀, 池田 弘						
	永松 有紀 池田 弘						

授業の概要

「歯科用有機材料」、「歯科用金属材料」、「歯科用無機材料」について研究を行うための基礎的知識、操作法ならびに材料試験法について学ぶ。床用レジン、コンポジットレジン、金合金、チタン合金、ポーセレン、オールセラミックスについて、大学院生の研究テーマに即した知識および技能を教授する。

学生の到達目標

1. 歯科用レジンをはじめとする有機材料についての知識および操作法を習得し、実践できる。2. 金合金をはじめとする金属材料についての知識および合金に適した鋳造法を習得し、実践できる。3. 審美性を兼ね備えたポーセレン・オールセラミックスについての知識・技能を習得し、実践できる。4. 材料試験方法についての知識およびそれらの操作法を習得し、実践できる。5. 曲げ試験用の試料作製法、試験方法を習得し、実践できる。6. 圧縮試験用の試料作製法、試験方法を習得し、実践できる。7. 接着試験用の試料作製法、試験方法を習得し、実践できる。8. 各種合金に適した鋳造機の使用法、鋳造法を習得し、実践できる。9. 電子顕微鏡による成分分析に必要な知識、操作法を習得し、実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
関連分野の文献および参考書は各自必要なものを利用する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	100%

評価はルーブリック評価表に基づいて行う。ルーブリック評価表は初回に配布して説明する。

その他

池田：オフィスアワー 月～金 12:00～13:00、16:30～18:00
永松：オフィスアワー 月・水・木・金 12:00～13:00、16:30～18:00

2023年度

生体材料学演習Ⅰ（ベーシックコース）（Seminar in BiomaterialsⅠ（Basic Course））

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	池田 弘						
担当教員	永松 有紀, 池田 弘						
	永松 有紀 池田 弘						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション 関係論文の探索法および使用する実験器具・装置の種類を学ぶ。関連する先端材料を学ぶ。	講義	池田 永松	講義の復習（無機材料、有機材料、金属材料）
2	印象材 各種歯科用印象材についての情報を得るとともにそれらの有効な操作法を学ぶ。関連する先端材料を学ぶ。	講義	池田 永松	講義の復習（非弾性印象材・弾性印象材の分類）
3	床用レジン 各種義歯床用レジンについての情報を得るとともにそれらの有効な操作法を学ぶ。関連する先端材料を学ぶ。	講義	池田 永松	講義の復習（加熱重合型、常温重合型レジン）
4	コンポジットレジン 各種コンポジットレジンについての情報を得るとともに化学重合あるいは可視光線重合法を学ぶ。関連する先端材料を学ぶ。	講義	池田 永松	講義の復習（レジンモノマーとフィラーの分類）
5	歯科用貴金属 合金各種歯科用貴金属合金についての情報を得るとともに鑄造法および熱処理法を学ぶ。関連する先端材料を学ぶ。	講義	池田 永松	講義の復習（金合金、銀合金、金銀パラジウム合金）
6	歯科用非貴金属合金各種歯科用貴金属合金についての情報を得るとともに鑄造法および熱処理法を学ぶ。関連する先端材料を学ぶ。	講義	池田 永松	講義の復習（Co-Cr合金、Ni-Cr合金、ステンレス鋼）
7	歯科用ポーセレン 各種歯科用ポーセレンについての情報を得るとともに築盛法および焼成法を学ぶ。関連する先端材料を学ぶ。	講義	池田 永松	講義の復習（アルミナスポーセレンと金属焼付ポーセレン）
8	歯科用オールセラミックス 各種歯科用オールセラミックスの情報を得るとともに製作法を学ぶ。関連する先端材料を学ぶ。	講義	池田 永松	講義の復習（CAD/CAMの変遷）
9	印象材の弾性ひずみ・永久ひずみ 最新のISOに準拠したひずみ試験用試験片の作製法および各試験法を学ぶ。	演習	池田 永松	演習の復習（JIST6512に準拠）
10	歯科用レジンの曲げ強さ 最新のISOに準拠した曲げ試験用試験片の作製法および試験法を学ぶ。	演習	池田 永松	演習の復習（JIST6508に準拠）
11	コンポジットレジンの接着強さ 最新のISOに準拠した試験片の作製法および試験法を学ぶ。	演習	池田 永松	演習の復習（引張試験ならびにせん断試験）
12	ワックスパターンの作製1 金合金鑄造用ワックスパターンの作製法および遠心鑄造法を学ぶ。	演習	池田 永松	演習の復習（鑄造体の適合性の検討）
13	ワックスパターンの作製2 チタン合金鑄造用ワックスパターンの作製法およびアルゴンアーク鑄造法を学ぶ。関連する先端材料について学ぶ。	演習	池田 永松	演習の復習（鑄造体の寸法精度の検討）
14	ポーセレン・オールセラミックス ISOに準拠した圧縮試験用試験片の作製法および試験法を学ぶ。	演習	池田 永松	演習の復習（オールセラミック材料の圧縮強さの検討）
15	報告会講義・演習内容の総括を行うとともにプレゼンテーションの手法を学ぶ。	演習	池田 永松	プレゼンテーションの準備

2023年度

生体材料学演習 II (アドバンスコース) (Seminar in Biomaterials II (Advanced Course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	池田 弘						
担当教員	池田 弘						
	池田 弘、永松 有紀						

授業の概要

作業用模型の寸法精度・表面性状は、最終的に義歯床・鋳造物の適合性や表面に大きく影響する。模型は、印象採得時・模型作製時の使用材料の材質・材料の配合比・練和時間・温度・印象の消毒方法・印象材と模型材の組み合わせ等の諸条件により諸物性に影響を受ける。模型への種々の影響が起こり易いハイドロコロイド印象材について、印象採得時ならびに模型材注入までの保管方法等による模型の諸物性への影響について学ぶ。臨床で起こりうる諸条件を想定し、各条件下で作製した模型の寸法精度・表面性状・形態変化等を各測定装置により測定し、それらの結果について統計学的に検討する。

学生の到達目標

1.各種印象材・模型材の相違点、類似点を再確認するとともに、最新の材料についての知識を収集し、レベルアップすることができる。2.臨床を想定し、印象採得および模型製作時に起こりうる諸条件を検討し、具体的な実験条件を詳細に設定するとともに、分析に必要な測定機器の原理・使用方法を理解できる。3.本実験に先立ち予備実験を行い、試験片および測定条件の再検討・機器の使用法の習得し、実践できる。4.本実験により得られたデータについてオフィスソフトを用いて表計算を行い、グラフ化するとともに、実験結果をより効果的にプレゼンテーションする方法を身につけ実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
関連分野の文献および参考書は各自必要なものを利用する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	100%

評価はルーブリック評価表に基づいて行う。ルーブリック評価表は初回に配布して説明する。

その他

池田：オフィスアワー 月～金 12:00～13:00、16:30～18:00
永松：オフィスアワー 月・水・木・金 12:00～13:00、16:30～18:00

2023年度

生体材料学演習 II (アドバンスコース) (Seminar in Biomaterials II (Advanced Course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	池田 弘						
担当教員	池田 弘 池田 弘、永松 有紀						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	試験片作製1 各種条件下での印象採得後、模型作製(超硬質石膏)を行う。	演習	池田 永松	講義の復習(印象材の特性、模型材の特性)
2	試験片作製2 各種条件下での印象の消毒後、模型作製(超硬質石膏)を行う。	演習	池田 永松	講義の復習(印象の適切な消毒方法)
3	試験片作製3 各種条件下での印象の保存後、模型作製(超硬質石膏)を行う。	演習	池田 永松	講義の復習(印象の寸法安定性)
4	試験片作製4 印象採得後、各種条件下での模型作製を行う。	演習	池田 永松	講義の復習(印象材と模型材の組合せ)
5,6	模型の寸法精度の測定 模型各部位の寸法の読み取り、原型との比較を行う。	演習	池田 永松	講義の復習(模型の寸法精度への影響因子の検討)
7~9	模型の表面粗さの測定 表面粗さの計測を行い、Ra値を原型と比較する。	演習	池田 永松	講義の復習(模型の表面性状への影響因子の検討)
10	模型の形態の測定 形態の曲線化後、原型との比較する。	演習	池田 永松	講義の復習(模型の形態への影響因子の検討)
11,12	試験結果のエクセルを用いたグラフ化 全データをグラフ化し、各条件間の比較を行う。	演習	池田 永松	講義の予習・復習(印象の取り扱い方法による模型への影響)
13,14	プレゼンテーションデータとしてのデータの整理 データについて統計処理および発表用スライドの作成を行う。	演習	池田 永松	講義の予習・復習(プレゼンテーションの準備・修正)
15	研究結果の報告会 プレゼンテーションを行い、実験結果の報告を行う。また、その手法を学ぶ。	演習	池田 永松	講義の予習・復習(プレゼンテーションの準備・修正)

2023年度

生体材料学概論 (Dental Biomaterials)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	池田 弘						
担当教員	永松 有紀, 池田 弘						
	永松 有紀、池田 弘						

授業の概要

生体材料学・歯科材料学 関連英語論文の発表、読解、解説、議論を行う。

学生の到達目標

1. 英文の読解力を養うとともに、日本語と英語の表現法の違いを理解できる。2. 生体材料の研究方法・実験方法を学び実践できる。3. 臨床的見地から歯科材料の最新の動向を学び実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
BiomaterialsやDental Materialsなどの生体材料・歯科材料関連の英文誌を使用する。発表者は要約した資料を作成し、配布する。		online journals

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーションの内容	100%

評価はルーブリック評価表に基づいて行う。ルーブリック評価表は初回に配布して説明する。

その他

池田：オフィスアワー 月～金 12:00～13:00、16:30～18:00
永松：オフィスアワー 月・水・木・金 12:00～13:00、16:30～18:00

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	研究関係英文文献・論文からの情報収集最新の生体材料・歯科材料・装置を学ぶ。英語的思考力の養成を行う。	輪読、演習	池田 永松	演習の予習・復習（輪読で担当する材料分野周辺の調査）

2023年度

生体材料学特論 I (Advanced Biomaterials I)

開講年次	1~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	池田 弘						
担当教員	永松 有紀, 池田 弘						
	永松 有紀 池田 弘						

授業の概要

下記の研究課題のうちひとつを選択し、その課題に関連する文献を渉猟し、抄読する。
1 接着 2 複合材料 3 セラミックス 4 生体模倣 5 CAD/CAM 6 抗菌性歯科材料 7 機能水 8 生体適合性
研究背景とその領域の現状の把握を行い、学んだことをまとめ、発表する。このことを通じて分野の教員からアドバイスを貰い、ひいては自身の研究計画立案と論文作成の参考とする。

学生の到達目標

1 英文文献が読める。2 その領域の歴史と現状を説明できる。3 文献の批判的評価ができる。4 論文の緒言を書くことができる。5 論文を参考に自身の研究計画を立案できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
各自で選択する。		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	100%

評価はループリック評価表に基づいて行う。ループリック評価表は初回に配布して説明する。

その他

池田：オフィスアワー 月～金 12:00～13:00、16:30～18:00
永松：オフィスアワー 月・水・木・金 12:00～13:00、16:30～18:00

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1~15	自分の課題に関連する文献を渉猟し、抄読し、定められたフォーマットにまとめ、発表する。質問に対し、応答する。指摘事項に対し、修正し、資料を完成する。	抄読、演習	池田 永松	演習の予習・復習(資料の準備と指摘事項の修正)

2023年度

生体材料学特論 II (Advanced Biomaterials II)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	池田 弘						
担当教員	永松 有紀, 池田 弘						
	永松 有紀 池田 弘						

授業の概要

下記内容に関する最新の情報と生体材料学分野教員の研究成果と今後の展望について学ぶ。 1 歯科接着に関すること 2 歯科材料の殺菌・抗菌性に関すること 3 セラミックスやコンジット材料に関すること 4 デジタル歯学に関すること

学生の到達目標

到達目標1 当該分野の最新の知識を説明することができる。2 当該分野の新しい研究計画の立案ができる。3 当該分野の基礎的知識と臨床との関連を説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
担当教員が準備する。		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	100%

評価はルーブリック評価表に基づいて行う。ルーブリック評価表は初回に配布して説明する。

その他

池田：オフィスアワー 月～金 12:00～13:00、16:30～18:00
永松：オフィスアワー 月・水・木・金12:00～13:00、16:30～18:00

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	教員の講義からの情報収集プレゼン手法の学習	講義と演習	池田 永松	講義と演習の復習

2023年度

解剖学Ⅰ（ベーシックコース）（AnatomyⅠ（Basic course））

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						

授業の概要

研究を行う上で、必要な頭頸部の解剖学的知識の修得を目的とする。本講義は大学で頭頸部の解剖学を学んでいない学生を対象としています。また、歯学部で頭頸部の解剖学を学んだ学生でも、受講可能です。

学生の到達目標

頭頸部の解剖学的特徴を理解する。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
組織学、分子生物学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
テスト	80%
講義後の小テスト	20%

講義後の小テスト(20%)・最終試験(80%)で成績判定を行う。

その他

学生相談：随時

2023年度

解剖学Ⅰ (ベーシックコース) (AnatomyⅠ (Basic course))

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	頭頸部の骨 1	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
3,4	頭頸部の骨 2	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
5,6	頭頸部の筋 1	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
7,8	頭頸部の筋 2	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
9,10	頭頸部の筋 3	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
11,12	頭頸部の脈管 1	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
13,14	頭頸部の脈管 2	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
15,16	頭頸部の神経 1	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
17,18	頭頸部の神経 2	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
19,20	頭頸部の神経 3	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
21,22	顎関節 1	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
23,24	顎関節 2	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
25,26	頭頸部内蔵	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
27,28	感覚器	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
29,30	歯・歯列	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習

2023年度

解剖学 II (アドバンスコース) (Anatomy II (Advanced course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						

授業の概要

解剖学・分子生物学研究全般および「性ステロイドの感覚器における機能解析」、「味覚受容のメカニズム」、「味覚器の分化制御機構」について研究を行うための基礎的知識を習得する。

学生の到達目標

1. 感覚器の構造と機能を詳細に説明できる。2. 活動電位の発生機構を詳細に説明できる。3. シナプス伝達機構を詳細に説明できる。4. 感覚受容機構を詳細に説明できる。5. 性ステロイドの神経系における働きを詳細に説明できる。6. 味覚受容体を詳細に説明できる。7. 神経細胞の分化を詳細に説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
組織学、分子生物学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
口頭試問	60%
研究報告	40%

演習中の試問に対する回答 (60%) や、月1回の研究報告会 (月毎の研究内容を資料にまとめ報告) の内容 (40%) に基づいて点数をつける。

その他

学生相談：随時

2023年度

解剖学 II (アドバンスコース) (Anatomy II (Advanced course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	オリエンテーション本講義の概要を説明し、人体における感覚器の種類と基本的な構造を学ぶ。	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
3,4	感覚器の構造Ⅰ機能を踏まえながら、視覚器を構成する細胞について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
5,6	感覚器の構造Ⅱ機能を踏まえながら、聴・平衡感覚器を構成する細胞について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
7,8	感覚器の構造Ⅲ機能を踏まえながら、味覚器を構成する細胞について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
9,10	感覚器の構造Ⅳ機能を踏まえながら、嗅覚器を構成する細胞について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
11,12	活動電位の発生機構神経細胞や感覚受容細胞における興奮のメカニズムについて学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
13,14	シナプス伝達機構神経伝達物質の種類とシナプスの構造について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
15,16	感覚受容機構Ⅰ視覚器における光の明暗と色の識別のメカニズムについて学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
17,18	感覚受容機構Ⅱ嗅覚器における匂いの識別のメカニズムについて学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
19,20	神経系における性ステロイドの機能中枢神経系における神経伝達物質としての性ステロイドについて学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
21,22	味覚受容機構味覚器の構造を復習し、味細胞における細胞内情報伝達機構を学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
23,24	味覚受容体味覚受容体の種類と味の識別のメカニズムについて学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
25,26	神経細胞の発生・分化中枢神経系における神経細胞の発生分化の制御機構について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
27,28	感覚器の発生・分化味覚器・嗅覚器の発生分化について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
29,30	味覚と性ステロイド味覚器における性ステロイド合成に関連する酵素の発現様式から、味覚器における性ステロイドの機能について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習

2023年度

解剖学演習 I (ベーシックコース) (Anatomy Practice I (Basic course))

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						

授業の概要

「味覚受容機構」、「味覚受容体 (T1R1) 遺伝子のプロモーター解析」、「ATP受容体の味蕾での発現」、「歯の発生」、「味蕾発生の分子生物学」等について研究を行うための基礎的知識および手法について学ぶ。細胞培養、凍結切片およびパラフィン切片による免疫組織化学法について、大学院生のテーマに即した知識ならびに技能を教授する。

学生の到達目標

1. 味覚と動物の行動を解析するための知識および技能を習得できる。2. 細胞培養法を習得できる。3. 組織切片の作製法を習得できる。4. 免疫組織学的手法を習得できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
組織学、分子生物学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の諮問に対する回答	10%
実験操作の正確性・達成度	90%

演習中の試問に対する回答 (10%) や、実験操作の正確性・達成度を計る評価表 (90%) に基づいて点数をつける。評価表は講義の初回時に学生に配布する。

その他

学生相談：随時

2023年度

解剖学演習 I (ベーシックコース) (Anatomy Practice I (Basic course))

開講年次	1~2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション本演習で行う手技の概要を学習する。	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
2,3	細胞培養法の基礎 1 培養細胞の取扱、培地の作製法について演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
4,5	細胞培養法の基礎 2 細胞の継代、細胞の保存法について演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
6,7	組織切片の作製法 1 各種固定液の調整法、マウスの灌流固定を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
8,9	組織切片の作製法 2 固定した組織を包埋、凍結切片作製法を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
10,11	組織切片の作製法 3 固定した組織を包埋、パラフィン切片作製法を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
12,13	免疫組織法 (1) ブロッキング・1次抗体	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
14,15	免疫組織法 (1) 2次抗体・写真撮影	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習

2023年度

解剖学演習 II (アドバンスコース) (Anatomy Practice II (Advanced course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						

授業の概要

「味覚受容機構」、「味覚受容体 (T1R1) 遺伝子のプロモーター解析」、「ATP受容体の味蕾での発現」、「歯の発生」、「味蕾発生の分子生物学」等についての研究を推進する。RT-PCR法、TAクローニング、遺伝子導入などについて、信頼性の高いデータが取得できるように指導を行う。

学生の到達目標

1. 味覚と動物の行動を解析するための知識および技能をレベルアップさせ、実践できる。2. PCRクローニングができる。3. 細胞に遺伝子導入ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
組織学、分子生物学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の試問に対する回答	10%
実験操作の正確性・達成度	90%

演習中の試問に対する回答 (10%) や、実験操作の正確性・達成度を計る評価表 (90%) に基づいて点数をつける。評価表は講義の初回時に学生に配布する。

その他

学生相談：随時

2023年度

解剖学演習 II (アドバンスコース) (Anatomy Practice II (Advanced course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション本演習で学ぶ手技について原理・応用を学習する。	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
2,3	RT-PCR 1 組織からRNA抽出・逆転写	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
4,5	RT-PCR 2 プライマー作製・PCR	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
6,7	PCRクローニング法 1 PCR産物をTAベクターへのLigationを演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
8,9	PCRクローニング法 2 PCR産物を組み込んだベクターを大腸菌へのトランスフォーメーションを演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
10,11	PCRクローニング法 3 コロニーのピックアップ、ベクターへのPCR産物のLigationの確認を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
12,13	培養細胞への遺伝子導入 1 遺伝子導入法の種類と原理を学習し、培養細胞への発現ベクター導入を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
14,15	培養細胞への遺伝子導入 2 培養細胞における導入遺伝子の発現の確認法を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習

2023年度

解剖学演習Ⅲ (Anatomy Practice III)

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						

授業の概要

「味覚受容機構」、「味覚受容体 (T1R1) 遺伝子のプロモーター解析」、「ATP受容体の味蕾での発現」、「歯の発生」、「味蕾発生の分子生物学」等についての研究を推進する。RT-PCR法、TAクローニング、遺伝子導入などについて、信頼性の高いデータが取得できるように指導を行う。

学生の到達目標

1. 味覚と動物の行動を解析するための知識および技能をレベルアップさせ、実践できる。2. PCRクローニングができる。3. 細胞に遺伝子導入ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
組織学、分子生物学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の試問に対する回答	10%
実験操作の正確性・達成度	90%

演習中の試問に対する回答(10%)や、実験操作の正確性・達成度を計る評価表(90%)に基づいて点数をつける。評価表は講義の初回時に学生に配布する。

その他

学生相談：随時

2023年度

解剖学演習Ⅲ (Anatomy Practice III)

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション本演習で学ぶ手技について原理・応用を学習する。	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
2,3	RT-PCR 1 組織からRNA抽出・逆転写	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
4,5	RT-PCR 2 プライマー作製・PCR	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
6,7	PCRクローニング法 1 PCR産物をTAベクターへのLigationを演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
8,9	PCRクローニング法 2 PCR産物を組み込んだベクターを大腸菌へのトランスフォーメーションを演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
10,11	PCRクローニング法 3 コロニーのピックアップ、ベクターへのPCR産物のLigationの確認を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
12,13	培養細胞への遺伝子導入 1 遺伝子導入法の種類と原理を学習し、培養細胞への発現ベクター導入を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
14,15	培養細胞への遺伝子導入 2 培養細胞における導入遺伝子の発現の確認法を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習

2023年度

解剖学特論 (Anatomy Advanced course)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						

授業の概要

味覚や歯の発生に関連した研究の論文を読むことによって味覚研究の最新の動向を理解する。

学生の到達目標

1. 味覚・歯に関する研究内容を理解できる。2. 研究方法およびその原理を理解できる。3. 研究の進め方を理解し、実践できる。4. 英語の読解力を深める。

テキスト

タイトル	著者	出版社
テキストおよび参考文献等は各自必要なものを選択する。		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
セミナーにおける発表内容	80%
質疑応答内容	20%

セミナーにおける発表（論文内容の理解度）（80%）と質疑応答内容（20%）に基づいて点数をつける。評価はルーブリック評価表に基づいて行う。評価表は初回の講義に学生に提示する。

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	味覚・歯に関連した最新研究の論文の内容の理解。	文献紹介および討論	瀬田、豊野、片岡、松山	文献および参考文献の学習

2023年度

頭頸部解剖実習 (Head and Neck Dissection Course)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	1.0
授業方法	実習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	片岡 真司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						
	瀬田 祐司 豊野 孝 片岡 真司 松山 佳永						

授業の概要

頭頸部領域の構造を表層から最深部に向かって順に解剖する。
骨標本による実習もおこなう。

学生の到達目標

頭頸部領域の主要な構造が理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
知識に基づいた正確な解剖手技	60%
実習試験	40%

評価はルーブリック評価表に基づいて行う。評価表は初回の講義に学生に提示する。

その他

受講希望の場合には、事前にメールで片岡までご相談ください。
学習相談等は平日9時-17時でおこないますが、事前に日時を調整するのでメールで問い合わせてください。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	オリエンテーション	講義	片岡, 瀬田, 豊野, 松山	解剖実習配布資料、解剖実習参考書
3,4	頭蓋骨実習	実習	片岡, 瀬田, 豊野, 松山	解剖実習配布資料、解剖実習参考書
5-15	頭頸部解剖実習	実習	片岡, 瀬田, 豊野, 松山	解剖実習配布資料、解剖実習参考書

2023年度

生理学演習Ⅰ（ベーシックコース）（Physiology PracticeⅠ）

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎, 中富 千尋, 徐 嘉鍵						

授業の概要

「渴きのメカニズム」、「口腔乾燥症の研究」、「唾液分泌のメカニズム」あるいは「痛みの制御機構」について研究を行うための基礎的知識および技能について学ぶ。動物行動解析学、スライス標本作製法、細胞単離法、分子生物学的手法、免疫組織学的手法、細胞内動態解析法、電気生理学的解析法について大学院生のテーマに即した知識および技能を教授する。

学生の到達目標

1. 喉の渇きと動物の行動を解析するための知識および技能を修得し、実践できる。2. 痛覚と動物の行動を解析するための知識および技能を修得し、実践できる。3. 脳スライス標本作製法ができる。4. パッチクランプ法を用いて神経活動を測定できる。5. 免疫組織化学法ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
研究報告やプレゼンテーション能力	100%

年度末の研究報告やプレゼンテーション能力を独自のルーブルック評価表に基づいて評価する。ルーブルック評価表の内容はMoodleに掲載している。

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション	講義	小野	文献、参考書の予習
2～4	動物行動解析学法 ラットの取り扱い手技について学ぶ。飲水行動や痛覚に関する行動について、行動解析法を学ぶ。	演習	小野	文献、参考書の予習と演習の復習
5～7	三叉神経節ニューロン単離法と神経活動記録法 口腔顔面痛に関する三叉神経節ニューロンの単離培養法を学ぶ。パッチクランプ法やカルシウムイメージング法による神経活動記録法について学ぶ。	演習	小野	文献、参考書の予習と演習の復習
8～10	口腔内炎症モデル作製法 ラットを用いて、種々の口腔疾患モデルの作製法について学ぶ。	演習	小野	文献、参考書の予習と演習の復習
11～15	疼痛に関与した情報伝達系解析法 各種口腔疾患モデルからの組織サンプルの摘出を行い、免疫染色法、ELISA法などについて学ぶ。	演習	小野	文献、参考書の予習と演習の復習

2023年度

生理学演習Ⅱ（アドバンスコース）（Physiology Practice II）

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎, 中富 千尋, 徐 嘉鍵						

授業の概要

「渇きのメカニズム」、「口腔乾燥症の研究」、「唾液分泌のメカニズム」あるいは「痛みの制御機構」についての研究を推進する。動物行動解析学、分子生物学的手法、免疫組織学的手法、細胞内動態解析法、電気生理学的解析法について、信頼性の高いデータが得られるように指導する。

学生の到達目標

1. 喉の渇きと動物の行動を解析するための最新の知識および技能のレベルアップを図り、実践できる。2. 痛覚と動物の行動を解析するための最新の知識および技能のレベルアップを図り、実践できる。3. 唾液分泌機能について最新の知識および技能のレベルアップを図り、実践できる。4. パッチクランプ法を用いて神経活動のデータを採得することができる。5. 免疫組織化学法によりデータを採得することができる。6. 各実験のデータの信頼性を高めることができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
研究報告やプレゼンテーション能力	100%

年度末の研究報告やプレゼンテーション能力を独自のルーブルック評価表に基づいて評価する。ルーブルック評価表の内容はMoodleに掲載している。

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～3	飲水行動実験 喉の渇きを起こす刺激剤の投与方法を学ぶ。誘起される飲水行動を観察する。	演習	小野	文献、参考書の予習と演習の復習
4～7	唾液分泌 唾液分泌を起こす刺激剤の投与による効果を観察する。	演習	小野	文献、参考書の予習と演習の復習
8～10	口内炎と疼痛 口内炎と疼痛の関係について、口内炎モデルラットを用いて、発症機序を学ぶ。	演習	小野	文献、参考書の予習と演習の復習
11～13	疼痛で誘発される行動の解析 疼痛刺激で誘発される動物行動を観察する。	演習	小野	文献、参考書の予習と演習の復習
14,15	疼痛に関与した情報伝達系解析 疼痛の発症機序について学ぶ。	演習	小野	文献、参考書の予習と演習の復習

2023年度

生理学演習Ⅲ (Physiology Practice III)

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎, 中富 千尋, 徐 嘉鍵						

授業の概要

「渇きのメカニズム」、「口腔乾燥症の研究」、「唾液分泌のメカニズム」あるいは「痛みの制御機構」について得られた結果をもとに、研究論文にまとめるプロセスを学習する。必要な場合は追加実験等を行う。

学生の到達目標

1. 喉の渇きと動物の行動を解析し、研究論文にまとめるプロセスを修得し、実践できる。2. 痛覚と動物の行動を解析し、研究論文にまとめるプロセスを修得し、実践できる。3. 唾液分泌機能について、研究論文にまとめるプロセスを修得し、実践できる。4. 独自に研究できる能力を高める。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
生理学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
演習中の質問に対する回答や、月1回の研究報告会での報告(月毎の研究内容を資料にまとめ報告)の内容	70%

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	動物行動解析まとめ喉の渇き刺激に対して、動物がとった行動を解析し、そのメカニズムについて学ぶ。	演習	小野	文献、参考書の予習と演習の復習
3,4	唾液分泌を起こす薬物に対する作用のまとめ唾液分泌を誘発する薬物に対する反応を解析し、その作用機序を学ぶ。	演習	小野	文献、参考書の予習と演習の復習
5～8	疼痛に関与した情報伝達系解析のまとめ疼痛刺激に対して動物が起こした行動および関与する情報伝導路を組織学的に解析し、疼痛の発症機序を学ぶ。	演習	小野	文献、参考書の予習と演習の復習
9～15	研究報告会	演習	小野	文献、参考書の予習と演習の復習

2023年度

生理学講究 (Physiology Division Colloquium)

開講年次	1~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数		曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中富千尋						
担当教員	小野 堅太郎, 中富 千尋, 徐 嘉鍵						

授業の概要

口腔生理学関連の最新の研究の動向を理解するために、文献を抄読する。

学生の到達目標

1. 英語文献を読み込む能力を高める。
2. 研究の内容を理解できる。
3. 研究を批評する力を高める。
4. 研究の背景や動向を理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表の内容	100%

その他

月曜日：16:30-17:30
学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1-15	研究の背景と最新の文献の内容、および関連分野の研究の今後の展望を理解する。	文献紹介および討論	中富 千尋	文献抄読および関連分野の調査

2023年度

分子生物学Ⅰ（初級編）（Molecular and Cell Biology Training ProgramⅠ（Basic Class））

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	古株 彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎, 松原 琢磨, Addison William						

授業の概要

分子生物学(講義・演習)では、生命科学を理解する上で重要な分子生物学的手法の原理を理解した上で実践し、結果を導き出す能力を養う。

学生の到達目標

1. 細胞培養ができる。2. マウスを取り扱うことができ、臓器や細胞を調製することができる。3. セントラルドグマを説明できる。4. RNA、タンパク質の取り扱いができる。5. RT-PCRの原理を説明でき、実践できる。6. Western Blottingの原理を説明でき、実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
必要に応じて各自入手する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	80%
口頭試問	20%

成績評価はルーブリック評価により行う。
ルーブリック評価表は初回に配布する。

その他

学生相談：随時

2023年度

分子生物学 I (初級編) (Molecular and Cell Biology Training Program I (Basic Class))

開講年次	1~2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	古株 彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎, 松原 琢磨, Addison William						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	オリエンテーション本講義の概要を説明し、分子生物学の基本事項について学ぶ	講義(遠隔授業)	古株	文献および参考文献の学習
3,4	細胞培養の基礎について学ぶ#1 ①細胞の取り扱い方②培地の作り方	講義・演習(遠隔及び対面)	古株	細胞培養の復習
5,6	細胞培養の基礎について学ぶ#2 ①細胞の継代②細胞の保存	講義・演習(遠隔及び対面)	古株	細胞培養の復習
7,8	マウスの取り扱い方について学ぶ①マウスの取り扱い方の基礎②薬物の投与方法③採血法	講義・演習(遠隔及び対面)	古株	マウスの取扱の復習
9,10	マウスからの臓器、細胞の調製法について学ぶ#1 ①マウスの麻酔法②胸腺細胞、骨髄細胞の調製法	講義・演習(遠隔及び対面)	古株	マウスから臓器?細胞の調製法の復習
11,12	マウスからの臓器、細胞の調製法について学ぶ#2 ①初代骨芽細胞の調製法②骨髄間質細胞の調整法	講義・演習(遠隔及び対面)	古株	マウスから細胞の調製法の復習
13,14	RT-PCR法について学ぶ#1 PCR法の原理①細胞(臓器)からのRNAの調製②RNA定量	講義・演習(遠隔及び対面)	松原	RT-PCR法の原理の予習
15,16	RT-PCR法について学ぶ#2 ①cDNAの合成②Primerの設計(コンピューターソフトを利用)	演習(対面)	松原	プライマー設計の基本事項の予習
17,18	RT-PCR法について学ぶ#3 ①PCR②アガロースゲル電気泳動	演習(対面)	松原	RT-PCR法の原理の復習
19,20	Real-time PCRについて学ぶ#1 Real-time PCRの原理Real-time PCRの実践	講義・演習(遠隔及び対面)	古株	Real-time PCR法の原理の予習
21,22	Real-time PCRについて学ぶ#2 データ解析法	講義・演習(遠隔及び対面)	古株	データ解析の復習
23,24	Western Blottingについて学ぶ#1 ①細胞(臓器)からのタンパク質の調製 ②タンパク質定量	講義・演習(遠隔及び対面)	Addison WN	タンパク質の取扱の予習
25,26	Western Blottingについて学ぶ#2 ①SDS-PAGEの原理と実践②PVDF膜への転写	講義・演習(遠隔及び対面)	Addison WN	Western Blottingの原理の
27,28	Western Blottingについて学ぶ#3 ①Blocking②1次抗体との反応③2次抗体との反応	演習(対面)	Addison WN	Western Blottingの原理の
29,30	Western Blottingについて学ぶ#4 ①Stripping②Reblotting	演習(対面)	Addison WN	得られた結果のDiscussion

2023年度

分子生物学Ⅱ（中級編）（Molecular and Cell Biology Training Program II (Middle Class)）

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	古株 彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎, 松原 琢磨, Addison William						

授業の概要

分子生物学(講義・演習)では、生命科学を理解する上で重要な分子生物学的手法の原理を理解した上で実践し、結果を導き出す能力を養う。さらにベーシックコースで学んだ技術を発展させた手技を習得し、信頼性の高いデータを引き出す能力を養う。

学生の到達目標

1. 遺伝子組換えの原理を理解できる。2. 既知の遺伝子をクローニングできる。3. 遺伝子導入の種類と原理を説明でき、実践できる。4. 免疫沈降法の原理を説明でき、実践できる。5. タグの種類を説明でき、検出できる。6. ルシフェラーゼアッセイの原理が説明でき、実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
必要に応じて各自入手する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	80%
口頭試問	20%

成績評価はルーブリック評価により行う。
ルーブリック評価表は初回に配布する。

その他

学生相談：随時

2023年度

分子生物学 II (中級編) (Molecular and Cell Biology Training Program II (Middle Class))

開講年次	2~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	古株 彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎, 松原 琢磨, Addison William						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	PCRクローニングについて学ぶ#1 ① PCRを用いた遺伝子のクローニング② 制限酵素によるPCR産物とベクターの消化(Sticky end)	講義・演習 (遠隔及び対面)	古株	遺伝子クローニングの原理の予習
3,4	PCRクローニングについて学ぶ#2 ① ベクターの脱リン酸化② ライゲーション	講義・演習 (遠隔及び対面)	古株	ライゲーションの原理の予習
5,6	PCRクローニングについて学ぶ#3 ① コンピテント細胞の作り方② 大腸菌へのトランスフォーメーション	講義・演習 (遠隔及び対面)	古株	トランスフォーメーションの予習
7,8	PCRクローニングについて学ぶ#4 ① コロニーのpick up② 培養	講義・演習 (遠隔及び対面)	古株	これまでのステップの復習
9,10	PCRクローニングについて学ぶ#5 ① 少量調製② アガロースゲル電気泳動	講義・演習 (遠隔及び対面)	古株	少量調製の原理の予習
11,12	PCRクローニングについて学ぶ#6 ① Midi-Prep.② プラスミドの精製	講義・演習 (遠隔及び対面)	古株	Midi-prepの予習
13,14	遺伝子機能解析法について学ぶ#1 ① 遺伝子導入法の種類と原理② リポフェクション法による遺伝子導入	講義・演習 (遠隔及び対面)	Addison WN	遺伝子導入法の種類と原理の予習
15,16	遺伝子機能解析法について学ぶ#2 ① PCR法をベースとした遺伝子の変異導入② スクリーニング	講義・演習 (遠隔及び対面)	Addison WN	遺伝子導入法の種類と原理の予習
17,18	遺伝子機能解析法について学ぶ#3 ① ルシフェラーゼ法の原理② ルミノメーターを用いたルシフェラーゼ活性の測定	講義・演習 (遠隔及び対面)	Addison WN	ルシフェラーゼ法の原理の予習
19,20	遺伝子機能解析法について学ぶ#4 ドミナントネガティブ型、恒常的活性型変異体の作製	演習 (対面)	Addison WN	ドミナントネガティブ型、恒常的活性型の原理の予習
21,22	免疫沈降法について学ぶ#1 ① 細胞からのタンパク質の調製② タンパク質の定量③ 抗体?担体の複合体による免疫沈降	講義・演習 (遠隔及び対面)	松原	タンパク質の取扱の予習
23,24	免疫沈降法について学ぶ#2 ① SDS-PAGE② PVDF膜への転写③ Blocking	演習 (対面)	松原	免疫沈降法の原理の予習
25,26	免疫沈降法について学ぶ#3 ① 1次抗体との反応② 2次抗体との反応	演習 (対面)	松原	免疫沈降法の原理の復習
27,28	タグの付加について学ぶ#1 ① タグの種類と原理② FLAGタグ、HAタグ、mycタグ、GFP発現ベクターへのクローニング	講義・演習 (遠隔及び対面)	松原	タグの種類と原理の予習
29,30	タグの付加について学ぶ#2 FLAGタグ、HAタグ、mycタグ、GFPの検出	演習 (対面)	松原	タグの種類と原理の復習

2023年度

分子生物学Ⅲ（上級編）（Molecular and Cell Biology Training Program III (Advanced Class)）

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	古株 彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎, 松原 琢磨, Addison William						

授業の概要

分子生物学(講義・実習)では、生命科学を理解する上で重要な分子生物学的手法の原理を理解した上で実践し、結果を導き出す能力を養う。さらに我々の研究室の研究テーマである「骨代謝研究」を実践する上で必要な技術を習得し、学会発表および研究論文にまとめるプロセスを習得する。

学生の到達目標

1. ウィルスベクターの原理を理解し、レトロウィルスベクターによる遺伝子導入ができる。2. クロマチン免疫沈降法の原理を説明でき、実践できる。3. 遺伝子改変マウスの種類と作製法を説明できる。4. フローサイトメーターの原理を説明でき、実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
必要に応じて各自入手する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	80%
口頭試問	20%

成績評価はルーブリック評価により行う。
ルーブリック評価表は初回に配布する。

その他

学生相談：随時

2023年度

分子生物学Ⅲ（上級編）（Molecular and Cell Biology Training Program III (Advanced Class)）

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	古株 彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎, 松原 琢磨, Addison William						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	ウィルスベクターを用いた遺伝子導入について学ぶ#1 ①レトロウィルスベクターの原理②レトロウィルスベクターの作成1・制限酵素によるPCR産物とベクターの消化・ベクターの脱リン酸化・Ligation	講義/演習（遠隔及び対面）	松原	レトロウィルスベクターの原理の予習
3,4	ウィルスベクターを用いた遺伝子導入について学ぶ#2 レトロウィルスベクターの作成2・コンピテント細胞の作り方・大腸菌へのトランスフォーメーション	講義/演習（遠隔及び対面）	松原	レトロウィルスベクターの作成法の予習
5,6	ウィルスベクターを用いた遺伝子導入について学ぶ#3 レトロウィルスベクターの作成3・コロニーのピックアップ・少量調製	講義（遠隔）	松原	レトロウィルスベクターの作成法の予習・復習
7,8	ウィルスベクターを用いた遺伝子導入について学ぶ#4 レトロウィルスベクターの作成4・大量調製・パッケージング細胞の培養	演習（対面）	松原	レトロウィルスベクターの作成法の予習・復習
9,10	ウィルスベクターを用いた遺伝子導入について学ぶ#5 レトロウィルスベクターの作成5・ウィルス液の回収・MOIの測定	演習（対面）	松原	レトロウィルスベクターによる遺伝子導入法の予習
11,12	ウィルスベクターを用いた遺伝子導入について学ぶ#5 レトロウィルスベクターの作成6・使用細胞へのGFPベクターの感染・GFPの発現確認	講義（遠隔）	松原	レトロウィルスベクターによる遺伝子導入法の予習
13,14	クロマチン免疫沈降法について学ぶ#1 クロマチン免疫沈降法の原理について学ぶ	講義（遠隔）	古株	クロマチン免疫沈降法の原理の予習
15,16	クロマチン免疫沈降法について学ぶ#2 ①細胞の調製とクロスリンク②免疫沈降	演習（対面）	古株	クロマチン免疫沈降法の予習
17,18	クロマチン免疫沈降法について学ぶ#3 PCR	演習（対面）	古株	クロマチン免疫沈降法の復習
19,20	遺伝子改変マウスについて学ぶ#1 トランスジェニックマウスおよびノックアウトマウスの原理と作製法	講義（遠隔）	古株	遺伝子改変マウスの種類と作製法の原理の予習
21,22	遺伝子改変マウスについて学ぶ#2 ノックインマウスおよびコンディショナルノックアウトマウスの原理と作製法	講義（遠隔）	古株	ノックインマウスとコンディショナルノックアウトマウス作製法の原理の予習
23,24	遺伝子改変マウスの解析法について学ぶ#1 ① 遺伝子改変マウスの遺伝子型の判定法(PCR法)② 病理組織学的解析	演習（対面）	古株	マウスジェノタイプング法の予習
25,26	遺伝子改変マウスの解析法について学ぶ#2 ③ 骨髓細胞を用いた破骨細胞分化誘導④ 初代骨芽細胞を用いた骨芽細胞分化誘導	演習（対面）	古株	初代破骨細胞および骨芽細胞の調製法と分化誘導法の予習
27,28	遺伝子改変マウスの解析法について学ぶ#3 フローサイトメーターを用いたリンパ球表面抗原の解析	演習（対面）	Addison WN	フローサイトメーターの原理の予習
29,30	遺伝子改変マウスの解析法について学ぶ#4 高脂肪食投与によるエネルギー代謝	演習（対面）	Addison WN	肥満のメカニズムの予習

2023年度

分子生物学クラブ (Molecular Biology Journal Club)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松原 琢磨						
担当教員	古株 彰一郎, 松原 琢磨, Addison William						

授業の概要

骨・骨格筋代謝およびがん研究の話題を中心として、最新の研究の手技・内容および動向を理解するために、文献を読む。

学生の到達目標

・英語文献を読んで内容を理解できる。・論文で行われている実験手技を理解できる。・研究を客観的に批評することができる。・研究を建設的に批評することができる。・研究の背景を理解できる。・論文の内容を他の人にわかりやすく説明することができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
紹介する論文、関連文献および参考書は各自必要なものを選別する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
論文の選択基準	30%
プレゼンテーション能力	40%
質疑応答	30%

成績評価はルーブリック評価によりおこなう。
ルーブリック評価表は初回に配布する。

その他

月曜日：8:50～学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	骨および骨格筋代謝研究、さらには分子生物学領域で重要な最新の研究の内容および動向を理解し、説明する。	論文紹介および討論遠隔授業	古株松原 Addison WN	論文の詳読および実験手技、背景の理解の予習・復習

2023年度

口腔病態病理学 (Oral Pathology)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	4.0
授業方法	講義	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡, 矢田 直美						
	松尾 拡 矢田 直美						

授業の概要

口腔顎顔面領域の病変に関する最新の専門的知見について解説し、その発生のメカニズムの解明や新しい診断・治療法開発につながる基礎的研究に着手するきっかけ、礎とする。

学生の到達目標

1. 齲蝕、象牙質・歯髄複合体の病変について最新の専門的知見を得、知識を高める。2. 根尖性歯周組織の病変に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。3. 辺縁部歯周組織の病変に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。4. 顎・顎関節疾患に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。5. 口腔粘膜疾患に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。6. 口腔癌・前癌病変に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。7. 歯原性腫瘍、嚢胞性疾患に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。8. 非歯原性腫瘍に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。9. 唾液腺の非腫瘍性疾患に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。10. 唾液腺腫瘍に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。

テキスト

タイトル	著者	出版社
配布プリント		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

レポートは配布するルーブリック評価表に基づき評価する。

その他

【オフィスアワー】松尾 拡：月～金 17:00～19:00；矢田 直美：月～金 17:00～19:00；メールは随時受付

2023年度

口腔病態病理学 (Oral Pathology)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	4.0
授業方法	講義	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡, 矢田 直美						
	松尾 拡 矢田 直美						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～3	齶蝕、象牙質・歯髄複合体の病変について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	松尾	事前学修 (キーワード) : 齶蝕、象牙質・歯髄複合体の病変 事後学修 : 最新の専門的知見に関するレポート作成
4～6	根尖性歯周組織の病変について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	松尾	事前学修 (キーワード) : 根尖性歯周組織の病変 事後学修 : 最新の専門的知見に関するレポート作成
7～9	辺縁部歯周組織の病変について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	松尾	事前学修 (キーワード) : 辺縁部歯周組織の病変 事後学修 : 最新の専門的知見に関するレポート作成
10～12	顎・顎関節疾患について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	松尾	事前学修 (キーワード) : 顎・顎関節疾患 事後学修 : 最新の専門的知見に関するレポート作成
13～15	口腔粘膜疾患について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	松尾	事前学修 (キーワード) : 口腔粘膜疾患 事後学修 : 最新の専門的知見に関するレポート作成
16～18	口腔癌・前癌病変について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	矢田	事前学修 (キーワード) : 口腔癌・前癌病変 事後学修 : 最新の専門的知見に関するレポート作成
19～21	歯源性腫瘍、嚢胞性疾患について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	矢田	事前学修 (キーワード) : 歯源性腫瘍、嚢胞性疾患 事後学修 : 最新の専門的知見に関するレポート作成
22～24	非歯源性腫瘍について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	矢田	事前学修 (キーワード) : 非歯源性腫瘍 事後学修 : 最新の専門的知見に関するレポート作成

2023年度

口腔病態病理学 (Oral Pathology)

開講年次	1~2年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	4.0
授業方法	講義	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡, 矢田 直美						
	松尾 拡 矢田 直美						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
25~27	唾液腺の非腫瘍性疾患について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	矢田	事前学修 (キーワード) : 唾液腺の非腫瘍性疾患 事後学修 : 最新の専門的知見に関するレポート作成
28~30	唾液腺腫瘍について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	矢田	事前学修 (キーワード) : 唾液腺腫瘍 事後学修 : 最新の専門的知見に関するレポート作成

2023年度

口腔病態病理学演習Ⅰ（ベーシックコース）（Practice of Oral PathologyⅠ（basic course））

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓						
	松尾 拓						

授業の概要

口腔病態病理学分野で推進している研究や関連する研究を行うための基礎的知識および技能について学ぶ。病理組織標本作成法、組織化学的手法、免疫組織学的手法、超微形態学的手法について知識および技能を教授する。また大学院生のテーマに応じて、必要な生化学的、分子生物学的、微生物学的手法、免疫学的手法などについても知識および技能を教授する。

学生の到達目標

1. 病理組織標本作成法の技能を修得し実践できる。2. 特殊染色標本作製できる。3. 免疫染色標本作製できる。4. 電顕資料を作成できる。5. （研究テーマに応じて）細胞培養ができる。6. （研究テーマに応じて）DNA, RNA抽出ができる。7. （研究テーマに応じて）蛋白抽出ができる。8. （研究テーマに応じて）RT-PCR、アガロースゲル電気泳動ができる。9. （研究テーマに応じて）蛋白電気泳動法、ウエスタンブロットング法ができる。10. （研究テーマに応じて）クローニング、遺伝子組み換えの知識および技法を修得し、対応できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
配布プリント		

参考書

タイトル	著者	出版社
口腔病態病理学分野ですすめている研究に関する文献や参考書。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

レポートおよびプレゼンテーションは、配布するルーブリック評価表に基づき評価する。

その他

【オフィスアワー】月～金 17:00～19:00、メールは随時受付

2023年度

口腔病態病理学演習Ⅰ（ベーシックコース）（Practice of Oral PathologyⅠ（basic course））

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓						
	松尾 拓						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	病理組織標本作成法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	松尾	事前学修（キーワード）：病理組織標本作成法 事後学修：演習内容まとめのレポート作成
3,4	特殊染色標本作成法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	松尾	事前学修（キーワード）：特殊染色標本作成法 事後学修：演習内容まとめのレポート作成
5,6	免疫染色標本作成法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	松尾	事前学修（キーワード）：免疫染色標本作成法 事後学修：演習内容まとめのレポート作成
7,8	電顕資料作成法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	松尾	事前学修（キーワード）：電顕資料作成法 事後学修：演習内容まとめのレポート作成
9,10	細胞培養法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	松尾	事前学修（キーワード）：細胞培養法 事後学修：演習内容まとめのレポート作成
11	DNA, RNA抽出法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	松尾	事前学修（キーワード）：DNA, RNA抽出法 事後学修：演習内容まとめのレポート作成
12	蛋白抽出法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	松尾	事前学修（キーワード）：蛋白抽出法 事後学修：演習内容まとめのレポート作成
13	RT-PCR法、アガロースゲル電気泳動法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	松尾	事前学修（キーワード）：RT-PCR法、アガロースゲル電気泳動法 事後学修：演習内容まとめのレポート作成
14	蛋白電気泳動法、ウエスタンブロッティング法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	松尾	事前学修（キーワード）：蛋白電気泳動法、ウエスタンブロッティング法 事後学修：演習内容まとめのレポート作成

2023年度

口腔病態病理学演習Ⅰ（ベーシックコース）（Practice of Oral PathologyⅠ（basic course））

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡						
	松尾 拡						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
15	クローニング、遺伝子組み換え法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	松尾	事前学修（キーワード）：クローニング、遺伝子組み換え法 事後学修：演習内容まとめのレポート作成

2023年度

口腔病態病理学演習Ⅱ（アドバンスコース）（Practice of Oral Pathology II (advanced course)）

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓						
	松尾 拓						

授業の概要

口腔病態病理学分野で取組んでいる研究、特に個々の大学院生に与えられ得たテーマに対する研究を推進する。病理組織標本作成法、組織化学的手法、免疫組織学的手法、超微形態学的手法、生化学的、分子生物学的、微生物学的手法、免疫学的手法について、信頼性の高いデータが得られるように指導する。

学生の到達目標

1. 病理組織標本作成法の技能のレベルアップを図り、病理組織標本の作成ができる。2. 特殊染色標本によりデータを採得し、研究論文にまとめることができる。3. 免疫染色標本によりデータを採得し、研究論文にまとめることができる。4. 電顕資料によりデータを採得し、研究論文にまとめることができる。5. 細胞培養によりデータを採得し、研究論文にまとめることができる。6. DNA, RNA抽出によりデータを採得し、研究論文にまとめることができる。7. 蛋白抽出によりデータを採得し、研究論文にまとめることができる。8. 各実験データの信頼性を高めることができる。9. 独自に研究計画を立て、推進する能力を養い実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
配布プリント		

参考書

タイトル	著者	出版社
口腔病態病理学分野ですすめている研究に関する文献や参考書。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
プレゼンテーション	50%

レポートおよびプレゼンテーションを配布したルーブリック評価表に基づき評価する。

その他

【オフィスアワー】月～金 17:00～19:00、メールは随時受付

2023年度

口腔病態病理学演習Ⅱ（アドバンスコース）（Practice of Oral Pathology II (advanced course)）

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡						
	松尾 拡						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	光顕標本より得られたデータの解析、検討、まとめを行う。	演習	松尾	事前学修：光顕標本より得られたデータの解析およびプレゼンテーション準備 事後学修：討論内容まとめのレポート作成
3,4	電顕資料より得られたデータの解析、検討、まとめを行う。	演習	松尾	事前学修：電顕試料より得られたデータの解析およびプレゼンテーション準備 事後学修：討論内容まとめのレポート作成
5,6	細胞培養より得られたデータの解析、検討、まとめを行う。	演習	松尾	事前学修：細胞培養より得られたデータの解析およびプレゼンテーション準備 事後学修：討論内容まとめのレポート作成
7,8	生化学的、分子生物学的手法により得られたデータの解析、検討、まとめを行う。	演習	松尾	事前学修：生化学的、分子生物学的手法により得られたデータの解析およびプレゼンテーション準備 事後学修：討論内容まとめのレポート作成
9～11	各自で進めている研究の発表会を行う。	演習	松尾	事前学修：これまでの研究内容をまとめたプレゼンテーション準備 事後学修：討論内容まとめのレポート作成
12～15	論文作成法について学び、各自の研究に関する論文の骨子を組み立てる。	演習	松尾	事前学修：学術論文作成法に関するプレゼンテーション準備 事後学修：討論内容まとめのレポート作成および自身の研究論文の組み立てを考える。

2023年度

口腔病態病理学講究 (Colloquium of Oral Pathology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡						
	松尾 拡						

授業の概要

病理学、口腔病理学関連の最新の研究の動向を理解するために文献を精読する。また各自の研究内容の報告会、ディスカッションを行う。

学生の到達目標

1. 英語論文を正確に理解できる能力を高める。2. 研究の内容を理解できる。3. 研究を論評する力を高める。4. 研究の背景や動向を理解できる。5. 研究発表、プレゼンテーションの能力を高める。

テキスト

タイトル	著者	出版社
配布プリント		

参考書

タイトル	著者	出版社
関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
プレゼンテーション	50%

レポートおよびプレゼンテーションの評価は、配布するルーブリック評価表に基づいて行う。

その他

【オフィスアワー】月～金 17:00～19:00、メールは随時受付

2023年度

口腔病態病理学講究 (Colloquium of Oral Pathology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡						
	松尾 拡						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション、口腔病態病理学分野における研究の概要説明および討論。	演習	松尾	事前学修：病理学・口腔病理学の学問的枠組みについて 事後学修：討論内容まとめのレポート作成
2,3	前癌病変および上皮内癌に関する最近の研究動向を学び、討論する。	演習	松尾	事前学修(キーワード)：前癌病変、上皮内癌 事後学修：最近の研究動向および討論内容まとめのレポート作成
4	受講生の研究内容について発表し、また関連文献を紹介し、討論する(1)。	演習	松尾	事前学修：受講生の研究内容および関連論文に関するプレゼンテーション準備 事後学修：討論内容まとめのレポート作成
5,6	腫瘍マーカーに関する最近の研究動向を学び、討論する。	演習	松尾	事前学修(キーワード)：腫瘍マーカー 事後学修：討論内容まとめのレポート作成
7	受講生の研究内容について発表し、また関連文献を紹介し、討論する(2)。	演習	松尾	事前学修：受講生の研究内容および関連論文に関するプレゼンテーション準備 事後学修：討論内容まとめのレポート作成
8,9	創傷治癒に関する最近の研究動向を学び、討論する(1)。	演習	松尾	事前学修(キーワード)：創傷治癒 事後学修：討論内容まとめのレポート作成
10	受講生の研究内容について発表し、また関連文献を紹介し、討論する(3)。	演習	松尾	事前学修：受講生の研究内容および関連論文に関するプレゼンテーション準備 事後学修：討論内容まとめのレポート作成
11,12	創傷治癒に関する最近の研究動向を学び、討論する(2)。	演習	松尾	事前学修(キーワード)：創傷治癒 事後学修：討論内容まとめのレポート作成

2023年度

口腔病態病理学講究 (Colloquium of Oral Pathology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡						
	松尾 拡						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
13	受講生の研究内容について発表し、また関連文献を紹介し、討論する(4)。	演習	松尾	事前学修：受講生の研究内容および関連論文に関するプレゼンテーション準備 事後学修：討論内容まとめのレポート作成
14,15	各自の研究内容について討論したことを総括し、今後どのように研究を展開していけばよいか、などについて討論する。	演習	松尾	事前学修：受講生の研究内容まとめのプレゼンテーション準備 事後学修：討論内容まとめのレポート作成

2023年度

臨床病理診断学 (Clinical Diagnostic Pathology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	4.0
授業方法	講義	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓, 矢田 直美						
	松尾 拓 矢田 直美						

授業の概要

基礎研究以外に口腔病態病理学分野における重要なルーチンワークとして病理診断がある。本講義では、臨床病理診断業務の実際や、死体解剖資格および口腔病理専門医資格を取得できるような基礎的知識を教授する。また病理診断に焦点を絞った口腔顎顔面領域における病変の最新知見の解説も行う。

学生の到達目標

1. 病理解剖 (剖検) について理解し実践できる。2. 生検について理解し実践できる。3. 手術材料の取り扱いについて理解し実践できる。4. 細胞診について理解し実践できる。5. 術中迅速診断について理解し実践できる。6. 組織標本作成法について理解し実践できる。7. 病理診断に利用する特殊染色や免疫染色について理解し実践できる。8. 口腔顎顔面領域の病理診断に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。9. 悪性腫瘍と良性腫瘍、非腫瘍性疾患の鑑別点について理解し実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
配布プリント		

参考書

タイトル	著者	出版社
Pathologic basis of disease, Robbins & Cotran, 8th edition		Elsevier
病理学 第6版		医学書院
標準病理学 第6版		医学書院
イラスト病理学		文光堂
口腔病理アトラス 第3版		文光堂
WHO Classification of Tumours, Pathology and Genetics of Tumours of the Head and Neck		IARC 出版
各講義で紹介された文献、参考資料		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

レポートは配布するルーブリック評価表に基づき評価する。

その他

【オフィスアワー】松尾 拓 : 月～金 17:00～19:00 ; 矢田 直美 : 月～金 17:00～19:00 ; メールは随時受付

2023年度

臨床病理診断学 (Clinical Diagnostic Pathology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	4.0
授業方法	講義	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡, 矢田 直美						
	松尾 拡 矢田 直美						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	人体病理学概論：人体病理学の学問的枠組みについて学ぶ。	講義	松尾	事前学修 (キーワード)：人体病理学 事後学修：人体病理学に関するレポート作成
3～5	病理解剖 (剖検) の概要について学ぶ。	講義	松尾	事前学修 (キーワード)：病理解剖 (剖検) 事後学修：病理解剖 (剖検) に関するレポート作成
6～8	生検の概要について学ぶ。	講義	松尾	事前学修 (キーワード)：生検 事後学修：生検に関するレポート作成
9～11	手術材料の取り扱いについて概要を学ぶ。	講義	松尾	事前学修 (キーワード)：手術材料の取り扱い 事後学修：手術材料の取り扱いに関するレポート作成
12～14	細胞診について概要を学ぶ。	講義	矢田	事前学修 (キーワード)：細胞診 事後学修：細胞診に関するレポート作成
15～17	術中迅速診断について概要を学ぶ。	講義	矢田	事前学修 (キーワード)：術中迅速診断 事後学修：術中迅速診断に関するレポート作成
18～20	組織標本作成法について概要を学ぶ。	講義	矢田	事前学修 (キーワード)：組織標本作成法 事後学修：組織標本作成法に関するレポート作成
21～23	病理診断に利用する特殊染色、免疫染色について概要を学ぶ。	講義	矢田	事前学修 (キーワード)：特殊染色、免疫染色 事後学修：特殊染色、免疫染色に関するレポート作成
24～26	口腔顎顔面領域の病理診断について概要およびその特殊性を学び、かつ最新の専門的知見を得る。	講義	松尾矢田	事前学修 (キーワード)：口腔顎顔面領域 事後学修：口腔顎顔面領域の病理診断に関するレポート作成

2023年度

臨床病理診断学 (Clinical Diagnostic Pathology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	4.0
授業方法	講義	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡, 矢田 直美						
	松尾 拡 矢田 直美						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
27～30	悪性腫瘍と良性腫瘍、非腫瘍性疾患の鑑別について学ぶ。	講義	松尾矢田	事前学修 (キーワード) : 悪性腫瘍、良性腫瘍、非腫瘍性疾患、鑑別診断 事後学修 : 悪性腫瘍と良性腫瘍、非腫瘍性疾患の鑑別に関するレポート作成

2023年度

臨床病理診断学演習 (Practice of Clinical Diagnostic Pathology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	矢田 直美						
担当教員	矢田 直美						

授業の概要

臨床病理診断業務に関わる手技を修得する。また、病理診断、報告書の作成、症例検討会を行い、病理診断能力を養う。

学生の到達目標

1. 生検材料の取り扱い方を修得できる。2. 手術材料の取り扱い方を修得できる。3. 細胞診材料の取り扱い方を修得できる。4. 術中迅速診断材料の取り扱い方を修得できる。5. 病理解剖 (剖検) を経験し、知識を高める。6. 主要な口腔顎顔面領域疾患の病理診断ができる。7. 主要な全身疾患の病理診断ができる。8. 病理診断報告書が作成できる。9. 症例を論文 (症例報告) にまとめることができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
配布プリント		

参考書

タイトル	著者	出版社
WHO Classification of of Head and Neck Tumours		IARC
口腔病理アトラス 第3版		文光堂
標準病理学 第6版		医学書院
各講義で紹介された文献、参考資料		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

演習後に課したレポートの内容に基づいて評価を行う。

その他

【オフィスアワー】月～金 17:00～19:00 ; メールは随時受付

2023年度

臨床病理診断学演習 (Practice of Clinical Diagnostic Pathology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	矢田 直美						
担当教員	矢田 直美						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション (演習の概要および注意点などについて説明する)	講義	矢田	レポート
2, 3	生検、手術材料の取り扱いの手順を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
3, 4	細胞診材料の取り扱いの手順を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
5	術中迅速診断材料の取り扱いの手順を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
6	病理解剖 (剖検) の手順を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
8, 9	主要な口腔顎顔面領域疾患の病理診断の概要を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
10, 11	主要な全身疾患の病理診断の概要を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
12, 13	病理診断報告書の作成法を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
14, 15	症例報告および論文作成法を学び、演習を行う	演習	矢田	レポート

2023年度

感染症学 I (Infectious Diseases I)

開講年次	1~2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有吉 渉						
担当教員	有吉 渉, 吉岡 香絵, 山崎 亮太						

授業の概要

感染症における病原因子とそれに対する宿主の感染防御システムについて、分子生物学的観点から学ぶ。さらに「歯周病原性細菌の病原性発現メカニズム」、「パターン認識受容体」や「骨免疫学」など個別のテーマについてグループ学習を行う。

学生の到達目標

- ① 感染に関わる病原体側の因子を説明できる。
- ② デンタルプラークの機能や細菌間情報伝達機構を説明できる。
- ③ 口腔内の感染症（齲蝕や歯周病）について分子生物学観点から説明できる。
- ④ 免疫による病原体の認識機構と排除機構を説明できる。
- ⑤ サイトカインや炎症性メディエーターを説明できる。
- ⑥ パターン認識受容体を説明できる。
- ⑦ 炎症応答における免疫細胞の機能を説明できる。
- ⑧ 口腔内の病原体排除機構を説明できる。
- ⑨ 感染症に対する診断、予防、治療を説明できる。
- ⑩ インフラマソームを説明できる。
- ⑪ 骨リモデリングの分子メカニズムを説明できる。
- ⑫ 骨代謝における免疫系の関与を説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
事前に資料を配布の上、学習項目を提示。		

参考書

タイトル	著者	出版社
感染分子生物学分野で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

- ・講義後に提出するレポート（3回）の評価を数値化して評価する。配点は、各1回0~30点（計90点）とし、100点満点に換算する。
- ・評価にはルーブリックを使用する。ルーブリックは、Moodleに掲載する。

その他

【オフィスアワー】講義・演習の前後、またはメールで受け付ける。

2023年度

感染症学Ⅰ (Infectious DiseasesⅠ)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有吉 渉						
担当教員	有吉 渉, 吉岡 香絵, 山崎 亮太						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	病原微生物の分子生物学Ⅰ： 感染症学の学習に必要な分子生物学および細菌学の概要を学ぶ。	グループ学習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
2	病原微生物の分子生物学Ⅱ： 病原体のもつ定着因子や内毒素について学ぶ。	グループ学習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
3	病原微生物の分子生物学Ⅲ： バイオフィルムとしてのデンタルプラークの構造や機能を学ぶ。	グループ学習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
4	病原微生物の分子生物学Ⅳ： 歯周病原性細菌のもつ病原因子について学ぶ。	グループ学習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
5	病原微生物の分子生物学Ⅴ： 口腔マイクロバイオームの生態と機能について最新の論文を踏まえて学ぶ。	講義	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】第1-4回のグループ学習の復習 【事後学修】第1-5回のまとめレポート作成
6	感染防御の分子生物学Ⅰ： 免疫学の学習に必要な分子生物学の概要を学ぶ。	グループ学習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
7	感染防御の分子生物学Ⅱ： 自然免疫による異物の認識と抗原排除に関するメカニズムを学ぶ。	グループ学習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
8	感染防御の分子生物学Ⅲ： 体液性免疫による異物の認識と抗原排除に関するメカニズムを学ぶ。	グループ学習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
9	感染防御の分子生物学Ⅳ： 細胞性免疫による異物の認識と抗原排除に関するメカニズムを学ぶ。	グループ学習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
10	感染防御の分子生物学Ⅴ： 唾液および抗菌物質など、口腔内の感染防御機構を学ぶ。	グループ学習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
11	感染防御の分子生物学Ⅵ： 病因論に基づいた口腔感染症の診断、予防、治療を学ぶ。	グループ学習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
12	感染防御の分子生物学Ⅶ： 炎症応答におけるインフラマソームの活性化メカニズムについて、最新の論文を踏まえて学ぶ。	講義	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】第6-11回のグループ学習の復習 【事後学修】第6-12回のまとめレポート作成
13	炎症性骨吸収Ⅰ： 骨リモデリングの制御システムを学ぶ。	グループ学習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
14	炎症性骨吸収Ⅱ： 骨代謝の制御に関わる様々な免疫調節分子を学ぶ。	グループ学習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
15	炎症性骨吸収Ⅲ： 骨免疫学を応用した炎症性骨吸収に対する治療アプローチについて、最新の論文を踏まえて学ぶ。	講義	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】第13-14回のグループ学習の復習 【事後学修】第13-15回のまとめレポート作成

2023年度

感染症学 II (Infectious Diseases II)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有吉 渉						
担当教員	有吉 渉, 吉岡 香絵, 山崎 亮太						

授業の概要

感染症学と免疫学領域における最新の学術雑誌に掲載されている重要な英語論文を精読する。担当学生は参加者全員に対して、論文の目的、実験手技、結果の導き方、考察などについて解説する。解説後、質疑応答を通して、最新の知識を共有することを目指す。

学生の到達目標

- ① 英語文献を読み込む能力を養うことができる。
- ② 研究を批判する力を養うことができる。
- ③ 自分の研究への応用が可能かどうかを考える力を養うことができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
Nature, Cell, Scienceなど、ライフサイエンス研究に直結する英語論文		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	100%

- ・発表をそれぞれの教員が評価し、その平均点を算出する。英語論文読解度（0～25点）、論文データ理解度（0～25点）、プレゼンテーション能力（0～25点）、質疑応答能力（0～25点）の計100点の配点とする。
- ・評価にはルーブリックを使用する。ルーブリックは、Moodleに掲載する。

その他

【オフィスアワー】演習の前後、またはメールで受け付ける。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	毎回発表される抄読論文の研究の背景や方法、結果、考察を理解する。担当論文に関しては、抄録内容の精読に加え、自身の研究との関連を理解する。さらに、グループ内での発表と意見交換を通じて、得られた知識を自己確認できる能力を培う。	文献紹介および討論	吉岡 有吉 山崎	【事前学修】グループメンバーに理解してもらうための十分な文献の精読と資料の作成・配布 【事後学修】討論を通じて、論文から得られた知識を確固としたものにするために、事後学習のテーマを与える。

2023年度

感染症学Ⅲ (Infectious Diseases Ⅲ)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有吉 渉						
担当教員	有吉 渉, 吉岡 香絵, 山崎 亮太						

授業の概要

感染分子生物学分野で実験を行なっている研究成果に関する討論を通して、研究の論理展開を理解するとともに、大学院生間の研究に関する情報交換の場として活用する。担当教官はチュータとなり、PBL形式での演習と教育を行う。

学生の到達目標

- ① 自身の研究について論理的に説明できる能力を養うことができる。
- ② 実験手技について原理と結果の解釈を理解し、説明できる能力を養うことができる。
- ③ 他人の発表を聞き、自分の研究への応用が可能かどうかを考察する力を養うことができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
実験ノート、および研究に関連する参考文献を資料として用いる。		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
データ内容、参加態度、プレゼンテーション能力	100%

- ・データ内容（背景、目的、方法、結果、考察）、プレゼンテーション能力（発表姿勢、話し方、質疑応答）、他者への質問をそれぞれ評価する。
- ・評価にはルーブリックを使用する。ルーブリックは、Moodleに掲載する。

その他

【オフィスアワー】演習の前後、またはメールで受け付ける。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	自身の直近の実験データを取りまとめて発表し、プレゼンテーション能力を養う。また、発表者は担当教官や他の大学院生からの質問に的確に回答していくなかで科学的な質疑応答能力を養う。	研究報告および討論	山崎 有吉 吉岡	【事前学修】関連分野の文献調査、プレゼンテーションの準備 【事後学修】プレゼンテーションを通じて、論文から得られた知識を確固としたものにするために、事後学習のテーマを与える。

2023年度

感染症学Ⅳ (Infectious Diseases Ⅳ)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有吉 渉						
担当教員	有吉 渉, 吉岡 香絵, 山崎 亮太						

授業の概要

感染症学研究を遂行する上で必要な基本的実験手技について原理を理解した上で学ぶ。

学生の到達目標

- ① 細胞の培養を実践できる。
- ② 細菌の培養を実践できる。
- ③ 培養細胞からのRNAの抽出を実践できる。
- ④ real-time RT-qPCR法の原理を説明できる。
- ⑤ real-time RT-qPCR法を実践できる。
- ⑥ 培養細胞からのタンパクの抽出を実践できる。
- ⑦ Western blotting法の原理を説明できる。
- ⑧ Western blotting法を実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
事前に資料を配布の上、学習項目を表示		

参考書

タイトル	著者	出版社
感染分子生物学分野で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
質疑応答	100%

- ・講義および演習時の質疑応答の内容を採点し、評価する。
- ・評価にはルーブリックを使用する。ルーブリックは、Moodleに掲載する。

その他

【オフィスアワー】講義・演習の前後、またはメールで受け付ける。

2023年度

感染症学Ⅳ (Infectious Diseases Ⅳ)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有吉 渉						
担当教員	有吉 渉, 吉岡 香絵, 山崎 亮太						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション： 本演習の目的と概要を学ぶ。	講義	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
2	細胞培養Ⅰ： 培養液の作製、培養細胞の取り扱いを学ぶ。	講義・演習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
3	細胞培養Ⅱ： 細胞の継代と保存を学ぶ。	講義・演習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
4	細菌培養Ⅰ： 無菌操作、培地の作製、細菌の取り扱いを学ぶ。	講義・演習	山崎 有吉 吉岡	【事前学修】配布資料の精読
5	細菌培養Ⅱ： シングルコロニーのピックアップ、試験管培養、大量培養を学ぶ。	講義・演習	山崎 有吉 吉岡	【事前学修】配布資料の精読
6	real-time RT-qPCR法Ⅰ： real-time RT-qPCR法の原理とプライマーの設計を学ぶ。	講義・演習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
7	real-time RT-qPCR法Ⅱ： 培養細胞からのRNAの抽出とcDNAの合成を学ぶ。	講義・演習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
8	real-time RT-qPCR法Ⅲ： real-time RT-qPCRを学ぶ。	講義・演習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
9	real-time RT-qPCR法Ⅳ： IVデータの解析を学ぶ。	講義・演習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
10	Western blotting法Ⅰ： Western blotting法の原理とゲルの作製を学ぶ。	講義・演習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
11	Western blotting法Ⅱ： 培養細胞からのタンパクの抽出を学ぶ。	講義・演習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
12	Western blotting法Ⅲ： SDS-PAGEとプロットングを学ぶ。	講義・演習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
13	Western blotting法Ⅳ： ブロッキングと1次抗体反応を学ぶ。	講義・演習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
14	Western blotting法Ⅴ： 2次抗体反応とHRPによる発色反応を学ぶ。	講義・演習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読
15	Western blotting法Ⅵ： データの解析を学ぶ。	講義・演習	有吉 吉岡 山崎	【事前学修】配布資料の精読

2023年度

薬理学 I (Pharmacology I)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業の概要

全身疾患を有する患者が使用する各種薬物について詳細に学ぶ。特に高齢者が使用することの多い血液系作用薬（抗凝固薬，抗血栓薬），中枢神経系作用薬（パーキンソン病治療薬など）を中心に学ぶ。

学生の到達目標

1. 全身疾患を有する患者に対して最適な薬物投与ができる。2. 全身疾患を有する患者に対して安全な歯科治療ができる。3. 全身疾患を有する患者の使用する各種薬物について詳細に説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
グッドマン・ギルマン 薬理学 第13版	橋本、赤池ら監訳	廣川書店
各種文献		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の発表内容	50%
講義・演習における質疑応答	50%

演習の発表内容および毎回の講義・演習における質疑応答の内容について、それぞれに設定したルーブリック評価表に基づいて複数の教員により評価し平均点を総合100点満点で算出する。

その他

学生相談：随時メールにて受付

2023年度

薬理学 I (Pharmacology I)

開講年次	1~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション血液系作用薬・中枢神経系作用薬の概論を学ぶ。	講義(対面と遠隔の併用)	竹内、東	-
2	血液系作用薬1血液凝固系、線溶系について学ぶ。抗凝固薬(ヘパリン)の作用機序、副作用、有害作用について学ぶ。	演習(対面と遠隔の併用)	竹内、東	【事前学修課題】 配付資料の精読
3	血液系作用薬2抗凝固薬(ワルファリン)の作用機序、副作用、有害作用について学ぶ。	演習(対面と遠隔の併用)	竹内、東	【事前学修課題】 配付資料の精読
4	血液系作用薬3新規経口抗凝固薬(NOAC)の作用機序、副作用、有害作用について学ぶ。	演習(対面と遠隔の併用)	竹内、東	【事前学修課題】 配付資料の精読
5	血液系作用薬4抗血栓薬(アスピリン)の作用機序、副作用、有害作用について学ぶ。	演習(対面と遠隔の併用)	竹内、東	【事前学修課題】 配付資料の精読 【事後学修課題】
6	血液系作用薬5新規抗血栓薬の作用機序、副作用、有害作用について学ぶ。	演習(対面と遠隔の併用)	竹内、東	【事前学修課題】 配付資料の精読 【事後学修課題】
7	血液系作用薬6抗凝固薬・抗血栓薬使用時の歯科治療の問題点について学ぶ①。	その 演習(対面と遠隔の併用)	竹内、東	【事前学修課題】 配付資料の精読 【事後学修課題】
8	血液系作用薬7抗凝固薬・抗血栓薬使用時の歯科治療の問題点について学ぶ②。	その 演習(対面と遠隔の併用)	竹内、東	【事前学修課題】 配付資料の精読 【事後学修課題】
9	中枢神経系作用薬1神経・精神疾患について学ぶ。	演習(対面と遠隔の併用)	竹内、東	【事前学修課題】 配付資料の精読 【事後学修課題】
10	中枢神経系作用薬2パーキンソン病について臨床応用される治療薬を中心に学ぶ。	演習(対面と遠隔の併用)	竹内、東	【事前学修課題】 配付資料の精読 【事後学修課題】
11	中枢神経系作用薬3うつ病について臨床応用される治療薬について学ぶ。	演習(対面と遠隔の併用)	竹内、東	【事前学修課題】 配付資料の精読 【事後学修課題】
12	中枢神経系作用薬4認知症について臨床応用される治療薬について学ぶ。	演習(対面と遠隔の併用)	竹内、東	【事前学修課題】 配付資料の精読 【事後学修課題】
13	中枢神経系作用薬5てんかんについて臨床応用される治療薬を中心に学ぶ。	演習(対面と遠隔の併用)	竹内、東	【事前学修課題】 配付資料の精読 【事後学修課題】

2023年度

薬理学 I (Pharmacology I)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
14	中枢神経系作用薬6高齢者に適した薬剤について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	【事前学修課題】 配付資料の精読 【事後学修課題】
15	まとめ血液系作用薬・中枢神経系作用薬と歯科治療の関連性について学ぶ。	講義・演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	-

2023年度

薬理学 II (Pharmacology II)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業の概要

全身疾患を有する患者が使用する各種薬物について詳細に学ぶ。特に高齢者が使用することの多い循環器系作用薬（高血圧症治療薬，狭心症治療薬など），中枢神経系作用薬（抗うつ薬など）について学ぶ。

学生の到達目標

1. 全身疾患を有する患者に対して最適な薬物投与ができる。2. 全身疾患を有する患者に対して安全な歯科治療ができる。3. 全身疾患を有する患者の使用する各種薬物について詳細に説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
グッドマン・ギルマン 薬理書 第13版	橋本、赤池ら監訳	廣川書店
各種文献		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の発表内容	50%
講義・演習における質疑応答	50%

演習の発表内容および毎回の講義・演習における質疑応答の内容について、それぞれに設定したルーブリック評価表に基づいて複数の教員により評価し平均点を総合100点満点で算出する。

その他

学生相談：随時メールにて受付

2023年度

薬理学 II (Pharmacology II)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション循環器系作用薬・中枢神経系作用薬の概論を学ぶ。	講義（対面と遠隔の併用）	竹内、東	-
2	循環器系作用薬1 高血圧症治療薬について学ぶ その①。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
3	循環器系作用薬2高血圧症治療薬について学ぶ その②。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
4	循環器系作用薬3心不全治療薬について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
5	循環器系作用薬4狭心症治療薬について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
6	循環器系作用薬5不整脈治療薬について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
7	循環器系作用薬6循環器系作用薬使用患者の歯科治療について学ぶ その①。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
8	循環器系作用薬7循環器系作用薬使用患者の歯科治療について学ぶ その②。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
9	中枢神経系作用薬1 神経・精神疾患について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
10	中枢神経系作用薬2うつ病について臨床応用される治療薬について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
11	中枢神経系作用薬3そう病について臨床応用される治療薬を中心に学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
12	中枢神経系作用薬4認知症について臨床応用される治療薬について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
13	中枢神経系作用薬5統合失調症について臨床応用される頻度の高い治療薬について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
14	中枢神経系作用薬6アルコール依存、薬物依存症について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
15	まとめ循環器系作用薬・中枢神経系作用薬と歯科治療の関連性について学ぶ。	講義・演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	-

2023年度

薬理学Ⅲ (Pharmacology Ⅲ)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業の概要

歯科治療に関連の深い医薬品についての文献を読み、最新の知識を得る。また、歯科治療にともなう医薬品の副作用について学ぶ。

学生の到達目標

1. 患者に安全で有効な薬物投与ができる。2. 最新の医薬品情報を得ることができる。3. 論文を読むことができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
各種文献（ガイドラインなど都度指示）		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の発表内容	50%
講義・演習における質疑応答	50%

演習の発表内容および毎回の講義・演習における質疑応答の内容について、それぞれに設定したルーブリック評価表に基づいて複数の教員により評価し平均点を総合100点満点で算出する。

その他

学生相談：随時メールにて受付

2023年度

薬理学Ⅲ (Pharmacology Ⅲ)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション今後の講義・演習について討論する。	講義（対面と遠隔の併用）	竹内、東	-
2	抗菌薬1PK-PD理論を学ぶ その①。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
3	抗菌薬2PK-PD理論を学ぶ その②。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
4	抗菌薬3耐性菌について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
5	抗菌薬4カルバペネム系抗生物質について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
6	抗ウイルス薬新規抗インフルエンザウイルス薬について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
7	抗血小板凝集薬1血液凝固、血液溶解について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
8	抗血小板凝集薬2新規抗血小板凝集薬について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
9	抗血小板凝集薬3新規抗血小板凝集薬と歯科治療について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
10	血液凝固抑制薬に関するガイドラインについて学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
11	抗真菌薬1抗真菌薬と歯科における応用について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
12	抗真菌薬2抗真菌薬とその薬物相互作用について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
13	骨粗鬆症治療薬1ビスホスホネート製剤について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
14	骨粗鬆症治療薬2ビスホスホネート製剤の副作用について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
15	まとめ歯科治療における安全な薬物投与について学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	-

2023年度

薬理学Ⅳ (Pharmacology Ⅳ)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業の概要

新規に開発された医薬品についての基礎知識、作用機序、臨床応用、適正使用について学ぶ。

学生の到達目標

1. 分子標的薬を中心に新薬の説明ができる。2. 最新の医薬品情報を入手・理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
各種文献（各回の担当者が準備）		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の発表内容	50%
講義・演習における質疑応答	50%

演習の発表内容および毎回の講義・演習における質疑応答の内容について、それぞれに設定したルーブリック評価表に基づいて複数の教員により評価し平均点を総合100点満点で算出する。

その他

学生相談：随時メールにて受付

2023年度

薬理学Ⅳ (Pharmacology Ⅳ)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション新規開発医薬品に関する情報収集方法を学ぶ。	講義（対面と遠隔の併用）	竹内、東	-
2	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
3	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
4	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
5	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
6	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
7	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
8	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
9	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
10	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
11	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
12	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
13	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
14	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
15	発表担当者は新規開発医薬品の紹介と解説を行い、情報収集と発表方法を学ぶ。	講義・演習（対面と遠隔の併用）	竹内、東	事前学習：配付資料の精読

2023年度

薬理学講究 (Journal Club - Current Topics for Drug Discovery -)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業の概要

新薬開発や各種薬物に関する最新の研究の動向を理解する。「健康食品」などの成分や効能についても資料に基づいて科学的に検証する。担当者は新薬開発につながる研究テーマの発掘も念頭に置いて文献を紹介し、その内容について全員で議論する。

学生の到達目標

1. 英文・和文の文献を論理的な視点で読むことができる。2. 基礎生命科学研究文献の内容を理解し批評できる。3. 基礎生命科学研究文献の内容を、背景を含めてわかりやすく説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
紹介する文献および参考書は各自必要なものを選別する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	50%
質疑応答	50%

演習の発表内容および演習における質疑応答の内容について、それぞれに設定したルーブリック評価表に基づいて複数の教員により評価し平均点を総合100点満点で算出する。

その他

学生相談：随時 但し事前にメール等で予約必要

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	創薬を意識した最新の生命科学研究の内容と動向を理解し、説明および討論する。	文献紹介および討論（一部遠隔）	竹内東	（予習）担当者は文献の詳読および関連情報の調査説明用資料の準備

2023年度

分子薬理学演習 (Seminar in Molecular Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業の概要

薬理学の研究に必要な基本的知識および基本的実験手技を学ぶ。 遺伝子組換えタンパク質を調製し、各種薬物の効果を調べる方法を中心とする。

学生の到達目標

1. 遺伝子組換えタンパク質の調製法について説明できる。2. タンパク質の調製に必要な DNA コンストラクトを設計・作製できる。3. 遺伝子組換えタンパク質を調製できる。4. 遺伝子組換えタンパク質を用いた薬理的な試験管内実験を行うことができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
板書による説明。学習内容に応じた参考文献、参考書については助言する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の発表内容	30%
実験の理解度と結果の整理	70%

実験の理解度と結果の整理は、説明に沿った実験の実施と実験ノートへの記録内容について評価する。演習の発表内容および実験の理解度と結果の整理について、それぞれに設定したルーブリック評価表に基づいて複数の教員により評価し平均点を総合100点満点で算出する。

その他

学生相談：随時 但し事前にメール等の予約必要

2023年度

分子薬理学演習 (Seminar in Molecular Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション本演習で行う実験の全体の流れを学ぶ。	講義	竹内東	配付資料の精読
2	大腸菌用発現コンストラクトの作製準備に必要な遺伝子情報を収集しコンストラクトを設計する方法について学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
3	大腸菌発現コンストラクトの作製 (1) PCR 法による目的遺伝子とベクターの調製、ライゲーションについて学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
4	大腸菌細胞用発現コンストラクトの作製 (2) インサート挿入の正否判定について学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
5	組換えタンパク質の発現確認 (1) 大腸菌の培養と組換えタンパク質の発現誘導からサンプル調製までを学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
6	組換えタンパク質の発現確認 (2) 調製したサンプルの解析。SDS-PAGE。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
7	組換えタンパク質の調製 (1) 組換えタンパク質を調製するための大量培養系における発現誘導の条件検討について学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
8	組換えタンパク質の調製 (2) 大腸菌溶解液から組換えタンパク質精製する方法を学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
9	組換えタンパク質の調製 (3) 調製したタンパク質の濃度や精製度の確認方法について学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
10	組換えタンパク質を用いた試験管内実験 (1) タンパク質間結合能を指標にした活性測定について学ぶ。サンプル調製まで。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
11	組換えタンパク質を用いた試験管内実験 (2) 引続きタンパク質間結合能を指標にした活性測定について学ぶ。調製したサンプルの電気泳動。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
12	組換えタンパク質を用いた試験管内実験 (3) 調製したタンパク質の酵素活性を測定することを学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
13	組換えタンパク質を用いた試験管内実験 (4) 組換えタンパク質の酵素活性に薬物が与える影響を調べる。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
14	データのまとめ得られた結果をまとめて発表する準備をする。	演習	竹内東	(復習) 結果のまとめと発表資料の準備
15	まとめたデータの発表まとめたデータについて発表討論する。	演習	竹内東	(予習) 発表資料の準備

2023年度

細胞分子薬理学演習 (Seminar in Cellular and Molecular Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業の概要

薬理学の研究に必要な基本的知識および基本的実験手技を学ぶ。 遺伝子組換えタンパク質を調製し、各種薬物の効果を調べる方法を中心とする。

学生の到達目標

1. 遺伝子組換えタンパク質の調製法について説明できる。2. タンパク質の調製に必要な DNA コンストラクトを設計・作製できる。3. 遺伝子組換えタンパク質を調製できる。4. 遺伝子組換えタンパク質を用いた薬理的な試験管内実験を行うことができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
板書による説明。学習内容に応じた参考文献、参考書については助言する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の発表内容	30%
実験の理解度と結果の整理	70%

実験の理解度と結果の整理は、説明に沿った実験の実施と実験ノートへの記録内容について評価する。演習の発表内容および実験の理解度と結果の整理について、それぞれに設定したルーブリック評価表に基づいて複数の教員により評価し平均点を総合100点満点で算出する。

その他

学生相談：随時 但し事前にメール等の予約必要

2023年度

細胞分子薬理学演習 (Seminar in Cellular and Molecular Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション本演習で行う実験の全体の流れを学ぶ。	講義	竹内東	配付資料の精読
2	大腸菌用発現コンストラクトの作製準備に必要な遺伝子情報を収集しコンストラクトを設計する方法について学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
3	大腸菌発現コンストラクトの作製 (1) PCR 法による目的遺伝子とベクターの調製、ライゲーションについて学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
4	大腸菌細胞用発現コンストラクトの作製 (2) インサート挿入の正否判定について学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
5	組換えタンパク質の発現確認 (1) 大腸菌の培養と組換えタンパク質の発現誘導からサンプル調製までを学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
6	組換えタンパク質の発現確認 (2) 調製したサンプルの解析。SDS-PAGE。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
7	組換えタンパク質の調製 (1) 組換えタンパク質を調製するための大量培養系における発現誘導の条件検討について学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
8	組換えタンパク質の調製 (2) 大腸菌溶解液から組換えタンパク質精製する方法を学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
9	組換えタンパク質の調製 (3) 調製したタンパク質の濃度や精製度の確認方法について学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
10	組換えタンパク質を用いた試験管内実験 (1) タンパク質間結合能を指標にした活性測定について学ぶ。サンプル調製まで。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
11	組換えタンパク質を用いた試験管内実験 (2) 引続きタンパク質間結合能を指標にした活性測定について学ぶ。調製したサンプルの電気泳動。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
12	組換えタンパク質を用いた試験管内実験 (3) 調製したタンパク質の酵素活性を測定することを学ぶ。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
13	組換えタンパク質を用いた試験管内実験 (4) 組換えタンパク質の酵素活性に薬物が与える影響を調べる。	演習	竹内東	(復習) 実験内容と結果の記録
14	データのまとめ得られた結果をまとめて発表する準備をする。	演習	竹内東	(復習) 結果のまとめと発表資料の準備
15	まとめたデータの発表まとめたデータについて発表討論する。	演習	竹内東	(予習) 発表資料の準備

2023年度

薬理学演習 (Seminar in Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業の概要

実験動物を使用して研究を行う際に必要になる、基本的知識および基本的実験手技を学ぶ。さらに、動物実験計画書作成について学ぶ。

学生の到達目標

1. 実験動物について説明できる。2. 動物実験計画書を立案できる。3. 動物に薬物投与を行うことができる。4. 基本的薬理実験について説明でき、行うことができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
動物実験の適正な実施に向けたガイドライン	日本学術会議制定	
各種文献		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の発表内容	30%
実験の理解度と結果の整理	70%

実験の理解度と結果の整理は、説明に沿った実験の実施と実験ノートへの記録内容について評価する。演習の発表内容および実験の理解度と結果の整理について、それぞれに設定したルーブリック評価表に基づいて複数の教員により評価し平均点を総合100点満点で算出する。

その他

学生相談：随時

2023年度

薬理学演習 (Seminar in Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘, 東 泉						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション今後の講義・演習について討論する	講義	竹内、東	-
2	実験動物学総論1実験動物の概論を学ぶ。	講義	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
3	実験動物学総論2実験動物に関する各種法律・ガイドラインについて学ぶ。	講義	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
4	実験動物学総論3実験動物に関する動物福祉について学ぶ。	講義・演習	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
5	実験動物学総論4実験動物の薬物投与方法、麻酔方法、安楽死について学ぶ①。	その講義・演習	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
6	実験動物学総論5実験動物の薬物投与方法、麻酔方法、安楽死について学ぶ②。	その講義・演習	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
7	実験動物学総論6実験動物の薬物投与方法、麻酔方法、安楽死について学ぶ③。	その講義・演習	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
8	薬理学実験 1急性毒性実験法について学ぶ。	講義・演習	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
9	薬理学実験 2慢性毒性実験法について学ぶ。	講義・演習	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
10	薬理学実験 3局所毒性実験法について学ぶ。	講義・演習	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
11	薬理学実験 4その他の毒性試験について学ぶ。	講義・演習	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
12	動物実験計画書作成 1動物実験計画書の作成方法を学ぶ その①。	講義	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
13	動物実験計画書作成 2動物実験計画書の作成方法を学ぶ その②。	講義	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
14	動物実験計画書作成 3動物実験計画書を作成する。	講義	竹内、東	事前学習：配付資料の精読
15	まとめ薬理学実験に関する総まとめを行う。	講義	竹内、東	-

2023年度

臨床疫学 I (Clinical Epidemiology I)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業の概要

本科目では、臨床疫学の基礎的内容を学習し、臨床疫学の各種研究デザインについて理解する。また、それぞれの研究デザインに関する論文を批判的に吟味することで、理解を深める。これによりEvidence-Based Dentistry(EBD)の実践力も養う。

学生の到達目標

1. 臨床疫学の概略を理解する。2. 臨床疫学・構造化抄録の読み方を理解する。3. 臨床疫学研究デザインの概略を理解する。4. 各種研究デザインにおける論文の批判的吟味ができる。5. Evidence-Based Dentistryを実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
Evidence-Based Dentistry 入門		永末書店

参考書

タイトル	著者	出版社
医学的研究のデザインー研究の質を高める疫学的アプローチ第3版		メディカルサイエンスインターナショナル社
歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド		医歯薬出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の成果物	100%

その他

【オフィスアワー】講義の前後、またはメールにて随時受付。

2023年度

臨床疫学 I (Clinical Epidemiology I)

開講年次	1~2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	イントロダクション臨床疫学の定義について学び、臨床疫学研究デザインの全体像を理解する。	講義	角館	臨床疫学研究デザインについて
3,4	臨床疫学論文・構造化抄録の読み方臨床疫学論文の構成および構造化抄録の読解方法を学ぶ。	講義	角館	臨床疫学論文・構造化抄録の読み方について
5,6	文献検索法①文献検索方法について学び、実際にPubMed、医中誌等を用いて各種研究デザインの論文を検索する。	演習	角館	PubMed、医中誌による文献検索について
7,8	文献検索法②Cochrane Library, Mindsを用いて、システマティックレビューや診療ガイドラインを検索する。	演習	角館	Cochrane Library, Mindsによる文献検索について
9,10	臨床疫学研究デザイン①(横断研究、症例対照研究)横断研究・症例対照研究の利点と欠点を理解し、歯科領域における先行研究について学ぶ。	講義	角館	横断研究・症例対照研究の利点と欠点について
11,12	批判的吟味①(横断研究)横断研究に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	演習	角館	横断研究論文の批判的吟味について
13,14	臨床疫学研究デザイン②(コホート研究)コホート研究の利点と欠点を理解し、歯科領域における先行研究について学ぶ。	講義	角館	コホート研究の利点と欠点について
15,16	批判的吟味②(コホート研究)コホート研究に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	演習	角館	コホート研究論文の批判的吟味について
17,18	臨床疫学研究デザイン③(介入研究)介入研究の利点と欠点を理解し、歯科領域における先行研究について学ぶ。	講義	角館	介入研究の利点と欠点について
19,20	批判的吟味③(介入研究)介入研究に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	演習	角館	介入研究論文の批判的吟味について
21,22	臨床疫学研究デザイン④(システマティックレビュー・メタアナリシス)データ統合型研究の利点と欠点を理解し、歯科領域における先行研究について学ぶ。	講義	角館	データ統合型研究の利点と欠点について
23,24	批判的吟味④(システマティックレビュー・メタアナリシス)データ統合型研究に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	演習	角館	データ統合型研究論文の批判的吟味について
25,26	臨床研究デザイン⑤(診断・スクリーニングの評価)診断・スクリーニングの評価法について理解する。歯科領域における先行研究について学ぶ。	演習	角館	診断・スクリーニング研究の特徴について
27,28	批判的吟味⑤(診断・スクリーニングの評価)診断・スクリーニングの評価法に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	演習	角館	診断・スクリーニング研究論文の批判的吟味について
29,30	診療ガイドライン診療ガイドラインの意義を理解し、実際に読解する。AGREE、診療ガイドラインの評価法(AGREE)やGRADEシステムについても学ぶ。	演習	角館	診療ガイドラインの評価について

2023年度

臨床疫学 II (Clinical Epidemiology II)

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業の概要

本科目では、臨床疫学の専門的な知識および臨床疫学研究を実践する上での応用力を養う。また各自のリサーチクエストに基づいて研究デザインならびに統計解析デザインを立案し、研究プロトコルを作成するための実践的能力を養う。

学生の到達目標

1. 各自の診療上の疑問を定式化し、アウトカム指標を設定できる。2. 概念モデルを作成することができる。3. 適切な臨床疫学研究デザインを立案できる。4. 適切な統計解析デザインを立案できる。5. 研究プロトコルを作成することができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
Evidence-Based Dentistry 入門		永末書店
医学的研究のデザインー研究の質を高める疫学的アプローチ第3版		メディカルサイエンスインターナショナル社
歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド		医歯薬出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の成果物	100%

その他

【オフィスアワー】講義の前後、またはメールにて随時受付。

2023年度

臨床疫学 II (Clinical Epidemiology II)

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	診療上の疑問の定式化自身の診療上の疑問をPICOのフォーマットを用いて定式化する。アウトカムを測定する際の指標の種類、選択方法について学ぶ。	講義	角館	PICO/Finer's check
3,4	アウトカム指標の設定アウトカムを測定する際の指標、測定方法、患者立脚アウトカムについて学ぶ。	講義	角館	アウトカム指標について
5,6	仮説(概念モデル)の設定交絡因子をはじめとする第3の因子を検討するために概念モデルを検討する。	講義,演習	角館	概念モデルについて
7,8	臨床疫学研究デザインの立案 自身の疑問に基づいて適切な臨床疫学研究デザインを立案する。各種デザインに応じた研究手法について学ぶ。	講義,演習	角館	臨床疫学研究デザインについて
9,10	バイアスの制御法選択バイアス、測定バイアス、交絡バイアスの制御方法について学び、実例をもとに学ぶ。	講義	角館	バイアスの制御法について
11,12	データ測定法キャリブレーションなどをはじめとするデータ測定方法の信頼性・妥当性について学ぶ。	講義,演習	角館	データ測定方法における信頼性と妥当性について
13,14	統計解析のデザイン①データの種類、分布、記述統計、オッズ比、リスク比、リスク差およびハザード比の違いについて学ぶ。	講義,演習	角館	リスク比、リスク差およびハザード比について
15,16	統計解析のデザイン②統計学的仮説検定、P値と有意水準、信頼区間、相関および相関係数について学ぶ。	講義,演習	角館	P値と有意水準、信頼区間、相関および相関係数について
17,18	統計解析のデザイン③2群間比較と多群間比較の検定方法および検定の過誤について学ぶ。	講義,演習	角館	2群間比較と多群間比較の検定方法について
19,20	統計解析のデザイン④ロジスティック回帰分析、重回帰分析をはじめとする多変量解析について学ぶ。	講義,演習	角館	ロジスティック回帰分析、重回帰分析について
21,22	統計解析のデザイン⑤Cox回帰(比例ハザードモデル)や Kaplan-Meier 生存時間解析の手法について学ぶ。	講義,演習	角館	生存時間解析について
23,24	統計解析のデザイン⑥サンプルサイズの推定について学ぶ。	講義,演習	角館	サンプルサイズの推定について
25,26	質問票の作成情報バイアスを制御するための質問票の作成方法について学び、実際に質問紙を作成する。	講義,演習	角館	質問票の作成法について
27,28	研究プロトコルの作成方法 Consort 声明・Stroke 声明をはじめとする研究報告のガイドラインについて学び、効率的な研究プロトコルの作成方法について理解する。	講義	角館	研究プロトコルの作成について
29,30	臨床疫学研究における倫理的配慮各種倫理指針、倫理委員会への書類申請ならびに臨床研究試験登録について学ぶ。	講義	角館	倫理指針、倫理委員会への書類申請および臨床研究試験登録について。

2023年度

臨床疫学Ⅲ (Clinical Epidemiology Ⅲ)

開講年次	3～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業の概要

本科目では、様々な臨床疫学研究の応用例について理解を深め、歯科領域における研究事例について学ぶ。また、国際的な臨床疫学研究について学び、Practice-Based Researchの意義や方法論についても理解する。

学生の到達目標

1. 歯科領域における各種の臨床疫学研究の理論と実例を理解する。 2. 国際的な臨床疫学研究について学ぶ。 3. Practice-Based Researchについて理解する。 4. Evidence-Practice Gapについて理解する。 5. 臨床疫学研究論文の作成方法について学ぶ。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
Evidence-Based Dentistry 入門		永末書店
医学的研究のデザインー研究の質を高める疫学的アプローチ第3版		メディカルサイエンスインターナショナル社
歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド		医歯薬出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の成果物	100%

その他

【オフィスアワー】講義の前後、またはメールにて随時受付。

2023年度

臨床疫学Ⅲ (Clinical Epidemiology Ⅲ)

開講年次	3～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	う蝕の臨床疫学う蝕の原因、診断、治療、予防、予後をはじめとする臨床疫学研究について学ぶ。	講義・演習	角館	う蝕の臨床疫学について
3,4	歯周病の臨床疫学歯周病の原因、診断、治療、予防、予後をはじめとする臨床疫学研究について学ぶ。	講義・演習	角館	歯周病の臨床疫学について
5,6	顎関節症の臨床疫学顎関節症の原因、診断、治療、予防、予後をはじめとする臨床疫学研究について学ぶ。	講義・演習	角館	顎関節症の臨床疫学について
7,8	歯冠修復物に関する臨床疫学歯冠修復物の予後・生存期間に関する臨床疫学研究について学ぶ。	講義・演習	角館	歯科修復物に関する臨床疫学について
9,10	歯科保健指導に関する臨床疫学歯科保健指導に関する臨床疫学研究について学ぶ。	講義・演習	角館	歯科保健指導に関する臨床疫学について
11,12	患者立脚型アウトカム研究患者満足度、QOLなどの患者立脚型アウトカムを理解し、歯科領域における研究事例について学ぶ。	講義・演習	角館	患者満足度研究について
13,14	行動科学に関する臨床疫学各種健康行動科学理論について理解し、歯科領域における行動科学に関する研究事例について学ぶ。	講義・演習	角館	歯科領域における健康行動科学理論について
15,16	歯科治療の費用対効果の臨床疫学歯科治療における費用対効果について理解し、歯科領域の研究事例について学ぶ。	講義・演習	角館	費用対効果に関する臨床疫学について
17,18	医療の質に関する臨床疫学医療の質について理解し、歯科領域における研究事例について学ぶ。	講義・演習	角館	医療の質研究について
19,20	Practice-Based ResearchPractice-Based Researchの歴史、意義、現状について理解し、研究の事例について学ぶ。	講義・演習	角館	Practice-Based Researchについて
21,22	Evidence-Practice Gapエビデンスー診療ギャップを理解し、歯科領域での研究事例について学ぶ。	講義・演習	角館	Evidence-Practice Gapについて
23,24	国際的な臨床疫学研究国際的な臨床疫学研究の潮流について理解し、歯科領域での研究事例について学ぶ。	講義・演習	角館	国際的な臨床疫学研究の潮流について
25,26	歯科診療の国際比較研究歯科診療パターンの国際比較について学ぶ、歯科医療制度の違いについて考察する。	講義・演習	角館	歯科診療の国際比較研究について
27,28	歯科医療政策と臨床疫学歯科医療政策と臨床疫学研究の関係について学ぶ。	講義・演習	角館	歯科保健医療政策と臨床疫学研究について
29,30	臨床疫学研究論文の作成臨床疫学研究論文の書き方および統計報告の方法について学ぶ。	講義・演習	角館	臨床疫学研究論文の作成方法について

2023年度

臨床疫学演習 (Clinical Epidemiology Practice)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業の概要

臨床疫学分野で行う研究内容・成果の発表会に参加し、そこで行われる討論および質疑応答を通して、研究の内容理解を深める。担当教員をはじめとする発表会参加者より受けたフィードバックに基づいて自身の研究を見直し、研究の質を高める。

学生の到達目標

1. 研究方法について理解し、説明できる。2. 自身の研究結果（解析データ）について論理的に解釈し、説明できる。3. 研究の進捗状況・結果についてスライドを作成し、分かりやすくプレゼンテーションできる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の成果物	50%
発表・質疑応答	50%

その他

各自の研究テーマに関連する最新の論文を各自で選定する。発表者はスライドにて発表資料を準備し、参加者に事前配布する。【オフィスアワー】講義の前後、またはメールにて随時受付。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	解析データ・進捗状況をスライドにまとめ、プレゼンテーションを行う。発表者は発表会参加者からの質問に答え、討論を行うことで研究方法および内容について理解を深める。	研究報告・発表および討論	角館	文献抄読および関連文献の収集

2023年度

臨床疫学講究 (Journal Club in Clinical Epidemiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業の概要

臨床疫学分野で行う研究内容・成果の発表会に参加し、そこで行われる討論および質疑応答を通して、研究の内容理解を深める。担当教員をはじめとする発表会参加者より受けたフィードバックに基づいて自身の研究を見直し、研究の質を高める。

学生の到達目標

1. 研究方法について理解し、説明できる。2. 自身の研究結果（解析データ）について論理的に解釈し、説明できる。3. 研究の進捗状況・結果についてスライドを作成し、分かりやすくプレゼンテーションできる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の成果物	50%
発表・質疑応答	50%

その他

各自の研究テーマに関連する最新の論文を各自で選定する。発表者はスライドにて発表資料を準備し、参加者に事前配布する。【オフィスアワー】講義の前後、またはメールにて随時受付。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	解析データ・進捗状況をスライドにまとめ、プレゼンテーションを行う。発表者は発表会参加者からの質問に答え、討論を行うことで研究方法および内容について理解を深める。	研究報告・発表および討論	角館	文献抄読および関連文献の収集

2023年度

口腔健康学 I (Oral Health Science I)

開講年次	1~2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	邵 仁浩, 藤井 航, 秋房 住郎, 園木 一男, 辻澤 利行, 中道 敦子, 泉 繭依, 船原 まどか						

授業の概要

口腔保健学の学際領域に対する研究志向性を担保する、優れた研究遂行能力を付与するため、また、当該領域を教授するための素養を醸成するため、口腔の健康に関連する最新の医学的・保健学的事象を学ぶとともに、当該事象を解決するための方略を創造するための応用発展的な研究手法や解析方法について、様々な観点からオムニバス形式で講義する。

学生の到達目標

1. わが国の公衆衛生における健康・医療に関わる制度・政策を理解し、歯科専門職の役割等について説明できる。
2. 口腔衛生学領域における疾患・異常に対する論理的観点と当該事象の解決にかかる研究手法を詳細に説明できる。
3. EBMによる口腔保健に関する基礎・臨床研究の手法を詳細に説明できる。
4. 対象者の背景に立脚した口腔保健の専門的価値観と能力の醸成に関する手法を想起する
5. 口腔状態および口腔疾患が全身状態に関係することをいかに証明するのか、そのMethodology(方法論)を説明できる。
6. 摂食行動に関与する高次脳機能、神経生理学および非侵襲的な研究手法について説明できる。
7. 栄養学領域における健康または疾患に対する論理的観点と当該事象の解決にかかる研究手法を説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	90%
口述試問	10%

事後レポート15回×6点、試問10点により評価する。

その他

学生相談：随時

2023年度

口腔健康学 I (Oral Health Science I)

開講年次	1~2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	邵 仁浩, 藤井 航, 秋房 住郎, 園木 一男, 辻澤 利行, 中道 敦子, 泉 繭依, 船原 まどか						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	公衆衛生と健康政策(1) 公衆衛生における健康・医療に関わる制度・政策を概説し、健康・医療に関連する制度・政策や社会の仕組みに、研究、人材育成、その他の専門的活動がどのようにに関わり貢献しているかを考える。	遠隔授業(Teams, Moodle)	邵	事前：公衆衛生における健康・医療に関わる制度・政策 事後：事後レポートの提出
2	公衆衛生と健康政策(2) 公衆衛生における健康・医療に関連する制度・政策や社会の仕組みに、研究、人材育成、その他の専門的活動がどのように関わっているかの知見に基づき、医資源に限りがあることを前提とし、公正に効率良く資源を分配する手法について考える。	遠隔授業(Teams, Moodle)	邵	事前：医療資源の分配 事後：事後レポートの提出
3	健康に対する口腔衛生学的観点(1) ヒトの健康を口腔衛生学的に考察し、その維持向上ないしは回復するためのミクロからマクロにわたる方略について考える。	遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：健康の概念 事後：事後レポートの提出
4	健康に対する口腔衛生学観点(2) う蝕と歯周疾患に対する口腔衛生学的観点を概説し、それぞれの課題とその解決方法について考える。	遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：う蝕と歯周疾患のレビュー等の抄読 事後：事後レポートの提出
5	回復期・慢性期に対する口腔衛生学観点 回復期から慢性期における対象者の背景(全身および口腔状態を含む)を口腔衛生学的に概説し、それぞれの研究課題と解決方法について考える。	講義(Teams, Moodle)	泉	事前：回復期、慢性期の患者の状態 事後：事後レポートの提出
6	急性期に関わる口腔有害事象と口腔機能管理 急性期に関わる口腔有害事象と、支持療法および予防法を口腔衛生学的観点から概説し、関連論文から研究課題とその解決方法について考える。	講義(Teams, Moodle)	船原	事後：急性期に関わる口腔有害事象、支持療法、予防法 事後：事後レポートの提出
7	歯科衛生士の高等教育的観点(1) 社会情勢と口腔保健の変遷を鑑み、専門職のリーダーに必要な価値観や能力について学修する。	講義(Teams, Moodle)	中道	事前：専門職のリーダーに必要な価値観や能力 事後：事後レポートの提出
8	歯科衛生士の高等教育的観点(2) 医学・看護学領域の教育手法を学び、口腔保健の高度な専門性を醸成するための教育手法について考える。	講義(Teams, Moodle)	中道	事前：医学・看護学領域の教育手法 事後：事後レポートの提出
9	Methodology(方法論)1 口腔状態および口腔疾患が全身状態と関係することを証明した過去から現在までの実験的方法について考える。	講義(Teams, Moodle)	園木	事前：口腔状態および口腔疾患が全身状態 事後：事後レポートの提出
10	Methodology(方法論)2 口腔状態および口腔疾患が全身状態と関係することを証明した過去から現在までの疫学的方法について考える。	講義(Teams, Moodle)	園木	事前：口腔状態および口腔疾患が全身状態 事後：事後レポートの提出
11	摂食嚥下支援の理論と実際1 摂食嚥下に関する臨床学的知見に基づき、嚥下の臨床像について考える。	講義(Teams, Moodle)	藤井	事前：摂食嚥下 事後：事後レポートの提出
12	摂食嚥下支援の理論と実際2 摂食嚥下の支援のあり方について症例から考える。	講義(Teams, Moodle)	藤井	事前：摂食嚥下支援 事後：事後レポートの提出

2023年度

口腔健康学 I (Oral Health Science I)

開講年次	1~2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	邵 仁浩, 藤井 航, 秋房 住郎, 園木 一男, 辻澤 利行, 中道 敦子, 泉 繭依, 船原 まどか						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
13	健康に対する栄養学観点(1) 健康または生活習慣病に対する栄養学的観点を概説し、それぞれの研究課題とその解決方法について考える。	講義 (Teams, Moodle)	辻澤	事前：健康または生活習慣病に対する栄養学的観点 事後レポートの提出
14	健康に対する栄養学観点(2) 健康または生活習慣病に対する栄養学的観点を概説し、それぞれの研究課題とその解決方法について考える。	講義 (Teams, Moodle)	辻澤	事前：健康または生活習慣病に対する栄養学的観点 事後レポートの提出
15	講義全体のまとめ	講義 (Teams, Moodle)	全員	事前：これまでの講義の復習 事後レポートの提出

2023年度

口腔健康学 II (Oral Health Science II)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	藤井 航						
担当教員	邵 仁浩, 藤井 航, 秋房 住郎, 園木 一男, 辻澤 利行, 中道 敦子						

授業の概要

口腔保健学領域の最新の動向を理解するため、国際学術雑誌の論文を抄読する。

学生の到達目標

1. 英語文献を読んで内容を理解する。2. 抄読した論文の研究背景を説明できる。3. 研究手法について詳細を説明できる。4. 研究結果について詳細を説明できる。5. 考察内容を批判的に説明できる。6. 研究内容をわかりやすく伝えることができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
教員が供与した論文や参考書および各自が検索した関連分野の文献を利用する。		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーション	50%
質疑応答	50%

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～30	口腔保健学領域の最新の動向を理解し、説明する。【事前学習課題】各教員の指示を受けて演習に臨む	演習（遠隔により実施を含む）	全員	論文検索・抄読、質問への事後レポート

2023年度

口腔健康学Ⅲ (Oral Health Science Ⅲ)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)／副科目	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	藤井 航						
担当教員	邵 仁浩, 藤井 航, 秋房 住郎, 園木 一男, 辻澤 利行, 中道 敦子						

授業の概要

大学院生の研究成果について、様々な領域の研究者である担当教員と討論し、研究の質を高めるとともに、プレゼンテーション能力の涵養も合わせて行う。

学生の到達目標

1. 自分が行っている研究内容を論理的に説明できる。
2. 自分が行っている研究背景を詳細に説明できる。
3. 質疑に対して適切に回答できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
指導教員が供与した論文や参考書および各自が検索した関連分野の文献を利用する。		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーション	50%
質疑応答	50%

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～30	自分が行っている研究成果についてわかりやすく発表し、教員からの質疑に回答する。【事前学習課題】各教員の指示を受けて演習に臨む	演習（遠隔により実施を含む）	全員	論文検索・抄読、質問への事後レポート

2023年度

口腔健康学実習 (Practice of Oral Health Science)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	4.0
授業方法	演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	口腔保健学科長						
担当教員	口腔保健学科長, 邵 仁浩, 藤井 航						
	藤井 航、邵 仁浩						

授業の概要

口腔保健学領域の最新の知識・技術を学ぶため、臨床的実践を行う。

学生の到達目標

1. 適正な医療面接を実践する。2. 医療安全・感染予防対策を実践する。3. EBMに基づいた総合歯科衛生過程を立案する。4. EBMに基づいた歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導を実践する。5. 歯科衛生士の社会的役割を果たすために必要な口腔機能管理を実践する。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
臨床的実践能力を総合評価する。	100%

その他

学生相談: 随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1-30	口腔保健学領域の最新の知識・技術を学ぶため、臨床的実践を行う。	実習	藤井 航、邵 仁浩	各教員の指示を受けて実習に臨む。

2023年度

口腔保健福祉学特論 II (Advanced Oral Health and Welfare Promotion II)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎						

授業の概要

地域の歯科における医療・保健・福祉連携の実際に係る理論と方法にかかる知識をもとに、モデルケースを用いて、その実践を演習する。

学生の到達目標

1. 地域の保健・福祉の実際を説明できる。
2. 歯科における医療・保健・福祉の連携の実際を説明できる。
3. 歯科における医療・保健・福祉の連携を推進するための方法論を習得する。
4. 地域で口腔HP、WPを実践するための知識を習得する。

テキスト

タイトル	著者	出版社
地方分権時代の健康政策実践書—みんなで楽しくできるヘルスプロモーション (Japanese)	Aut. 石井 敏弘、 中村 譲治、その他	Pub. ライフサイ エンスセンター

参考書

タイトル	著者	出版社
国民衛生の動向	厚生労働統計協会	
不平等が健康を損なう	イチロー カワチ, ブルース・P. ケ ネディ	日本評論社
ソーシャル・キャピタルと健康	イチロー カワチ	日本評論社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	80%
プレゼンテーション	20%

レポートおよび第5回、第7回の企画内容のプレゼンテーションにより評価する。点数配分：レポート8回×10点、プレゼンテーション2回×10点

その他

受講対象は、修士課程の口腔保健福祉学Ⅰを受講していない者とする。

2023年度

口腔保健福祉学特論 II (Advanced Oral Health and Welfare Promotion II)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	ヘルスプロモーションの理論 HPで用いられる一般的な手法および近年用いられている新しい手法について学習する。	講義遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：PRECEDE-PROCEED model 事後：事後レポートの提出
2	口腔を通じた福祉のあり方について 介護制度を含む高齢者福祉や障害者福祉における歯科の役割とあるべき姿について学習する。	講義遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：高齢者福祉、障害者福祉 事後：事後レポートの提出
3	オーラルヘルスプロモーションの実際理論 口腔保健におけるHPの理論について学ぶ。	講義遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：オーラルヘルスプロモーション 事後：事後レポートの提出
4	オーラルヘルスプロモーションの実際(1)～事例の収集～ 口腔保健におけるHPの実際について、市町村事業の実例を示しながら方法論を学ぶ。	演習遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：事例の収集 事後レポートの提出
5	オーラルヘルスプロモーションの実際(2)～事例の収集～ 前回到引き続き、 口腔保健におけるHPの実際について、市町村事業の実例を示しながら方法論を学ぶ。	演習遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：事例の収集 事後レポートの提出
6	地域における口腔HP、WP事例の収集と課題の抽出(1)～事例の収集～ 地域歯科保健等に関する報告書などから地域における口腔HP、WPの実例を選出する。	演習遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：事例の収集 事後レポートの提出
7	地域における口腔HP、WP事例の収集と課題の抽出(2)～事例から学ぶ課題と 解決方法～ 前回選出した事例について地域の課題とその解決方法について考察する。	演習遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：事例の収集 事後レポートの提出
8	地域における口腔HP、WP事例の収集と課題の抽出(3)～事例から学ぶ課題と 解決方法～ 文献検索を行い、国内外の事例を検討する。	演習遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：事例の収集 事後レポートの提出
9	地域における口腔HP、WP事例の収集と課題の抽出(4)～事例から学ぶ課題と 解決方法～ 前回到引き続き文献検索を行い、国内外の事例の実際を検討する。	演習遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：事例の収集 事後レポートの提出
10	地域における口腔HP、WP事例の課題の解決方法(1)～課題の抽出～ 福岡県内市町村の中からモデル地区を選出してその課題を抽出する。	演習遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：事例の収集 事後レポートの提出
11	地域における口腔HP、WP事例の課題の解決方法(2)～課題の解決方法の企画 立案～ 前回抽出したモデル地区の課題の解決方法を企画立案する。	演習遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：事例の収集 事後レポートの提出
12	地域における口腔HP、WP事例の課題の解決方法(3)～課題の解決方法の企画 立案～ 前回抽出したモデル地区の課題の解決方法を企画立案する。	演習遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：事例の収集 事後レポートの提出
13	地域における口腔HP、WP事例の課題の解決方法(4)～課題の解決方法の企画 立案～ 前回抽出したモデル地区の課題の解決方法を企画立案する。	演習遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：事例の収集 事後レポートの提出

2023年度

口腔保健福祉学特論 II (Advanced Oral Health and Welfare Promotion II)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	秋房 住郎						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
14	地域のHP、WPに対する働きかけ 地域住民に働きかけを行うために必要な方法論について事例を交えながら学習する。	演習遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：地域のHP、WP 事後：事後レポートの提出
15	まとめ これまで行ってきた内容をまとめ、プレゼンテーションを行う。	演習遠隔授業(Teams, Moodle)	秋房	事前：プレゼンテーションの準備 事後：プレゼンテーションの提出

2023年度

保健医療特論 I (Training Program I in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

地域の中で生活する全ての人々の健康課題、なかでも歯科領域の課題について、疫学的な手法や社会制度との関わりに着目して研究に取り組む重要性について講義する。特に、我が国の社会保障制度のなかで、歯科保健医療や歯科医療従事者の果たす役割を研究するための基礎的知識を習得する。

学生の到達目標

1. 患者の尊厳、医の倫理、研究倫理を説明できる。
2. 健康と疾病の概念を説明できる。
3. 歯科医師法及び関連法規の基本的な考え方を説明できる。
4. 公衆衛生と歯科医療における予防の概念を説明できる。
5. 主な保健医療統計の概要を説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
国民衛生の動向	厚生労働統計協会	
シンプル衛生公衆衛生学 2023	辻一郎他	南江堂
公衆衛生がみえる2022-2023 (第5版)	医療情報科学研究所 (編)	メディックメディア
新版 歯科医療管理	日本歯科医療管理学会 (編集)	医歯薬出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
口頭試問	50%

本科目は、遠隔講義による受講が可能である。レポートおよび口頭試問については、ルーブリック評価表によって評価する。ルーブリック評価表は、初回の授業の際に提示する。

その他

学生相談：随時

2023年度

保健医療特論Ⅰ (Training Program Ⅰ in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	社会と歯科医療① 公衆衛生の基盤となる健康の概念、社会・環境との関わり、予防の概念について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
2	社会と歯科医療② 患者の尊厳とこれを支える医の倫理及び各種の規範等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
3	社会と歯科医療③ 歯科医療と社会との関わり、歯科医師の責務等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
4	医療保険制度 社会保障制度の全体像を理解し、社会保険のなかでも医療を支える国民皆保険制度等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
5	年金保険制度、労災保険制度 社会保険を構成する年金保険制度、労災保険制度について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
6	介護保険制度 社会保険のひとつである介護保険制度について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
7	雇用保険、社会福祉制度 社会保険のひとつである雇用保険制度、社会保障の構成要素である社会福祉及び公的扶助について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
8	歯科医師と関連法規① 歯科医師の責務や業務を規定する歯科医師法の概要を理解し、関連統計から歯科医師をめぐる現況について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
9	歯科医師と関連法規② 我が国における医療提供体制を規定する医療法の概要を理解し、医療に関する選択の支援及び医療の安全の確保について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
10	歯科医師と関連法規③ 医療法に規定する病院、診療所等の管理、医療計画等の医療提供体制の確保について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
11	歯科医師と関連法規⑤ 医薬品医療機器等法の概要を理解し、薬局の管理、医薬品の審査、医療機器と保険診療の関係等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
12	歯科医師と関連法規⑥ 医薬品医療機器等法に規定する広告規制、副作用報告等を理解し、毒劇物及び麻薬等の規制について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
13	社会と人口統計 統計法の概要を理解し、基幹統計及び一般統計のうち、保健医療に関連する代表的な公的統計及びその代表的指標について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
14	都道府県における歯科保健行政の実際 国が推進する歯科保健医療行政の動向を踏まえ、都道府県で実施されている歯科保健行政の具体的取組について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
15	市町村における歯科保健行政の実際 国及び都道府県が推進する歯科保健医療行政の動向を踏まえ、市町村で実施されている歯科保健行政の具体的取組について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読

2023年度

保健医療特論 II (Training Program II in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

疫学の基本的な考え方、地域歯科保健、学校歯科保健、健康増進、疾病予防、国際保健、精神保健など、各分野の保健事業と歯科医師の関与、根拠法令等について講義する。特に、各種保健事業における歯科医療従事者の果たす役割を研究するための基礎的知識を習得する。

学生の到達目標

1. 医療関係職種と及び関連法規の基本的な考え方を説明できる。
2. 保健、医療、福祉、介護に関連する社会制度、地域医療及び社会環境を説明できる。
3. 環境と健康との関わりを説明できる。
4. 集団レベルの予防と健康管理を説明できる。
5. 疫学と科学的根拠にもとづいた医療、保健医療統計の応用を説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
国民衛生の動向	厚生労働統計協会	
シンプル衛生公衆衛生学 2023	辻一郎他	南江堂
公衆衛生がみえる2022-2023 (第5版)	医療情報科学研究所(編)	メディックメディア
改訂7版 疫学マニュアル	柳川 洋他	南山堂

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
口頭試問	50%

本科目は、遠隔講義による受講が可能である。レポートおよび口頭試問については、ルーブリック評価表によって評価する。ルーブリック評価表は、初回の授業の際に提示する。

その他

学生相談：随時

2023年度

保健医療特論 II (Training Program II in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	医療関係職種と関連法規① 歯科衛生士法、保健師助産師看護師法の概要や関連する政省令、法に基づく制度、就業の状況等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
2	医療関係職種と関連法規② 歯科技工士法、薬剤師法、医師法の概要や関連する政省令、法に基づく制度、就業の状況等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
3	医療関係職種と関連法規③ 診療放射線技師法、言語聴覚士法、理学療法士及び作業療法士法、栄養士法等の関係職種の法の概要、就業の状況等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
4	成人保健 疾病構造の変化と生活習慣病の現状を理解し、市町村の健康増進事業、特定健診・特定保健指導、健康日本21(第2次)及び歯科口腔保健法に規定する目標値等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
5	地域保健、保健所 地域の公衆衛生の拠点となる保健所及び市町村保健センター等の業務を理解し、地域診断の重要性について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
6	疫学と歯科医療① 公衆衛生の基盤となる疫学の基本的な考え方、疫学的手法、研究手順、歯科医学への応用等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
7	疫学と歯科医療② 疫学の各論を理解するため、具体的な疫学研究のトピックスを紹介し、研究デザインとエビデンスレベルについて学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
8	疫学と歯科医療③ スクリーニングの概念を理解し、各種の疫学指標と研究デザインの関係等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
9	母子保健 小児の健やかな成長を支える母子保健の概要を把握し、我が国における母子保健施策について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
10	健康増進 健康増進法の概要を把握し、市町村における健康づくり対策の現況について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
11	国際保健 国際保健の概要及び公衆衛生において重要な疾病予防の概念を理解し、感染症法及び予防接種法に規定する各種の感染症対策について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
12	学校保健 学童期における健康管理に重要な学校保健の概念を理解し、学校保健安全法に規定する各種の対策について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
13	環境と健康 国民の健康に影響を及ぼす各種の環境因子等と環境基本法との関係を理解し、上下水道の衛生基準等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
14	精神保健福祉 精神保健福祉の概要を理解し、精神保健福祉法及び医療観察法等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
15	高齢者介護 高齢化と要介護高齢者の現況を理解し、介護保険における口腔関連介護サービスの概要、老人福祉施設と介護保険施設との関係について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読

2023年度

保健医療特論Ⅲ (Training Program III in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

産業歯科保健、労務管理、医療安全管理（医薬品・医療機器の安全管理を含む）、医療情報管理、食品衛生、障害者保健福祉、医療過誤への対応等への対応策について講義する。特に、各種の制度上の位置付けや社会保障制度において必要とされる取組における歯科医療従事者の果たす役割を研究するための基礎的知識を習得する。

学生の到達目標

1. 環境と健康との関わりを説明できる。
2. 保健、医療、福祉、介護に関連する社会制度、地域医療及び社会環境を説明できる。
3. 事業所レベルの予防と健康管理を説明できる。
4. 保健医療情報の利用と管理方法を説明できる。
5. 患者本位の医療を実践するため、適切な説明を行った上で、患者の主体的な同意を得るために必要な対話能力と態度および考え方を説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
国民衛生の動向	厚生労働統計協会	
シンプル衛生公衆衛生学 2023	辻一郎他	南江堂
公衆衛生がみえる2022-2023（第5版）	医療情報科学研究所（編）	メディックメディア
改訂7版 疫学マニュアル	柳川 洋他	南山堂

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
口頭試問	50%

本科目は、遠隔講義による受講が可能である。レポートおよび口頭試問については、ルーブリック評価表によって評価する。ルーブリック評価表は、初回の授業の際に提示する。

その他

学生相談：随時

2023年度

保健医療特論Ⅲ (Training Program III in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	産業保健① 労働者の健康管理を担う産業保健の概要を理解し、労働基準法及び労働安全衛生法に規定する労働者保護対策について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
2	産業保健② 労働者保護対策のひとつである労働契約法の概要を理解し、歯科医師の有期労働契約の取扱い及び医療契約の特徴について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
3	医療情報とその管理① 歯科診療に伴う診療録等の取扱いを理解し、歯科医師法、医療法、療養担当規則等における規定について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
4	医療情報とその管理② 歯科診療所における個人情報の取扱いを理解し、個人情報保護法、取扱いのためのガイドライン等における規定について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
5	医薬品(生物製剤を含む)・医療機器の安全管理(医療法等) 歯科診療所における医薬品・医療機器の安全管理を理解し、医療法等における規定について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
6	国民栄養と食品保健(国民健康・栄養調査、食品衛生法等) 国民健康・栄養調査の意義を理解し、国民の健康に密接に関わる食品衛生の概要及び食中毒の動向について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
7	障害者保健福祉 障害者に対する保健福祉対策の概要を理解し、障害者総合支援法の制定に至る経緯、障害者権利条約、ノーマライゼーションについて学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
8	患者の視点から見た歯科医療 患者の尊厳、医の倫理等を理解し、歯科医師の責務に関する法的な位置付けを学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
9	コンフリクト・マネジメント① 歯科診療所における医療紛争の原因等を理解し、これを解決する手法である医療メディエーションを学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
10	コンフリクト・マネジメント② 医療紛争の解決法として注目される裁判外紛争解決手続きを理解し、医療訴訟の動向等を学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
11	最近の歯科保健医療行政の動向 保健医療論全般のまとめとして、最近の歯科保健医療行政の動向について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
12	研究デザイン① エビデンスレベル、各種研究デザインおよびアウトカム指標について、全体像を学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
13	研究デザイン② 横断研究のデザイン・アウトカム指標や横断研究の利点・欠点について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
14	研究デザイン③ コホート研究のデザイン・アウトカム指標やコホート研究の利点・欠点について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
15	研究デザイン④ ランダム化比較試験(RCT)のデザイン・アウトカム指標やRCTの利点・欠点について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読

2023年度

保健医療特論Ⅳ (Training Program Ⅳ in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

客観的資料に基づき、疾病・リスク・生活習慣の現状と変化を明らかにし、個々の健康政策の成果を評価するために必須である疫学的手法について講義する。特に、健康寿命の伸延及び健康格差の縮小並びに生活習慣病の発症予防及び重症化予防を研究するための基礎的知識を習得する。

学生の到達目標

1. 疫学研究と倫理を説明できる。
2. 疫学の基本的な手法を説明できる。
3. 健康寿命の伸延及び健康格差の縮小を説明できる。
4. 生活習慣病の発症予防及び重症化予防を説明できる。
5. 政策疫学の実践を説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
国民衛生の動向	厚生労働統計協会	
シンプル衛生公衆衛生学 2023	辻一郎他	南江堂
公衆衛生がみえる2022-2023 (第5版)	医療情報科学研究所 (編)	メディックメディア
改訂7版 疫学マニュアル	柳川 洋他	南山堂

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
演習の成果物	50%

本科目は、遠隔講義による受講が可能である。レポートおよび演習の成果物については、ルーブリック評価表によって評価する。ルーブリック評価表は、初回の授業の際に提示する。

その他

学生相談：随時

2023年度

保健医療特論Ⅳ (Training Program Ⅳ in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	疫学の意義と倫理 疫学の意義と目的、疫学研究の倫理、介入研究と対象者選択の妥当性について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
2	疾病頻度の測定 罹患率、累積罹患率、有病率、死亡率、致命率、相対頻度について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
3	曝露効果の測定 率の差と比、生存率、健康寿命について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
4	疫学研究手法 CASP(CRITICAL APPRAISAL SKILLS PROGRAMME)を用いて、学術論文の内容の吟味を行い、観察研究との違いを明確にして、学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
5	標本調査 悉皆調査と標本調査、母集団と標本、無作為化、標本抽出の考え方、標本の大きさの決定法について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
6	誤差、偏りとその制御 誤差の分類、バイアス、交絡因子の排除、率の標準化について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
7	因果関係の判定 因果関係の判定基準、評価方法、危険因子と予防因子について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
8	疫学要因 宿主要因、環境要因、多要因病因論について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
9	スクリーニング スクリーニングの意義、評価方法、実施条件、プログラム評価、代表的なスクリーニングプログラムについて学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
10	感染症の疫学 感染症発症の3条件、感染症の蔓延の指標、流行と宿主の抵抗力、病原体と感染経路、流行調査について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
11	病因疫学 病因疫学、リスク因子、分子疫学について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
12	政策疫学 ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ、医療経済評価(アウトカム別分析)について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
13	調査計画の実際 調査項目の選定、情報収集方法、調査票の作成、データ解析の流れについて学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
14	疫学解析手法 分割表、回帰と相関、検定法の実際、多変量解析について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
15	統計図表の作成 図表作成の原則、統計図表の形式と特徴について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読

2023年度

保健医療特論演習Ⅰ (PracticeⅠ of Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

2年ごとに改定される診療報酬制度と3年ごとに改定される介護報酬制度について、それぞれの直近の変更点と制度改正に至る背景を解析する。また、社会医療診療行為別調査、介護給付費実態調査をはじめとする各報酬に関連する統計調査から、制度改正後の動向を把握し、政策調査の活用法とシミュレーションを行うための研究手法を習得する。

学生の到達目標

1. 診療報酬制度と介護報酬制度を説明できる。
2. 社会医療診療行為別調査、介護給付費実態調査をはじめとする各報酬に関連する統計調査を説明できる。
3. 政策調査の活用とシミュレーションを実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
厚生労働統計一覧 http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/		
政府統計の総合窓口 (e-Stat) https://www.e-stat.go.jp/		

参考書

タイトル	著者	出版社
国民衛生の動向	厚生労働統計協会	
保険と年金の動向	厚生労働統計協会	
国民の福祉と介護の動向	厚生労働統計協会	

成績評価方法・基準

評価項目	割合
シミュレーション結果	35%
プレゼンテーション能力	35%
質疑応答能力	30%

本科目は、毎年実施内容が異なるため、8単位まで取得可能である。本科目は、遠隔講義による受講が可能である。各評価項目については、ルーブリック評価表によって評価する。ルーブリック評価表は、初回の授業の際に提示する。

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	制度改正の背景、各報酬に関連する統計調査結果との関係等を理解し、政策調査の活用とシミュレーションを実践する。シミュレーションの結果をプレゼンテーションし、今後の動向予測について意見交換する。	政策調査の活用とシミュレーションに関する演習、プレゼンテーション及び意見交換	福泉	配付資料、参考書、文献の精読及び関連分野の調査

2023年度

保健医療特論演習Ⅱ (Practice II of Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

厚生労働統計のうち、保健衛生分野（医療施設調査、病院報告、患者調査、受療行動調査、国民健康・栄養調査、衛生行政報告例、国民医療費、医師・歯科医師・薬剤師調査、歯科疾患実態調査、無歯科医地区等調査等）、人口・世帯分野（人口動態調査、生命表、国民生活基礎調査等）、社会福祉分野（福祉行政報告例、被保護者調査等）、老人保健福祉分野（介護サービス施設・事業所調査、介護保険事業状況報告等）、社会保障分野（所得再配分調査等）の各領域について、最新の動向を把握し、政策研究への活用とシミュレーションを行うための研究手法を習得する。また、学校保健統計等についても、同様の手法で学習する。

学生の到達目標

1. 厚生労働統計等の特徴を説明できる。
2. 厚生労働統計の各領域の概要等を説明できる。
3. 各統計の政策研究への活用とシミュレーションを実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
厚生労働統計一覧 http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/		
政府統計の総合窓口 (e-Stat) https://www.e-stat.go.jp/		

参考書

タイトル	著者	出版社
国民衛生の動向	厚生労働統計協会	
保険と年金の動向	厚生労働統計協会	
国民の福祉と介護の動向	厚生労働統計協会	

成績評価方法・基準

評価項目	割合
シミュレーションの成果	35%
プレゼンテーション能力	35%
質疑応答能力	30%

本科目は、毎年実施内容が異なるため、8単位まで取得可能である。本科目は、遠隔講義による受講が可能である。各評価項目については、ルーブリック評価表によって評価する。ルーブリック評価表は、初回の授業の際に提示する。

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	厚生労働統計の各領域の結果の動向を把握し、政策研究の活用とシミュレーションを実践する。シミュレーションの結果をプレゼンテーションし、今後の動向予測について意見交換する。	厚生労働統計の政策研究への活用とシミュレーションに関する演習、プレゼンテーション及び意見交換	福泉	配付資料、参考書、文献の精読及び関連分野の調査

2023年度

保健医療特論講究 (Colloquium of Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

歯科保健医療に関連する最新の研究動向を理解するために、文献を詳読する。また、各自の研究の進捗状況をプレゼンテーションし、今後の研究の展開について意見交換する。

学生の到達目標

1. 文献を詳読することで、批判的思考力を習得できる。
2. 当該研究の背景及び研究手法を理解できる。
3. 自身の研究結果を他者に正確に説明することができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
紹介する論文、関連文献及び参考図書は、各自必要なものを選別する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
文献の理解度	35%
プレゼンテーション能力	35%
質疑応答能力	30%

本科目は、毎年実施内容が異なるため、8単位まで取得可能である。本科目は、遠隔講義による受講が可能である。各評価項目については、ルーブリック評価表によって評価する。ルーブリック評価表は、初回の授業の際に提示する。

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	研究の背景、研究手法、研究結果及び関連分野の研究の今後の動向を理解する。研究の進捗状況をプレゼンテーションし、今後の研究の展開について意見交換する。	文献紹介及び討論、プレゼンテーション及び意見交換	福泉	文献の詳読及び関連分野の調査

2023年度

プライマリ・ケアⅠ（ベーシックコース）（Primary Dental CareⅠ (Clinical Basic Course)）

開講年次	1年	期区分	通年	必修/選択	臨床主科目	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈, 村岡 宏祐, 守下 昌輝						

授業の概要

全人的歯科医療を習得するための、プライマリ・ケアを臨床の現場で実践する。

学生の到達目標

- 1) 患者中心の歯科医療を実施するための医療面接を実践する。
- 2) 医療安全・感染予防対策を実践する。
- 3) EBMに基づいた総合治療計画を立案する。
- 4) EBMに基づいた歯科疾患の予防・治療・管理を実践する。
- 5) 歯科医師の社会的役割を果たすために必要な医療管理を実践する。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
新臨床研修歯科医ハンドブック	栗野秀慈 他	医歯薬出版
EBMの正しい理解と実践 Q&A	能登 洋	羊土社
全科実例による 社会保険歯科診療 平成29年4月版		医歯薬出版
必要に応じたその他参考書		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実地ならびにレポートなどで総合評価する。	100%

その他

2023年度

プライマリ・ケアⅠ（ベーシックコース）（Primary Dental CareⅠ (Clinical Basic Course)）

開講年次	1年	期区分	通年	必修/選択	臨床主科目	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈, 村岡 宏祐, 守下 昌輝						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
44200	オリエンテーションプライマリ・ケアについて理解する。診療室のシステム、感染予防対策、電子カルテシステムについて学ぶ。	講義・実習	栗野守下村岡	事後レポートの提出
44322	保険診療の概要 日常の歯科診療で必要となる基本的な保険診療の流れについて学び実践する。	講義・実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習事後レポートの提出
44385	診療に必要な患者記録の概要 口腔内写真の撮影方法、デジタルX線撮影の撮影方法ならびに歯科診療に必要な検査の方法・記録方法について学び実践する。	実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習事後レポートの提出
44449	EBMの検索方法 日頃の診療活動で必要になるEBMの検索方法について学び実践する。	実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習事後レポートの提出
44512	医療安全 様々な医療事故を予防する対策とトラブルが起きた時の対応について学び実践する。	実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習事後レポートの提出
13-16	医療面接ならびに治療計画の立案 患者の医療面接ならびに診査・診断の後、EBMに基づく総合治療計画を立案する。	実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習事後レポートの提出
17-24	歯科疾患の治療（1）う蝕の診査、診断およびMIに基づいた治療法について学び実践する。	講義・実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習事後レポートの提出
25-32	歯科疾患の治療（2）歯周疾患の診査、診断および治療法について学び実践する。	講義・実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習事後レポートの提出
33-40	歯科疾患の治療（3）歯内療法に必要な診査、診断および治療法について学び実践する。	講義・実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習事後レポートの提出
41-44	歯科疾患の治療（4）基本的な抜歯ならびに小手術に必要な診査、診断および治療法について学び実践する。	講義・実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習事後レポートの提出
45-52	補綴治療の実際（1）歯冠修復ならびに欠損に対する固定式補綴修復処置に必要な診査、診断および治療法について学び実践する。	講義・実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習事後レポートの提出
53-60	補綴治療の実際（2）欠損に対する可撤式補綴修復処置に必要な診査、診断および治療法について学び実践する。	講義・実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習事後レポートの提出

2023年度

プライマリ・ケアII (アドバンスコース) (Primary Dental Care II (Clinical Advance Course))

開講年次	2～4年	期区分	通年	必修/選択	臨床主科目	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野秀慈						
担当教員	栗野 秀慈, 村岡 宏祐, 守下 昌輝, 邵 仁浩						

授業の概要

患者のQOLの向上につながるプライマリ・ケアを臨床の現場で実践し、専門的な臨床能力の向上を図る。

学生の到達目標

- あらゆる臨床の現場で医療安全・感染予防対策を実践する。
- 患者のライフステージに応じた総合治療計画を立案し、歯科疾患の予防・治療・管理を実践する。
- 専門家と連携し患者を中心としたチーム医療を実践する。
- 地域包括ケアを理解し、地域医療を実践する。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
新臨床研修歯科医ハンドブック	栗野秀慈 他	医歯薬出版
EBMの正しい理解と実践 Q&A	能登 洋	羊土社
全科実例による社会保険歯科診療		医歯薬出版
必要に応じてその他参考書を参照		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実地ならびにレポートなどで総合評価	100%

その他

2023年度

プライマリ・ケアII (アドバンスコース) (Primary Dental Care II (Clinical Advance Course))

開講年次	2～4年	期区分	通年	必修/選択	臨床主科目	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野秀慈						
担当教員	栗野 秀慈, 村岡 宏祐, 守下 昌輝, 邵 仁浩						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
44198	オリエンテーションプライマリ・ケアの専門性について学ぶ	講義	栗野	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
44259	ライフステージに応じたプライマリ・ケア(1) 母子・妊産婦・子育て期における患者の特性を理解しプライマリ・ケアを実践する。	実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
44322	ライフステージに応じたプライマリ・ケア(2) 学童・思春期における患者の特性を理解しプライマリ・ケアを実践する。	実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
44385	カリエスリスク評価の実際初期う蝕の診断(ICDAS)の方法、ならびに唾液や歯垢を用いたう蝕原性細菌の検出などのカリエスリスク検査の方法を学び、カリエスリスク評価に基づいたう蝕予防・治療・管理を実践する。	実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
44459	ライフステージに応じたプライマリ・ケア(3) 成人期における患者の特性を理解しプライマリ・ケアを実践する。	実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
21-22	歯周疾患のリスク評価の実際歯垢中の歯周病原性細菌の検査等による歯周疾患のリスク評価の方法を学び、リスク評価に基づいた歯周疾患の予防・治療・管理を実践する。	実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
23-28	歯周外科処置の実際歯肉剥離搔爬術などの基本的な歯周外科の術式を学び、プライマリ・ケアの中で実践する。	実習	守下村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
29-36	ライフステージに応じたプライマリ・ケア(4) 高齢期における患者の特性を理解しプライマリ・ケアを実践する。	実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
37-40	ドライマウス患者への対応の実際口臭症、舌痛症や味覚・嚥下障害など様々な口腔の症状に影響するドライマウスの診断・治療法を学び、プライマリ・ケアの中で実践する	実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
44-52	ライフステージに応じたプライマリ・ケア(5) 有病高齢者に対する地域包括ケアを学び、実際の現場でチーム医療ならびに地域医療におけるプライマリ・ケアを実践する。	実習	栗野守下村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
53-60	周術期口腔管理の実際周術期管理について学び、実際の現場でチーム医療ならびに周術期口腔管理を実践する。	実習	栗野 邵	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。

2023年度

プライマリ・ケアⅢ（症例検討）（Primary Dental Care III (Clinical Conference)）

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈, 村岡 宏祐, 守下 昌輝						

授業の概要

症例検討を通じてプライマリ・ケアに必要な実践的な臨床能力の向上を図る。

学生の到達目標

- 1) 患者情報に基づいて臨床問題を抽出する。
- 2) 最新のEBMに従い包括的治療計画を立案する。
- 3) 様々な専門分野の国際誌から最新の歯科治療の情報を収集する。
- 4) 症例発表のための資料を準備しプレゼンテーションを実施する。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
症例発表の評価	100%

その他

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
44211	プライマリ・ケアに基づく症例検討から最新の臨床情報を学ぶ	セミナー	栗野守下村岡	症例発表の準備

2023年度

歯科総合臨床教育研究学 1 (Educational Research of Comprehensive Clinical Dentistry I)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈, 村岡 宏祐, 守下 昌輝						

授業の概要

症例検討を通じてプライマリ・ケアに必要な実践的な臨床能力の向上を図る。

学生の到達目標

- 1) 患者情報に基づいて臨床問題を抽出する。
- 2) 最新のEBMに従い包括的治療計画を立案する。
- 3) 様々な専門分野の国際誌から最新の歯科治療の情報を収集する。
- 4) 症例発表のための資料を準備しプレゼンテーションを実施する。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
症例発表の評価	100%

その他

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
44211	プライマリ・ケアに基づく症例検討から最新の臨床情報を学ぶ	セミナー	栗野守下村岡	症例発表の準備

2023年度

歯科総合臨床教育研究学 2 (Educational Research of Comprehensive Clinical Dentistry II)

開講年次	3～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈, 村岡 宏祐, 守下 昌輝						
	村岡 宏祐						

授業の概要

自分の研究テーマに関連する専門分野の最新の知見を学びながら研究活動を実践し、最終的に研究成果をまとめて報告することによって研究を遂行するために必要な総合的な研究マネジメント能力を養成する。

学生の到達目標

- 1) 自分の研究内容に関連する最新の知見を含んだ英語論文の内容を理解し発表する。
- 2) 研究活動の経過をまとめて課題・問題点を抽出する。
- 3) 学会発表ならびに論文作成に必要な研究データの整理・分析を行う。
- 4) 学会発表に必要な発表用のスライドまたはポスターを作成する。
- 5) 国際学術誌に投稿するための英語論文を作成する。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容の評価	100%

その他

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
44211	研究報告ならびに関連する最新の英語論文の内容を発表する。	発表・討論	栗野守下村岡	事前に研究成果及び関連する参考文献の内容をまとめる。

2023年度

総合診療学 1 (ベーシックコース) (Comprehensive dentistry I (Basic course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目/副科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

授業の概要

患者に安心安全な全人的歯科治療を行うために学部教育や臨床研修等で習得してきた知識・技能・態度を振り返り、見直すとともにそれらの集大成として、臨床の場で実践し、習熟する。
なお歯科治療技能については歯学教育モデル・コア・カリキュラム (令和4年度改訂版) 「E 診察・診断と治療技能」の「I a. 患者への診療として自験する課題」をはじめ「I b. 患者への診療として自験が期待されるが、困難な場合はシミュレーション等で補完できる課題」および「II. 経験が望まれる重要な課題」について振り返りと実践を行う。

学生の到達目標

1. 全人的歯科医療を行うための知識、技能および態度を修得できる。
2. プライマリケアを行うための知識および技能を修得できる。
3. 総合診療計画の立案ができる。
4. チーム医療の意識を高める。

テキスト

タイトル	著者	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

参考書

タイトル	著者	出版社
必修 臨床研修歯科医ハンドブック		医歯薬出版
患者ニーズにマッチした歯科医療面接の実際	[編著] 伊藤孝訓、寺中敏夫	クインテッセンス出版
歯科医療面接 アートとサイエンス 第3版	[編著] 伊藤孝訓	砂書房
その他の参考書を読む。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート提出・症例発表等	100%

レポート提出 (5例)、症例発表 (2例) 初期治療5例、保存修復治療5例をミニマムリクワイアメントとする。各回で設定されている自験症例数が不足している場合次年度に再履修し充足することができる。

その他

【オフィスアワー (学習相談)】: 相談は随時受け付け可能であるが、事前に、時間予約をメールまたは電話にて行うこと。
科目責任者: 木尾哲朗 メールまたは内線: 7911

2023年度

総合診療学 1 (ベーシックコース) (Comprehensive dentistry I (Basic course))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目/副科目(臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション ・年間予定について理解する。	講義	木尾	-
2~3	印象採得概説 ・印象採得から研究用模型作製までの必要な知識を身につける。	講義・実習	木尾 永松 鬼塚	印象採得の分類
4~7	印象採得 ・目的にあわせた印象採得の方法を実践から学ぶ。 ・研究用模型のための印象採得法について学ぶ。 ・保存修復のための印象採得法について学ぶ。 ・欠損補綴のための印象採得法について学ぶ。 ・矯正治療のための印象採得法について学ぶ。【自験症例数：3~5症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	個人トレー・個 歯トレー辺縁封 鎖連合印象採得
8	印象採得 ・光学スキャナを用いたデジタル印象採得について学ぶ。 ・デジタル印象採得の利点と限界について学ぶ。 ・光学スキャナの使用法を修得する。 ・光学印象採得後のデータ処理、修復物・補綴装置製作について学ぶ。【自験症例数：1~3症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	光学スキャナデ ジタル印象採得 デジタルワーク フロー CAD/CAM
9~14	研究用模型作製 ・スタディモデルの作製方法を実践から学ぶ。 ・作製した模型を用いて歯列・咬合などを評価する。 【自験症例数：3~5症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	研究用模型
15~22	診療資料の収集(写真撮影等) 1.口腔内写真・口腔内写真の撮影の仕方を実践から学ぶ。 ・リングストロボ・デジタルカメラの取り扱いを学ぶ。 ・撮影された口腔内写真データの取り扱いについて学ぶ。 ・医療情報システム(電子カルテ)へのデータ登録(保存)法を学ぶ。 【自験症例数：5~10症例】 2.歯周病検査・歯周病検査について学ぶ。 ・検査結果を解釈し歯周病の病態を理解する。【自験症例数：5~10症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	口腔内写真歯周 組織検査
23~24	他科経由患者の解釈(エックス線CT検査・血液検査等)と検査依頼方法 1.検査依頼 ・血液 ・病理 ・細菌 ・真菌 等の検査依頼の文書(伝票)の書き方 ・医療情報システムからの発行法を学び、実践で臨床検査室に依頼する。 ・臨床検査値を解釈し病態を学ぶ。 【自験症例数：1~3症例】 2.エックス線撮影 ・パノラマエックス線検査 ・CT検査 ・MRI検査 等の撮影依頼の文書(伝票)の書き方 ・医療情報システムからの発行法を学び、実践で歯科放射線科に依頼する。 ・パノラマエックス線検査 ・CT検査 ・MRI検査 等の読影法を学ぶ。 ・パノラマエックス線検査 ・CT検査 ・MRI検査 等の歯科放射線科の読影レポートを参考に診断を行う。 【自験症例数：5~10症例】	講義・実習	木尾 永松 鬼塚	パノラマ CTMRI臨床検査
25~29	医療面接1 ・初診時医療面接について、模擬患者と実践をふまえながら学ぶ。 ・良好な患者-医療者関係を構築する。 ・傾聴や共感等のコミュニケーションスキルを実践する。 【自験症例数：5~10症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	コミュニケーション スキル

2023年度

総合診療学 1 (ベーシックコース) (Comprehensive dentistry I (Basic course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目/副科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
30～34	医療面接2 ・患者に寄り添う医療面接の方法について実践をふまえながら学ぶ。 ・診断を念頭に置いた推理推論について学ぶ。【自験症例数：5～10症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	推理推論ナラティブ
35～37	診療システムと診療姿勢 ・治療計画と診療マネジメントについて学ぶ。 ・ミラーテクニックとPd(固有感覚の自覚による姿勢)について学ぶ。	講義・実習	木尾 永松 鬼塚	ミラーテクニック Pd
38～41	歯内治療 ・歯の解剖学的形態からみる歯内治療の基本手技について実践を踏まえながら学ぶ。 【自験症例数：2～5症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	歯の解剖歯内治療ミラーテクニック
42～45	歯周基本治療歯周基本治療について一連の流れで実践をふまえながら学ぶ。保険診療のルールを学ぶ。【自験症例数：2～5症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	歯周基本治療保険診療
46～49	歯の硬組織疾患治療う蝕治療について実践をふまえながら学ぶ。MIの概念と実施について学ぶ。【自験症例数：2～5症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	MI
50～54	歯科矯正処置歯科矯正処置について、実際例を見学しながら学ぶ。MTMについて学ぶ。【自験症例数：1～3症例】	実習	木尾	タイポドント MTM
55～57	プレゼンテーション資料の作成口腔内写真のトリミングの仕方を学ぶ。診療情報システムから画像や検査結果の取得法について学び、実践する。【自験症例数：2～5症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	トリミングデジタル画像の取り扱い
58～60	症例発表準備と発表症例発表用のプレゼンテーションファイルの作成について学び、症例発表を行う。【自験症例数：2～5症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	プレゼンテーション

2023年度

総合診療学 2 (アドバンスコース) (Comprehensive dentistry II (advanced course))

開講年次	2～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目/副科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

授業の概要

患者に安心安全な全人的歯科治療を行うために学部教育や臨床研修等で習得してきた知識・技能・態度を振り返り、見直すとともにそれらの集大成として、臨床の場で実践し、習熟する。
なお歯科治療技能については歯学教育モデル・コア・カリキュラム (令和4年度改訂版) 「E 診察・診断と治療技能」の「I a. 患者への診療として自験する課題」をはじめ「I b. 患者への診療として自験が期待されるが、困難な場合はシミュレーション等で補完できる課題」および「II. 経験が望まれる重要な課題」について振り返りと実践を行う。

学生の到達目標

1. 全人的歯科医療を行うための知識、技能および態度を修得できる。
2. プライマリケアを実施できる。
3. 総合診療計画を実施できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

参考書

タイトル	著者	出版社
必修 臨床研修歯科医ハンドブック		医歯薬出版
患者ニーズにマッチした歯科医療面接の実際	[編著] 伊藤孝訓、寺中敏夫	クインテッセンス出版
その他の参考書を読む		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート提出・症例発表等	100%

レポート提出 (5例)、症例発表 (2例) 初期治療5例、保存修復治療5例をミニマムリクワイアメントとする。各回における自験症例数が不足する場合次年度に再履修し充足することができる。

その他

【オフィスアワー (学習相談)】 : 相談は随時受け付け可能であるが、事前に、時間予約をメールまたは電話にて行うこと。

2023年度

総合診療学 2 (アドバンスコース) (Comprehensive dentistry II (advanced course))

開講年次	2~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目/副科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1~4	オリエンテーション・医療面接1 ・年間スケジュールについて把握する。 ・ベーシックコースの復習をする。 ・良好な患者-医療者関係を構築する。 【自験症例数：2~5症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	歯科医療に求められる患者-医療者関係とは
5~8	医療面接2 ・対応が難しい患者の医療面接を行う。【自験症例数：2~5症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	-
9~12	歯周治療 ・歯周基本治療の継続を行う。 【自験症例数：5~10症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	歯周基本治療 保険診療
13~17	歯内治療 ・難症例について検討を行い、難しい原因、拡大視野下での治療対応について学ぶ。 【自験症例数：1~3症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	マイクロスコープ
18~21	歯の硬組織疾患治療 ・MIの概念と実施 ・審美歯科修復治療について学ぶ。 【自験症例数：5~10症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	MI
22~26	歯冠修復治療 ・単冠について形成~印象~鋳造~セットまで実践から学ぶ。 【自験症例数：2~5症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	・単冠修復に求められる要件 ・臨床技工
27~31	欠損に対する固定式補綴修復 ・ブリッジについて形成~印象~セットまで実践から学ぶ。 ・インプラント治療の概念を学ぶ。 【自験症例数：1~3症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	・ブリッジ補綴に求められる要件
32~36	欠損に対する可撤式補綴修復 ・パーシャルデンチャーの診断・設計について模型から学ぶ。 【自験症例数：1~3症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	リジットサポート
37~40	歯科矯正処置 ・症例を通じて歯科矯正処置について学ぶ。【自験症例数：1~3症例】	実習	木尾	・歯科矯正の基本術式 ・MTMの適応症
41~44	チーム診療 ・多職種連携について実践を交えながら学ぶ。 【自験症例数：2~5症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	・多職種連携 ・病診連携 ・医科歯科連携 ・医療・介護・福祉職の種類と業務
45~46	解釈モデル ・難症例への対応 ・LEARNの法則を実践する。 【自験症例数：1~3症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	・LEARNのアプローチ
47~48	咬合育成 ・矯正治療が必要かどうかについて症例検討を行う。 【自験症例数：1~3症例】	実習	木尾	・咬合育成
41~44	感染対策 ・スタンダード・プリコーションについて学ぶ。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止について最新の知見を学び実践する。【自験症例数：1~3症例】	講習会・講義・実習	木尾 永松 鬼塚	・スタンダード・プリコーション ・新型コロナウイルス感染症

2023年度

総合診療学 2 (アドバンスコース) (Comprehensive dentistry II (advanced course))

開講年次	2~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目/副科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
51~52	医療安全 ・インシデントレポートから、安心安全な歯科治療を実施するために必要な手順 ・対応策を理解する。 ・臨床現場におけるシステム構築を実践する。 【自験症例数：1~3症例】	講習会・講義・実習	木尾 永松 鬼塚	インシデント
53~57	包括診療 ・保存補綴処置について一口腔単位で計画を立て、実践する。【自験症例数：1~3症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	包括診療
58~60	症例発表準備と発表 ・プレゼンテーション用ファイルを作成し発表準備を行い、発表する。 【自験症例数：1~3症例】	実習	木尾 永松 鬼塚	プレゼンテーションソフトの基本・応用操作

2023年度

歯科医学教育研究学 1 (Research of the dental education I)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

授業の概要

患者に安心安全な全人的歯科治療を行うために学部教育や臨床研修等で習得してきた知識・技能・態度を振り返り、見直すとともにそれらを基に、コミュニケーション技法と歯学教育技法を理解し実践する。

学生の到達目標

1. コミュニケーション技法を理解できる。
2. 歯学教育技法を理解できる。
3. コミュニケーション技法を実践できる。
4. 歯学教育技法を実践できる。
5. 歯科医師・歯科医学教育者としてのプロフェッショナリズムを涵養する。

テキスト

タイトル	著者	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

参考書

タイトル	著者	出版社
医療コミュニケーション分析の方法【第2版】	野呂幾久子、阿部恵子、石川ひろの	三恵社
福祉・心理・看護のテキストマイニング入門	藤井美和、小杉考司、李政元	中央法規
リサーチ・クエスチョンの作り方	福原俊一	健康医療評価研究機構
ナラティブ デンタルコミュニケーション	石川明	クインテッセンス出版株式会社
その他教育技法文献および関連した文献、参考書を読む。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	30%
口頭試問	50%
単位認定試験	20%

その他

【オフィスアワー(学習相談)】：相談は随時受け付け可能であるが、事前に、時間予約をメールまたは電話にて行うこと。
科目責任者：木尾哲朗 メールまたは内線：7911

2023年度

歯科医学教育研究学 1 (Research of the dental education I)

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション ・1年間のスケジュールについて理解する。 ・歯科医学におけるコミュニケーション技法と教育技法の必要性を学ぶ。	講義	木尾	コミュニケーション技法教育技法
2	コミュニケーションスキル1 (傾聴、共感技法、異文化) ・コミュニケーションに必要なスキル (特に傾聴・共感技法) について学ぶ。 ・異文化コミュニケーションを理解することで、医療コミュニケーションの本質を学ぶ	講義	木尾 永松	コミュニケーション技法異文化コミュニケーション
3	コミュニケーション技法の研究 (エスノメソドロジー、社会言語学、機能的アプローチ、ナラティブ分析、カウンセリング理論) ・コミュニケーション技法の分類とその特徴を学ぶ。	講義	木尾 鬼塚	エスノメソドロジーナラティブコミュニケーション技法の分類と特徴
4~5	コミュニケーションスキル2 ・医療面接における良好な患者-医療者間関係を構築するためにロールプレイによる演習を通して習熟し自動化されるまでコミュニケーションについて必要な技法を学ぶ。	演習	木尾 永松 鬼塚	コミュニケーション技法コンピテンシー
6~7	会話分析 (量的分析) ・言語的コミュニケーション評価方法であるRIASを用いて発話を分析する。 ・非言語的コミュニケーション評価方法について学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	スクリプトRIAS
8~9	会話分析 (質的分析) ・談話分析の方法について学ぶ。 ・テキストマイニング、内省法による解析法を学ぶ。 ・グランデッドセオリー、SCATによる分析法を学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	テキストマイニンググランデッドセオリーコンピテンシ
10	歯学教育グローバルスタンダード ・ヨーロッパ、アメリカ、東南アジアなど海外の歯学教育について学ぶ。	講義	木尾	グローバルスタンダードアウトカム基盤型医学教育
11	Problem Based Learning ・PBL (問題解決型授業) についてその有用性と実施法を学ぶ。	講義	木尾	PBL
12~13	医療面接 ・医療面接の演習を行い、難症例・対応困難症例の対応方法について学ぶ。	演習	木尾 永松 鬼塚	難症例とは
14	シミュレーション教育1 (概論・自動軌跡追尾・切削圧) ・シミュレーターを用いた研究について概要を学ぶ。 ・本学に導入されているシミュレーターを用いて、基本的な操作法を習得し、教育への活用法について学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	シミュレーション医学教育
15	口頭試問	試験	木尾 永松 鬼塚	確認試験

2023年度

歯科医学教育研究学 2 (Research of the dental education II)

開講年次	2～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵、安永愛 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

授業の概要

患者に安心安全な全人的歯科治療を行うために学部教育や臨床研修等で習得してきた知識・技能・態度を振り返り見直すとともにそれらを基に、コミュニケーション技法と歯学教育技法を理解し実践する。

学生の到達目標

1. コミュニケーション技法を理解できる。
2. 歯学教育技法を理解できる。
3. コミュニケーション技法を実践できる。
4. 歯学教育技法を実践できる。
5. 歯科医師・歯科医学教育者としてのプロフェッショナリズムを涵養する。

テキスト

タイトル	著者	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

参考書

タイトル	著者	出版社
実践！クリティカル・シンキングのすすめ	八重垣健	クインテッセンス出版株式会社
医療プロフェッショナリズムを測定する	天野隆弘	慶應義塾大学医学部医学教育統括センター
医療コミュニケーション 実証研究への多面的アプローチ	藤崎和彦、橋本英樹	篠原出版社
2013 年度版 よき歯科医師になるための20の質問 倫理的検討事例集	日本歯科医学教育学会	倫理・プロフェッショナリズム教育委員会
その他教育技法文献および関連した文献、参考書を読む。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	30%
口頭試問	50%
単位認定試験	20%

その他

【オフィスアワー(学習相談)】：相談は随時受け付け可能であるが、事前に、時間予約をメールまたは電話にて行うこと。
科目責任者：木尾哲朗 メールまたは内線：7911

2023年度

歯科医学教育研究学 2 (Research of the dental education II)

開講年次	2~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵、安永愛 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1~5	シミュレーション教育2 (窩洞と支台歯形成・根管長測定) ・シミュレーターを用いた応用的な研究方法について学ぶ。 ・本学に導入されているシミュレーターの操作に習熟し、教育への活用法について学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	鹿医学教育におけるシミュレーションシミュレーターの操作法
6~7	マイクロティーチング (教育技法) ・マイクロティーチングの方法について学ぶ。 ・講義・説明・プレゼンテーションのスキルアップを図る。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	マイクロティーチングの特徴
8~9	医療行動学 ・医療分野における人間の行動を科学的に研究し、その法則性を解明する。 ・医療行動について事例集を参考に学ぶ。	講義	木尾 鬼塚	行動科学
10~11	医療倫理 ・医療におけるプロフェッショナリズムを学ぶ。 ・医療倫理について事例集を参考に学ぶ。	講義	木尾 永松 鬼塚	プロフェッショナリズム
12~13	KJ法 ・KJ法を用いて意見の抽出と集約について学ぶ。 ・テーマについてKJ法を実践し習熟を図る。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	KJ法の特徴と欠点
14	ファシリテーションスキル ・ファシリテーターの役割について学ぶ。 ・効果的なフィードバック法について学ぶ。 ・成人学習理論を用い行動変容について学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	ファシリテーション行動変容フィードバック
15	口頭試問	試験	木尾 永松 鬼塚	

2023年度

歯科医学教育研究学 3 (Research of the dental education III)

開講年次	3~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵、安永愛 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

授業の概要

患者に安心安全な全人的歯科治療を行うために学部教育や臨床研修等で習得してきた知識・技能・態度を振り返り、見直すとともにそれらを基に、コミュニケーション技法と歯学教育技法を理解し実践する。

学生の到達目標

1. コミュニケーション技法を理解できる。
2. 歯学教育技法を理解できる。
3. コミュニケーション技法を実践できる。
4. 歯学教育技法を実践できる。
5. 歯科医師・歯科医学教育者としてのプロフェッショナリズムを涵養する。

テキスト

タイトル	著者	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

参考書

タイトル	著者	出版社
歯科医院のクレーム対応術	関根真一	日本歯科新聞社
心理学マニュアル 質問紙法	鎌原雅彦、宮下一博、多野木裕明、中澤潤	北大路書房
その他教育技法文献および関連した文献、参考書を読む。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	30%
口頭試問	50%
単位認定試験	20%

その他

【オフィスアワー(学習相談)】：相談は随時受け付け可能であるが、事前に、時間予約をメールまたは電話にて行うこと。
科目責任者：木尾哲朗 メールまたは内線：7911

2023年度

歯科医学教育研究学 3 (Research of the dental education III)

開講年次	3~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵、安永愛 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1~2	コーチング ・コーチングの方法について学ぶ。 ・アサーションスキルを用い相手に受け入れてもらいやすい伝え方を学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	コーチング理論 アサーション
3~4	質問紙法 ・Y-G性格検査などの質問紙法の特徴と利点について学ぶ。 ・質問紙の作成方法について学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	質問紙法の特徴 と利点
5~7	歯科心身症 ・歯科心身症の行動特性について学ぶ。	講義	木尾	行動特性 歯科心身症
8	患者心理学 ・患者心理を理解するための基本的な視点について学ぶ。 ・患者心理を理解することで援助への手掛かりを学ぶ。	講義	木尾	認知心理学
9	クレイマーへの対応 ・医療現場でのクレイマーの心理を学ぶ。 ・クレイマーへの対応方法について学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	クレイマー 認知心理学
10~11	模擬患者 (SP) 養成法 ・SPの概要と必要性を学ぶ。SPの養成方法について学ぶ。	講義	木尾 永松 鬼塚	模擬患者 ファシリテーシ ョン
12~13	医療安全デザイン ・インシデントの概念について学ぶ。 ・感染防止対策について学ぶ。 ・医療安全について学ぶ。	講義	鬼塚	安全管理 インシデント
14	プロフェッショナリズム ・プロフェッショナリズムについて概要と歴史を学ぶ。 ・欧米および日本におけるプロフェッショナリズム教育の位置づけについて学ぶ。	講義	木尾	プロフェッショ ナリズム
15	口頭試問	試験	木尾 永松 鬼塚	

2023年度

総合診療学教育研究 1 (Education and research of the general dentistry 1)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

授業の概要

総合診療学関係の研究動向を理解するために、文献を抄読する。各自の研究内容についての報告会、ディスカッション等を行う。

学生の到達目標

1. 専門領域の論文を説明できる。(認知)
2. 他分野の研究を理解し、評価、討論できる。(認知・情意)
3. 英語を主体とする研究論文を読む能力を高める。(精神運動)
4. 研究に関するディスカッション能力を高める。(精神運動)
5. 自分の研究を発表できる。(精神運動)

テキスト

タイトル	著者	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

参考書

タイトル	著者	出版社
重要な関連文献の抄読は必須。関連文献の選択、参考書は各自必要なものを選別する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	100%

評価は研究発表、討論会発表についてルーブリック評価表を用いて行う。

その他

【オフィスアワー(学習相談)】: 相談は随時受け付け可能であるが、事前に、時間予約をメールまたは電話にて行うこと。
科目責任者: 木尾哲朗 メールまたは内線: 7911

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1~15	和英論文を用いて最新の文献の内容、および関連分野の研究の動向を理解する。 【和英論文1編ずつ以上の抄録を提出】	輪読 文献抄読および討論	木尾 永松 鬼塚	文献抄録および 関連文献の調査

2023年度

総合診療学教育研究 2 (Education and research of the general dentistry II)

開講年次	2～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

授業の概要

総合診療学関係の研究動向を理解するために、文献を抄読する。各自の研究内容についての報告会、ディスカッション等を行う。

学生の到達目標

1. 専門領域の論文を説明できる。(認知)
2. 他分野の研究を理解し、評価、討論できる。(認知・情意)
3. 英語を主体とする研究論文を読む能力を高める。(精神運動)
4. 研究に関するディスカッション能力を高める。(精神運動)
5. 自分の研究を発表できる。(精神運動)
6. 研究報告、抄録を書くことができる(日本語および英語)。(精神運動)
7. 大学院ゼミでの内容を立案し、運営できる。(精神運動)

テキスト

タイトル	著者	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

参考書

タイトル	著者	出版社
重要な関連文献の抄読は必須。関連文献の選択、参考書は各自必要なものを選別する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	100%

評価は研究発表、討論会発表についてルーブリック評価表を用いて行う。

その他

【オフィスアワー(学習相談)】: 相談は随時受け付け可能であるが、事前に、時間予約をメールまたは電話にて行うこと。
科目責任者: 木尾哲朗 メールまたは内線: 7911

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1~15	和英論文を用いて最新の文献の内容、および関連分野の研究の動向を理解する。 【和英論文1編ずつ以上の抄録を提出】	輪読 文献抄読および討論	木尾 永松 鬼塚	文献抄録および 関連文献の調査

2023年度

総合診療学教育研究3 (Education and research of the general dentistry III)

開講年次	3～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗, 永松 浩, 鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵						

授業の概要

総合診療学関係の研究動向を理解するために、文献を抄読する。各自の研究内容についての報告会、ディスカッション等を行う。

学生の到達目標

1. 専門領域の論文を説明できる。(認知)
2. 他分野の研究を理解し、評価、討論できる。(認知・情意)
3. 英語を主体とする研究論文を読む能力を高める。(精神運動)
4. 研究に関するディスカッション能力を高める。(精神運動)
5. 自分の研究を発表できる。(精神運動)
6. 研究報告、抄録を書くことができる(日本語および英語)。(精神運動)
7. 大学院ゼミでの内容を立案し、運営できる。(精神運動)
8. 論文が書くことができる。(精神運動)
9. ゼミ内容に関して指導できる。(情意・精神運動)

テキスト

タイトル	著者	出版社
必要に応じて資料を配付する。		

参考書

タイトル	著者	出版社
重要な関連文献の抄読は必須。関連文献の選択、参考書は各自必要なものを選別する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	100%

評価は研究発表、討論会発表についてルーブリック評価表を用いて行う。

その他

【オフィスアワー(学習相談)】: 相談は随時受け付け可能であるが、事前に、時間予約をメールまたは電話にて行うこと。
科目責任者: 木尾哲朗 メールまたは内線: 7911

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1~15	和英論文を用いて最新の文献の内容、および関連分野の研究の動向を理解する。 【和英論文1編ずつ以上の抄録を提出】	輪読 文献抄読および討論	木尾 永松 鬼塚	文献抄録および 関連文献の調査

2023年度

口腔保存治療学Ⅰ（臨床ベーシックコース） （Endodontics and Restorative DentistryⅠ (Clinical Basic Course)）

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
	鷲尾 絢子, 折本 愛, 相原 良亮, 村田 一将						
担当教員	北村 知昭 鷲尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将 （日本歯科保存学会指導医）：北村 知昭、鷲尾 絢子 （日本歯内療法学会指導医）：北村 知昭 （日本歯科保存学会専門医）：北村 知昭、鷲尾 絢子 （日本歯科保存学会認定医）：折本 愛						

授業の概要

歯の重要性が認識され高齢者も多くの歯を有している現代では、精度の高い歯の治療（保存修復治療、歯内治療、補綴治療）を実施する能力が求められている。本科目では歯の治療に関する基本能力の実習を行う。指導歯科医師の管理下でマネキンを用いた実習および臨床実習を実施し、保存治療認定医・専門医資格取得に必要な知識・技術基盤を養成する。

学生の到達目標

【一般目標】 歯の治療に必要な基本能力を修得するため、マネキンを用いた実習および臨床実習を実施し基本的知識・技術を修得し、実践できる。【到達目標】 ・ 自立して患者対応・病院スタッフ対応できる。 ・ 評価（１）および評価（２）に合格する。 ・ 症例収集に必要な口腔内写真撮影、エックス線写真撮影等をする。＜基本治療能力の例＞a. 保存修復治療、歯内治療、補綴治療b. 歯周基本治療と粘膜切開・縫合技術

テキスト

タイトル	著者	出版社
保存修復学第7版	千田彰 他編	医歯薬出版
保存修復学2 1 第6版	田上順次 他編	永末書店
歯内治療学第5版	勝海一郎 他編	医歯薬出版
エンドドンティックス第6版	興地隆史 他編	永末書店
マイクロエンドをはじめよう 超入門テキスト	北村知昭 他編	医歯薬出版
非歯原性疼痛へのアプローチ	北村知昭 他編	医歯薬出版

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
評価（１）、（２）の平均点	50%
ルーブリック評価	50%

成績評価は、評価（１）・（２）の平均点（50%）およびルーブリック評価（50%）に基づいて評価する。ルーブリック評価表は初回講義時に学生に配布する。

その他

相談は授業時間外でも随時受け付け可能。また、相談時間予約にメールを利用可能。

2023年度

口腔保存治療学Ⅰ（臨床ベーシックコース） （Endodontics and Restorative DentistryⅠ (Clinical Basic Course)）

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	鷺尾 絢子, 折本 愛, 相原 良亮, 村田 一将 北村 知昭 鷺尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将 （日本歯科保存学会指導医）：北村 知昭、鷺尾 絢子 （日本歯内療法学会指導医）：北村 知昭 （日本歯科保存学会専門医）：北村 知昭、鷺尾 絢子 （日本歯科保存学会認定医）：折本 愛						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～3	歯内治療Ⅰ 臨床能力評価（歯内治療）に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 歯内治療について予習。 【事後学修課題】 歯内治療について復習。
4～6	保存修復治療Ⅰ 臨床能力評価（保存修復治療）に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 保存修復治療について予習。 【事後学修課題】 保存修復治療について復習。
7～9	補綴治療Ⅰ 臨床能力評価（補綴治療）に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 補綴治療について予習。 【事後学修課題】 補綴治療について復習。
10～12	評価（1） 臨床能力評価を行う。評価合格をもって臨床を開始する。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 歯内治療、保存修復治療、補綴治療について予習。 【事後学修課題】 歯内治療、保存修復治療、補綴治療について復習。
13～15	歯内治療Ⅱ 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療（歯内治療）を行う。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 歯内治療について予習。 【事後学修課題】 歯内治療について復習。
16～18	保存修復治療Ⅱ 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療（保存修復治療）を行う。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 保存修復治療について予習。 【事後学修課題】 保存修復治療について復習。
19～21	補綴治療Ⅱ 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療（補綴治療）を行う。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 補綴治療について予習。 【事後学修課題】 補綴治療について復習。
22～24	歯周治療 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療（歯周治療）を行う。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 歯周治療について予習。 【事後学修課題】 歯周治療について復習。

2023年度

口腔保存治療学Ⅰ（臨床ベーシックコース） （Endodontics and Restorative DentistryⅠ (Clinical Basic Course)）

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	鷺尾 絢子, 折本 愛, 相原 良亮, 村田 一将 北村 知昭 鷺尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将 （日本歯科保存学会指導医）：北村 知昭、鷺尾 絢子 （日本歯内療法学会指導医）：北村 知昭 （日本歯科保存学会専門医）：北村 知昭、鷺尾 絢子 （日本歯科保存学会認定医）：折本 愛						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
25～27	評価（2） 臨床能力評価を行う。評価合格をもって専門の実習を開始する。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 歯内治療、保存修復治療、歯周治療、補綴治療について予習。 【事後学修課題】 歯内治療、保存修復治療、歯周治療、補綴治療について復習。
28～30	外科技術基本 基本的な粘膜切開・縫合に関するシミュレーション実習を行う。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 口腔外科小手術について予習。 【事後学修課題】 口腔外科小手術について復習。

2023年度

口腔保存治療学Ⅱ（臨床アドバンスコース S）（Endodontics and Restorative Dentistry II (Clinical Advance Course S)）

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭 鷺尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将 （日本歯科保存学会指導医）：北村 知昭、鷺尾 絢子 （日本歯内療法学会指導医）：北村 知昭 （日本歯科保存学会専門医）：北村 知昭、鷺尾 絢子 （日本歯科保存学会認定医）：折本 愛						

授業の概要

本科目では、臨床ベーシックコースで修得した能力を基盤として認定医・専門医資格取得に必要な症例収集を行う。また高精度な歯の治療に必須であるマイクロスコープ等の器機を用いた臨床能力を修得するため、シミュレーション実習を実施し到達度を評価することにより、保存治療専門医資格を取得するための知識・技術を養成する。

学生の到達目標

【一般目標】 高精度な歯の治療に必要な能力を修得するため、実習を実施し認定医・専門医資格取得のための知識・技術を修得し、実践できる。【到達目標】 ・ 評価(3)に合格する。 ・ 各種審美治療法を修得し、実践できる。 ・ 治療計画を立案・実施できる。＜専門治療技術の例＞ マイクロスコープ下の保存治療、外科的歯内治療、関連分野（歯周基本治療等）

テキスト

タイトル	著者	出版社
保存修復学第7版	千田彰 他編	医歯薬出版
保存修復学21第5版	田上順次 他編	永末書店
歯内治療学第5版	勝海一郎 他編	医歯薬出版
エンドンティックス第6版	興地隆史 他編	永末書店
マイクロエンドをはじめよう 超入門テキスト	北村知昭 編	医歯薬出版
非歯原性疼痛へのアプローチ	北村知昭 他編	医歯薬出版

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
評価（3）	50%
ルーブリック評価	50%

成績評価は、評価（3）（50%）およびルーブリック評価（50%）に基づいて評価する。
ルーブリック評価表は初回講義時に学生に配布する。

その他

相談は授業時間外でも随時受け付け可能。また、相談時間予約にメールを利用可能。

2023年度

口腔保存治療学 II (臨床アドバンスコース S) (Endodontics and Restorative Dentistry II (Clinical Advance Course S))

開講年次	1~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床)	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	鷺尾 絢子, 折本 愛, 相原 良亮, 村田 一将 北村 知昭 鷺尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将 (日本歯科保存学会指導医): 北村 知昭, 鷺尾 絢子 (日本歯内療法学会指導医): 北村 知昭 (日本歯科保存学会専門医): 北村 知昭, 鷺尾 絢子 (日本歯科保存学会認定医): 折本 愛						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1~5	顕微鏡下の歯内治療 臨床能力評価(顕微鏡下の歯内治療)に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】顕微鏡、歯内治療について予習。 【事後学修課題】顕微鏡、歯内治療について復習。
6~10	顕微鏡下の審美治療 臨床能力評価(顕微鏡下の審美治療)に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】顕微鏡、審美歯科について予習。 【事後学修課題】顕微鏡、審美歯科について復習。
11~15	顕微鏡下の補綴治療 臨床能力評価(顕微鏡下の補綴治療)に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】顕微鏡、補綴治療について予習。 【事後学修課題】顕微鏡、補綴治療について復習。
16~20	顕微鏡下のポスト除去 臨床能力評価(顕微鏡下の再治療)に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】顕微鏡、ポスト除去について予習。 【事後学修課題】顕微鏡、ポスト除去について復習。
21~25	顕微鏡下の外科的歯内治療 臨床能力評価(エンドドンティック・マイクロサージェリー)に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】顕微鏡、外科的歯内治療について予習。 【事後学修課題】顕微鏡、外科的歯内治療について復習。

2023年度

口腔保存治療学 II (臨床アドバンスコース S) (Endodontics and Restorative Dentistry II (Clinical Advance Course S))

開講年次	1~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床)	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭 鷺尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将 (日本歯科保存学会指導医) : 北村 知昭、鷺尾 絢子 (日本歯内療法学会指導医) : 北村 知昭 (日本歯科保存学会専門医) : 北村 知昭、鷺尾 絢子 (日本歯科保存学会認定医) : 折本 愛						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
26~30	評価(3) 臨床能力評価を行う。評価合格をもって専門的診療を開始する。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 マイクロスコープ、歯科治療全般について予習。 【事後学修課題】 マイクロスコープ、歯科治療全般について復習。

2023年度

口腔保存治療学Ⅲ（臨床アドバンスコース H） （Endodontics and Restorative Dentistry Ⅲ (Clinical Advance Course H)）

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
	北村 知昭, 鷲尾 絢子, 折本 愛, 相原 良亮, 村田 一将						
担当教員	北村 知昭 鷲尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将 （日本歯科保存学会指導医）：北村 知昭, 鷲尾 絢子 （日本歯内療法学会指導医）：北村 知昭 （日本歯科保存学会専門医）：北村 知昭, 鷲尾 絢子 （日本歯科保存学会認定医）：折本 愛						

授業の概要

本科目では、認定医・専門医資格取得に必要な症例収集を行うとともに、マイクロスコープ下の高精度な治療に関する能力を修得し、認定医・専門医資格取得のための知識・技術を養成する。また、臨床セミナーとして実施するケース・プレゼンテーションを通して臨床推論能力およびプレゼンテーション能力を養成する。

学生の到達目標

【一般目標】 認定医・専門医に必要な能力を身につけるため、マイクロスコープ下の治療について臨床を通して修得するとともに、ケース・プレゼンテーションを通して臨床推論能力を修得し、実践できる。【到達目標】 ・ 評価(4)に合格する。 ・ 治療計画を立案・実施し、ケース・プレゼンテーションを行うことができる。 ・ 認定医・専門医資格取得に適した症例を吟味できる。 <専門治療技術の例>a. マイクロスコープ使用下での各種保存治療、外科的治療b. 認定医・専門医に必要な関連分野（歯周基本治療等）

テキスト

タイトル	著者	出版社
保存修復学第7版	千田彰 他編	医歯薬出版
保存修復学2 1 第5版	田上順次 他編	永末書店
歯内治療学第5版	勝海一郎 他編	医歯薬出版
エンドドンティックス第6版	興地隆史 他編	永末書店
マイクロエンドをはじめよう 超入門テキスト	北村知昭 編	医歯薬出版
非歯原性疼痛へのアプローチ	北村知昭 他編	医歯薬出版

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
評価（4）	50%
ルーブリック評価	50%

成績評価は、評価（4）（50%）およびルーブリック評価（50%）に基づいて評価する。
ルーブリック評価表は初回講義時に学生に配布する。

その他

相談は授業時間外でも随時受け付け可能。また、相談時間予約にメールを利用可能。

2023年度

口腔保存治療学Ⅲ（臨床アドバンスコース H）（Endodontics and Restorative Dentistry Ⅲ(Clinical Advance Course H)）

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭, 鷲尾 絢子, 折本 愛, 相原 良亮, 村田 一将 北村 知昭 鷲尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将 (日本歯科保存学会指導医) : 北村 知昭, 鷲尾 絢子 (日本歯内療法学会指導医) : 北村 知昭 (日本歯科保存学会専門医) : 北村 知昭, 鷲尾 絢子 (日本歯科保存学会認定医) : 折本 愛						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～8	マイクロスコープ下の歯内治療 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療（マイクロスコープ下の歯内治療）を行う。	実習	北村 知昭 折本 村田	【事前学修課題】 マイクロエンドドンティクスについて予習。 【事後学修課題】 マイクロエンドドンティクスについて復習。
9～16	マイクロスコープ下の審美治療 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療（マイクロスコープ下の審美修復・補綴治療）を行う。	実習	北村 知昭 折本 村田	【事前学修課題】 マイクロスコープ、審美歯科について予習。 【事後学修課題】 マイクロスコープ、審美歯科について復習。
17～24	マイクロスコープ下の外科的歯内治療 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療（エンドドンティック・マイクロサージェリー）を行う。	実習	北村 知昭 折本 村田	【事前学修課題】 エンドドンティック・マイクロサージェリーについて予習。 【事後学修課題】 エンドドンティック・マイクロサージェリーについて復習。
25～32	評価（4） 臨床能力評価を行う。評価合格をもって自立した専門的診療を開始する。	実習	北村 知昭 折本 村田	【事前学修課題】 マイクロスコープ、歯科治療全般について予習。 【事後学修課題】 マイクロスコープ、歯科治療全般について復習。
33～40	治療計画立案 保存治療認定医・専門医資格取得のために必要な症例の治療計画を立案する。	実習	北村 知昭 折本 村田	【事前学修課題】 保存治療認定医・専門医、治療計画立案について予習。 【事後学修課題】 保存治療認定医・専門医、治療計画立案について復習。

2023年度

口腔保存治療学Ⅲ（臨床アドバンスコース H）（Endodontics and Restorative Dentistry Ⅲ (Clinical Advance Course H)）

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭, 鷲尾 絢子, 折本 愛, 相原 良亮, 村田 一将 北村 知昭 鷲尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将 (日本歯科保存学会指導医) : 北村 知昭, 鷲尾 絢子 (日本歯内療法学会指導医) : 北村 知昭 (日本歯科保存学会専門医) : 北村 知昭, 鷲尾 絢子 (日本歯科保存学会認定医) : 折本 愛						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
41～48	保存治療関連症例の治療 保存治療認定医・専門医資格取得のために必要な症例治療を実施する。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】保存治療認定医・専門医、症例報告について予習。 【事後学修課題】保存治療認定医・専門医、症例報告について復習。
49～56	ケース・プレゼンテーションおよび専門医による講義 ケース・プレゼンテーションと専門医による講義を通して保存治療認定医・専門医資格取得に必要な知識を修得する。 【事前学習課題】保存治療認定医・専門医、ケースプレゼンテーション	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】保存治療認定医・専門医、ケースプレゼンテーションについて予習。 【事後学修課題】保存治療認定医・専門医、ケースプレゼンテーションについて復習。
57～60	保存治療専門医資格取得用症例の作成 保存治療認定医・専門医資格取得のために必要な症例発表様式を作成する。	実習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】保存治療認定医・専門医、ケースプレゼンテーションについて予習。 【事後学修課題】保存治療認定医・専門医、ケースプレゼンテーションについて復習。

2023年度

口腔保存治療学Ⅳ（研究セミナー）（Endodontics and Restorative Dentistry Ⅳ(Research Seminar)）

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	鷲尾 絢子, 折本 愛, 相原 良亮, 村田 一将 北村 知昭 鷲尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将 （日本歯科保存学会指導医）：北村 知昭、鷲尾 絢子 （日本歯内療法学会指導医）：北村 知昭 （日本歯科保存学会専門医）：北村 知昭、鷲尾 絢子 （日本歯科保存学会認定医）：折本 愛						

授業の概要

本科目では、高精度な歯の治療と関連する再生医療や医療器機開発に関する研究、および臨床研究に関する論文抄読と研究報告を実施する。質の高い論文を精読し診療・研究に共通する論理的考察・推論能力や国際的視野を修得する。また、研究結果報告を行うことで学位取得につながる議論をすることも目的としている。

学生の到達目標

【一般目標】 質の高い歯科医学研究・臨床能力を修得するため、国際的に認められている研究の精読と研究報告を行い、博士（歯学）として必要な論理的思考・実践法を修得し、実践できる。【到達目標】 ・研究の背景となる国際論文を収集できる。・国際論文を抄読し、自身の研究内容の背景を説明できる。・プレゼンテーション法を修得し、実践できる。・研究遂行に必要な論文を収集・吟味し、プレゼンテーションできる。・研究報告（経過報告、学会発表準備報告）ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
保存修復学第7版	千田彰 他編	医歯薬出版
保存修復学21第5版	田上順次 他編	永末書店
歯内治療学第5版	勝海一郎 他編	医歯薬出版
エンドドンティックス第5版	興地隆史 他編	永末書店
マイクロエンドをはじめよう 超入門テキスト	北村知昭 編	医歯薬出版
非歯原性疼痛へのアプローチ	北村知昭 他編	医歯薬出版

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
セミナー中の発表内容	50%
ルーブリック評価	50%

成績評価は、セミナー中の発表（50%）およびルーブリック評価（50%）に基づいて評価する。ルーブリック評価表は初回講義時に学生に配布する。

その他

相談は授業時間外でも随時受け付け可能。また、相談時間予約にメールを利用可能。

2023年度

口腔保存治療学Ⅳ（研究セミナー）（Endodontics and Restorative Dentistry Ⅳ(Research Seminar)）

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	鷲尾 絢子, 折本 愛, 相原 良亮, 村田 一将 北村 知昭 鷲尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将 （日本歯科保存学会指導医）：北村 知昭、鷲尾 絢子 （日本歯内療法学会指導医）：北村 知昭 （日本歯科保存学会専門医）：北村 知昭、鷲尾 絢子 （日本歯科保存学会認定医）：折本 愛						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～5	論文抄読 研究の背景や関連する文献の精読とプレゼンテーションを行う。	文献紹介と討論	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 課題研究に関する文献収集、プレゼンテーションについて予習。 【事後学修課題】 課題研究に関する文献収集、プレゼンテーションについて復習。
6～10	研究報告 自身の研究内容（経過，学会発表準備）に関するプレゼンテーションを行う。	研究内容の報告と討論	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 研究報告について予習。 【事後学修課題】 研究報告について復習。
11～15	論文紹介・研究報告 各教員による専門領域の論文抄読、講義、および研究報告を受講し、知識を修得する。	文献紹介・研究報告と討論	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】 論文抄読、研究報告について予習。 【事後学修課題】 論文抄読、研究報告について復習。

2023年度

口腔保存治療学Ⅴ（研究演習）（Endodontics and Restorative Dentistry Ⅴ (Research Practice)）

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	鷲尾 絢子, 折本 愛, 相原 良亮, 村田 一将 北村 知昭 鷲尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将 （日本歯科保存学会指導医）：北村 知昭、鷲尾 絢子 （日本歯内療法学会指導医）：北村 知昭 （日本歯科保存学会専門医）：北村 知昭、鷲尾 絢子 （日本歯科保存学会認定医）：折本 愛						

授業の概要

本分野では、高精度な歯の治療と関連する再生医療や医療器機開発に関する研究、および臨床研究を行っている。本科目では、学内外の優れた研究グループと連携・協力しながら、研究遂行に必要な能力を修得し、国際的に通用する歯科医師・歯科医学研究者・教育者を養成することを目的としている。

学生の到達目標

【一般目標】 国際的に通用する歯科医師・歯科医学研究者・教育者になるため、研究能力・論文作成能力を修得し学位取得に適した研究論文を作成できる。
【到達目標】 ・ 研究遂行に必要な知識・技術を修得し、実践できる。 ・ 研究報告や学会発表に必要なデータ整理方法を修得し、実践できる。 ・ 研究報告および国内外での学会発表と論文作成を行うことができる。 ・ 自立して研究テーマを開発する能力を修得し、実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
保存修復学第7版	千田彰 他編	医歯薬出版
保存修復学21第5版	田上順次 他編	永末書店
歯内治療学第5版	勝海一郎 他編	医歯薬出版
エンドドンティックス第6版	興地隆史 他編	永末書店
マイクロエンドをはじめよう 超入門テキスト	北村知昭 編	医歯薬出版
非歯原性疼痛へのアプローチ	北村知昭 他編	医歯薬出版

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習内容	50%
ルーブリック評価	50%

成績評価は、演習内容（50%）およびルーブリック評価（50%）に基づいて評価する。
ルーブリック評価表は初回講義時に学生に配布する。

その他

相談は授業時間外でも随時受け付け可能。また、相談時間予約にメールを利用可能。

2023年度

口腔保存治療学Ⅴ（研究演習）（Endodontics and Restorative Dentistry Ⅴ (Research Practice)）

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭 鷺尾 絢子 折本 愛 相原 良亮 村田 一将 （日本歯科保存学会指導医）：北村 知昭、鷺尾 絢子 （日本歯内療法学会指導医）：北村 知昭 （日本歯科保存学会専門医）：北村 知昭、鷺尾 絢子 （日本歯科保存学会認定医）：折本 愛						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション 研究テーマについて議論・決定する。	講義	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】研究テーマについて予習。 【事後学修課題】研究テーマについて復習。
2,3	培養細胞を用いた研究 培養細胞の取扱いおよび研究手法を修得する。	演習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】細胞培養法について予習。 【事後学修課題】細胞培養法について復習。
4,5	実験動物を用いた研究 実験動物の取扱いおよび研究手法を修得する。	演習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】実験動物、ARC利用について予習。 【事後学修課題】実験動物、ARC利用について復習。
6,7	歯科材料に関する研究 歯科材料の開発・研究手法を修得する。	演習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】歯科材料について予習。 【事後学修課題】歯科材料について復習。
8,9	医療機器開発に関する研究 医療機器の開発・研究手法を修得する。	演習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】医用工学について予習。 【事後学修課題】医用工学について復習。
10,11	臨床疫学研究 臨床疫学における研究手法を修得する。	演習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】臨床疫学について予習。 【事後学修課題】臨床疫学について復習。
12～15	学会発表・論文作成と投稿 各研究成果を学会発表すると共に論文を作成し公表する。	演習	北村 知昭 折本 愛 村田 一将	【事前学修課題】学会発表、論文作成について予習。 【事後学修課題】学会発表、論文作成について復習。

2023年度

歯周病学Ⅰ (PeriodontologyⅠ (Clinical Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介, 臼井 通彦, 中村 太志, 鬼塚 理, 佐野 孝太郎, 笠井 信吾 (日本歯周病学会指導医) 中島啓介, 臼井通彦 (日本歯科保存学会指導医) 中島啓介 (日本歯科保存学会専門医) 臼井通彦 (日本歯周病学会認定医) 中村太志, 鬼塚 理, 佐野 孝太郎, 笠井 信吾						

授業の概要

近年、歯周病は単なる口腔局所の一疾患ではなく全身の問題として注目されている。本授業では、歯周病の危険因子を理解しエビデンスに基づいた (EBM) 効果的な診断・治療を学ぶ。そのため、世界中で発表されている歯周病に関連する論文を可能な限り多く輪読する。蓄積された知識を日常の臨床に活かすことで、最新の治療法を実践する。また、多様な問題を抱えた重篤な症例を通じて、専門医としての診断力、問題解決力を身につける。

学生の到達目標

1. 歯周病患者に対し必要な医療面接を実施できる (第1回)。2. 歯周組織検査について説明、実施できる (第2～7, 20回)。3. 検査の結果に基づいた治療計画を立案できる (第8回)。4. 効果的なモチベーションを実践できる (第9～14回)。5. 超音波スケーリング、スケーリング・ルートプレーニングを実施できる (第15～19回)。6. 歯周外科手術の基本的な手技を理解し、治癒機転と予後を説明できる (第21～23回)。7. 歯周再生療法の特徴を理解し、治癒機転と予後を説明できる (第24, 25回)。8. 歯周補綴学、矯正およびインプラント治療の応用を説明できる (第26～28回)。9. SPTの意義と手順を説明できる (第29回)。10. 歯周病症例を提示し、治療計画・治療結果について説明できる (第30回)。

テキスト

タイトル	著者	出版社
Journal of Periodontology		
Journal of Clinical Periodontology		

参考書

タイトル	著者	出版社
参考書 (参考文献) は実習時に配布する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
口頭試問	100%

最終回 (30回) に提示した症例に対して口頭試問を行い評価する (対面が困難な場合、TeamsもしくはZoomにて行う)。

その他

学生相談：随時 メールでの質問も可。

2023年度

歯周病学 I (Periodontology I (Clinical Basic Course))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介, 臼井 通彦, 中村 太志, 鬼塚 理, 佐野 孝太郎, 笠井 信吾 (日本歯周病学会指導医) 中島啓介, 臼井通彦 (日本歯科保存学会指導医) 中島啓介 (日本歯科保存学会専門医) 臼井通彦 (日本歯周病学会認定医) 中村太志, 鬼塚 理, 佐野 孝太郎, 笠井 信吾						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	歯周病患者の医療面接歯周病患者の医療面接について学ぶ。	実習	中島	事後学習 (医療面接)
3,4	歯周組織検査 (口腔内写真撮影1) 口腔内写真撮影方法について学ぶ。	実習	中島	事後学習 (口腔内写真)
5,6	歯周組織検査 (口腔内写真撮影2) 口腔内写真撮影方法について学ぶ。	実習	中島	事後学習 (口腔内写真)
7,8	歯周組織検査 (プローピング) 歯周ポケット検査について学ぶ。	実習	中島	事後学習 (プローピング)
9,10	歯周組織検査 (エックス線写真撮影) エックス線写真撮影と読影について学ぶ。	実習	中島	事後学習 (X線写真撮影)
11,12	歯周組織検査 (咬合力測定と分析) 咬合力測定と分析法について学ぶ。	実習	中島	事後学習 (咬合力)
13,14	歯周組織検査 (歯の動揺度測定) 歯の動揺度測定について学ぶ。	実習	笠井	事後学習 (動揺度)
15,16	治療計画の立案治療計画の多様性について学ぶ。	実習	笠井	事後学習 (治療計画)
17,18	効果的なモチベーション法1モチベーションの与え方について学ぶ。	実習	笠井	事後学習 (モチベーション)
19,20	効果的なモチベーション法2モチベーションの与え方について学ぶ。	実習	笠井	事後学習 (モチベーション)
21,22	効果的なモチベーション法3モチベーションの与え方について学ぶ。	実習	笠井	事後学習 (モチベーション)
23,24	効果的なモチベーション法4モチベーションの与え方について学ぶ。	実習	笠井	事後学習 (モチベーション)
25,26	効果的なモチベーション法5モチベーションの与え方について学ぶ。	実習	中村	事後学習 (モチベーション)
27,28	効果的なモチベーション法6モチベーションの与え方について学ぶ。	実習	中村	事後学習 (モチベーション)
29,30	超音波スケーリング (歯肉縁上) 歯肉縁上の超音波スケーリングについて学ぶ。	実習	中村	事後学習 (超音波スケーリング)
31,32	超音波スケーリング (歯肉縁下・分岐部) 歯肉縁下・分岐部の超音波スケーリングについて学ぶ。	実習	中村	事後学習 (超音波スケーリング)
33,34	スケーリング・ルートプレーニングI (ポジショニング) SRP時のポジショニングについて学ぶ。	実習	中村	事後学習 (スケーリング・ルートプレーニング)
35,36	スケーリング・ルートプレーニングII (シャープニング) シャープニングの方法について学ぶ。	実習	中村	事後学習 (スケーリング・ルートプレーニング)
37,38	スケーリング・ルートプレーニングIII (非外科への移行)	実習	佐野	事後学習 (スケーリング・ルートプレーニング)
39,40	再評価と治療に対する反応性 (レスポンス) に基づく治療計画立案反応性に基づいた治療計画の立案方法について学ぶ。	実習	佐野	事後学習 (再評価)

2023年度

歯周病学Ⅰ (PeriodontologyⅠ (Clinical Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介, 臼井 通彦, 中村 太志, 鬼塚 理, 佐野 孝太郎, 笠井 信吾 (日本歯周病学会指導医) 中島啓介、臼井通彦 (日本歯科保存学会指導医) 中島啓介 (日本歯科保存学会専門医) 臼井通彦 (日本歯周病学会認定医) 中村太志、鬼塚 理、佐野 孝太郎、笠井 信吾						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
41,42	歯周外科手術1(基礎的手技;全層弁・部分層弁の作成、各種縫合法)フラップ形成と縫合方法について学ぶ。	実習	佐野	事後学習(歯周外科手術)
43,44	歯周外科手術2(フラップ手術)フラップ手術の原理と方法について学ぶ。	実習	佐野	事後学習(歯周外科手術)
45,46	歯周外科手術3(歯肉結合組織移植術)歯肉結合組織移植術の原理と方法について学ぶ。	実習	佐野	事後学習(歯周外科手術)
47,48	歯周再生療法1(GTR法)GTR法の原理と方法について学ぶ。	実習	佐野	事後学習(再生療法)
49,50	歯周再生療法2(エムドゲインを用いた再生療法)エムドゲイン療法の原理と方法について学ぶ。	実習	臼井	事後学習(再生療法)
51,52	歯周補綴学歯周補綴の概念・方法について学ぶ。	実習	臼井	事後学習(歯周補綴)
53,54	歯周治療におけるインプラントの応用歯周治療におけるインプラント治療の応用方法や注意点について学ぶ。	実習	臼井	事後学習(インプラント)
55,56	歯周治療における矯正治療の応用歯周治療における矯正治療の応用方法や注意点について学ぶ。	実習	臼井	事後学習(矯正治療)
57,58	SPTの意義と実際SPTの意義と方法・注意点について学ぶ。	実習	臼井	事後学習(SPT)
59,60	臨床症例の提示および検討実際の症例を提示し、検討を行う。	実習	臼井	事後学習(症例提示方法)

2023年度

歯周病学Ⅱ (PeriodontologyⅡ)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介, 臼井 通彦, 中村 太志, 鬼塚 理, 佐野 孝太郎, 笠井 信吾 (日本歯周病学会指導医) 中島啓介, 臼井通彦 (日本歯科保存学会指導医) 中島啓介 (日本歯科保存学会専門医) 臼井通彦 (日本歯周病学会認定医) 中村太志, 鬼塚 理, 佐野 孝太郎, 笠井 信吾						

授業の概要

歯科領域の中でも、特に歯周病研究の進歩は目覚ましく、日進月歩である。よって、研究を始める前に最新の情報を熟知していなければ、研究結果が既知のものになってしまう。本授業では、英語論文を理解するための各種ツールを紹介する。また、検索した文献を論文作成までの間にデータベース化する方法を学ぶ。研究から得られたデータを適切な方法で解析するために必要な、統計ソフトウェアの使用法と各統計手法の背景を学ぶ。さらに、複数の臨床研究から一定の結論を導き出すメタアナリシスの手法についても学ぶ。最後に、論文あるいはプレゼンテーション作成において簡潔で論理的な文章を作成する注意点について学ぶ。

学生の到達目標

1. オンライン辞書を利用して、英文論文の内容を理解できる。2. PubMedから文献を検索して、検索結果をデータベース化できる。3. 統計的手法により臨床データの基礎的な解析ができる。4. メタアナリシスの手法を理解できる。5. 簡潔で論理的な文章を作成できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
ライフサイエンス辞書プロジェクト (http://lsd.pharm.kyoto-u.ac.jp/ja/index.html)		
JMP (統計ソフトウェア)		
EndNote (文献検索ソフトウェア)		
Cochrane Reviews		
Journal of Periodontology		
Journal of Clinical Periodontology		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
口頭試問	100%

口頭試問が対面では困難な場合は、TeamsもしくはZoomにて、行う。

その他

学生相談：随時 メールでの質問も可

2023年度

歯周病学 II (Periodontology II)

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介, 臼井 通彦, 中村 太志, 鬼塚 理, 佐野 孝太郎, 笠井 信吾 (日本歯周病学会指導医) 中島啓介、臼井通彦 (日本歯科保存学会指導医) 中島啓介 (日本歯科保存学会専門医) 臼井通彦 (日本歯周病学会認定医) 中村太志、鬼塚 理、佐野 孝太郎、笠井 信吾						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オンライン辞書の検索 オンライン辞書を用いた検索方法を学ぶ。	演習	中島	事後学習(オンライン辞書)
2	文献ライブラリ(PubMed)の検索 文献ライブラリ(PubMed)の使用方法を学ぶ。	演習	中島	事後学習(PubMed)
3	文献データベースの作成 文献データベースの作成方法を学ぶ。	演習	中島	事後学習(EndNote)
4	臨床統計学(データの取扱い) 統計処理に必要なデータの取扱い方法を学ぶ。	演習	笠井	事後学習(データの取扱い)
5	臨床統計学(データ分布と正規性) 統計処理に必要なデータ分布と正規性について学ぶ	演習	笠井	事後学習(データ分布・正規性)
6	臨床統計学(グループ平均の比較) グループ平均の比較方法について学ぶ。	演習	笠井	事後学習(グループ平均の比較)
7	臨床統計学(分散分析) 分散分析の意味と方法について学ぶ。	演習	中村	事後学習(分散分析)
8	臨床統計学(単回帰) 単回帰の意味と方法について学ぶ。	演習	中村	事後学習(単回帰)
9	臨床統計学(重回帰) 重回帰の意味と方法について学ぶ。	演習	中村	事後学習(重回帰)
10	臨床データの解析1 実際の臨床データを用いて、今まで学習した方法で解析を行う。	演習	佐野	事後学習(臨床データ解析)
11	臨床データの解析2 実際の臨床データを用いて、今まで学習した方法で解析を行う。	演習	佐野	事後学習(臨床データ解析)
12	メタアナリシスの基礎 メタアナリシスの意義について学ぶ。	演習	佐野	事後学習(メタアナリシス)
13	メタアナリシスの応用 メタアナリシスの方法を習得し、実践する。	演習	臼井	事後学習(メタアナリシス)
14	論文作成(日本語) 日本語での論文作成方法について学ぶ。	演習	臼井	事後学習(日本語論文作成)
15	論文作成(英語) 英語での論文作成方法について学ぶ。	演習	臼井	事後学習(英語論文作成)

2023年度

歯周病学Ⅲ（症例検討）（PeriodontologyⅢ（Clinical Conference））

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介, 臼井 通彦, 中村 太志, 鬼塚 理, 佐野 孝太郎, 笠井 信吾 （日本歯周病学会指導医）中島啓介、臼井通彦（日本歯科保存学会指導医）中島啓介（日本歯科保存学会専門医）臼井通彦（日本歯周病学会認定医）中村太志、鬼塚 理、佐野 孝太郎、笠井 信吾						

授業の概要

歯周病に関連した最新の英語論文を数多く輪読する。臨床においてはケーススタディーを用いて、実際の症例に基づく問題解決法を学ぶ。

学生の到達目標

1. 急性、慢性疾患に対応する疾患モデルに精通し、対応できる。2. 専門性の高い非外科的、外科的治療を学び、知識を高める。3. 難治性の概念を理解できる。4. 歯科心身医学に基づく歯科医療を身に付け、対応できる。5. 再生療法を学び、知識を高める。

テキスト

タイトル	著者	出版社
Journal of Periodontology		
Journal of Clinical Periodontology		
Journal of Periodontal Research		

参考書

タイトル	著者	出版社
以下のジャーナルより毎回、論文（文献）を選択し、配布する。		
Journal of Periodontology		
Journal of Clinical Periodontology		
Journal of Periodontal Research		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
セミナー中の質問に対する回答	100%

対面授業が困難な場合は、TeamsもしくはZoomにて行い、質問に対する回答を評価する。

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	論文抄読・症例検討最新の文献および関連する文献から、研究・治療に関して今後の展開を考察する。また、実際の症例への応用を検討する。	文献抄読会および症例討論会	中島、臼井、中村、佐野、笠井	配付資料（文献）の復習

2023年度

歯周病学Ⅳ（歯周外科アドバンス）（Periodontology IV（Advanced Periodontal Surgery））

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	2.0
授業方法	講義・実習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介, 臼井 通彦, 中村 太志, 鬼塚 理, 佐野 孝太郎, 笠井 信吾 （日本歯周病学会指導医）中島啓介、臼井通彦（日本歯科保存学会指導医）中島啓介（日本歯科保存学会専門医）臼井通彦（日本歯周病学会認定医）中村太志、鬼塚 理、佐野 孝太郎、笠井 信吾						

授業の概要

歯周外科を行うにあたり、術者はあるレベル以上の技術力を有していなければならないが、その技術力を、歯周治療という側面から有効に機能させるための知識も必要である。本授業では、術式の単純な理解に留まらず、ファントム模型実習・ブタ顎骨実習の実践に加え、指導医が実際に行う歯周外科のアシストを行うことで、歯周外科治療に必要な基本的技能を習得する。

学生の到達目標

1. 歯周外科治療の基本概念を説明することができる。2. 症例に応じて、適切な歯周外科術式を選択することができる。3. 歯周外科に必要な機材の選択、操作ができる。4. 指導医のもと、歯周外科を実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
配布資料		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
理解度（口頭試問による）	100%

その他

学生相談：随時

2023年度

歯周病学Ⅳ（歯周外科アドバンス）（Periodontology Ⅳ（Advanced Periodontal Surgery））

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	2.0
授業方法	講義・実習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介, 臼井 通彦, 中村 太志, 鬼塚 理, 佐野 孝太郎, 笠井 信吾 （日本歯周病学会指導医）中島啓介、臼井通彦（日本歯科保存学会指導医）中島啓介（日本歯科保存学会専門医）臼井通彦（日本歯周病学会認定医）中村太志、鬼塚 理、佐野 孝太郎、笠井 信吾						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	全層弁による歯肉剥離搔爬術 全層弁での歯肉剥離搔爬術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	中島	事後学習（歯肉剥離搔爬術）
2	全層・部分層弁による歯肉剥離搔爬術 全層・部分層弁による歯肉剥離搔爬術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	中島	事後学習（歯肉剥離搔爬術）
3	歯肉剥離搔爬術実習 歯肉剥離搔爬術をファントム模型・ブタ顎骨にて実習する。	演習・実習	中島	事後学習（歯肉剥離搔爬術）
4	小帯切除術 小帯切除術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	笠井	事後学習（小帯切除術）
5	口腔前庭拡張術 口腔前庭拡張術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	笠井	事後学習（口腔前庭拡張術）
6	有茎歯肉弁移植術による歯肉歯槽粘膜形成術 有茎歯肉弁移植術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	笠井	事後学習（歯肉移植術）
7	遊離歯肉移植による歯肉歯槽粘膜形成術遊離歯肉移植術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	中村	事後学習（歯肉移植術）
8	結合組織移植、遊離歯肉移植による歯肉歯槽粘膜形成術 結合組織移植術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	中村	Post-learning: Periodontal plastic surgery
9	歯肉歯槽粘膜形成術実習歯肉歯槽粘膜形成術をファントム模型・ブタ顎骨にて実習する。	演習・実習	中村	事後学習（歯肉移植術）
10	GTR法 GTR法の術式、適応症例について学ぶ。	講義	佐野	事後学習（GTR法）
11	GTR法実習 GTR法をファントム模型・ブタ顎骨にて実習する。	演習・実習	佐野	事後学習（GTR法）
12	エムドゲイン療法 エムドゲイン療法の術式、適応症例について学ぶ。	講義	佐野	事後学習（エムドゲイン療法）
13	自家骨移植術 自家骨移植術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	臼井	事後学習（自家骨移植術）
14	歯肉歯槽粘膜形成術介助（アシスト）担当教員の行なう歯肉歯槽粘膜形成術のアシストにつき、実際の症例にて術式・手技を学ぶ	演習・実習	臼井	事後学習（歯肉歯槽粘膜形成術）
15	歯周再生療法介助（アシスト）担当教員の行なう歯周再生療法のアシストにつき、実際の症例にて術式・手技を学ぶ	演習・実習	臼井	事後学習（歯周再生療法）

2023年度

補綴治療学Ⅰ (ベーシックコース) (Removable ProsthesisⅠ (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博, 榎原 絵理, 渡辺 崇文						
	有田 正博, 渡辺 崇文						

授業の概要

全部欠損補綴治療を臨床の場で実践するための臨床手技を修得する。

学生の到達目標

1. 全部床義歯装着までの臨床および技工ができる。2. 咬合調整ができる。3. 義歯調整ができる。4. 義歯修理ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
コンプリートデンチャーテクニック第5版		医歯薬出版 東京 2005
入門 無歯顎補綴治療		医歯薬出版 東京 2006

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	58%
単位認定試験	42%

レポート (毎回講義終了後提出) 2点×29=58点 単位認定試験 (Moodle) 42点の合計で評価し、秀 (100～90点)、優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点) を合格とする。ルーブリック評価も取り入れる。

その他

【オフィスアワー (学習相談)】 随時 有田 : 内線2122 渡辺 : 内線 2123

2023年度

補綴治療学Ⅰ (ベーシックコース) (Removable ProsthesisⅠ (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博, 榎原 絵理, 渡辺 崇文						
	有田 正博, 渡辺 崇文						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	概形印象採得の臨床 アルジネート練和法、トレー修正法 印象採得の実際	遠隔講義 (Moodle)	有田	概形印象
3,4	研究用模型の作製 トリミングのポイント	遠隔講義 (Moodle)	有田	研究用模型模型修正法
5,6	個人トレーの作製 開口印象用, 閉口印象用	遠隔講義 (Moodle)	有田	個人トレー
7,8	辺縁形成の臨床 コンパウンドの操作	遠隔講義 (Moodle)	有田	辺縁形成
9,10	精密印象採得の臨床 ラバー系印象材	遠隔講義 (Moodle)	有田	精密印象
11,12	作業用模型の作製 ボクシング, トリミング	遠隔講義 (Moodle)	有田	作業用模型
13,14	咬合床の作製 基礎床, 咬合堤	遠隔講義 (Moodle)	有田	咬合床
15,16	咬合採得の臨床1 咬合平面の設定	遠隔講義 (Moodle)	有田	咬合平面
17,18	咬合採得の臨床2 咬合高径の設定	遠隔講義 (Moodle)	有田	咬合高径
19,20	咬合器装着1 フェイスボウトランスファー	遠隔講義 (Moodle)	有田	顔弓計測
21,22	咬合器装着2 平均値付着板の使用	遠隔講義 (Moodle)	有田	平均値付着板
23,24	ゴシックアーチ描記法術式 ゴシックアーチトレーサー, 下顎模型再装着	遠隔講義 (Moodle)	有田	ゴシックアーチ
25,26	チェックバイト法術式 前方・側方チェックバイト採得法 スプリットキャスト法による顎路計測法	遠隔講義 (Moodle)	有田	チェックバイト
27,28	ゴシックアーチ描記とチェックバイト採得の同時記録法	遠隔講義 (Moodle)	有田	ゴシックアーチ チェックバイト
29,30	人工歯選択1 前歯部人工歯選択	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	人工歯選択
31,32	人工歯選択2 臼歯部人工歯選択	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	人工歯選択
33,34	前歯部人工歯排列	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	人工歯排列
35,36	臼歯部人工歯排列 フルバランス, リンガライズド他	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	人工歯排列
37,38	歯肉形成法 コルベン形態	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	歯肉形成
39,40	埋没法 二重埋没	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	埋没法
41,42	重合法	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	重合法
43,44	研磨法 研磨の順序	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	義歯研磨法
45,46	咬合調整法	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	咬合調整
47,48	新義歯装着の臨床 床粘膜面の適合, 咬合	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	適合検査
49,50	患者教育 義歯の取り扱い	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	患者教育
51,52	義歯調整法 ダイナミック印象, リライン	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	リライン
53,54	義歯修理法1 咬合高径が高い場合の対処法	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	義歯修理

2023年度

補綴治療学Ⅰ (ベーシックコース) (Removable ProsthesisⅠ (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博, 榎原 絵理, 渡辺 崇文						
	有田 正博、渡辺 崇文						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
55,56	義歯修理法2金属歯への置換法	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	金属歯
57,58	粘膜の発赤に対する対処細菌, アレルギー	遠隔講義 (Moodle)	渡辺	義歯性口内炎
59,60	単位認定試験	遠隔講義 (Moodle)	有田、渡辺	全部床義歯の臨床全般

2023年度

補綴治療学Ⅱ (フレンジテクニック) (Removable Prosthesis II (Flange Technique))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博, 榎原 絵理						
	有田 正博						

授業の概要

より高度な特殊技術(フレンジテクニック)習得のための基本技術を習得する。

学生の到達目標

フレンジテクニックを用いた全部床義歯装着までの臨床および技工ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
無歯顎補綴治療学		医歯薬出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	70%
単位認定試験	30%

レポート(毎回講義終了後)5点×14=70点 単位認定試験(Moodle)30点により評価し、秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)を合格とする。ルーブリック評価も取り入れる。なお、ルーブリック評価表については初回講義時に対象学生に提示する。

その他

【オフィスアワー(学習相談)】随時 榎原：内線2123

2023年度

補綴治療学Ⅱ (フレンジテクニック) (Removable Prosthesis II (Flange Technique))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博, 榎原 絵理						
	有田 正博						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション	遠隔講義 (Moodle)	有田	デンチャースペース
2	デンチャースペースとは?	遠隔講義 (Moodle)	有田	デンチャースペース
3	デンチャースペースの採得法1ニュートラルゾーンテクニック	遠隔講義 (Moodle)	有田	ニュートラルゾーンテクニック
4	デンチャースペースの採得法2ピエゾグラフィー	遠隔講義 (Moodle)	有田	ピエゾグラフィー
5	デンチャースペースの採得法3フレンジテクニック	遠隔講義 (Moodle)	有田	フレンジテクニック
6	フレンジテクニックの臨床1概形印象, 研究用模型	遠隔講義 (Moodle) 演習	有田	概形印象研究用模型
7	フレンジテクニックの臨床2閉口印象用個人トレー	遠隔講義 (Moodle) 演習	有田	個人トレー
8	フレンジテクニックの臨床3精密印象, 作業用模型	遠隔講義 (Moodle) 演習	有田	精密印象作業用模型
9	フレンジテクニックの臨床4顔弓計測, 咬合採得	遠隔講義 (Moodle) 演習	有田	顔弓計測咬合採得
10	フレンジテクニックの臨床5デンチャースペース採得の前準備	遠隔講義 (Moodle) 演習	有田	前準備
11	フレンジテクニックの臨床6デンチャースペース採得	遠隔講義 (Moodle) 演習	有田	デンチャースペース採得
12	フレンジテクニックの臨床7石こうコアと人工歯排列	遠隔講義 (Moodle) 演習	有田	人工歯排列
13	フレンジテクニックの臨床8機能的歯肉形成	遠隔講義 (Moodle) 演習	有田	歯肉フレンジ
14	フレンジテクニックの臨床9リライン	遠隔講義 (Moodle) 演習	有田	リライン
15	単位認定試験	遠隔テスト (Moodle)	有田	フレンジテクニックの臨床全般

2023年度

補綴治療学Ⅲ (マグネットデンチャー) (Removable Prosthesis III (Magnet Denture))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 崇文						
担当教員	禎原 絵理, 渡辺 崇文						

授業の概要

より高度な特殊技術(マグネットデンチャー)習得のための基本技術を習得する。

学生の到達目標

マグネットデンチャーの臨床および技工ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
新・磁性アタッチメント	田中貴信編	医歯薬出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	42
単位認定試験	50
総合評価(授業態度, 興味関心など)	8

レポート(毎回講義後) 3点×14=42点 単位認定試験 5点×10問=50点 総合評価 8点以上により評価し、秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)を合格とする。ルーブリック評価も取り入れる。なお、ルーブリック評価表については初回講義時に対象学生に提示する。

その他

オフィスアワー(学習相談)
 随時 渡辺:内線2123 またはメール

2023年度

補綴治療学Ⅲ (マグネットデンチャー) (Removable Prosthesis III (Magnet Denture))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 崇文						
担当教員	槇原 絵理, 渡辺 崇文						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション	講義	渡辺	歯科用磁性アタッチメント(DMA)講義の振り返り
2	歯科用磁性アタッチメントの歴史	講義	渡辺	歴史講義の振り返り
3	歯科用磁性アタッチメントの構造Cap-york, Sandwich, Split-pole	講義	渡辺	構造講義の振り返り
4	歯科用磁性アタッチメントの特徴 基本的形態	講義	渡辺	基本形態講義の振り返り
5	臨床応用	講義	渡辺	臨床応用講義の振り返り
6	MRIへの影響1 歯科用金属	講義 演習	渡辺	歯科用金属講義の振り返り
7	MRIへの影響2 鋳接法	講義 演習	渡辺	鋳接法講義の振り返り
8	MRIへの対策1 可撤性アタッチメント	講義 演習	渡辺	MRI対策講義の振り返り
9	MRIへの対策2 市販キーパーの修正	講義 演習	渡辺	MRI対策講義の振り返り
10	新世代磁性アタッチメント	講義 演習	渡辺	新時代磁性アタッチメント講義の振り返り
11	ダイレクトボンディング法	講義 演習	渡辺	ダイレクトボンディング法講義の振り返り
12	マグネットデンチャーの臨床1 パーシャルデンチャー症例	講義 演習	渡辺	臨床例講義の振り返り
13	マグネットデンチャーの臨床2 義歯装着,マグネット合着,調整	講義 演習	渡辺	臨床例講義の振り返り
14	マグネットデンチャーの臨床3 可撤性ブリッジ症例	講義 演習	渡辺	臨床例講義の振り返り
15	単位認定試験	テスト	渡辺	マグネットデンチャーの臨床全般講義の振り返り

2023年度

顎口腔欠損再構築学 1 (睡眠時無呼吸症) (Removable Prosthodontics I (Obstructive sleep apnea))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	槇原 絵理						
担当教員	槇原 絵理						

授業の概要

閉塞型睡眠時無呼吸症の臨床に必要な基本的知識を学ぶ。

学生の到達目標

OSAの研究に関する知識および患者の治療ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
睡眠医歯学の臨床		ヒョーロンパブリッシャーズ
睡眠時無呼吸症を疑ったら		羊土社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	42%
単位認定試験	50%
総合評価	8%

レポート(毎回講義終了後)3点×14=42点
単位認定試験(Moodle)5点×10問=50点
総合評価(受講態度,興味関心など)8点
以上により評価し、秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)を合格とする。
ルーブリック評価も取り入れる。
なお、ルーブリック評価表については初回講義時に対象学生に提示する。

その他

オフィスアワー(学習相談)】随時槇原：内線2123 またはメール

2023年度

顎口腔欠損再構築学 1 (睡眠時無呼吸症) (Removable Prosthodontics I (Obstructive sleep apnea))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	槇原 絵理						
担当教員	槇原 絵理						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	オリエンテーション	遠隔講義 (Moodle)	槇原	SAS
3,4	睡眠時無呼吸症(SAS)の概要	遠隔講義 (Moodle)	槇原	SAS
5,6	閉塞型睡眠時無呼吸症(OSA)の概要	遠隔講義 (Moodle)	槇原	OSAS
7,8	SASの診断	遠隔講義 (Moodle)	槇原	ESS, PSG
9,10	SASの治療法	遠隔講義 (Moodle)	槇原	外科的療法, 内科的療法, nCPAP, OA
11,12	OSA患者が来院したら	遠隔講義 (Moodle)	槇原	臨床の流れ
13,14	OAの臨床1 診査・診断	遠隔講義 (Moodle)	槇原	診査・診断
15,16	OAの臨床2 印象, 咬合採得	遠隔講義 (Moodle)	槇原	印象, 咬合採得
17,18	OAの臨床3 口腔内装置1	遠隔講義 (Moodle)	槇原	製作法
19,20	OAの臨床4 口腔内装置2	遠隔講義 (Moodle)	槇原	製作法
21,22	OAの臨床5 セラスノア	遠隔講義 (Moodle)	槇原	セラスノア
23,24	OAの臨床6 各種市販OA	遠隔講義 (Moodle)	槇原	各種市販OA
25,26	OAの臨床7 タイトレーション	遠隔講義 (Moodle)	槇原	タイトレーション
27,28	OAの臨床8 コンプライアンス	遠隔講義 (Moodle)	槇原	コンプライアンス
29,30	単位認定試験	遠隔テスト (Moodle)	槇原	SAS全般

2023年度

顎口腔欠損再構築学 2 (TMD) (Removable Prosthodontics II (TMD))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	榎原 絵理						
担当教員	榎原 絵理						
	榎原 絵理						

授業の概要

咬合性顎関節症の基本的知識と臨床を学ぶ。

学生の到達目標

TMDの知識と患者の治療ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
新編 顎関節症 改訂版		永末書店

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	42%
単位認定試験	50%
総合評価	8%

レポート (毎回講義終了後) 3点×14=42点
単位認定試験 (Moodle) 5点×10問=50点
総合評価 (受講態度, 興味関心など) =8点
以上により評価し、秀 (100～90点)、優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点) を合格とする。
ルーブリック評価も取り入れる。
なお、ルーブリック評価表については初回講義時に対象学生に提示する。

その他

オフィスアワー (学習相談) 随時 榎原絵理 (メールにて受付)

2023年度

顎口腔欠損再構築学 2 (TMD) (Removable Prosthodontics II (TMD))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	槇原 絵理						
担当教員	槇原 絵理						
	槇原 絵理						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	オリエンテーション	遠隔講義	槇原絵理	顎関節症 (TMD)
3,4	TMDの潮流	遠隔講義	槇原絵理	TMD
5,6	DC/TMD	遠隔講義	槇原絵理	DC/TMD
7,8	日本顎関節学会の考え	遠隔講義	槇原絵理	症型分類
9,10	TMDの寄与因子	遠隔講義	槇原絵理	寄与因子
11,12	低位咬合	遠隔講義	槇原絵理	低位咬合
13,14	力のコントロール	遠隔講義	槇原絵理	力のコントロール
15,16	咬合挙上と顎関節	遠隔講義	槇原絵理	咬合挙上と顎関節
17,18	咬合調整	遠隔講義	槇原絵理	咬合調整
19,20	神経筋調節機構	遠隔講義	槇原絵理	神経筋調節機構
21,22	習慣性咀嚼	遠隔講義	槇原絵理	習慣性咀嚼
23,24	アプライアンス製法	遠隔講義	槇原絵理	アプライアンス製法
25,26	アプライアンス調整法 1	遠隔講義	槇原絵理	調整法
27,28	アプライアンス調整法 2	遠隔講義	槇原絵理	調整法
29,30	単位認定試験	遠隔講義	槇原絵理	咬合性顎関節症全般

2023年度

顎口腔欠損再構築学 3 (検討会) (Removable Prosthodontics III (Research Discussion))

開講年次	1~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博, 榎原 絵理						
	有田 正博, 榎原 絵理, 渡辺 崇之, 大楠 弘道						

授業の概要

歯科補綴学関連の最新の研究の動向を理解するために、文献を詳読する。各自の研究内容に対する報告会、ディスカッション。その他顎関節症チームアプローチ、顎口腔欠損再構築学分野臨床セミナー。

学生の到達目標

1. 英語文献を読み込む能力を養う。2. 研究の内容を理解する。3. 研究を批評する力を養う。4. 研究の背景や動向を理解する。5. 最新の臨床テクニックを養う

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
事後レポート	90%
振り返りレポート	10%

出席および事後レポート(毎回講義終了後提出)3点×30=90点 振り返りレポート(Moodle)10点の合計で評価し、秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)を合格とする。ルーブリック評価も取り入れる。
 なお、ルーブリック評価表については初回講義時に対象学生に提示する。

その他

オフィスアワー(学習相談) 随時 津田:内線2123

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1~30	研究の背景と最新の文献の内容、および関連分野の研究の今後の展望を理解する。	輪読、文献紹介および討論基本対面とするが、文献抄録等はメール配信も行うため、質疑応答はメールでも可。	有田正博	文献抄読および関連分野の調査

2023年度

口腔インプラント補綴学Ⅰ (ProsthodonticsⅠ Implant supported Prosthesis)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	講義・実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司, 正木 千尋, 近藤 祐介, 向坊 太郎, 宗政 翔, 野代 知孝 (日本口腔インプラント学会指導医) 細川隆司, 正木千尋 (日本口腔インプラント学会専門医) 近藤祐介, 向坊太郎 (日本補綴歯科学会指導医) 細川隆司, 正木千尋 (日本補綴歯科学会専門医) 近藤祐介, 向坊太郎						

授業の概要

口腔インプラント治療を安全・確実に行うために必要な解剖、画像診断、シミュレーション法等の基礎的な理論を理解し、治療計画立案に必要な知識を習得する。さらにファントム模型やブタ顎骨を用いたインプラント体埋入実習、切開・縫合実習、アバットメント連結、印象採得実習等を行うことで口腔インプラント治療に必要な基本的な技能を習得する。

学生の到達目標

1. 口腔インプラントの歴史について説明できる。
2. 口腔インプラント治療に必要な解剖学を理解できる。
3. 診断用ワックスアップ、ステントの意義を理解し、作製できる。
4. 口腔インプラントの治癒過程について理解できる。
5. X線CTシミュレーション法の基礎的な理論を理解できる。
6. 口腔インプラントの手術術式について説明できる。
7. 口腔インプラントの補綴術式について説明できる。
8. 口腔インプラント治療におけるメンテナンスの重要性を理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
よくわかる口腔インプラント学（第二版）		医歯薬出版
補綴臨床別冊 インプラントのポジショニング		医歯薬出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の諮問に対する回答	60%
症例検討会での内容や姿勢	40%

その他

学生相談：随時
※テキストは特に指定せず、講義当日に資料を配布する。

2023年度

口腔インプラント補綴学Ⅰ (ProsthodonticsⅠ Implant supported Prosthesis)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	講義・実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司, 正木 千尋, 近藤 祐介, 向坊 太郎, 宗政 翔, 野代 知孝 (日本口腔インプラント学会指導医) 細川隆司、正木千尋 (日本口腔インプラント学会専門医) 近藤祐介、向坊太郎 (日本補綴歯科学会指導医) 細川隆司、正木千尋 (日本補綴歯科学会専門医) 近藤祐介、向坊太郎						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～4	オリエンテーション「口腔インプラント補綴学とは？」：歯科医療におけるインプラント治療の位置づけについて学習する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
5～12	インプラントの歴史、臨床エビデンス、おもなシステムについて：インプラント治療の歴史を踏まえ、根底にあるコンセプトについて学習する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
13～20	インプラント治療に関係する解剖学インプラントの病理学：インプラント治療に必要な解剖学および病理学について学習する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
21～28	術前診断と治療計画「症例演習/Simplantによる実習」：インプラントシミュレーションソフトウェアを用いて症例をピックアップしシミュレーションを体験する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
29～36	診断用ワックアップ、ステント作製：埋入予定症例をもとに診断用ワックスアップからCT撮影用ステントを製作する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
37～44	インプラント埋入術式について：埋入手術のビデオ学習を通じてインプラント埋入手術の全体像を把握する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
45～52	印象術式・補綴術式について：様々なインプラントシステムの補綴術式について、症例写真を通して学習する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
53～60	CAD/CAMによる補綴、咬合調整と術後管理：ジルコニア・アルミナ・チタンやコバルトなどCAD/CAM技工を症例ベースで学習する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習

2023年度

口腔インプラント補綴学 II (Prosthodontics II Implant supported Prosthesis)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	講義・実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司, 正木 千尋, 近藤 祐介, 向坊 太郎, 宗政 翔, 野代 知孝 (日本口腔インプラント学会指導医) 細川隆司、正木千尋 (日本口腔インプラント学会専門医) 近藤祐介、向坊太郎 (日本補綴歯科学会指導医) 細川隆司、正木千尋 (日本補綴歯科学会専門医) 近藤祐介、向坊太郎						

授業の概要

治療計画の立案に必要な解剖、画像診断、シミュレーション法等の知識を習得後、口腔インプラント患者の治療を行い、治療の実際を体得する。また、骨移植やGBR、サイナスリフト、即時負荷、抜歯即時埋入等の応用事項を学習する。その他、症例検討会および各種セミナーを通して口腔インプラント学に関わる広い学識と高度な専門技能を修得する。

学生の到達目標

1. 口腔インプラント治療について他の欠損補綴法と比較し、説明できる。
2. X線CTシミュレーション法の基礎的な理論を理解し、治療計画を立案できる。
3. 必要な診査や検査を行い、インプラント埋入手術を安全・確実に行うことができる。
4. 骨造成術、即時負荷、抜歯即時埋入等の必要性を判断でき、実践できる。
5. 口腔インプラント治療における暫間補綴物の意義と目的を理解し、実践できる。
6. 適切なインプラント義歯を製作できる。
7. 口腔インプラント治療におけるメンテナンスの重要性を理解し、実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
補綴臨床別冊 インプラントのポジショニング		医歯薬出版
日本人のための最新All-on-4マニュアル		医歯薬出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の諮問に対する回答	60%
症例検討会での内容や姿勢	40%

その他

学生相談：随時※テキストは特に指定せず、講義当日に資料を配布する。

2023年度

口腔インプラント補綴学 II (Prosthodontics II Implant supported Prosthesis)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	講義・実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司, 正木 千尋, 近藤 祐介, 向坊 太郎, 宗政 翔, 野代 知孝 (日本口腔インプラント学会指導医) 細川隆司、正木千尋 (日本口腔インプラント学会専門医) 近藤祐介、向坊太郎 (日本補綴歯科学会指導医) 細川隆司、正木千尋 (日本補綴歯科学会専門医) 近藤祐介、向坊太郎						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～4	インフォームドコンセントについて：インプラント補綴治療に必要なインフォームドコンセントについて学習する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
5～11	診断用Wax-upおよび診断用ステントの製作：補綴難症例の診断用模型製作および診断用ワックスアップ・ステント製作について学習する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
12～18	X線CTシミュレーション法を用いた治療計画の立案：補綴難症例のインプラント治療のシミュレーションについて学習する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
19～25	指導医とともにインプラント埋入手術の実際を体験：インプラント埋入手術の体験を通じて外科術式を学習する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
26～32	骨造成術、即時負荷、抜歯即時埋入について：インプラント外科術式における付加術式について学習する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
33～39	体験したインプラント症例の結果を調査、症例報告：症例プレゼンテーションを行い、複数評価者によるフィードバックを受ける。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
40～46	適切な咬合を付与した暫間補綴物の製作：暫間補綴のタイミングおよびその製作法について学習する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
47～53	印象採得およびインプラント義歯の製作：インプラント支持義歯の製作法について学習する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
54～60	インプラント治療における術後管理：インプラント補綴治療における術後管理について症例を交えて学習する。 【事前学習課題】インプラント補綴学	講義・実習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習

2023年度

口腔再建リハビリテーション学 1 (Oral Reconstruction and Rehabilitation I)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司, 正木 千尋, 近藤 祐介, 向坊 太郎, 宗政 翔, 野代 知孝						

授業の概要

顎骨骨質や骨代謝、全身疾患、口腔内環境（特に唾液腺の機能）などインプラント治療のリスクとなる因子について、基礎研究および臨床研究を行い、科学的視点で歯科臨床を捉える姿勢を体得することを目標とする。

学生の到達目標

1. インプラント治療とそのリスクファクターに関する基礎的概念を習得し、実践できる。
2. 文献的考察について理解し実践できる。
3. 骨質および骨代謝について説明できる。
4. 唾液腺における水輸送について説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
各講義・演習ごとにできるだけ最新の情報を事前に提供する予定。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
課題の到達度	70%
手技に関する到達度	30%

受講者に講義ならびに演習の内容について、プレゼンテーションを適宜行なってもらい。その各課題の到達度を評価する。手技に関する到達度についても同様に評価し、70：30で配点する。

その他

学生相談：随時※テキストは特に指定せず、講義当日に資料を配布する。

2023年度

口腔再建リハビリテーション学 1 (Oral Reconstruction and Rehabilitation I)

開講年次	1~2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司, 正木 千尋, 近藤 祐介, 向坊 太郎, 宗政 翔, 野代 知孝						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション(臨床講座における基礎研究とは?) 【事前学習課題】基礎研究	講義・演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による 復習
2	文献的考察1(科学論文の読み方、科学的プレゼンテーションについて) 【事前学習課題】英語論文	講義・演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による 復習
3	文献的考察2(文献検索の方法、科学雑誌について、研究の質) 【事前学習課題】英語論文	講義・演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による 復習
4	実験室の使用法1(実験器具の基本的使用方法) 【事前学習課題】実験器具	演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による 復習
5	実験室の使用法2(試薬の調整および取り扱い) 【事前学習課題】試薬	演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による 復習
6	インプラント治療の概念とインプラント周囲炎 【事前学習課題】インプラント	講義・演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による 復習
7	モデル動物の作成 【事前学習課題】糖尿病モデル、口腔乾燥症モデル、閉経モデル、慢性腎臓病モデル	講義・演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による 復習
8	骨質の概念 【事前学習課題】骨質	講義・演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による 復習
9	骨代謝について 【事前学習課題】骨代謝	講義・演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による 復習
10	唾液腺機能 【事前学習課題】唾液腺における水輸送	演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による 復習

2023年度

口腔再建リハビリテーション学 2 (Oral Reconstruction and Rehabilitation II)

開講年次	2～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司, 正木 千尋, 近藤 祐介, 向坊 太郎, 宗政 翔, 野代 知孝						

授業の概要

顎骨骨質や骨代謝、全身疾患、口腔内環境（特に唾液腺機能）などインプラント治療のリスクとなる因子について、基礎研究および臨床研究を行う。「口腔再建リハビリテーション学Ⅰ」を発展させた内容で、研究手技の習得、結果を考察する能力などを体得することを目標とする。

学生の到達目標

1. 骨質、骨代謝に関する解説について説明できる。
2. 唾液腺機能の解析について説明できる。
3. 統計学的解析について説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
各講義・演習ごとに出来るだけ最新の情報を提供する予定。動物実験講習を受講しておくことを勧めます。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
課題の到達度	70%
手技に関する到達度	30%

受講者に講義ならびに演習の内容について、プレゼンテーションを適宜行なってもらい、その各課題の到達度を評価する。手技に関する到達度についても同様に評価し、70：30で配点する。

その他

学生相談：随時

※テキストは特に指定せず、講義当日に資料を配布する。

2023年度

口腔再建リハビリテーション学 2 (Oral Reconstruction and Rehabilitation II)

開講年次	2~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司, 正木 千尋, 近藤 祐介, 向坊 太郎, 宗政 翔, 野代 知孝						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	骨代謝マーカーについて 【事前学習課題】骨代謝マーカー	講義・演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
2	骨の解析1 【事前学習課題】マイクロCT	講義・演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
3	骨の解析2 【事前学習課題】ナノインデンテーション、ラマン分光	演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
4	サンプル解析の解析1 【事前学習課題】リアルタイムPCR	演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
5	サンプルの解析2 【事前学習課題】ウェスタンブロットティング	講義・演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
6	サンプルの解析3 【事前学習課題】ELISA法	演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
7	ノックアウトマウスについて 【事前学習課題】ノックアウトマウス	演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
8	唾液腺の解析1 【事前学習課題】唾液腺灌流モデル	講義・演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
9	唾液腺機能2 【事前学習課題】イオンイメージング	演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
10	統計学的解析 【事前学習課題】統計学的解析	演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習

2023年度

口腔再建リハビリテーション学 3 (Oral Reconstruction and Rehabilitation III)

開講年次	2～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司, 正木 千尋, 近藤 祐介, 向坊 太郎, 宗政 翔, 野代 知孝						

授業の概要

当分野で進行中の研究テーマの中からひとつを選択し、文献的考察による研究背景の把握、研究計画の立案を行い、予備実験、考察、本実験、結果の批判的吟味などを行い論文作成の土台を得る。

当分野での研究の例

- (1) インプラント即時負荷のリスクファクターに関する臨床研究
- (2) インプラントのリスクとなる全身疾患に関する基礎的研究
- (3) インプラント周囲炎の診断と治療方法の開発に関する基礎的研究
- (4) 顎骨骨質に関する研究
- (5) 唾液腺機能と口腔乾燥症治療法に関する研究

学生の到達目標

テーマの学術的背景の学習から実際に研究を行い、それらを吟味することでEvidence Based Dentistryを体現し、実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
各講義・演習ごとに出来るだけ最新の情報を提供する予定。事前に動物実験講習を受講しておくことが望ましい。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
課題の到達度	70%
手技に関する到達度	30%

受講者に講義ならびに演習の内容について、プレゼンテーションを適宜行なってもらい、その各課題の到達度を評価する。手技に関する到達度についても同様に評価し、70：30で配点する。

その他

学生相談：随時※テキストは特に指定せず、講義当日に資料を配布する。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション(研究テーマに関するディスカッション)	講義・演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
2～15	各テーマに担当教員を充当、研究にあたる。 【事前学習課題】実験内容のまとめ	講義・演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習

2023年度

最新口腔再建リハビリテーション学 (Advanced Oral Reconstruction and Rehabilitation)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司, 正木 千尋, 近藤 祐介, 向坊 太郎, 宗政 翔, 野代 知孝						

授業の概要

口腔再建リハビリテーション学分野でのセミナー形式の講義。Clinical Oral Implants Research、International Journal of Oral and Maxillofacial Implant、Journal of Prosthodontic Research、International Journal of Prosthodontics、Journal of Dental Research、Dental Materialsなどの最新論文を紹介する。

学生の到達目標

論文の要旨の把握と科学的背景の読み方を理解し、短時間に紹介するためのレジユメの作成、プレゼンテーションソフトを用いた説明用スライドの作成方法などを学び知識を高める。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
各講義・演習ごとに出来るだけ最新の情報を事前に提供する予定。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
当人のセミナー時のプレゼンテーション内容	60%
各セミナーの出欠およびセミナー時の質問や理解度	40%

その他

学生相談：随時※テキストは特に指定せず、講義当日に資料を配布する。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション	演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習
2～15	担当の各自が選んだ論文紹介レジユメを作成しプレゼンテーションする。 【事前学習課題】英語論文	演習	細川 正木 近藤 向坊 宗政 野代	配布資料による復習

2023年度

地域口腔保健医療学Ⅰベーシックコース (Basic Studies in Community Oral Health)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘, 邵 仁浩, 角田 聡子, 片岡 正太, 茂山 博代 (日本口腔衛生学会指導医) 安細敏弘 (日本口腔衛生学会認定医) 角田聡子						

授業の概要

ヘルスオリエンティッドコンセプトならびにミニマムインターベンションの概念に基づいた知識を学習し、臨床の場で実践する技能を修得する。ベーシックコースでは2大疾患である齲蝕と歯周病がバイオフィルム感染症であることを理解し、その対応法について修得するとともに実践行動医学を踏まえた保健指導のノウハウを修得する。

学生の到達目標

1. スタンダードプリコーションが実践できる。
2. コミュニケーションスキルができる。
3. 頻度の高い唾液・細菌検査を実施し、リスク評価ができる。
4. 健康心理学に基づいた歯科保健指導ができる。
5. 再石灰化療法の理論と実践ができる。
6. ライフステージに応じた地域歯科保健活動ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
新臨床研修歯科医ハンドブック		医歯薬出版、東京、2020
デンタルカリエス—その病態と臨床マネジメント	Fejerskovほか著、高橋信博 監訳	医歯薬出版
健康行動学	木原雅子ほか	メディカルサイエンスインターナショナル
グローバルヘルス	木原正博ほか	メディカルサイエンスインターナショナル

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
プレゼンテーション	30%
発言内容	20%

事後レポート (50%)、プレゼンテーション(30%)、ディスカッション時の発言内容および態度評価(20%)で評価する。点数配分：事後レポート10点×5回、プレゼンテーション10点×3回、ディスカッション20点 合計100点満点。優 (100～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点) を合格とする

その他

学生相談：随時 但し事前にメール等で予約必要

2023年度

地域口腔保健医療学 I ベーシックコース (Basic Studies in Community Oral Health)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘, 邵 仁浩, 角田 聡子, 片岡 正太, 茂山 博代 (日本口腔衛生学会指導医) 安細敏弘 (日本口腔衛生学会認定医) 角田聡子						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～2	スタンダードプリコーションの基本スタンダードプリコーションの基本を学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
3～4	消毒剤の種類と使用法、ス波尔ディングの分類について各種消毒剤の適切な使い方と適用を学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
5～6	おさえておくべき感染対策医療現場における多剤耐性菌対策のCDCガイドラインならびに抗菌薬適性使用プログラムを中心に学習する。	実習	安細	事後レポートの提出
7～10	医療面接の方法医療面接の基本を学習する。	実習	角田	事後レポートの提出
11～15	WHOの口腔診査法の基本とキャリブレーションのしかた国際標準の診査基準の基本とデータ標準化のしかたを学習する。	実習	邵	事前配布された資料により学習する。
16～20	齲蝕・歯周病の診断と診断機器の変遷と現在齲蝕・歯周病等の診断法のこれまで歴史的な経緯を踏まえ診断機器の現状と課題について学習する。	実習	茂山	事前配布された資料により学習する。
21～24	唾液等の検体を用いた非侵襲的な診断技術の現状と課題国内外で進んでいる非侵襲的な診断技術についてこれまでの歴史的な経緯を踏まえ現状と課題についてを学習する。	実習	茂山	事前配布された資料により学習する。
25～29	行動理論に基づく禁煙指導健康心理学に基づく禁煙プログラムの基本を学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
30～34	臨床疫学で用いる評価法の現状と課題臨床や疫学調査の現場でしばしば使われる各種評価法についてその歴史的経緯を踏まえ現状と課題について学習する。	実習	角田	事前配布された資料により学習する。
35～38	フロリデーシヨンの基本全身的応用法であるフロリデーシヨンの現状と課題について学習する。	実習	片岡	事前配布された資料により学習する。
39～41	局所的フッ化物応用の種類と手技局所的フッ化物応用の基本を学習する。	実習	片岡	事後レポートの提出
42～45	口腔バイオフィルムの理論と除去手法バイオフィルムに対する臨床的アプローチを学習する。	実習	角田	事前配布された資料により学習する。
46～50	再石灰化療法の理論と実践再石灰化の理論と臨床現場での実践方法を学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
51～55	ライフステージに応じた健康支援・社会支援 (I) 学校や職場における現場の活動を体験する。	実習	角田	事後レポートの提出
56～60	ライフステージに応じた健康支援・社会支援 (II) 高齢者・要介護者がいる現場の活動を体験する。	実習	安細	事後レポートの提出

2023年度

地域口腔保健医療学 II アドバンスコース (Advanced Studies in Community Oral Health)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘, 邵 仁浩, 角田 聡子, 片岡 正太, 茂山 博代 (日本口腔衛生学会指導医) 安細敏弘 (日本口腔衛生学会認定医) 角田聡子						

授業の概要

医療、介護、保健の現場における地域住民の健康づくりを支援するためのしくみや役割を理解し、行動医学や保健指導についての実践的な知識とノウハウを修得する。

学生の到達目標

1. 地域医療・介護・保健のしくみと役割が説明できる。2. 地域包括ケアのしくみと役割が説明できる。3. 行動心理学に基づいた保健指導や臨床的対応ができる。4. ライフステージに応じた保健指導プログラムの作成と実践ができる。5. 災害時の歯科保健医療支援の留意点や対応法が説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
地域医療テキスト	自治医科大学 監修	医学書院、東京、2009.
災害歯科医学	槻木恵一ほか編	医歯薬出版、東京、2018

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
プレゼンテーション	30%
発言内容	20%

事後レポート (50%)、プレゼンテーション(30%)、ディスカッション時の発言内容および態度評価(20%)で評価する。点数配分：事後レポート10点×5回、プレゼンテーション10点×3回、ディスカッション20点 合計100点満点。

その他

学生相談：随時 但し事前にメール等で予約必要

2023年度

地域口腔保健医療学Ⅱアドバンスコース (Advanced Studies in Community Oral Health)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘, 邵 仁浩, 角田 聡子, 片岡 正太, 茂山 博代 (日本口腔衛生学会指導医) 安細敏弘 (日本口腔衛生学会認定医) 角田聡子						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～4	地域口腔保健医療総論Ⅰ地域医療・介護・保健の現状と役割について学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
5～8	地域口腔保健医療総論Ⅱ地域医療・介護・保健の基本となるプライマリ・ケアについて学習する	実習	安細	事前配布された資料により学習する。事後レポートの提出
9～12	地域口腔保健医療システム論Ⅰ地域医療を支える人的要素、医療機関、自治体のしくみと役割について学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
13～16	地域口腔保健医療システム論Ⅱ介護と保健・福祉のしくみと役割について学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
17～20	地域口腔保健医療システム論Ⅲ地域包括ケアのしくみと役割について学習する。	実習	角田	事前配布された資料により学習する。
21～24	地域口腔保健医療システム論Ⅳヘルスプロモーションの理念に基づく保健活動と健康支援について学習する。	実習	角田	事前配布された資料により学習する。事後レポートの提出
25～28	実践保健指導総論Ⅰヘルス・コミュニケーションの理論と実際について学習する。	実習	邵	事前配布された資料により学習する。
29～32	実践保健指導総論Ⅱ健康心理学および行動理論の基礎について学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
33～36	実践保健指導各論Ⅰ食育・食行動と健康支援について学習する。	実習	角田	事前配布された資料により学習する。
37～41	実践保健指導各論Ⅱ禁煙指導プログラムと健康支援について学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。事後レポートの提出
42～45	ライフステージに応じた健康支援・保健指導（Ⅰ）母子・妊産婦・子育て期から学童・思春期における健康支援・保健指導の知識とノウハウを学習する。	実習	茂山	事前配布された資料により学習する。
46～48	ライフステージに応じた健康支援・保健指導（Ⅱ）成人期・職場および高齢期における健康支援・保健指導の知識とノウハウを学習する。	実習	茂山	事前配布された資料により学習する。
49～54	地域包括システムにおける多職種連携の現場を経験し、知識とノウハウを学習する。	実習	安細	事後レポートの提出
55～58	チーム医療の現場における周術期管理に関する知識とノウハウを学習する。	実習	片岡	事後レポートの提出
59～60	災害時の歯科保健医療歯科としての災害時健康危機支援対策の実際を学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。事後レポートの提出

2023年度

地域口腔保健医療学演習Ⅰ (Practice in Community Oral HealthⅠ)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細敏弘						
担当教員	安細 敏弘, 邵 仁浩, 角田 聡子, 片岡 正太, 茂山 博代						

授業の概要

講義では、口腔健康学関連の研究に必要な疫学理論、生物学的統計の基本的知識と技能を修得し、臨床疫学、環境疫学など様々なテーマを付け加えた疫学の応用研究に対応できる能力を養う。演習では、事例に基づいたデータを用い、統計ソフトの取り扱いとともに記述疫学的方法論、分析疫学的方法論、因果関係の判定法およびベイズ統計モデリングの基礎について修得する。

学生の到達目標

①疫学における統計学の役割を説明できる。②保健医療事象の実態を明らかにするための記述疫学的手法を説明できる。③保健医療事象にかかわる要因を明らかにする分析疫学的手法を説明できる。④疫学における交絡および因果関係を説明できる。⑤統計ソフトSPSSやRを使用し、データの解析を実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的方法論 第4版		メディカルサイエンスインターナショナル; 第4版 (2014/9/1)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	60%
プレゼンテーション	40%

事後レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)で評価する。点数配分：事後レポート10点×6回、プレゼンテーション20点×2回、合計100点満点。

その他

学生相談：随時

2023年度

地域口腔保健医療学演習Ⅰ (Practice in Community Oral HealthⅠ)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細敏弘						
担当教員	安細 敏弘, 邵 仁浩, 角田 聡子, 片岡 正太, 茂山 博代						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	疫学理論1 変数の種類と確率分布変数の種類と要約、信頼区間ならびに確率変数・確率分布について学習する。	講義	安細	事前配布された資料により学習する。
2	疫学理論2 群間比較と有意水準群間比較の手法、有意水準ならびに第1種・第2種の過誤について習得する。	講義	茂山	事前配布された資料により学習する。
3	疫学理論3 多重比較多重比較の種類ならびに用いる場合の問題点について学習する。	講義	茂山	事前配布された資料により学習する。
4	疫学理論4 バイアスと交絡、外的妥当性および内的妥当性、いわゆるCBCについて学習する。	講義	安細	事前配布された資料により学習する。
5	疫学理論5 EBMと臨床研究、研究デザインEBMの5つのステップならびにクリニカルクエスト、臨床研究の種類、臨床研究のための国際ルールについて学習する。	講義	安細	事前配布された資料により学習する。
6	口腔保健医療行政の保健医療事業評価口腔保健医療事業評価について、効果・効用・便益を踏まえながら評価の考え方を学習する。	講義	安細	事前配布された資料により学習する。
7	口腔保健医療データ解析1 要約統計量具体的データを用いて、SPSSの操作を踏まえながら要約統計量について学習する。	演習	角田	事前配布された資料により学習する。事後レポートを提出する。
8	口腔保健医療データ解析2 単変量解析と多変量解析具体的データを用いて、SPSSの操作を踏まえながら単変量解析と多変量解析、変数選択法の種類について学習する。	演習	角田	事前配布された資料により学習する。事後レポートを提出する。
9	口腔保健医療データ解析3 相関と回帰具体的データを用いて、SPSSの操作を踏まえながら相関と回帰について学習する。	演習	角田	事前配布された資料により学習する。事後レポートを提出する。
10	口腔保健医療データ解析4 交絡制御具体的データを用いて、SPSSの操作を踏まえながら交絡因子の統計学的調整と交互作用について学習する。	演習	邵	事前配布された資料により学習する。事後レポートを提出する。
11	口腔保健医療データ解析5 多重Cox比例ハザードモデル具体的データを用いて、SPSSの操作を踏まえながら多重Cox比例ハザードモデルについて学習する。	演習	邵	事前配布された資料により学習する。事後レポートを提出する。
12	ベイズ統計学の基本Ⅰ ベイズ統計学の考え方と特徴について頻度統計学との比較を含めて学習する。	演習	片岡	事前配布された資料により学習する。事後レポートを提出する。
13	ベイズ統計学の基本Ⅱ ベイズ推論とMCMCの基本について学習する。	演習	片岡	事前配布された資料により学習する。事後レポートを提出する。
14	ベイズ統計学の基本Ⅲ ベイズ統計を用いた研究例の紹介ならびにStanの使い方の基本について学習する。	演習	片岡	事前配布された資料により学習する。

2023年度

地域口腔保健医療学演習Ⅰ (Practice in Community Oral HealthⅠ)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細敏弘						
担当教員	安細 敏弘, 邵 仁浩, 角田 聡子, 片岡 正太, 茂山 博代						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
15	研究仮説発表会 口腔保健医療分野で興味のあるテーマについて文献を検索し、研究仮説の設定について学習し、発表する。	演習	安細	当日のプレゼンテーションおよび事後レポートを提出する。

2023年度

地域口腔保健医療学演習 II (Practice in Community Oral Health II)

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細敏弘						
担当教員	安細 敏弘, 片岡 正太						

授業の概要

科学的な報告は高い水準で行わなければならない。本講義・演習では、口腔健康学関連の研究に必要な疫学・統計学の基本的知識と技能を修得した者を対象とし、統計解析で得られた知見を明確かつ適切に報告する技術を習得することを目的とする。学会発表、論文執筆に役立つ実践的なスキルを修得する。

学生の到達目標

①ヘルスサイエンスにおける効果的なデータ報告の方法を身につけ対応できる。②数値と記述統計量の報告の基本と応用を身につけ対応できる。③図表を用いたデータと統計量の効果的な提示法を身につけ対応できる。④ヘルスサイエンスにおける効果的な発表の方法を身につけ対応できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
プリント配布		

参考書

タイトル	著者	出版社
研究の育て方	近藤克則	医学書院
臨床研究と疫学研究のための国際ルール集PART1・PART2	中山健夫、ほか	ライフサイエンス出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	40%
プレゼンテーション	40%
ディスカッション	20%

その他

学生相談：随時

2023年度

地域口腔保健医療学演習 II (Practice in Community Oral Health II)

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細敏弘						
担当教員	安細 敏弘, 片岡 正太						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	論文の構成と論文執筆の基本論文を書くにあたっての基本について学ぶ。	講義	安細	事前配布された資料により学習する。
2	図表の作り方結果の記述ならびに効果的な図表の作成方法の基本について学ぶ。	演習	安細	事前配布された資料により学習する。
3	考察と結論の考え方と書き方考察ならびに結論の書き方のポイントおよび全体の推敲の手順について学ぶ。	講義	安細	事前配布された資料により学習する。
4	論文投稿および査読プロセス作成した論文の投稿先の選び方やオーサーシップならびに査読結果の読み方・対応方法の基本について学ぶ。	講義	安細	事前配布された資料により学習する。
5	論文掲載に関わる出版および編集におけるルール論文の訂正や不正、重複出版ないし二次出版等に関わる問題と対応について学ぶ。	講義	安細	事前配布された資料により学習する。
6, 7	学会発表の事前準備と事後への対応学会発表にあたっての資料や原稿作成、予行演習等の事前準備、当日の発表と質疑応答の作法について学ぶ。	講義	安細	事前配布された資料により学習する。
8, 9	ヘルスサイエンスにおける発表の方法 1 効果的なポスター発表の方法を学ぶ。	演習	片岡	事前配布された資料により学習する。事後レポートを提出する。
10, 11	ヘルスサイエンスにおける発表の方法 2 効果的なスライド発表の方法を学ぶ。	演習	片岡	事前配布された資料により学習する。
12, 13	研究助成申請書の書き方研究助成の探し方ならびに申請書作成上のポイント等について学ぶ。	講義	安細	事前配布された資料により学習する。
14	研究倫理に関する指針ヘルシンキ宣言およびわが国における医学研究に関する指針、倫理審査委員会のしくみや倫理審査申請書の書き方について学ぶ。	講義	安細	事前配布された資料により学習する。事後レポートを提出する。
15	まとめプレゼンテーション・ディスカッションの結果を受講生にフィードバックする。	演習	安細	事前配布された資料により学習する。

2023年度

地域口腔保健医療学特論Ⅰ (Current Topics in Community Oral HealthⅠ)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘, 角田 聡子, 片岡 正太, 茂山 博代						

授業の概要

予防歯科(口腔衛生)学関連、公衆衛生学関連、臨床栄養関連ならびに疫学関連の研究の動向を理解するために最新の文献の科学的読み方、論文の書き方およびプレゼンテーションの技法について演習を通じて修得する。

学生の到達目標

1. 英語文献を理解し、検証する能力を養うことができる。2. 文献検索の方法を修得することができる。3. 科学論文の作成やプレゼンテーションのポイントを修得することができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
関連分野の文献および参考書等必要なものを用意する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
説明した論文の理解度	50%
プレゼンテーション	30%
ディスカッション時の発言内容	20%

その他

学生相談：随時 但し事前にメール等で予約必要

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	研究の背景、内容、今後の展望を理解する。目的にあった文献を検索し、理解し、まとめ、資料を作成し、プレゼンテーションを行う。	文献紹介および討論 (Microsoft Teams)	安細、角田、片岡、茂山	担当者が準備した資料により学習する。

2023年度

歯科と全身疾患 (Internal Medicine for Dentistry)

開講年次	1～4年	期区分	後期	必修/選択	副科目 (研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中道 郁夫						
担当教員							

授業の概要

歯科診療の質を向上するために、合併する全身疾患を念頭に置く事は重要なことである。本講義においては、代表的な内科疾患の病態・診断・治療を学ぶ。次に全身の病態と歯科疾患との関連性について討論を行うことにより知識を整理する。また、共通の病態（基礎医学）を学ぶことにより、歯学研究に新たな視点が生まれる。

学生の到達目標

1. 代表的全身疾患の病態・診断・治療を理解できる。
2. 歯科診療に影響を与える全身の病態が理解できる。
3. 全身疾患に影響を与える歯科診療の予想ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
毎回テーマに沿った動画資料を用いる。		

参考書

タイトル	著者	出版社
歯科のための内科学		南江堂

成績評価方法・基準

評価項目	割合
討論と発表	100%

討論と発表をルーブリックで評価し、100点を満点とする。

その他

【オフィスアワー】メールで随時受け付ける。

2023年度

歯科と全身疾患 (Internal Medicine for Dentistry)

開講年次	1～4年	期区分	後期	必修/選択	副科目 (研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中道 郁夫						
担当教員							

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	循環の領域：不整脈、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心不全、高血圧について学ぶ。 【事前学習課題】心電図	講義・討論	中道	参考書を読む
2	血液の領域：貧血、白血病、止血機構、血栓・塞栓症、血友病（凝固因子）について学ぶ。 【事前学習課題】抗凝固・抗血小板薬	講義・討論	中道	参考書を読む
3	呼吸の領域：気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、かぜ症候群、肺炎、肺結核について学ぶ。 【事前学習課題】感冒と肺炎の違い	講義・討論	中道	参考書を読む
4	消化の領域：胃炎、消化性潰瘍、過敏性腸症候群、下痢・便秘、肝炎について学ぶ。 【事前学習課題】薬の副作用	講義・討論	中道	参考書を読む
5	代謝の領域：糖尿病、高脂血症、高尿酸血症（痛風）、骨粗鬆症について学ぶ。 【事前学習課題】生活習慣病	講義・討論	中道	参考書を読む
6	腎・泌尿器の領域：糸球体腎炎、腎不全、血液透析、前立腺肥大症について学ぶ。 【事前学習課題】eGFRとは	講義・討論	中道	参考書を読む
7	運動・神経の領域：てんかん、パーキンソン病、認知症、脳卒中について学ぶ。 【事前学習課題】脳卒中の後遺症	講義・討論	中道	参考書を読む
8	精神の領域：統合失調症、気分障害（抑うつ）、神経症、心身症について学ぶ。 【事前学習課題】精神疾患への対応	講義・討論	中道	参考書を読む
9	免疫の領域：アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全（AIDS）について学ぶ。 【事前学習課題】細胞性免疫、液性免疫	講義・討論	中道	参考書を読む
10	悪性新生物：悪性腫瘍の概要、胃癌、大腸癌、肝癌、肺癌、乳癌、子宮癌について学ぶ。 【事前学習課題】癌の最新治療や末期癌への対応	講義・討論	中道	参考書を読む

2023年度

高血圧患者の診かた (Diagnosis and Treatment of Hypertension)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	副科目 (研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代						

授業の概要

日本人の中で最も患者数の多い疾患である高血圧は歯科患者においても高率に合併している疾患である。高血圧およびその臓器障害、合併症の理解を深めるとともに内科にて実施している検査と診断方法について学ぶ。さらに、周術期の血圧管理について修得する。特に歯科麻酔科や口腔外科にて診療している大学院生に受講を勧める。

学生の到達目標

1. 高血圧の疫学について説明できる。
2. 血圧調節の仕組みについて説明できる。
3. 降圧薬の種類と特徴について説明できる。
4. 高血圧の臓器合併症（脳卒中・虚血性心臓病・慢性腎臓病）を説明できる。
5. 高齢者高血圧の特徴とその治療について説明できる。
6. 糖尿病やメタボリック症候群と高血圧のかかわり、治療について説明できる。
7. 高血圧に伴う臓器障害の検査法（尿検査、血液検査、眼底検査、心電図、心エコー）を、実習を通して修得する。
8. 歯科治療時の血圧変動について説明できる。
9. 周術期の血圧管理を修得する。

テキスト

タイトル	著者	出版社
高血圧治療ガイドライン2019		日本高血圧学会

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
議論、プレゼンテーション	100%

討論、プレゼンテーションの評価には、ルーブリック評価を行う。

その他

学生相談：随時

2023年度

高血圧患者の診かた (Diagnosis and Treatment of Hypertension)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	副科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	総論高血圧の疫学と現況について学ぶ。バイタルサインの測定。実際にバイタルサインを測定する。	講義・実習	福原	テキストを用いた予習・復習 キーワード：高血圧の疫学、バイタルサイン
2	血圧調節神経性の調節と体液調節の仕組みを学ぶ。歯科治療時の血圧変動。	講義・実習	福原	テキストを用いた予習・復習 キーワード：血圧調節、血圧変動
3	高血圧と臓器合併症：高血圧と脳・心・腎疾患との関連を学ぶ。高血圧の臓器合併症の評価I：尿と血液検査結果を判定する。眼底検査を体験する。	講義・実習	福原	テキストを用いた予習・復習 キーワード：臓器障害
4	高血圧の臓器合併症の評価II：心電図検査、胸写。脈波伝搬速度を体験する。エコーの原理を理解する。	講義・実習	福原	テキストを用いた予習・復習 キーワード：心電図、胸写、エコー検査
5	高血圧の臓器合併症の評価III： 頸部エコー① 心エコー①	講義・実習	福原	テキストを用いた予習・復習 キーワード：エコー検査
6	高血圧の臓器合併症の評価IV：頸部エコー②心エコー②腹部エコー	講義・実習	福原	テキストを用いた予習・復習 キーワード：エコー検査
7	高血圧と治療1： 治療の基本方針とリスクの層別化を学ぶ。生活習慣の修正について学ぶ。	講義・実習	福原	テキストを用いた予習・復習 キーワード：生活習慣
8	高血圧と治療2：降圧薬治療について学ぶ。治療抵抗性高血圧について学ぶ。	講義・実習	福原	テキストを用いた予習・復習 キーワード：降圧薬
9	合併症のある高血圧の治療： 糖尿病、メタボリック症候群、睡眠時無呼吸症候群	講義	福原	テキストを用いた予習・復習 キーワード：糖尿病
10	高齢者の高血圧について学ぶ。高血圧と認知症について学ぶ。	講義	福原	テキストを用いた予習・復習 キーワード：高齢者
11	外科手術前後の血圧管理を修得する。	講義	福原	テキストを用いた予習・復習 キーワード：周術期
12	症例検討1	演習	福原	テキスト 臨床症例
13	症例検討2	演習	福原	テキスト 臨床症例
14	症例検討3	演習	福原	テキスト 臨床症例
15	症例検討4	演習	福原	テキスト 臨床症例

2023年度

内科学入門 (Introduction of Internal Medicine)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	副科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代						

授業の概要

歯科医師が歯科医療を行う患者さんの多くは全身疾患を合併している。特に高齢者においては複数の全身疾患を合併している。その全身疾患のなかで歯科診療時に注意する必要があるものの大部分は内科疾患である。この「内科学入門」では、一冊の本「歯科医師のための内科学」(2021年出版)を用いて、歯科医師にとって必要な内科学の知識について学ぶ。内科学をもう一度復習し日常で診療している歯科患者さんの診療に役立ててもらいたい。状況により遠隔授業を活用する。

学生の到達目標

1. 内科診断学の概論を説明できる。
2. 循環器疾患を説明できる。
3. 呼吸器疾患を説明できる。
4. 消化器疾患を説明できる。
5. 代謝・内分泌疾患を説明できる。
6. 神経・筋疾患を説明できる。
7. 血液疾患を説明できる。
8. 腎疾患を説明できる。
9. 膠原病疾患を説明できる。
10. 高齢者医学・心身症を説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
「歯科医師のための内科学」		医歯薬出版

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
討論、プレゼンテーション	45%
テスト	55%

討論、プレゼンテーションの評価には、ルーブリック評価を行う。

その他

学生相談：随時

2023年度

内科学入門 (Introduction of Internal Medicine)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	副科目 (研究)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	内科学の基本的事項：診断、問診、診察、カルテ記載、バイタルサイン、検査等を説明できる。	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；診察、症候
2	呼吸器疾患： 主要症候、検査法。 呼吸器感染症、閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群を説明できる。	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息
3	内分泌疾患： 主要症候、検査法。 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能亢進症、副腎機能低下症を説明できる。	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；甲状腺疾患、副腎疾患
4	循環器疾患1： 主要症候と検査法。 心筋梗塞、狭心症、心不全を説明できる。	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；心筋梗塞、狭心症、心不全
5	循環器疾患2： 感染性心内膜炎、高血圧症、不整脈、循環器薬とその作用を説明できる。	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；感染性心内膜炎、高血圧症、不整脈
6	消化器疾患： 主要症候と検査法。 胃・十二指腸潰瘍、急性・慢性肝炎、針刺し事故、肝硬変を説明できる。	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；胃潰瘍、針刺し事故、肝炎、肝硬変
7	悪性疾患、周術期： 肺癌、胃癌、大腸癌、周術期を説明できる。	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；肺癌、胃癌、大腸癌
8	代謝疾患： 主要症候と検査法。 糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症を説明できる。	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；糖尿病
9	腎疾患： 主要症候、検査法、 水・電解質調節、輸液、慢性腎臓病、腎不全を説明できる。	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；輸液、慢性腎臓病、腎不全
10	血液疾患： 主要症候と検査法。 貧血、白血病、無顆粒球症、悪性リンパ腫、血小板減少性紫斑病、血友病を説明できる。	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；貧血、白血病、血小板減少性紫斑病、血友病
11	神経・筋疾患： 主要症候、診察法、検査法。 脳血管障害、認知症、てんかん、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症を説明できる。	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；脳血管障害、認知症、てんかん、パーキンソン病

2023年度

内科学入門 (Introduction of Internal Medicine)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	副科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
12	自己免疫疾患： 主要症候と検査法。 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、多発性筋炎、シェーグレン症候群、ベーチェット病、アレルギーを説明できる。	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、ベーチェット病、アレルギー
13	高齢者医学・歯科心身症：高齢者の病気の特徴、高齢者の薬物療法、舌痛症、口臭症などを学ぶ。	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；高齢者、老化
14	感染症： 肝炎、菌交代現象、AIDS	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；肝炎、菌交代現象、AIDS
15	内科疾患を合併した患者の歯科治療	講義と討論 小テスト	福原	テキストを用いた学習 キーワード；内科疾患を合併した患者の歯科治療

2023年度

小児歯科学 I (ベーシックコース) (Pediatric Dentistry I (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂						
	渡辺 幸嗣 西田 郁子 藤田 祐子 佐伯 桂						

授業の概要

小児期において心身の成長発育を考慮した継続的管理を行い、正常な永久歯列への誘導を行える包括的な知識、技術および技能を習得する。

学生の到達目標

- 1.小児の対応ができる
- 2.齲蝕治療ができる
- 3.予防処置および保健指導ができる
- 4.外傷歯の処置ができる
- 5.外科的処置ができる
- 6.非協力児、障害児の歯科治療ができる
- 7.咬合育成処置ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
小児歯科学	白川哲夫 他	医歯薬出版株式会社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試問 (Teamsによる) (評価表は学生に配布)	30%
ケースプレゼンテーション (Teamsによる) (評価表は学生に配布)	30%
単位認定試験 (Moodleによる)	40%

100点満点中60点以上を合格とし、秀 (100～90)、優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点) とする。

その他

[オフィスアワー]
 随時メールで受け付ける
 渡辺、西田

2023年度

小児歯科学Ⅰ（ベーシックコース）（Pediatric DentistryⅠ（Basic Course））

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂						
	渡辺 幸嗣 西田 郁子 藤田 祐子 佐伯 桂						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	医療面接Ⅰ 医療面接について主訴の聞き取りを踏まえながら患者や保護者の病気に対する考え方を学ぶ	実習ロールプレイ学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 医療面接 小児の心身の発育 【事後学習課題】 内容復習
3,4	小児患者への行動変容療法Ⅰ 行動変容について年齢別対応を踏まえながら対応法を学ぶ	実習ロールプレイ学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 小児の心身の発育・行動変容療法 【事後学習課題】 内容復習
5,6	エックス線撮影Ⅰ エックス線撮影について口内法、咬翼法、パノラマエックス線写真を踏まえながら画像診断を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 エックス線撮影法 小児患者の画像診断 【事後学習課題】 内容復習
7,8	印象採得 印象採得についてスタディモデルの作製を踏まえながら小児の口腔の発達を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 印象採得 小児の口腔の発育 【事後学習課題】 内容復習
9,10	治療計画の立案 治療計画の立案について医療面接、エックス線写真、スタディモデルを用いた治療計画を踏まえながら診断・治療方針を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 小児患者の診察・診断・治療方針 【事後学習課題】 内容復習
11,12	試問1 ディスカッションケースプレゼンテーション	試問Teamsによる	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 これまでの資料の確認 【事後学習課題】 内容復習
13,14	局所麻酔Ⅰ 局所麻酔について模型実習を踏まえながら小児患者への局所麻酔を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 局所麻酔 【事後学習課題】 内容復習
15,16	ラバーダム防湿法 ラバーダム防湿法について乳歯、半萌出歯、永久歯への対応を踏まえながら手順・要点を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 ラバーダム防湿法 【事後学習課題】 内容復習

2023年度

小児歯科学Ⅰ（ベーシックコース）（Pediatric DentistryⅠ（Basic Course））

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂						
	渡辺 幸嗣 西田 郁子 藤田 祐子 佐伯 桂						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
17,18	乳歯の歯冠修復Ⅰ 乳歯の歯冠修復について乳歯の特徴を踏まえながらコンポジットレジン修復、セメント修復を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 乳歯の特徴 歯冠修復 【事後学習課題】 内容復習
19,20	幼若永久歯の歯冠修復Ⅰ 幼若永久歯の歯冠修復について幼若永久歯の特徴を踏まえながらコンポジットレジン修復、セメント修復を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 幼若永久歯の特徴 歯冠修復 【事後学習課題】 内容復習
21,22	乳歯へのインレー修復 乳歯へのインレー修復についてWilletの窩洞を踏まえながら乳歯へのインレー窩洞形成を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 乳歯へのインレー窩洞形成 【事後学習課題】 内容復習
23,24	既製乳歯冠修復 既製乳歯冠修復について既製乳歯冠・鑄造冠の特徴を踏まえながら修復法を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 既製乳歯冠 鑄造冠 【事後学習課題】 内容復習
25,26	乳歯、幼若永久歯への覆髄法 乳歯、幼若永久歯への覆髄法について覆髄剤を踏まえながら治療法を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 覆髄法 【事後学習課題】 内容復習
27,28	乳歯への生活歯髄切断法 乳歯への生活歯髄切断法について水酸化カルシウム法を踏まえながら術式を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 生活歯髄切断法 【事後学習課題】 内容復習
29,30	小児歯科における歯内療法 抜髄法、感染根管処置、根管充填法抜髄法、感染根管処置、根管充填法について使用器具を踏まえながら術式を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 抜髄法 感染根管処置 根管充填法 【事後学習課題】 内容復習
31,32	試問2ディスカッション	試問Teamsによる	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 これまでの資料の確認 【事後学習課題】 内容復習
33,34	歯周疾患の診断と処置 歯周疾患の診断と処置について症状を踏まえながら治療法を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 小児期の歯周疾患 診断 処置 【事後学習課題】 内容復習

2023年度

小児歯科学 I (ベーシックコース) (Pediatric Dentistry I (Basic Course))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂						
	渡辺 幸嗣 西田 郁子 藤田 祐子 佐伯 桂						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
35,36	外傷歯の診断 外傷歯の診断について外傷歯への固定法等を踏まえながら術式を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 診断 固定法 予後 【事後学習課題】 内容復習
37,38	抜歯 I 抜歯について乳歯の交換期・病的乳歯の症状を踏まえながら術式を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 診断 抜歯法 【事後学習課題】 内容復習
39,40	消炎処置 消炎処置について開窓・膿瘍切開等を踏まえながら術式を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 診断 開窓 切開 【事後学習課題】 内容復習
41,42	試問3 ディスカッション	試問Teamsによる	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 これまでの資料の確認 【事後学習課題】 内容復習
43,44	予防処置 I 予防処置について小窩裂溝填塞法を踏まえながら術式を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 小窩裂溝填塞法 【事後学習課題】 内容復習
45,46	予防処置 II 予防処置についてブラッシング指導を踏まえながらフッ化物の応用法を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 予防処置 保健指導 【事後学習課題】 内容復習
47,48	非協力児への対応法 非協力児への対応法について抑制法、笑気吸入鎮静法を踏まえながら対応法を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 抑制法 笑気吸入鎮静法 【事後学習課題】 内容復習
49,50	咬合誘導診断および保護者への説明法 咬合誘導診断について保護者への説明を踏まえながら診断・治療計画を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 診断 治療計画および説明 【事後学習課題】 内容復習
51,52	咬合誘導装置の作製 I 咬合誘導装置の作製について保隙装置の特徴を踏まえながらクラウンループ、リソナルアーチ、小児義歯の作成法を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 保隙装置 【事後学習課題】 内容復習

2023年度

小児歯科学 I (ベーシックコース) (Pediatric Dentistry I (Basic Course))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂						
	渡辺 幸嗣 西田 郁子 藤田 祐子 佐伯 桂						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
53,54	咬合誘導装置の作製 II 咬合誘導装置の作製について口腔習癖を踏まえながら口腔習癖除去装置作成法を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 スペースリゲイナー 【事後学習課題】 内容復習
55,56	障害児への歯科治療 障害児への歯科治療について各疾患の特徴を踏まえながら対応法を学ぶ	実習学生を半分に分けて行う。	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 障害児 【事後学習課題】 内容復習
57,58	試問4 ディスカッション	試問Teamsによる	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 これまでの資料の確認 【事後学習課題】 内容復習
59,60	ケースプレゼンテーション単位認定試験	試問Teamsによる	渡辺、西田、 藤田、佐伯	【事前学習課題】 これまでの資料の確認 【事後学習課題】 内容復習

2023年度

小児歯科学 II (アドバンスコース) (Pediatric Dentistry II (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂, 渡辺 幸嗣						

授業の概要

小児期において心身の成長発育を考慮した継続的管理を行い、正常な永久歯列への誘導を行える包括的な知識、技術および技能を習得する。

学生の到達目標

- 1.小児の対応ができる
- 2.齲蝕治療ができる
- 3.予防処置および保健指導ができる
- 4.歯牙外傷の処置ができる
- 5.外科的処置ができる
- 6.非協力児、障害児の歯科治療ができる
- 7.咬合育成処置ができる
- 8.1口腔1単位を基本とした処置を行うことができる
- 9.発育を考慮した継続的管理を実施できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
小児歯科学	白川 哲夫 飯沼 光生 福本 敏	医歯薬出版株式会社

参考書

タイトル	著者	出版社
小児の口腔科学	朝田芳信 他	

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーション (Teams) (評価表は学生に配布)	30%
試問 (Teams) (評価表は学生に配布)	30%
単位認定試験 (moodle)	40%

秀 (100～90)、優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点) を合格とする。

その他

[オフィスアワー]
 随時メールで受け付ける
 渡辺、西田

2023年度

小児歯科学 II (アドバンスコース) (Pediatric Dentistry II (Advanced Course))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂, 渡辺 幸嗣						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	医療面接 II 患者や保護者の不安、不満への対応を踏まえてチームアプローチ、他の医療機関への紹介を学ぶ。	実習ロールプレイ学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・医療面接 ・隣接医学 【事後学習課題】 実習内容
3,4	小児患者への行動変容療法 II 小児の性格および親子関係を踏まえながら対応法を学ぶ。	実習ロールプレイ学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・小児の心身の発育 ・行動変容療法 【事後学習課題】 実習内容
5,6	エックス線撮影 II エックス線規格写真、頭部エックス線写真の撮影および読影分析を踏まえながら画像診断を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・エックス線撮影法 ・小児患者の画像診断 【事後学習課題】 実習内容
7,8	口腔内写真撮影法 口腔内写真撮影および継続的管理を踏まえながら資料作製管理を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・口腔内写真 ・小児の口腔の発育 【事後学習課題】 実習内容
9,10	全身管理 全身疾患を有する小児への薬物適用を踏まえながら全身管理を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・薬物療法 ・全身疾患 【事後学習課題】 実習内容
11,12	試問1 ディスカッションケースプレゼンテーション	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 症例検討 【事後学習課題】 実習内容
13,14	局所麻酔 II 局所麻酔時の合併症への対応を踏まえながら局所麻酔を行うことを学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・局所麻酔 ・合併症 【事後学習課題】 実習内容

2023年度

小児歯科学 II (アドバンスコース) (Pediatric Dentistry II (Advanced Course))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂, 渡辺 幸嗣						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
15,16	乳歯の歯冠修復 II 乳歯の特徴を踏まえながらレジンジャケット冠による歯冠修復を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・乳歯の特徴 ・レジンジャケット冠 【事後学習課題】 実習内容
17,18	小児期の歯冠修復 小児への最適な処置法の選択および継続的管理を踏まえながら小児期の歯冠修復を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・歯冠修復法 ・継続的管理 【事後学習課題】 実習内容
19,20	幼若永久歯への暫間的間接覆髄法 幼若永久歯の特徴を踏まえながら暫間的間接覆髄法を学ぶ	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・幼若永久歯 ・暫間的間接覆髄法 【事後学習課題】 実習内容
21,22	幼若永久歯への歯内療法 幼若永久歯への歯内療法適応症、術式を踏まえながらアペキソゲネーシス、アペキシフィケーションを学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・幼若永久歯 ・歯内療法 【事後学習課題】 実習内容
23,24	歯髄・根尖歯周組織疾患の急性症状への診断および処置 乳歯・幼若永久歯の特徴、適応症、術式を踏まえながら歯髄・根尖歯周組織疾患の急性症状への診断および処置を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・急性症状 ・診断および処置法 【事後学習課題】 実習内容
25,26	歯の変色 変色歯に対する診断および処置変色歯の原因を踏まえながら診断、処置を行う。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・変色歯 ・診断および処置法 【事後学習課題】 実習内容
27,18	乳歯と幼若永久歯の難治症例 乳歯・幼若永久歯の特徴、適応症、術式を踏まえながら歯髄・根尖歯周組織疾患の難治症例への対応法を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・難治症例 ・診断および処置法 【事後学習課題】 実習内容

2023年度

小児歯科学 II (アドバンスコース) (Pediatric Dentistry II (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂, 渡辺 幸嗣						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
29,30	試問2ディスカッション	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・症例検討 【事後学習課題】 実習内容
31,32	小児の歯周疾患 小児の歯周疾患の特徴を踏まえながら小児期の歯周病の継続的な管理を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・歯周外科 ・継続的管理 【事後学習課題】 実習内容
33,34	外傷 (固定) 外傷歯への固定法外傷歯の固定法の種類を踏まえながら混合歯列期の固定法を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・診断 ・固定法 ・予後 【事後学習課題】 実習内容
35,36	外傷 (再植) 外傷歯への処置再植歯の適応を踏まえながら再植を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・外傷歯 ・再植 ・矯正の挺出 【事後学習課題】 実習内容
37,38	拔牙 II 埋伏過剰歯の診査、診断を踏まえながら拔牙法を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・拔牙法 ・埋伏過剰歯 【事後学習課題】 実習内容
39,40	外科処置 嚢胞、腫瘍、軟組織疾患への診断および対応を踏まえながら小児期の外科処置を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・外科処置 【事後学習課題】 実習内容
41,42	試問3ディスカッション	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・症例検討 【事後学習課題】 実習内容
43,44	咬合誘導装置の作製 III スペースリゲイナーの適応症を十分考慮して作成法を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・スペースリゲイナー 【事後学習課題】 実習内容

2023年度

小児歯科学 II (アドバンスコース) (Pediatric Dentistry II (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂, 渡辺 幸嗣						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
45,46	咬合誘導装置の作製 ムーシールドの適応症を十分考慮して作成法を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・ムーシールド 【事後学習課題】 実習内容
47,48	筋機能訓練 筋機能訓練の必要な患児の適応症を踏まえて金機能訓練法を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・筋機能訓練 【事後学習課題】 実習内容
49,50	障害児の歯科治療 II 障害児への歯科治療について各疾患の特徴を踏まえながら対応法を学ぶ	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・障害児 ・行動調整 ・歯科治療 【事後学習課題】 実習内容
51,52	全身麻酔下歯科治療 小児の特性、全身状態を十分考慮して全身麻酔下歯科治療を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・全身麻酔 【事後学習課題】 実習内容
53,54	口腔内管理 発達段階を十分考慮して口腔内管理の実施を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・発育段階 ・口腔内管理 【事後学習課題】 実習内容
55,56	母子保健活動 妊産婦への予防活動、小児の摂食指導を踏まえながら母子保健指導を学ぶ。	実習学生は3つのグループに分かれて実習を受けることとする。	渡辺、西田	【事前学習課題】 教科書の復習 ・妊産婦 ・母子保健 【事後学習課題】 実習内容
57,58	試問4 ディスカッション	遠隔授業 (Teams)	渡辺、西田	【事前学習課題】 ・症例検討 【事後学習課題】 実習内容
59,60	ケースプレゼンテーション単位認定試験	遠隔授業 (Teams)	渡辺、西田	【事前学習課題】 ・症例検討 【事後学習課題】 実習内容

2023年度

口腔機能発達学Ⅰ (Developmental Stomatognathic Function ScienceⅠ)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂, 渡辺 幸嗣						
	渡辺 幸嗣 西田 郁子 藤田 優子 佐伯 桂						

授業の概要

包括治療である小児歯科治療に関し、基礎的内容から最新の先端医療に関する講義を担当教員が行う。また学生は、関連の内容の文献を整理、分析してプレゼンテーションを行う。

学生の到達目標

- 1.小児歯科臨床全般に知識を深め、理解できる
- 2.小児歯科臨床を行うにあたって基礎(解剖、組織等)を理解できる
- 3.プレゼンテーションのための資料作成法を習得し、実践できる
- 4.研究のための関連の文献の収集と整理分析を行うことができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
小児歯科学	白川 哲夫 飯沼 光生 福本 敏	医歯薬出版株式会社

参考書

タイトル	著者	出版社
小児の口腔科学	朝田芳信 他	

成績評価方法・基準

評価項目	割合
単位認定試験	100%

単位認定試験により100点満点中60点以上を合格とし、秀(100～90)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)とする。

その他

[オフィスアワー]
随時メールで受け付ける
渡辺、西田

2023年度

口腔機能発達学 I (Developmental Stomatognathic Function Science I)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂, 渡辺 幸嗣						
	渡辺 幸嗣 西田 郁子 藤田 優子 佐伯 桂						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション	遠隔講義(Teams)	渡辺	【事前学習課題】 教科書の復習 小児歯科概論 ・小児歯科学の意義 【事後学習課題】 講義内容
2	歯および歯列の成長発育 歯および歯列の成長発育を踏まえて臨床との関わりを学ぶ。	遠隔講義(Teams)	藤田	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 ・成長 ・発達 【事後学習課題】 講義内容
3	歯の萌出のメカニズム 歯の形成と萌出の関わりを踏まえて基礎的なメカニズムを学ぶ。	遠隔講義(Teams)	渡辺	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 ・歯の発生 【事後学習課題】 講義内容
4	乳歯の歯内療 法乳歯の特徴を踏まえて歯内療法の留意点を学ぶ。	遠隔講義(Teams)	佐伯	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 ・乳歯の歯髄炎 ・乳歯の根尖性歯周炎 【事後学習課題】 講義内容
5	幼若永久歯の歯内療法 幼若永久歯の特徴を踏まえて歯内療法の留意点を学ぶ。	遠隔講義(Teams)	西田	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 ・アペキシゲネーシス ・アペキシフィケーション 【事後学習課題】 講義内容
6	小児期の外傷 乳歯列期、幼若永久歯の外傷の特徴を踏まえて固定法、修復、歯内療法を学ぶ。	遠隔講義(Teams)	西田	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 ・乳歯の外傷 【事後学習課題】 講義内容
7	受動的な咬合誘導 保険装置の重要性を踏まえながら臨床例を学ぶ。	遠隔講義(Teams)	藤田	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 ・静的咬合誘導 【事後学習課題】 講義内容

2023年度

口腔機能発達学 I (Developmental Stomatognathic Function Science I)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂, 渡辺 幸嗣						
	渡辺 幸嗣 西田 郁子 藤田 優子 佐伯 桂						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
8	能動的咬合誘導 スペースリゲーターや習癖防止装置などの適応症、作成方法を踏まえながら臨床例を学ぶ。	遠隔講義(Teams)	佐伯	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 ・動的咬合誘導 【事後学習課題】 講義内容
9	乳歯及び幼若永久歯の歯冠修復 乳歯及び幼若永久歯の特徴を踏まえながら歯冠修復方法を学ぶ。	遠隔講義(Teams)	西田	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 ・暫間的間接覆髄法 【事後学習課題】 講義内容
10	障害者(児) 歯科治療 障害者(児) 歯科治療の特徴を踏まえながら障害者(児) 歯科治療を学ぶ。	遠隔講義(Teams)	渡辺	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 ・障害者(児)の歯科的対応法 【事後学習課題】
11	小児の外傷歯の対応 小児の外傷歯の対応を学ぶ。	遠隔講義(Teams)	西田	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 ・乳歯の外傷の影響 【事後学習課題】 講義内容
12	小児の外科処置(I) 埋伏過剰歯の診査、診断を踏まえながら抜歯法を学ぶ	遠隔講義(Teams)	渡辺	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 ・埋伏過剰歯の疫学・埋伏過剰歯の影響 【事後学習課題】 講義内容
13	小児の外科処置(II) 嚢胞、腫瘍、軟組織疾患への診断および対応を踏まえながら小児期の外科処置を学ぶ。	遠隔講義(Teams)	西田	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 ・嚢胞・腫瘍・軟組織疾患 【事後学習課題】 講義内容
14	総合討議	遠隔講義(Teams)	渡辺 西田 藤田 佐伯	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 【事後学習課題】 講義内容

2023年度

口腔機能発達学Ⅰ (Developmental Stomatognathic Function ScienceⅠ)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂, 渡辺 幸嗣						
	渡辺 幸嗣 西田 郁子 藤田 優子 佐伯 桂						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
15	単位認定試験	遠隔講義(Teams)	藤田	【事前学習課題】 文献詳読及び 関連分野の調査 【事後学習課題】 講義内容

2023年度

口腔機能発達学Ⅱ（検討会）（Developmental Stomatognathic Function ScienceⅡ（Case Conference））

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂, 渡辺 幸嗣						
	渡辺 幸嗣 西田 郁子 藤田 優子 佐伯 桂						

授業の概要

小児歯科学関連の最新の研究の動向を理解するために、文献の抄読を行う。各自の研究に関し、内容や進行状況に対する報告会やディスカッション、他分野の研究者（基礎系分野を中心）のセミナーの実施。

学生の到達目標

- 1.英語文献を読み込む能力を高める
- 2.研究の内容を理解できる
- 3.研究を通しての批評能力を高める
- 4.研究の動向や背景を学び、知識を高める
- 5.小児歯科学及び骨形態計測関連の最新の情報を得るなど、知識を高める

テキスト

タイトル	著者	出版社
小児歯科学	白川 哲夫 飯沼 光生 藤本 敏	医歯薬出版株式会社

参考書

タイトル	著者	出版社
小児の口腔科学	朝田芳信 他	

成績評価方法・基準

評価項目	割合
文献抄読発表、講義レポート（評価表は学生に配布）	100%

100点満点中60点以上を合格とし、秀（100～90）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）とする。

その他

[オフィスアワー]
随時メールで受け付ける
渡辺、西田

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	研究の背景と小児歯科学及び骨形態計測関連の最新の文献の内容、および関連分野の研究の内容を踏まえながら、研究・臨床への応用を学ぶ。	輪読、文献紹介及び討論、図書館のラーニングコモンズ室を利用し、Active learningを推進する。適宜、遠隔授業(Teams)を利用する。	渡辺 西田 藤田 佐伯	【事前学習課題】 文献詳読及び関連分野の調査 【事後学習課題】 講義内容

2023年度

口腔機能発達学Ⅲ (Developmental Stomatognathic Function Science Ⅲ)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡辺 幸嗣						
担当教員	牧 憲司, 西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂, 渡辺 幸嗣, 向坊 友宏						
	渡辺 幸嗣, 西田 郁子, 藤田 優子, 佐伯 桂, 向坊 友宏						

授業の概要

小児歯科学関連の最新の研究の動向を理解するために、文献の抄読を行う。特に小児期の咬合育成に関連する内容の文献についての検索を深める。また咬合誘導装置作製は実際にデモを行ない、その後に実習を行なう。

学生の到達目標

1. 英語文献を読み込む能力を高める
2. 小児歯科学及び矯正学関連の最新の情報を得るなど、知識を高める
3. 咬合誘導装置の作製について講義?実習を通して修得する。

テキスト

タイトル	著者	出版社
小児歯科学基礎・臨床実習	前田隆秀・福田理・白川哲夫・牧憲司	医歯薬出版株式会社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
文献抄読発表(50%) 講義レポート(50%)により評価する。(評価表は学生に配布)	100%

その他

[オフィスアワー]
随時メールで受け付ける
渡辺、西田

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	小児歯科学及び矯正学関連の最新の文献の内容、および関連分野の研究の内容を踏まえながら、研究・臨床への応用を学ぶ。	輪読、文献紹介及び討論(Teams)、装置作製実習(学生を2班に分けて)。	渡辺 西田 藤田 佐伯 向坊	【事前学習課題】 関連分野の調査、咬合誘導装置作製は実際にデモを行ないその後 に実習を行なう。 【事後学習課題】 実習内容

2023年度

歯科矯正学 1 (ベーシック) (Orthodontics I (Basic))

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業の概要

顎口腔機能矯正学の臨床研究の立案と実施に必要な基本的知識を理解し習得する。

学生の到達目標

1. 診断に必要な様々な情報を分析し総括できる。2. 矯正治療に必要な生物学的、生体力学的基礎を理解できる。3. 顎口腔機能の分析評価ができる。4. 矯正装置の作用機序、適応症を理解できる。5. 顎変形症、口唇裂口蓋裂の生理的病理的問題を把握し解決法を考えることができる。6. 骨組織と軟組織の生物学を理解できる。7. 顎顔面および歯列咬合の成長発育の原理を理解できる。8. 咬合育成の概念を理解し実施できる。9. 先天性疾患の発症の機序を理解できる。10. 歯科矯正用材料を理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
Contemporary Orthodontics	William R. Proffit	Mosby
頭部X線規格写真法の基礎	宮下 邦彦	クインテッセンス出版
最新歯科矯正アトラス	井上直彦・鈴木祥井	医歯薬出版
顔面成長発育の基礎	[監訳] 黒田敬之	クインテッセンス出版
歯科矯正学 第5版	相馬邦道ら	医歯薬出版
歯科矯正学臨床シリーズ 1「反対咬合」	須佐美隆三, 中後忠男 編集	医歯薬出版
歯科矯正学臨床シリーズ 2「上顎前突」	山内和夫, 作田守 編集	医歯薬出版
歯科矯正学臨床シリーズ 3「開咬」	河田照茂, 尾関哲 編集	医歯薬出版
歯科矯正学臨床シリーズ 4「叢生」	松本 光生, 中川皓文 編集	医歯薬出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
修了試験	80%
小テスト	20%

患者の初診時資料の分析の分析・診断内容をまとめ、診療計画を立て発表を行う。その資料の内容にてルーブリックを用いて評価を行う。さらに講義終了後には修了試験を行う。解答は記述式とする。合格点に到らない項目については再試験を行う。

その他

学生相談：随時、メール送付

2023年度

歯科矯正学 1 (ベーシック) (Orthodontics I (Basic))

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	診断資料の作成、印象採得、顎態模型作製、セファロトレース、模型分析、セファロ分析基礎的な診断資料の作成法を踏まえながら、評価法を学ぶ。	講義、演習	白川	参考書、配付資料の復習
2	診断、抜歯、set-up model、治療方針、装置基礎的な診断を踏まえながら、治療方針、治療方法を学ぶ。	講義、演習	水原	参考書、配付資料の復習
3	CT画像、MRI画像診断基本的な画像診断法を踏まえながら、症例との関連性を学ぶ。	講義、演習	白川	参考書、配付資料の復習
4	顎口腔機能、顎運動、咀嚼、咬合力、咀嚼効率、顎関節症基本的な顎口腔機能検査について、検査方法、結果および症例の関連性を踏まえながら評価法を学ぶ。	講義	白川	参考書、配付資料の復習
5	歯の移動と矯正力、歯の固定、生力学、矯正用インプラント基礎的な歯の移動方法を踏まえながら、矯正装置を学ぶ。	講義	白川	参考書、配付資料の復習
6	矯正力と組織反応矯正歯科治療によって生じる反応について、歯根吸収、歯根膜内で生じる血流の変化、硝子様変性を踏まえながら矯正力に対する歯、歯周組織の反応について学ぶ。	講義	黒石	参考書、配付資料の復習
7	顎整形力とその反応 矯正歯科治療によって生じる反応について、軟骨性成長、縫合性成長などを踏まえながら顎整形力によって生じる顎骨の反応や成長変化について学ぶ。	講義	黒石	参考書、配付資料の復習
8	骨代謝、生物学、分子細胞矯正歯の移動について、歯周組織を構成する細胞の働きを踏まえながら骨代謝の仕組みについて学ぶ。	講義	黒石	参考書、配付資料の復習
9	歯科矯正用材料に関する材料学 矯正歯科治療に必要な材料の特性とその選択について学習する	講義	黒石	参考書、配付資料の復習
10	各矯正装置の使用法と作用機序 基本的な矯正装置の構造と作用機序および適応症、注意点について学習する。	講義	水原	参考書、配付資料の復習
11	マルチブラケット法 マルチブラケット法について、マルチブラケット装置の構造や動的矯正治療を学ぶ	講義、演習	郡司掛	参考書、配付資料の復習
12	顎変形症に対する矯正歯科治療顎変形症について、治療の目的、適応症、治療の手順を踏まえながら外科矯正歯科治療を学ぶ。	講義	郡司掛	参考書、配付資料の復習
13	先天性異常に伴う咬合異常先天性異常に伴う咬合異常について、原因、全身の所見、不正咬合の特徴を踏まえながら先天性異常について学ぶ。	講義	郡司掛	参考書、配付資料の復習
14	口蓋裂の治療、骨移植 先天異常の口蓋裂について、成長発育を踏まえて経年的な矯正治療を学ぶ	講義	水原	参考書、配付資料の復習
15	保定と保定装置(可撤式、固定式) 保定について、動的矯正治療や生体反応を踏まえながら各種保定装置や静的矯正治療を学ぶ	講義	郡司掛	参考書、配付資料の復習
16	筋訓練法(MFT) 癖(悪習癖)の歯列弓に及ぼす影響を踏まえて予防および矯正法を学ぶ	講義	川元	参考書、配付資料の復習
17	歯列咬合、および顎顔面の成長発育 頭蓋顎顔面ならびに歯、歯列、咬合の正常な成長発育について学習する	講義	水原	参考書、配付資料の復習
18	成長発育と矯正治療 各種の不正咬合について、成長発育による変化を踏まえて経年的な矯正治療を学ぶ	講義	川元	参考書、配付資料の復習
19	咬合育成学 咬合育成について、経年的な成長発育や不正咬合の誘因を踏まえて咬合育成学を学ぶ	講義	川元	参考書、配付資料の復習
20	包括的歯科診療—口腔単位で治療を行う事を踏まえ、チームアプローチを学ぶ	講義	川元	参考書、配付資料の復習

2023年度

歯科矯正学 2 (基礎実習) (Orthodontics II (Basic))

開講年次	1年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	1.0
授業方法	実習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業の概要

臨床研究に必要な資料を採得して分析する。基本的矯正装置を作製し作用機序を知る。

学生の到達目標

1. 臨床研究のための資料が採得できる。
2. 矯正治療装置の作用機序を理解し、装置を作製できる。
3. 顎口腔機能の記録と分析評価ができる。
4. プレゼンテーションのための資料を作成し、有効に利用できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
4年次生用基礎実習書		
最新歯科矯正アトラス	井上直彦・鈴木祥井	医歯薬出版
Contemporary Orthodontics, 6th Edition	William R. Proffit	Mosby

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実技試験	100%

印象採得、顎態模型製作、口腔内写真撮影、丸型、角型ワイヤー屈曲、アイデリアルアーチ屈曲、セファロのトレース、トレースの重ね合わせ等の実技試験を行う、製作物をルーブリックで評価採点する。臨床に適用不可能の項目は再試験。

その他

学生相談：随時、メール送付

2023年度

歯科矯正学 2 (基礎実習) (Orthodontics II (Basic))

開講年次	1年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床)	単位数	1.0
授業方法	実習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	診断資料の作成(口腔内写真、顔面規格写真) 口腔内写真、顔面規格写真の撮影法について、デジタルカメラの使用を踏まえながら診断資料の作成を習得する。	実習	水原	基礎実習書、参考書の予習
2	診断資料の作成(印象採得、顎態模型) 印象採得、顎態模型の製作法について、アルジネート印象材による概形印象の技術、顔弓計測を踏まえながら、診断資料の作成を習得する。	実習	黒石	基礎実習書、参考書の予習
3	診断資料の作成(セファロトレース、セファロ分析、模型分析) 基礎的な診断資料の作成法を踏まえながら、診断資料の作成を習得する。	実習	黒石	基礎実習書、参考書の予習
4	顎口腔機能 計測評価 基本的な顎口腔機能検査機器について、その使用法を踏まえながら計測を学ぶ。	実習	黒石	基礎実習書、参考書の予習
5	診断、抜歯、set-up model、治療方針、装置基礎的な診断を踏まえながら、症例との関連性を学ぶ。	実習	水原	基礎実習書、参考書の予習
6	プレゼンテーション デジタルデータの取り込みとPowerpoint, Photo shopの使用法を踏まえながら、プレゼンテーションの作成を学ぶ。	実習	白川	基礎実習書、参考書の予習
7	基礎実習(舌側弧線装置) 舌側弧線装置の製作法と調整を修得する。	実習	白川	基礎実習書、参考書の予習
8	基礎実習(舌側弧線装置) 舌側弧線装置の製作法と調整を修得する。	実習	白川	基礎実習書、参考書の予習
9	基礎実習(アクチバトール) 構成咬合位の採得、機能的矯正装置の作製法および調整法を習得する。	実習	水原	基礎実習書、参考書の予習
10	基礎実習(アクチバトール) 構成咬合位の採得、機能的矯正装置の作製法および調整法を習得する。	実習	郡司掛	基礎実習書、参考書の予習
11	基礎実習(保定装置) Beggタイプリテーナーの製作法および調整法を修得する	実習	郡司掛	基礎実習書、参考書の予習
12	基礎実習(保定装置) Beggタイプリテーナーの製作法および調整法を修得する	実習	郡司掛	基礎実習書、参考書の予習
13	治療効果の分析評価 治療効果の分析評価を踏まえながら、治療について学ぶ。	実習	川元	基礎実習書、参考書の予習
14	成長発育系の分析評価 成長発育の分析評価を踏まえながら、治療について学ぶ。	実習	川元	教室臨床マニュアル予習
15	矯正材料と歯の移動治療を踏まえながら、矯正材料と歯の移動について学ぶ。	実習	川元	教室臨床マニュアル予習

2023年度

歯科矯正学 3 (タイポドント) (Orthodontics III (Typodont exercise))

開講年次	1年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	1.0
授業方法	実習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業の概要

適正な歯の移動のための力学を理解し、タイポドント上で実施する。

学生の到達目標

1. 歯の移動様式と矯正力との関係を理解できる。 2. ワイヤーとブラケットの摩擦力を理解できる。 3. 力とモーメントの関係を理解できる。 4. 顎内固定、顎間固定、顎外固定などの固定の必要性を理解できる。 5. ワイヤーの物性を理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
タイポドントシラバス		
最新歯科矯正アトラス	井上直彦・鈴木祥井	医歯薬出版
Common Sense Mechanics	Thomas . Mulligan	
Biomechanics in Orthodontics	Ram S, Nanda	

成績評価方法・基準

評価項目	割合
チェック項目に対する評価及びディスカッション	100%

ステップ毎に担当教員の検印を受け、終了チェック項目に対してルーブリックを用いて評価を受ける。また、治療のステップを学生が発表し、ディスカッションを行う。

その他

学生相談：随時（メール送付）

2023年度

歯科矯正学 3 (タイポドント) (Orthodontics III (Typodont exercise))

開講年次	1年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	1.0
授業方法	実習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	タイポドント準備1 マルチブラケット装置による治療について、メタルティースへのブラケットのボンディングおよび位置付け、臼歯部のバンド製作およびブラケットの電気鑢着を踏まえながら、矯正歯科治療時のブラケット装着を習得する。	実習	水原	タイポドントシラバスの予習と復習
2	タイポドント準備2 マルチブラケット装置による治療について、メタルティースへのブラケットのボンディングおよび位置付け、臼歯部のバンド製作およびブラケットの電気鑢着を踏まえながら、矯正歯科治療時のブラケット装着を習得する。	実習	水原	タイポドントシラバスの予習と復習
3	タイポドント準備3 マルチブラケット装置による治療について、メタルティースへのブラケットのボンディングおよび位置付け、臼歯部のバンド製作およびブラケットの電気鑢着を踏まえながら、矯正歯科治療時のブラケット装着を習得する。	実習	水原	タイポドントシラバスの予習と復習
4	ワイヤーベンディング1 スタンダードエッジワイズ装置におけるアーチワイヤーの形態について学び、ラウンドワイヤーを屈曲する。	実習	左合	タイポドントシラバスの予習と復習
5	ワイヤーベンディング2 スタンダードエッジワイズ装置におけるレクトアンギュラーワイヤーの形態について学び、屈曲する。	実習	左合	タイポドントシラバスの予習と復習
6	ワイヤーベンディング3 アーチワイヤーの調整法について学び、屈曲する。	実習	白川	タイポドントシラバスの予習と復習
7	タイポドント1 (レベリング) マルチブラケット装置について、生体反応を踏まえながら矯正材料による不正咬合の初期変化を学ぶ	実習	黒石	タイポドントシラバスの予習と復習
8	タイポドント2 (レベリング) マルチブラケット装置について、生体反応を踏まえながら矯正材料による不正咬合の初期変化を学ぶ	実習	黒石	タイポドントシラバスの予習と復習
9	タイポドント3 (犬歯遠心移動) 犬歯の遠心移動を行う目的、方法、注意点について習得する。	実習	黒石	タイポドントシラバスの予習と復習
10	タイポドント3 (犬歯遠心移動) 犬歯の遠心移動を行う目的、方法、注意点について習得する。	実習	郡司掛	タイポドントシラバスの予習と復習
11	タイポドント5 (切歯舌側移動) マルチブラケット装置による治療について、加强固定の必要性の有無、切歯の舌側移動時のトルク調整、歯列弓幅径の変化を踏まえながら切歯の舌側移動を習得する。	実習	郡司掛	タイポドントシラバスの予習と復習
12	タイポドント6 (切歯舌側移動) マルチブラケット装置による治療について、加强固定の必要性の有無、切歯の舌側移動時のトルク調整、歯列弓幅径の変化を踏まえながら切歯の舌側移動を習得する。	実習	郡司掛	タイポドントシラバスの予習と復習
13	タイポドント7 (アイディアル、咬合完成) マルチブラケット装置について、生体反応や矯正器材を踏まえながら個性正常咬合の確立を学ぶ	実習	川元	タイポドントシラバスの予習と復習
14	タイポドント8 (アイディアル、咬合完成) 最終チェックマルチブラケット装置について、生体反応や矯正器材を踏まえながら個性正常咬合の確立を学ぶ	実習	川元	タイポドントシラバスの予習と復習
15	タイポドント発表会 (経過説明) タイポドント実習について、全体の経過を説明することにより、マルチブラケット法のシステムを理解する。	実習	川元	タイポドントシラバスの予習と復習

2023年度

歯科矯正学 4 (臨床研修) (Orthodontics IV (Clinical training))

開講年次	2～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	1.0
授業方法	実習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業の概要

1年次に習得した基本的知識と技能をもとに治療開始から終了まで治療を行い、臨床研究の立案のための知識と技能を更新する。

学生の到達目標

1. 患者との円滑なコミュニケーションができる。 2. 診断に必要な様々な情報を分析し総括できる。 3. 矯正治療に必要な生物学的、生体力学的基礎を理解できる。 4. 治療の変化を分析できる、治療ステップに応用できる。 5. 治療機序を分析評価できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
Contemporary Orthodontics, 6th Edition	William R. Proffit	Mosby
Common Sense Mechanics	Thomas . Mulligan	

成績評価方法・基準

評価項目	割合
各ステップのチェック	100%

治療の各ステップをインストラクターのチェックを受けて、治療を進行する。単位認定についてはルーブリックの評価を用いて行う。最終的に日本矯正歯科学会の認定医申請を行う。

その他

学生相談：随時（メール送付）

2023年度

歯科矯正学 4 (臨床研修) (Orthodontics IV (Clinical training))

開講年次	2~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	1.0
授業方法	実習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	診断資料の作成 (口腔内写真、顔面規格写真、印象採得、顎態模型) 配当された患者について、口腔内写真、顔面規格写真の撮影法について、デジタルカメラの使用を踏まえながら、また、印象採得、顎態模型の製法について、アルジネート印象材による概形印象の技術、顔弓計測を踏まえながら、診断資料の作成を修得する。	講義, 実習	川元、郡司掛、黒石、水原、白川	診断から治療終了までの各ステップのまとめ
2	診断資料の作成 (セファロトレース、セファロ分析、模型計測) 配当された患者について、診断資料の作成法を踏まえながら、評価法を学ぶ。	講義, 実習	川元、郡司掛、黒石、水原、白川	診断から治療終了までの各ステップのまとめ
3	顎口腔機能 (咀嚼、咬合、呼吸) の評価分析配当された患者差について治療前、中および後分析評価を踏まえながら、顎口腔機能について学ぶ。	講義, 実習	川元、郡司掛、黒石、水原、白川	診断から治療終了までの各ステップのまとめ
4~5	診断、プレゼンテーション配当された患者について、診断を行い、治療方針、治療計画を立案し、デジタルデータ取り込みとPowerpoint, Photo shopの使用法を踏まえながら、プレゼンテーションの作成を学ぶ。	講義, 実習	川元、郡司掛、黒石、水原、白川	診断から治療終了までの各ステップのまとめ
6~12	矯正材料と歯の移動配当された患者について、治療を踏まえながら、矯正材料と歯の移動について学ぶ。	講義, 実習	川元、郡司掛、黒石、水原、白川	診断から治療終了までの各ステップのまとめ
13~15	治療効果、成長発育の分析評価配当された患者について、治療効果および成長発育の分析評価を踏まえながら、治療について学ぶ。	講義, 実習	川元、郡司掛、黒石、水原、白川	診断から治療終了までの各ステップのまとめ

2023年度

顎口腔機能矯正学 1 (Orofacial Function and Orthodontics I)

開講年次	1年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業の概要

研究に向けての準備として収集した文献と情報を、整理、分析してプレゼンテーションを行う。研究の方法を検討する。

学生の到達目標

1. プレゼンテーションのための資料を作成し、有効に利用できる。
2. 研究のための情報の収集と整理分析し発表できる。
3. 研究の方法論を検討できる。
4. データの収集ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
Contemporary Orthodontics, 6th Edition	William R. Proffit	Mosby
カラーアトラス X線解剖学とセファロ分析法	宮下邦彦	クインテッセンス出版
Orthodontics Current Principles & Techniques	T.M.Grabner	ELSEVER/MOSBY

成績評価方法・基準

評価項目	割合
研究背景	50%
研究プロトコール	50%

矯正学における基礎および臨床の研究テーマに対する文献を選択し、研究の背景と文献をまとめ研究プロトコールを発表する。その資料の内容にてルーブリックを用いて評価を行う。

その他

学生相談：随時（メール送付）

2023年度

顎口腔機能矯正学 1 (Orofacial Function and Orthodontics I)

開講年次	1年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1~3	文献検索と整理方法 研究テーマについて、文献検索と整理方法を踏まえながら研究の進め方を学ぶ。	講義、演習	川元、郡司掛、黒石、水原、白川	インターネットの使用、PubMedの利用法、File makerの利用法
4~7	研究テーマの背景と文献まとめ 研究テーマについて、文献検索と整理方法を踏まえながら研究の進め方を学ぶ。	演習、小グループセミナー	川元、郡司掛、黒石、水原、白川	各自のPubMedを利用した文献の収集とFile makerを利用した文献の整理の予習
8~9	生物学、分子細胞、遺伝学と矯正治療 矯正治療について、生物学、分子細胞、遺伝学を踏まえながら矯正治療を通しての研究を学ぶ。	演習、小グループセミナー	川元、郡司掛、黒石、水原、白川	各自のPubMedを利用した文献の収集とFile makerを利用した文献の整理の予習
10~12	研究テーマに対する方法論の討議 研究テーマについて、自分の研究結果を踏まえながら、アピールの仕方を学ぶ。	演習、小グループセミナー	川元、郡司掛、黒石、水原、白川	Powerpointを利用したプレゼンテーションの準備
13~15	輪読会(関連する国内外の論文の抄読) 研究テーマに関連する国内外の論文を踏まえながら、研究結果の考察の仕方を学ぶ。	演習、小グループセミナー	川元、郡司掛、黒石、水原、白川	各自のテーマに関連する国内外の論文の抄読

2023年度

顎口腔機能矯正学 2 (Orofacial Function and Orthodontics II)

開講年次	2~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業の概要

収集した文献と情報を、整理、分析してプレゼンテーションを行う。研究の方法を検討する。学会発表を行い論文投稿する。

学生の到達目標

1. 顎口腔機能と咬合育成の意義を理解できる。2. 矯正治療に必要な生物学的、生体力学的基礎を理解できる。3. プレゼンテーションのための資料を作成し、有効に利用できる。4. 研究のための情報の収集と整理分析し発表できる。5. 研究の方法論を検討できる。6. 論文を作成し、投稿できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
Contemporary Orthodontics, 6th Edition	William R. Proffit	Mosby
Comprehensive Cleft Care	Joseph Losee, Richard E. Kirschner	CRC Press
Atlas of Orthodontic Treatment for Patients with Birth Defects	Takayuki Kuroda, Kimie Ohyama	Needham Press, Inc
新 先天奇形症候群アトラス	梶井 正ら(監修)	南江堂
Contemporary Treatment of Dentofacial Deformity	W.R.Proffit	Mosby
Gorlin's Syndrome of the Head and Neck, 5th Ed	Hennekam/Krantz/Allanson 共著	Oxford University

成績評価方法・基準

評価項目	割合
研究の進捗状況及び学会発表	100%

各自の研究内容の進捗状況ならび学会発表の内容をまとめ、発表を行う。発表資料の内容をループブックを用いて評価を行う。

その他

学生相談：随時（メール送付）

2023年度

顎口腔機能矯正学 2 (Orofacial Function and Orthodontics II)

開講年次	2～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	4.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～2	顎口腔機能と咬合育成顎口腔機能の基礎を理解することで、それにより影響を受ける咬合の成り立ちを習得する。	講義, 演習	郡司掛	配付資料の復習
3～4	顎口腔機能矯正学分野の研究の動向矯正に関連する基礎的、臨床的研究を理解することで、今後の矯正の進むべき方向を習得する。	講義, 演習	郡司掛	1年次の講義録の復習
5～6	歯の移動に伴う組織学的変化歯の移動に対する歯、歯周組織の反応について学ぶ。	講義, 演習	水原	1年次の講義録の復習
7～8	歯の移動の力学歯の移動について、傾斜移動、歯体移動、圧下、挺出、回転、トルクの違いを踏まえながら、歯の移動様式を学ぶ。	講義, 演習	郡司掛	タイポドントシラバス
9～10	生物学、分子細胞、遺伝学と矯正治療基礎的学問を理解することで、矯正治療の必要性を習得する。	講義, 演習	水原	1年次の講義録の復習
11～13	研究テーマの背景、文献考察 自身の研究内容の学術的背景について発表を行う	講義, 演習	黒石	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
14～16	研究テーマの背景、文献考察の発表 自身の研究内容(研究経過、学会発表)について発表を行う。	講義, 演習	黒石	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
17～19	研究テーマに対する方法論研究の方法について、文献検索および情報収集を踏まえながら方法論について学ぶ。	講義, 演習	白川	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
20～22	研究テーマに対する方法論の発表研究の方法について、図や表を用いたPower pointの作製を踏まえながら研究の方法論の発表について学ぶ。	講義, 演習	白川	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
23～24	収集データの分析発表 研究テーマについて、収集されたデータの分析結果を発表	講義, 演習	水原	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
25～26	学会発表用プレゼンテーションとメディアと作成 研究テーマについて、研究データの分析結果を学会口演あるいは学術展示の形式で発表(第1報)	講義, 演習	川元	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
27～28	学会発表用プレゼンテーションとメディアと作成 研究テーマについて、研究データの分析結果を学会口演あるいは学術展示の形式で発表(第2報)	講義, 演習	川元	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
29～30	論文作成と投稿専門雑誌の投稿要領を理解し、正しい論文の書き方を習得する。	講義, 演習	川元	投稿雑誌の投稿要領の確認

2023年度

顎口腔機能矯正学 3 (Orofacial Function and Orthodontics III)

開講年次	2年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業の概要

顎口腔機能と歯科矯正学との関わりを、咀嚼、嚥下、呼吸機能を通じて理解する（研究テーマと関連して）。また、治療に伴うリスクである歯根吸収や疼痛の原因について検討する。

学生の到達目標

1. 呼吸機能を評価できる。2. 咀嚼筋活動と筋電図および咬合音の関連性を解明、理解できる。3. 口呼吸と咬合育成の関連性を解明、理解できる。4. 三叉神経節を介した骨代謝調節機構を解明、理解できる。5. 歯周組織におけるオステオアクチビンの作用機序の解明、理解できる。6. ブラケットとワイヤー間に発生する摩擦力を解明、理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
Contemporary Orthodontics, 6th Edition	William R. Proffit	Mosby
Orthodontics Current Principles & Techniques	T.M.Grabber	ELSEVER/MOSBY

成績評価方法・基準

評価項目	割合
研究プロトコール	100%

各自の研究テーマに対する文献を選択し、研究の背景と文献をまとめ研究プロトコールを発表する。その資料の内容をループリックを用いて評価を行う。

その他

学生相談：随時（メール送付）

2023年度

顎口腔機能矯正学 3 (Orfacial Function and Orthodontics III)

開講年次	2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫, 郡司掛 香織, 黒石 加代子, 水原 正博, 白川 智彦						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1~3	顎口腔機能顎口腔機能について、成長発育を踏まえて矯正治療による顎口腔機能を学ぶ	講義	白川	配付資料の復習
4~6	最適な矯正力に関する生物学的考察矯正力について、歯周組織を構成する細胞の働き、骨代謝機構および歯根吸収を踏まえながら最適な矯正力に関する生物学的考察について学ぶ。	演習、小グループセミナー	水原	1年次講義録の復習
7~8	歯の移動と骨のモデリング矯正的歯の移動について、歯根膜線維芽細胞、破骨細胞の働きを踏まえながら歯の移動時の骨リモデリングについて学ぶ。	演習、小グループセミナー	黒石	関連論文の精読
9	歯の移動と骨のモデリング矯正的歯の移動について、骨芽細胞の働きを踏まえながら歯の移動時の骨リモデリングについて学ぶ。	演習、小グループセミナー	黒石	関連論文の精読
10~12	咀嚼機能の評価咀嚼機能の基礎を理解し、歯科矯正治療の必要性を習得する。	演習、小グループセミナー	郡司掛	関連論文の精読
13	三叉神経節を介した骨代謝調節機構神経系と骨代謝についての関連について学ぶ	演習、小グループセミナー	川元	関連論文の精読
14~15	歯周組織における骨代謝の作用機序矯正的歯の移動時の歯周組織の骨代謝について、歯根膜線維芽細胞において骨形成性因子の作用機序を踏まえながら、牽引側の骨形成の仕組みについて学ぶ。	演習、小グループセミナー	川元	関連論文の精読

2023年度

歯科放射線学 (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床) / 副科目	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏, 小田 昌史, 松本 忍, 若杉 奈緒 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏, 小田 昌史 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 西村 瞬 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 松本 忍, 西村 瞬						

授業の概要

本教室で作成された600症例以上のTeaching Filesの読影を行い、読影報告書を作成してもらう。更に、各症例に対して担当の教員より解説を行い、読影の要点を説明してもらう。その後、それぞれの症例の病理画像を「Contemporary Oral and Maxillofacial Pathology」を教科書として理解してもらう。読影の際に使用する教科書としては「頭頸部のCT・MRI」及び「頭頸部画像診断ハンドブック」である。

学生の到達目標

頭頸部に発生する各種疾患に対して、歯科用エックス線写真、パノラマエックス線写真、CT、MRI、超音波、PET等を用いて作成された各種画像の対象疾患に対する診断の実践を理解する。その際、主訴、視診、触診及び画像所見を論理的にしかも正確に評価し、質的及び部位的診断が総合的に高いレベルで実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
頭頸部のCT・MRI		
頭頸部画像診断ハンドブック		
Contemporary Oral and Maxillofacial Pathology		
放射線概論		
口腔解剖学		
今さら聞けない歯科用CBCTとCTの読像法	森本泰宏、金田隆	クインテッセンス出版
口腔・歯・顎・顔面ポケット画像解剖	中山英二、森本泰宏	医学情報社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
セミナー中の発表	50%
口頭試問	50%

その他

【オフィスアワー】講義の前後、またはメールで受け付ける。病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

2023年度

歯科放射線学 (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床) / 副科目	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏, 小田 昌史, 松本 忍, 若杉 奈緒 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏, 小田 昌史 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 西村 瞬 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 松本 忍, 西村 瞬						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	Teaching Filesの20例歯に生じる疾患について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
3,4	Teaching Filesの20例主に歯牙及び顎骨疾患について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
5,6	Teaching Filesの20例主に歯周疾患について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
7,8	Teaching Filesの20例主に歯周・顎骨疾患について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
9,10	Teaching Filesの20例主に口腔粘膜関連症例について報告書を作成する。(I)	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
11,12	Teaching Filesの20例主に口腔粘膜関連症例について報告書を作成する。(II)	実習	森本、若杉、小田、松本	予習、復習として参考書を読む
13,14	Teaching Filesの20例主に旁咽頭間隙症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
15,16	Teaching Filesの20例主に頸動脈間隙・椎周囲間隙症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
17,18	Teaching Filesの20例主に咽頭・喉頭症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
19,20	Teaching Filesの20例主に顎下間隙症例について報告書を作成する。(I)	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
21,22	Teaching Filesの20例主に顎下間隙症例について報告書を作成する。(II)	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
23,24	Teaching Filesの20例主に舌下間隙症例について報告書を作成する。(I)	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
25,26	Teaching Filesの20例主に舌下間隙症例について報告書を作成する。(II)	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
27,28	Teaching Filesの20例顎下・舌下間隙症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
29,30	Teaching Filesの20例主に咀嚼筋間隙症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
31,32	Teaching Filesの20例主に副鼻腔症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
33,34	Teaching Filesの20例主に顎関節症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
35,36	Teaching Filesの20例主に上・下顎骨症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む

2023年度

歯科放射線学 (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床) / 副科目	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏, 小田 昌史, 松本 忍, 若杉 奈緒 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏, 小田 昌史 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 西村 瞬 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 松本 忍, 西村 瞬						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
37,38	Teaching Filesの20例主に咽頭後間隙症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本	予習、復習として参考書を読む
39,40	Teaching Filesの20例主に旁咽頭間隙・咽頭後間隙症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
41,42	Teaching Filesの20例主に咀嚼筋間隙・咽頭症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
43,44	Teaching Filesの20例主に咽頭症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本	予習、復習として参考書を読む
45,46	Teaching Filesの20例主に頸部リンパ節転移について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
47,48	Teaching Filesの20例主に頸部嚢胞性腫瘍について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本	予習、復習として参考書を読む
49,50	Teaching Filesの20例主に唾液腺疾患について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本	予習、復習として参考書を読む
51,52	Teaching Filesの20例主に甲状腺・副甲状腺疾患について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
53,54	Teaching Filesの20例主に頭蓋底と側頭骨について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
55,56	Teaching Filesの20例全般的な症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本	予習、復習として参考書を読む
57,58	Teaching Filesの20例全般的な症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
59,60	Teaching Filesの20例全般的な症例について報告書を作成する。	実習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む

2023年度

歯科放射線学検討会 (Conference of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏, 小田 昌史, 松本 忍, 若杉 奈緒 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏, 小田 昌史 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 西村 瞬 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 松本 忍, 西村 瞬						

授業の概要

歯科放射線診断学に関する読影を、カンファレンス形式で学ぶ。更に、関連する文献を詳読する。

学生の到達目標

実際の患者さんのフィルムを読影し、画像診断の実践技術を習得する。更に、患者さんの持つ各種疾患について文献を読み詳細に把握できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
患者さんのフィルム		

参考書

タイトル	著者	出版社
頭頸部のCT・MRI		
頭頸部画像診断ハンドブック		
Contemporary Oral and Maxillofacial Pathology		
顎?口腔のCT?MRI	酒井 修, 金田 隆	メディカルサイエンス?インターナショナル
今さら聞けない歯科用CBCTとCTの読像法	森本泰宏, 金田 隆	クインテッセンス出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
カンファレンス中の発表	50%
口頭試問	50%

その他

【オフィスアワー】講義の前後、またはメールで受け付ける。病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	患者さんのフィルム読影を行い、その後カンファレンス形式での話し合い、更に文献の詳読	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む

2023年度

歯科放射線学概論 (Outline of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏, 小田 昌史, 松本 忍, 若杉 奈緒 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏, 小田 昌史 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史、西村 瞬 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 松本 忍, 西村 瞬						

授業の概要

歯科放射線学は臨床系の学問ではあるが、基礎教科として物理学、生物学、解剖学、病理学の学習を必要とする。それらの科目を基礎として、画像診断学及び放射線治療学が成り立っていくのである。リサーチマインドを持ち将来歯科放射線学の研究者を目指すためにまず上記内容を高いレベル理解してもらうことが重要である。そこで、授業では「放射線概論」、「口腔解剖学」及び「Contemporary Oral and Maxillofacial Pathology」を教科書としてその中の日常臨床と関連する内容を発表形式で復習してもらう。その中で第一種放射線取扱主任者の合格、口腔解剖学及び口腔病理学の知識を掌握できることを目指してもらう。次に、それらの内容をベースにして画像診断学の修得を行ってもらう。具体的には、下記に示す教科書を用いて授業を行い、質の高い画像をもとに論理的に正しい診断手法を身に付けてもらう。そこで、臨床実践に則した形式で学んでもらうよう授業形態はゼミ方式をとり、使用教科書としては「頭頸部のCT・MRI」及び「頭頸部画像診断ハンドブック」を用いる。この本を分担して読みながら日常臨床に関連する内容を発表形式で授業する。

学生の到達目標

学部学生時代に学んだエックス線の発生原理、エックス線写真の画像化原理及びエックス線写真を作成するための手法について復習し、一歩進んだレベル迄把握することで、放射線物理学の科目で第一種放射線取扱主任者の合格レベルを充たす。同時に、放射線とはどのようなものであるかを理解し、放射線被曝により引き起こされる生物学的作用の発生機序及び疾患を深いレベル迄理解することで、放射線生物学における第一種放射線取扱主任者の合格レベルを充たす。同時に生物学的効果を利用した放射線治療法についても最新のガンナイフ等を利用した治療の在り方について迄把握する。放射線の生物学的影響から放射線従事者の身体を守るための防護方法について法律学的立場からとそれに準じた具体的方策を理解し、第一種放射線取扱主任者試験の放射線防護学及び管理学に合格できるレベルを充たす。上記内容を把握した上で、頭頸部に発生する各種疾患に対して、歯科用エックス線写真、パノラマエックス線写真、CT、MRI、超音波、PET等を用いて作成された各種画像の対象疾患に対する特徴的所見を理解できる。更に、それら所見を論理的にしかも正確に評価し、質的及び部位的診断が総合的に高いレベルで実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
頭頸部のCT・MRI		
頭頸部画像診断ハンドブック		
Contemporary Oral and Maxillofacial Pathology		
放射線概論		
口腔解剖学		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	50%
口頭試問	50%

その他

【オフィスアワー】講義の前後、またはメールで受け付ける。病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

2023年度

歯科放射線学概論 (Outline of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏, 小田 昌史, 松本 忍, 若杉 奈緒 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏, 小田 昌史 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史、西村 瞬 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 松本 忍, 西村 瞬						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	放射線物理学：放射線の発生原理と物質との相互作用について理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
2	放射線化学：放射性核種の製造、利用法について理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
3	放射線生物学：放射線被曝により引き起こされる生物学的作用の発生機序及び代表的疾患について理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
4	放射線測定技術：被曝線量の測定機器の原理と放射線測定の実際について理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
5	放射線測定技術：放射線被曝に対する防護、事故防止のための放射線の管理技術について理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
6	放射線に関する法令：放射線障害防止法の概要について理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
7	写真工学：X線写真撮影を行った後それを画像化するために必要な処理方法を理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
8	医用画像転送技術：現代の医学に欠かすことの出来ない医用画像転送技術の有益性と危険性を理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
9	基礎放射線のまとめを行い、全内容を復習する。	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
10	画像検査法・単純エックス線検査：頭頸部領域の疾患に対して行われる単純エックス線検査の特徴とその画像上での所見について理解する	講義・演習	森本、小田、西村、若杉、松本	予習、復習として参考書を読む
11	画像検査法・CT検査：CT検査の画像化機序および各種疾患におけるCT検査上での特徴的な所見について理解する	講義・演習	森本、小田、西村、若杉、松本	予習、復習として参考書を読む
12	画像検査法・MRI検査：MRI検査の画像化機序および各種疾患におけるMRI検査上での特徴的な所見について理解する	講義・演習	森本、小田、西村、若杉、松本	予習、復習として参考書を読む
13	画像検査法・超音波検査：超音波検査の画像化機序および各種疾患における超音波検査上での特徴的な所見について理解する	講義・演習	森本、小田、西村、若杉、松本	予習、復習として参考書を読む
14	画像検査法・核医学検査：核医学検査の種類及び画像化機序および各種疾患における核医学検査上での特徴的な所見について理解する	講義・演習	森本、小田、西村、若杉、松本	予習、復習として参考書を読む
15	画像検査法のまとめ、全内容を復習する。	講義・演習	森本、小田、西村、若杉、松本	予習、復習として参考書を読む
16	画像診断・副鼻腔：副鼻腔の解剖および副鼻腔に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、小田、西村、若杉、松本	予習、復習として参考書を読む
17	画像診断・顎関節：顎関節の解剖および顎関節に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、小田、西村、若杉、松本	予習、復習として参考書を読む
18	画像診断・下顎骨：下顎骨の解剖および下顎骨に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、小田、西村、若杉、松本	予習、復習として参考書を読む
19	画像診断・頭部筋膜間隙(1)：旁咽頭間隙、咀嚼筋間隙、頸動脈間隙の解剖およびこれらの部位に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、小田、西村、若杉、松本	予習、復習として参考書を読む

2023年度

歯科放射線学概論 (Outline of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏, 小田 昌史, 松本 忍, 若杉 奈緒 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏, 小田 昌史 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 西村 瞬 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 松本 忍, 西村 瞬						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
20	画像診断・頭部筋膜間隙(II)：咽頭後間隙、椎周囲間隙、舌下・顎下間隙の解剖およびこれらの部位に発生する各種疾患の特征的画像所見について理解する	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
21	画像診断・中咽頭・口腔：中咽頭・口腔の解剖およびこれらの部位に発生する各種疾患の特征的画像所見について理解する	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
22	画像診断・上咽頭・下咽頭・喉頭：上咽頭・下咽頭・喉頭の解剖およびこれらの部位に発生する各種疾患の特征的画像所見について理解する	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
23	画像診断・頸部リンパ節転移：頸部リンパ節の解剖および頸部リンパ節転移の特征的画像所見、頸部郭清術について理解する	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
24	画像診断・頸部嚢胞性腫瘍：頸部嚢胞性腫瘍の特征的画像所見について理解する	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
25	画像診断・唾液腺：唾液腺の解剖および唾液腺に発生する各種疾患の特征的画像所見について理解する	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
26	画像診断・甲状腺・副甲状腺：甲状腺・副甲状腺に発生する各種疾患の特征的画像所見について理解する	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
27	画像診断・頭蓋底と側頭骨：頭蓋底と側頭骨に発生する各種疾患の特征的画像所見について理解する	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
28	画像検査法のまとめ：実際の症例による画像診断演習を行う	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
29	頭頸部におけるInterventional Radiology：頭頸部の血管内治療の留意点・実際について理解する	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
30	放射線治療学：口腔癌の放射線治療についてその方法、作用機序及び効果的な腫瘍の種類について理解する	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む

2023年度

歯科放射線学演習Ⅰ (Practice of Oral and Maxillofacial Radiology Ⅰ)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏, 小田 昌史, 松本 忍, 若杉 奈緒 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏, 小田 昌史 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 西村 瞬 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 松本 忍, 西村 瞬						

授業の概要

歯科放射線学概論で学んだ内容を基にして、放射線診断学、放射線生物学及び放射線物理学実験の手技を学ぶ。同時にその実験手技を学ぶ際に必要な、第一種、第二種放射線取扱主任者免状取得に向けて演習を行う。

学生の到達目標

放射線診断学、放射線生物学及び放射線物理学実験の手技を理解できる。同時に、第一種もしくは第二種放射線取扱主任者試験の受験を目指し、知識を高める。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
絵とき 放射線のやさしい知識		オーム社
初級放射線		通商産業研究社
放射線概論		通商産業研究社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	50%
口頭試問	50%

その他

【オフィスアワー】講義の前後、またはメールで受け付ける。病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

2023年度

歯科放射線学演習Ⅰ (Practice of Oral and Maxillofacial Radiology Ⅰ)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏, 小田 昌史, 松本 忍, 若杉 奈緒 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏, 小田 昌史 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 西村 瞬 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 松本 忍, 西村 瞬						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	第一種及び二種放射線取扱主任者試験について受験の方法を理解する。	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
2	放射線の定義及びその発生原理について理解する。	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
3	放射線と物質との相互作用について理解する。	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
4	放射性核種の製造及び利用法について理解する。	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
5	被曝線量の測定機器の原理について理解する。	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
6	放射線管理技術について理解する。	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
7	放射線被曝に対する防護について理解する	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
8	放射線関連法規について理解する。(I)	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
9	放射線関連法規について理解する。(II)	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
10	放射線被曝により引き起こされる生物学的作用の発生機序及び代表的疾患について理解する。	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
11	放射性化学について理解する。(I)	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
12	放射性化学について理解する。(II)	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
13	第一種、第二種放射線取扱主任者試験の総合問題を解き、理解する。(I)	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
14	第一種、第二種放射線取扱主任者試験の総合問題を解き、理解する。(II)	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
15	第一種、第二種放射線取扱主任者試験の総合問題を解き、理解する。(III)	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む

2023年度

歯科放射線学演習 II (Practice of Oral and Maxillofacial Radiology II)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏, 小田 昌史, 松本 忍, 若杉 奈緒 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏, 小田 昌史 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 西村 瞬 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 松本 忍, 西村 瞬						

授業の概要

歯科放射線学概論で学んだ内容を基にして、歯科放射線診断学に関する研究を行う。

学生の到達目標

一般的及び特殊なエックス線CT撮影を行い、付属ソフトを利用して画像解析技術を学び、研究に応用する。一般的及び特殊なMRI撮像を行い、付属ソフトを利用して画像解析が出来る。それにより画像を用いたin vitro、in vivo研究に応用できる。統計学的ソフトSPSSを使用し、臨床及び実験的データを分析できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
CT、MRI撮像装置の撮像技術読本		
統計処理ソフトSPSSに関する本		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	50%
口頭試問	50%

その他

【オフィスアワー】講義の前後、またはメールで受け付ける。病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

2023年度

歯科放射線学演習 II (Practice of Oral and Maxillofacial Radiology II)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏, 小田 昌史, 松本 忍, 若杉 奈緒 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏, 小田 昌史 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史、西村 瞬 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 松本 忍, 西村 瞬						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	一般的エックス線CTの撮影及び画像処理について理解する。	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
2	血管描出用CTの撮影及び画像処理について理解する。	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
3	統計処理ソフトSPSSを用いたデータ処理方法について理解する。(I)	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
4	一般的MRI撮影及び画像処理について理解する。(I)	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
5	一般的MRI撮影及び画像処理について理解する。(II)	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
6	一般的MRI撮影及び画像処理について理解する。(III)	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
7	特殊MRI撮影及び画像処理(Dynamic MR sialography (I))について理解する。	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
8	特殊MRI撮影及び画像処理(Dynamic MR sialography (II))について理解する。	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
9	特殊MRI撮影及び画像処理(Functional MRI (I))について理解する。	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
10	特殊MRI撮影及び画像処理(Functional MRI (II))について理解する。	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
11	特殊MRI撮影及び画像処理(Functional MRI (III))について理解する。	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
12	特殊MRI撮影及び画像処理(MR angiography (I))について理解する。	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
13	特殊MRI撮影及び画像処理(MR angiography (II))について理解する。	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
14	統計処理ソフトSPSSを用いたデータ処理方法について理解する。(II)	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
15	講義全ての総括を行い、CTやMRIの撮影及び画像処理について再確認する。	講義・演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む

2023年度

歯科放射線学輪読会 (A reading circle on Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏, 小田 昌史, 松本 忍, 若杉 奈緒 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏, 小田 昌史 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 西村 瞬 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 松本 忍, 西村 瞬						

授業の概要

歯科放射線学のバイブルであるSom et alが記載した「Head and Neck Imaging」を読み、各疾患の画像を勉強する。

学生の到達目標

Som et alが記載した「Head and Neck Imaging」を読み、口腔・顎・顔面の各疾患の特徴的な画像所見を把握できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
Head and Neck Imaging 3rd edition, Som, Curtin et al Mosby 1996	Som, Curtin et al	Mosby

参考書

タイトル	著者	出版社
Head and Neck Imaging 3rd edition 1996	Som, Curtin et al	Mosby

成績評価方法・基準

評価項目	割合
輪読会中の発表	50%
口頭試問	50%

その他

【オフィスアワー】講義の前後、またはメールで受け付ける。病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	「Head and Neck Imaging」を輪読する。	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む

2023年度

顎顔面外科学ベーシック治療学コース (Basic treatment strategy of Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	土生 学, 三次 翔, 高橋 理, 原口 和也, 田部 士郎, 柳沼 樹, 森岡 政彦, 福田 晃 <small>笹栗 正明(口腔外科専門医)、土生 学(口腔外科専門医)、三次 翔(口腔外科専門医)、高橋 理(口腔外科専門医)、田部士郎(口腔外科認定医)、原口和也(口腔外科認定医)、柳沼 樹(口腔外科認定医)、福田 晃(口腔外科認定医)、森岡 政彦(口腔外科認定医)</small>						

授業の概要

口腔外科学の治療に関する基本手技を修得する。また、口腔外科専門医となるための中・高難度手術についての理解を深めるとともに、全身麻酔を含めた全身管理の基本を理解し、救急救命処置が行えるようにする。

学生の到達目標

1. 歯科の小手術を安全、確実に行うことができる。
2. 中・高難度の口腔外科手術の実際が理解できる。
3. 術前準備、術後手術創管理を行うことができる。
4. 術前・術中・術後の全身管理を行うことができる。
5. 救急救命処置を行うことができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
Contemporary Oral and Maxillofacial Surgery	Mosby	

参考書

タイトル	著者	出版社
口腔外科ハンドマニュアル		クインテッセンス出版
口腔外科臨床ヒント集		クインテッセンス出版
その他、関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーション	30%
症状・手術レポート	30%
単位認定試験	40%

Total evaluation by case presentations, operation records and oral examinations

その他

学生相談：随時

2023年度

顎顔面外科学ベーシック治療学コース (Basic treatment strategy of Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	土生 学, 三次 翔, 高橋 理, 原口 和也, 田部 士郎, 柳沼 樹, 森岡 政彦, 福田 晃 笹栗 正明 (口腔外科専門医)、土生 学 (口腔外科専門医)、三次 翔 (口腔外科専門医)、高橋 理 (口腔外科専門医)、田部士郎 (口腔外科認定医)、原口和也 (口腔外科認定医)、柳沼 樹 (口腔外科認定医)、福田 晃 (口腔外科認定医)、森岡 政彦 (口腔外科認定医)						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	普通抜歯術を学習する。5症例以上を実施する	実習	森岡	参考書の予習復習
3,4	難抜歯術を学習する。5症例以上を実施する	実習	三次	参考書の予習復習
5,6	簡単な埋伏歯抜歯術を学習する。5症例以上を実施する	実習	三次	参考書の予習復習
7,8	試問1、ディスカッションカンファレンスでの症例発表	ケースプレゼンテーション	笹栗 森岡	症例・手術レポート
9,10	嚢胞摘出術を学習する。3症例以上を実施する	実習	福田	参考書の予習復習
11,12	歯根端切除術を学習する。3症例以上を実施する	実習	高橋 森岡	参考書の予習復習
13,14	良性腫瘍摘出術を学習する。1症例以上を実施する	実習	高橋	参考書の予習復習
15,16	補綴前外科手術を学習する。1症例以上を介助する	実習	福田	参考書の予習復習
17,18	手術創感染予防を学習する。10症例上の術後管理を実施する	実習	柳沼	参考書の予習復習
19,20	試問2、ディスカッションカンファレンスでの症例発表	ケースプレゼンテーション	笹栗 森岡	症例・手術レポート
21,22	顎変形症の術前準備を学習する。2症例以上を実施する	実習	田部	参考書の予習復習
23,24	顎変形症の手術を学習する。2症例以上を介助する	実習	土生 森岡	参考書の予習復習
25,26	顎変形症の術後管理を学習する。2症例以上を実施する	実習	高橋	参考書の予習復習
27,28	試問3、ディスカッションカンファレンスでの症例発表	ケースプレゼンテーション	笹栗	症例・手術レポート
29,30	癌の化学療法を学習する。2症例以上を実施する	実習	福田	参考書の予習復習
31,32	癌の放射線療法を学習する。1症例以上見学をする	実習	原口	参考書の予習復習
33,34	口腔癌切除術を学習する。2症例以上を介助する	実習	原口	参考書の予習復習
35,36	口腔癌の再建法を学習する。2症例以上を介助する	実習	田部	参考書の予習復習
37,38	口腔癌の術後管理を学習する。2症例以上を実施する	実習	田部	参考書の予習復習
39,40	ターミナルケア1症例以上見学をする	実習	福田	参考書の予習復習
41,42	試問4、ディスカッションカンファレンスでの症例発表	ケースプレゼンテーション	森岡	症例・手術レポート
43,44	顎関節症の外科的処置を学習する。1症例以上を介助する	実習	田部	参考書の予習復習

2023年度

顎顔面外科学ベーシック治療学コース (Basic treatment strategy of Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	土生 学, 三次 翔, 高橋 理, 原口 和也, 田部 士郎, 柳沼 樹, 森岡 政彦, 福田 晃 <small>笹栗 正明（口腔外科専門医）、土生 学（口腔外科専門医）、三次 翔（口腔外科専門医）、高橋 理（口腔外科専門医）、田部士郎（口腔外科認定医）、原口和也（口腔外科認定医）、柳沼 樹（口腔外科認定医）、福田 晃（口腔外科認定医）、森岡 政彦（口腔外科認定医）</small>						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
45,46	口唇口蓋裂の術前準備を学習する。1症例以上を実施する	実習	土生	参考書の予習復習
47,48	口唇口蓋裂の術後管理を学習する。1症例以上を実施する	実習	土生	参考書の予習復習
49,50	口唇口蓋裂の手術を学習する。1症例以上を介助する	実習	笹栗	参考書の予習復習
51,52	試問5、ディスカッションカンファレンスでの症例発表	ケースプレゼンテーション	笹栗	症例・手術レポート
53,54	静脈内鎮静法を学習する。1症例以上を見学する	実習	柳沼	参考書の予習復習
55,56	全身麻酔を学習する。1症例以上を見学する	実習	柳沼	参考書の予習復習
57,58	救急救命処置を学習する。BLSコースを受講する	実習	柳沼	参考書の予習復習
59,60	単位認定試験症例の総括を提出する	-	笹栗	-

2023年度

顎顔面外科学ベーシック診断学コース (Basic diagnostic strategy of Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	土生 学, 三次 翔, 高橋 理, 原口 和也, 田部 士郎, 柳沼 樹, 森岡 政彦, 福田 晃 (口腔外科指導医) 富永和宏、土生 学 (口腔外科専門医) 富永和宏、笹栗正明、土生 学、三次 翔 高橋 理、(口腔外科認定医) 高橋 理、田部士郎、原口和也、柳沼 樹、福田 晃						

授業の概要

口腔外科の各種疾患の診断の基本を修得する。顎関節症、歯科心身症（舌痛症など）や口腔粘膜疾患など口腔内科的な治療に関する基本知識を修得する。併せて、医の倫理を身につけ、高齢社会の中で遭遇頻度の高い全身疾患を理解し、関連医科との連携の下に歯科治療が行えるようにする。

学生の到達目標

1. 診断のための適切な医療面接（情報収集）ができる。
2. 診断のために必要な画像診断法の選択ができる。
3. 各種画像の診断ができる。
4. 収集した情報を分析し、診断する基本を修得し、実践できる。
5. 口腔粘膜疾患の診断ができる。
6. 口腔粘膜疾患の基本治療ができる。
7. 顎関節症の診断ができる。
8. 顎関節症の基本治療ができる。
9. 遭遇頻度の高い全身疾患の病態が理解できる。
10. 全身疾患を持つ患者に対し、医科との連携の下に必要な対応ができる。
11. 医の倫理を身につけ、知識を高める。

テキスト

タイトル	著者	出版社
Contemporary Oral and Maxillofacial Surgery		Mosby

参考書

タイトル	著者	出版社
口腔外科ハンドマニュアル		クインテッセンス出版
口腔外科臨床ヒント集		クインテッセンス出版
その他、関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーション	30%
症状レポート	30%
単位認定試験	40%

なし

その他

学生相談；随時

2023年度

顎顔面外科学ベーシック診断学コース (Basic diagnostic strategy of Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	土生 学, 三次 翔, 高橋 理, 原口 和也, 田部 士郎, 柳沼 樹, 森岡 政彦, 福田 晃 (口腔外科指導医) 富永和宏、土生 学 (口腔外科専門医) 富永和宏、笹栗正明、土生 学、三次 翔 高橋 理、(口腔外科認定医) 高橋理、田部士郎、原口和也、柳沼 樹、福田 晃						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	医療面接（情報収集）10症例以上を実施する	実習	三次	参考書の予習復習
3,4	臨床検査の理解1：血液一般、生化学検査5症例以上を実施する	実習	三次	参考書の予習復習
5,6	臨床検査の理解2：血液一般、生化学検査5症例以上を実施する	実習	田部	参考書の予習復習
7,8	CTの読影10症例以上を実施する	実習	高橋 森岡	参考書の予習復習
9,10	MRIの読影5症例以上を実施する	実習	高橋	参考書の予習復習
11,12	超音波画像の読影5症例以上を実施する	実習	高橋	参考書の予習復習
13,14	各種疾患の診断に必要な画像診断の選択10症例以上を実施する	実習	福田	参考書の予習復習
15,16	収集した情報の分析による診断5症例以上を実施する	実習	田部	参考書の予習復習
17,18	試問1、ディスカッションカンファレンスでの症例発表	ケースプレゼンテーション	森岡	症例レポート
19,20	口腔粘膜疾患の診断1：病態病理学的側面3症例以上を実施する	実習	福田	参考書の予習復習
21,22	口腔粘膜疾患の診断2：臨床的側面3症例以上を実施する	実習	福田	参考書の予習復習
23,24	口腔粘膜疾患の基本治療3症例以上を実施する	実習	福田	参考書の予習復習
25,26	菌性感染症の診断3症例以上を実施する	実習	田部	参考書の予習復習
27,28	菌性感染症の基本治療3症例以上を実施する	実習	田部	参考書の予習復習
29,30	顎関節症の診断3症例以上を実施する	実習	土生 森岡	参考書の予習復習
31,32	顎関節症の基本治療3症例以上を実施する	実習	土生	参考書の予習復習
33,34	歯科心身症の診断2症例以上を実施する	実習	笹栗 森岡	参考書の予習復習
35,36	歯科心身症の基本治療2症例以上を実施する	実習	笹栗	参考書の予習復習
37,38	試問2、ディスカッションカンファレンスでの症例発表	ケースプレゼンテーション	笹栗	症例レポート
39,40	糖尿病患者の歯科治療についての理解3症例以上を実施する	実習	森岡	参考書の予習復習
41,42	高血圧、心疾患患者の歯科治療についての理解3症例以上を実施する	実習	土生	参考書の予習復習
43,44	抗凝固療法中の患者の歯科治療についての理解3症例以上を実施する	実習	原口	参考書の予習復習

2023年度

顎顔面外科学ベーシック診断学コース (Basic diagnostic strategy of Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	土生 学, 三次 翔, 高橋 理, 原口 和也, 田部 士郎, 柳沼 樹, 森岡 政彦, 福田 晃 (口腔外科指導医) 富永和宏、土生 学 (口腔外科専門医) 富永和宏、笹栗正明、土生 学、三次 翔 高橋 理、(口腔外科認定医) 高橋 理、田部士郎、原口和也、柳沼 樹、福田 晃						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
45,46	肝・腎疾患患者の歯科治療についての理解3症例以上を実施する	実習	柳沼	参考書の予習復習
47,48	ビスホスホネート製剤使用患者の歯科治療についての理解3症例以上を実施する	実習	原口	参考書の予習復習
49,50	医科との連携下の歯科治療の実際3症例以上を実施する	実習	柳沼	参考書の予習復習
51,52	試問3、ディスカッションカンファレンスでの症例発表	ケースプレゼンテーション	森岡 笹栗	症例レポート
53,54	医の倫理について講義を受講する	実習	柳沼	参考書の予習復習
55,56	POSについて講義を受講する	実習	柳沼	参考書の予習復習
57,58	試問5、ディスカッションカンファレンスでの症例発表	ケースプレゼンテーション	笹栗	症例レポート
59,60	単位認定試験症例の総括を提出する	-	笹栗	-

2023年度

顎顔面外科学 1 (病理・病態解明) (Oral and Maxillofacial Surgery 1 (Pathology and disease mechanisms))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	土生 学, 三次 翔, 高橋 理, 原口 和也, 田部 士郎, 柳沼 樹, 森岡 政彦, 福田 晃						
	笹栗 正明 土生 学 三次 翔 高橋 理 田部 士郎 原口 和也 柳沼 樹 福田 晃 森岡 政彦						

授業の概要

口腔のさまざまな疾患モデルについての基本知識を修得する。

学生の到達目標

1. 病理組織標本の作り方を修得し、実践できる。
2. 免疫組織化学染色の基本を修得し、実践できる。
3. 骨延長動物モデルの作製法を理解できる。
4. 顎関節炎モデルの作製法を理解できる。
5. 骨壊死モデルの作製法を理解できる。
6. 移植腫瘍モデルの作製法を理解できる。
7. 病態モデルの病理組織所見を判断できる。
8. 病態モデルの免疫組織化学所見を判断できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習結果	50%
単位認定試験	50%

その他

学生相談：随時

2023年度

顎顔面外科学 1 (病理・病態解明) (Oral and Maxillofacial Surgery 1 (Pathology and disease mechanisms))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	土生 学, 三次 翔, 高橋 理, 原口 和也, 田部 士郎, 柳沼 樹, 森岡 政彦, 福田 晃						
	笹栗 正明 土生 学 三次 翔 高橋 理 田部 士郎 原口 和也 柳沼 樹 福田 晃 森岡 政彦						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	病理標本の作製法1: 標本固定から包埋までのプロセスを理解し、実際に行う。	講義・演習	高橋	参考書の予習・復習
2	病理標本の作製法2: 硬組織脱灰法、標本薄切法を理解し、実際に行う。	講義・演習	田部	参考書の予習・復習
3	病理標本の作製法4: H・E染色の実際を学習する。	講義・演習	田部	参考書の予習・復習
4	免疫組織化学染色法1: 軟組織の免疫組織化学染色の実際を学習する。	講義・演習	福田	参考書の予習・復習
5	免疫組織化学染色法1: 硬組織の免疫組織化学染色の実際を学習する。	講義・演習	福田	参考書の予習・復習
6	顎関節炎モデルの意義を理解し、作製法を学習する。	講義・演習	原口	参考書の予習・復習
7	顎関節炎モデルの病理所見を学習する。	講義	土生	参考書の予習・復習
8	BRONJモデルの意義を理解し、作製法を学習する。	講義	土生	参考書の予習・復習
9	骨粗鬆用動物におけるBRONJモデルの作製法を学習する。	講義	笹栗	参考書の予習・復習
10	BRONJモデルの病理所見を学習する。	講義	森岡	参考書の予習・復習
11	BRONJモデルの免疫組織化学的所見を学習する	講義	森岡	参考書の予習・復習
12	BRONJの治療法開発におけるモデルの応用を学習する	講義	柳沼	参考書の予習・復習
13	移植腫瘍モデルの意義を理解し、作製法を学習する。	講義	三次	参考書の予習・復習
14	移植腫瘍モデルの病理所見を学習する。	講義	柳沼	参考書の予習・復習
15	単位認定試験	-	笹栗	-

2023年度

顎顔面外科学 2 (薬物・遺伝子導入) (Oral and Maxillofacial Surgery 2 (Drug and gene induction))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	土生 学, 三次 翔, 高橋 理, 原口 和也, 田部 士郎, 柳沼 樹, 森岡 政彦, 福田 晃						
	笹栗 正明 土生 学 高橋 理 三次 翔 田部 士郎 原口 和也 柳沼 樹 福田 晃 森岡 政彦						

授業の概要

電気や超音波を用いた薬物・遺伝子導入法を修得する。

学生の到達目標

1. 細胞培養の基本を修得し、実践できる。
2. 菌体操作の基本を習得し、実践できる。
3. DNAの取り扱いの基本を修得し、実践できる。
4. エレクトロポレーション法(電気穿孔法)の基本を修得し、実践できる。
5. ソノポレーション法(超音波導入法)の基本を修得し、実践できる。
6. 基本的な解析方法を修得し、実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
なし		

参考書

タイトル	著者	出版社
必ず上手くいく遺伝子導入と発現解析プロトコール		羊土社
アット・ザ・ベンチ バイオ研究完全指南		メディカルサイエンスインターナショナル

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習結果	50%
単位認定試験	50%

その他

学生相談：随時

2023年度

顎顔面外科学 2 (薬物・遺伝子導入) (Oral and Maxillofacial Surgery 2 (Drug and gene induction))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	土生 学, 三次 翔, 高橋 理, 原口 和也, 田部 士郎, 柳沼 樹, 森岡 政彦, 福田 晃						
	笹栗 正明 土生 学 高橋 理 三次 翔 田部 士郎 原口 和也 柳沼 樹 福田 晃 森岡 政彦						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	細胞培養1：無菌操作の基本、培養室への入り方を学習する。	講義・演習	高橋 森岡	参考書の予習・復習
2,3	細胞培養2：細胞の継代を学習する。	講義・演習	原口 森岡 柳沼	参考書の予習・復習
4	菌体操作：培養と維持を学習する。	講義・演習	三次 柳沼	参考書の予習・復習
5,6	DNA取扱い：DNA抽出を学習する。	講義・演習	田部	参考書の予習・復習
7	エレクトロポレーション法を学習する。	講義・演習	土生 森岡	参考書の予習・復習
8	ソノポレーション法を学習する。	講義・演習	田部	参考書の予習・復習
9,10	解析方法1：PCR法を学習する。	講義・演習	福田	参考書の予習・復習
11,12	解析方法2：ウェスタンブロットング法を学習する。	講義・演習	福田 柳沼	参考書の予習・復習
13,14	解析方法3：フローサイトメトリー法を学習する。	講義・演習	笹栗 柳沼	参考書の予習・復習
15	単位認定試験	-	笹栗	参考書の予習・復習

2023年度

顎顔面外科学 3 (検討会) (Oral and Maxillofacial Surgery 3 (Conferences))

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	土生 学, 三次 翔, 高橋 理, 原口 和也, 田部 士郎, 柳沼 樹, 森岡 政彦, 福田 晃						
	笹栗 正明 土生 学 高橋 理 三次 翔 田部 士郎 原口 和也 柳沼 樹 福田 晃 森岡 政彦						

授業の概要

口腔外科学関連の最新の研究の動向を理解するために、英語文献の抄読を行う。口腔外科の英文の教科書の輪読を行う。各自の研究内容に対する報告会、ディスカッションを行う。学内の各種チームアプローチ検討会への参加(顎関節症、顎変形症、口腔腫瘍、インプラント、ドライマウスなど)。

学生の到達目標

1. 英語文献を読み込む能力を高める。
2. 研究の内容を理解できる。
3. 研究を批判する力を高める。
4. 研究の背景や動向を理解できる。
5. 学際的領域の理解を深める。

テキスト

タイトル	著者	出版社
なし		

参考書

タイトル	著者	出版社
関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	100%

セミナー中の発表による。教員全員で評価し、不良な場合は再発表を行う。

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	研究の背景と最新の文献の内容、および関連分野の研究の今後の展望を理解する	輪読、抄読、文献紹介および討論	笹栗、土生、高橋、三次、田部、原口、柳沼、福田、森岡	文献詳読および関連分野の調査

2023年度

口腔内科学ベーシックコース（Oral Medicine（Basic Course））

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉岡泉（日本口腔外科学会専門医・指導医）吉賀大午（日本口腔外科学会専門医）岩永賢二郎（日本口腔外科学会認定医）大谷泰志（日本口腔外科学会専門医）鶴島弘基（日本口腔外科学会専門医）坂口修（日本口腔外科学会専門医）田中純平（日本口腔外科学会認定医）西牟田文香						

授業の概要

口腔内科学(Oral medicine)は 歯科患者の口腔だけに視点を向けず、全身的背景を考慮した口腔疾患の診断と治療を目的とし、内科的なアプローチを主体として口腔の医療にあたる学問である。口腔内科の基本的な考え方について学ぶ。

学生の到達目標

1. 全身疾患を考えながら口腔疾患の診断と治療が進めることができる。2. 全身疾患を持った患者の口腔疾患の治療を行うに際して、全身疾患を把握し、口腔疾患の治療が全身に及ぼす影響と全身疾患が口腔疾患の治療に与える影響について理解を深める。3. 他科の医師をはじめとした関連する職種の人達との医療連携、チーム医療を理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
プリント配布		

参考書

タイトル	著者	出版社
口腔外科学	白砂兼光、古郷幹彦編	医歯薬出版
口腔内科学	山根源之、草間幹夫、久保田英朗、中村誠司	永末書店

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	60%
演習課題	40%

講義の事後レポート（第1～15回分）1回×4点、演習課題の提出（第1～10回、10回分）1回×4点で評価する。

その他

学生相談：月～金：17:00～

2023年度

口腔内科学ベーシックコース（Oral Medicine（Basic Course））

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉岡泉（日本口腔外科学会専門医・指導医）吉賀大午（日本口腔外科学会専門医）岩永賢二郎（日本口腔外科学会認定医）大谷泰志（日本口腔外科学会専門医）鶴島弘基（日本口腔外科学会専門医）坂口修（日本口腔外科学会専門医）田中純平（日本口腔外科学会認定医）西牟田文香						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	口腔内科学総論・口腔内科診断学内科学的なアプローチによる口腔疾患の診断や治療法を学習し、口腔疾患と全身疾患の関連性を学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	文献、参考書予習
2	口腔粘膜疾患の診断と治療口腔粘膜の構造と免疫学的特徴、口腔粘膜疾患の症候、診断法、治療法の概要を学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
3	顎関節症の診断と治療顎関節の機能と構造、顎関節症の分類、鑑別診断について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
4	ドライマウスの診断と治療ドライマウスの分類、症状、鑑別疾患、治療法について学習する	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
5	口腔心身症の診断と治療口腔心身症の分類、症状、鑑別疾患、治療法について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
6	口腔顎顔面痛・味覚障害の診療口腔顎顔面痛・味覚障害を訴える患者の診断方法、治療法について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
7	抗菌薬の使い方抗菌薬の分類、特徴、使い方について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
8	顎関節洗浄の実際顎関節腔洗浄療法について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
9	がん治療における周術期口腔管理がん治療における周術期口腔管理の意義と実際の手技について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
10	口腔癌の非手術的治療法口腔癌の化学療法、免疫療法などの非手術的治療法について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
11	循環器・呼吸器疾患患者の口腔治療循環器・呼吸器疾患患者の口腔疾患を治療する際の注意点について学習する。	講義	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
12	代謝内分泌・婦人科疾患患者の口腔治療代謝内分泌・婦人科疾患患者の口腔疾患を治療する際の注意点について学習する。	講義	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
13	消化器・泌尿器疾患患者の口腔治療消化器・泌尿器疾患患者の口腔疾患を治療する際の注意点について学習する。	講義	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習と次回講義部分の予習

2023年度

口腔内科学ベーシックコース（Oral Medicine（Basic Course））

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉岡泉（日本口腔外科学会専門医・指導医）吉賀大午（日本口腔外科学会専門医）岩永賢二郎（日本口腔外科学会認定医）大谷泰志（日本口腔外科学会専門医）鶴島弘基（日本口腔外科学会専門医）坂口修（日本口腔外科学会専門医）田中純平（日本口腔外科学会認定医）西牟田文香						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
14	血液・自己免疫疾患患者の口腔治療血液・自己免疫疾患患者の口腔疾患を治療する際の注意点について学習する	講義	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
15	医療連携・まとめチーム医療を行うのに必要な病診連携、病病連携、医科歯科連携、多職種連携、コンサルテーションについて学習する。	講義	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	講義・演習の復習

2023年度

口腔内科学アドバンスコースⅠ (Oral Medicine (Advanced Course Ⅰ))

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉岡泉 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉賀大午（日本口腔外科学会専門医）岩永賢二郎（日本口腔外科学会認定医）大谷泰志（日本口腔外科学会専門医）鶴島弘基（日本口腔外科学会専門医）坂口修（日本口腔外科学会専門医）田中純平（日本口腔外科学会認定医）西牟田文香						

授業の概要

口腔内科学的疾患の検査法および治療法を、実習を通して学ぶ。

学生の到達目標

全身疾患を考えながら口腔疾患の診断と治療が進めることができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
プリント配布		

参考書

タイトル	著者	出版社
口腔外科学	白砂兼光、古郷幹彦編	医歯薬出版
口腔内科学	山根源之 草間幹夫 久保田英朗 中村誠司	永末書店

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーション	60%
レポート	40%

その他

学生相談：月～金：17:00～

2023年度

口腔内科学アドバンスコースⅠ (Oral Medicine (Advanced Course Ⅰ))

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉岡泉（日本口腔外科学会専門医・指導医）吉賀大午（日本口腔外科学会専門医）岩永賢二郎（日本口腔外科学会認定医）大谷泰志（日本口腔外科学会専門医）鶴島弘基（日本口腔外科学会専門医）坂口修（日本口腔外科学会専門医）田中純平（日本口腔外科学会認定医）西牟田文香						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	口腔粘膜疾患診断のための情報収集医療面接について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	医療面接10症例以上を実施する。
3,4	口腔粘膜疾患診断のための情報収集血液検査、細胞診、生検など検査方法について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	血液検査、細胞診、生検5症例以上を実施する。
5,6	口腔粘膜疾患診断のための仮説の設定・評価・検証・診断診断の思考プロセスについて学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	診断方法5症例以上を実施する。
7,8	口腔粘膜疾患の治療治療法について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	口腔粘膜疾患の治療法5症例以上を実施する。
9,10	顎関節疾患診断のための情報収集医療面接について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	医療面接10症例以上を実施する。
11,12	顎関節疾患診断のための情報収集画像検査など検査方法について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	顎関節の画像検査5症例以上を実施する。
13,14	顎関節疾患診断のための仮説の設定・評価・検証・診断診断の思考プロセスについて学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	顎関節疾患診断5症例以上を実施する。
15,16	顎関節症の治療1 運動療法について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	運動療法5症例以上を実施する。
17,18	顎関節症の治療2 スプリント療法について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	スプリント療法1症例以上を実施する。
19,20	顎関節症の治療3 マニピュレーションについて学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	マニピュレーション1症例以上を実施する。
21,22	顎関節症の治療4 上関節腔洗浄療法について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	上関節腔洗浄療法1症例以上を説明する。
23,24	顎関節症の治療5 理学療法について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	理学療法5症例以上を実施する。
25,26	顎関節脱臼の治療1 保存的治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	顎関節脱臼の保存的治療1症例以上を説明する。

2023年度

口腔内科学アドバンスコースⅠ (Oral Medicine (Advanced Course I))

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉岡泉（日本口腔外科学会専門医・指導医）吉賀大午（日本口腔外科学会専門医）岩永賢二郎（日本口腔外科学会認定医）大谷泰志（日本口腔外科学会専門医）鶴島弘基（日本口腔外科学会専門医）坂口修（日本口腔外科学会専門医）田中純平（日本口腔外科学会認定医）西牟田文香						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
27,28	顎関節脱臼の治療 2 手術治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	顎関節脱臼の手術療法1症例以上を説明する。
29,30	その他の顎関節疾患の治療治療法選択について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	その他の顎関節疾患1症例以上を説明する。
31,32	ドライマウス診断のための情報収集医療面接について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	医療面接5症例以上を実施する。
33,34	ドライマウス診断のための情報収集血液検査、生検、画像検査など検査方法について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	血液検査、生検、画像検査5症例以上を実施する。
35,36	ドライマウス診断のための仮説の設定・評価・検証・診断診断の思考プロセスについて学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	ドライマウス診断5症例以上を実施する。
37,38	ドライマウスの治療治療法について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	ドライマウス治療5症例以上を実施する。
39,40	口腔心身症診断のための情報収集医療面接について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	医療面接3症例以上を実施する。
41,42	口腔心身症診断のための情報収集心理検査など検査方法について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	心理検査1症例以上を実施する。
43,44	口腔心身症診断のための仮説の設定・評価・検証・診断診断の思考プロセスについて学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	口腔心身症診断1症例以上を実施する。
45,46	口腔心身症の治療治療法について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	口腔心身症の治療1症例以上を実施する。
47,48	口腔顎顔面痛診断のための情報収集医療面接について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	医療面接1症例以上を実施する。
49,50	口腔顎顔面痛診断のための情報収集血液検査など検査方法について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	血液検査1症例以上を実施する。
51,52	口腔顎顔面痛診断のための仮説の設定・評価・検証・診断診断の思考プロセスについて学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	口腔顎顔面痛の診断1症例以上を実施する。
53,54	口腔顎顔面痛の治療治療法について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	口腔顎顔面痛の治療1症例以上を実施する。

2023年度

口腔内科学アドバンスコースⅠ (Oral Medicine (Advanced Course Ⅰ))

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉岡泉 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉賀大午（日本口腔外科学会専門医）岩永賢二郎（日本口腔外科学会認定医）大谷泰志（日本口腔外科学会専門医）鶴島弘基（日本口腔外科学会専門医）坂口修（日本口腔外科学会専門医）田中純平（日本口腔外科学会認定医）西牟田文香						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
55,56	がん化学療法の全身管理がん化学療法の全身管理について学習する	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	がん化学療法1症例以上を説明する。
57,58	がん放射線治療の周術期管理がん放射線治療の周術期管理について学習する	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	がん放射線治療1症例以上を説明する。
59,60	がん分子標的薬治療の周術期管理がん分子標的薬治療の周術期管理について学習する	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	がん分子標的薬治療1症例以上を説明する。

2023年度

口腔内科学アドバンスコース II (Oral Medicine (Advanced Course II))

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉岡泉 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉賀大午（日本口腔外科学会専門医）岩永賢二郎（日本口腔外科学会認定医）大谷泰志（日本口腔外科学会専門医）鶴島弘基（日本口腔外科学会専門医）坂口修（日本口腔外科学会専門医）田中純平（日本口腔外科学会認定医）西牟田文香						

授業の概要

全身疾患を持った患者の口腔治療を、実習を通して学ぶ。

学生の到達目標

全身疾患を持った患者の口腔疾患の治療を行うに際して、全身疾患を把握し、口腔疾患の治療が全身に及ぼす影響と全身疾患が口腔疾患の治療に与える影響について理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
プリント配布		

参考書

タイトル	著者	出版社
口腔外科学	白砂兼光、古郷幹彦編	医歯薬出版
口腔内科学	山根源之、草間幹夫、久保田英朗、中村誠司	永末書店

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーション	60%
レポート	40%

その他

学生相談：月～金：17:00～

2023年度

口腔内科学アドバンスコース II (Oral Medicine (Advanced Course II))

開講年次	1~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉賀大午 (日本口腔外科学会専門医) 岩永賢二郎 (日本口腔外科学会認定医) 大谷泰志 (日本口腔外科学会専門医) 鶴島弘基 (日本口腔外科学会専門医) 坂口修 (日本口腔外科学会専門医) 田中純平 (日本口腔外科学会認定医) 西牟田文香						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	高血圧症高血圧症患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	高血圧症2症例以上を実施する。
3,4	心疾患心疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	心疾患2症例以上を実施する。
5,6	呼吸器疾患呼吸器疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	呼吸器疾患2症例以上を実施する。
7,8	糖尿病糖尿病患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	糖尿病2症例以上を実施する。
9,10	婦人科疾患・妊婦婦人科疾患患者・妊婦の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	婦人科疾患・妊婦2症例以上を実施する。
11,12	血液疾患血液疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	血液疾患2症例以上を実施する。
13,14	自己免疫疾患自己免疫疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	自己免疫疾患2症例以上を実施する。
15,16	肝疾患肝疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	肝疾患2症例以上を実施する。
17,18	腎疾患腎疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	腎疾患2症例以上を実施する。
19,20	整形外科疾患整形外科患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	整形外科2症例以上を実施する。
21,22	精神疾患精神疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	精神疾患2症例以上を実施する。
23,24	脳神経外科疾患脳神経外科患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	脳神経外科疾患2症例以上を実施する。
25,26	耳鼻咽喉科疾患耳鼻咽喉科疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	耳鼻咽喉科疾患2症例以上を実施する。

2023年度

口腔内科学アドバンスコース II (Oral Medicine (Advanced Course II))

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉岡泉（日本口腔外科学会専門医・指導医）吉賀大午（日本口腔外科学会専門医）岩永賢二郎（日本口腔外科学会認定医）大谷泰志（日本口腔外科学会専門医）鶴島弘基（日本口腔外科学会専門医）坂口修（日本口腔外科学会専門医）田中純平（日本口腔外科学会認定医）西牟田文香						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
27,28	感染症感染症患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	感染症2症例以上を実施する。
29,30	皮膚科疾患眼科患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	皮膚科疾患2症例以上を実施する。

2023年度

口腔内科学アドバンスコースⅢ (Oral Medicine (Advanced Course Ⅲ))

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大谷 泰志						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉岡泉 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉賀大午（日本口腔外科学会専門医）岩永賢二郎（日本口腔外科学会認定医）大谷泰志（日本口腔外科学会専門医）鶴島弘基（日本口腔外科学会専門医）坂口修（日本口腔外科学会専門医）田中純平（日本口腔外科学会認定医）西牟田文香						

授業の概要

医療連携を、実習を通して学ぶ。

学生の到達目標

他科の医師をはじめとした関連する職種の人達との医療連携、チーム医療を理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
プリント配布		

参考書

タイトル	著者	出版社
口腔外科学	白砂兼光、古郷幹彦編	医歯薬出版
口腔内科学	山根源之、草間幹夫、久保田英朗、中村誠司	永末書店

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーション	60%
レポート	40%

その他

連絡先：月～金：17:00～ 大谷泰志

2023年度

口腔内科学アドバンスコースⅢ (Oral Medicine (Advanced Course III))

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大谷 泰志						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉岡泉 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉賀大午（日本口腔外科学会専門医）岩永賢二郎（日本口腔外科学会認定医）大谷泰志（日本口腔外科学会専門医）鶴島弘基（日本口腔外科学会専門医）坂口修（日本口腔外科学会専門医）田中純平（日本口腔外科学会認定医）西牟田文香						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2,3,4	病診連携病診連携について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	病診連携各回2症例以上を実施する。
5,6	コンサルテーションコンサルテーションについて学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	コンサルテーション各回2症例以上を実施する。
7,,8	医科歯科連携医科歯科連携について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	医科歯科連携各回2症例以上を実施する。
9,10	多職種連携医師との連携について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	多職種連携各回2症例以上を実施する。
11,12	多職種連携看護師との連携について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	多職種連携各回2症例以上を実施する。
13,14	多職種連携栄養士との連携について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	多職種連携各回2症例以上を実施する。
15,16	多職種連携歯科衛生士との連携について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	多職種連携各回2症例以上を実施する。
17,18	多職種連携メディカルソーシャルワーカーとの連携について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	多職種連携各回1症例以上を実施する。
19,20	多職種連携介護士との連携について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	多職種連携各回1症例以上を実施する。
21,22	多職種連携医療事務との連携について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	多職種連携各回1症例以上を実施する。
23,24	がん周術期口腔管理1 がん化学療法患者の口腔管理について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	がん周術期口腔管理各回1症例以上を実施する。
25,26	がん周術期口腔管理2 放射線治療患者の口腔管理について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	がん周術期口腔管理各回1症例以上を実施する。
27,28	骨吸収抑制薬使用患者の口腔管理骨吸収抑制薬使用患者の口腔管理について学習する。	実習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	骨吸収抑制薬各回2症例以上を実施する。

2023年度

口腔内科学アドバンスコースⅢ (Oral Medicine (Advanced Course Ⅲ))

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	60.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大谷 泰志						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 （日本口腔外科学会専門医・指導医）吉岡泉（日本口腔外科学会専門医・指導医）吉賀大午（日本口腔外科学会専門医）岩永賢二郎（日本口腔外科学会認定医）大谷泰志（日本口腔外科学会専門医）鶴島弘基（日本口腔外科学会専門医）坂口修（日本口腔外科学会専門医）田中純平（日本口腔外科学会認定医）西牟田文香						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
29,30	骨吸収抑制薬使用患者の口腔管理骨吸収抑制薬関連顎骨壊死治療について学習する。	実習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	骨吸収抑制薬関連顎骨壊死各回2症例以上を実施する。

2023年度

口腔内科学Ⅰ(顎変形症) (Oral MedicineⅠ (Jaw Deformity))

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉賀大午 (日本口腔外科学会専門医) 岩永賢二郎 (日本口腔外科学会認定医) 大谷泰志 (日本口腔外科学会専門医) 鶴島弘基 (日本口腔外科学会専門医) 坂口修 (日本口腔外科学会専門医) 田中純平 (日本口腔外科学会認定医) 西牟田文香						

授業の概要

顎変形症研究の知識と技能を習得する。

学生の到達目標

- 顎変形症の形態の分析・評価方法を理解できる。
- 顎変形症の機能の分析・評価方法を理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
プリント配布		

参考書

タイトル	著者	出版社
口腔外科学	白砂兼光、古郷幹彦編	医歯薬出版
口腔内科学	山根源之、草間幹夫、久保田英朗、中村誠司	永末書店

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	60%
演習課題	40%

講義の事後レポート(第1～15回分)1回×4点、演習課題の提出(第1～10回、10回分)1回×4点で評価する。

その他

学生相談：月～金：17:00～

2023年度

口腔内科学 I (顎変形症) (Oral Medicine I (Jaw Deformity))

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉賀大午 (日本口腔外科学会専門医) 岩永賢二郎 (日本口腔外科学会認定医) 大谷泰志 (日本口腔外科学会専門医) 鶴島弘基 (日本口腔外科学会専門医) 坂口修 (日本口腔外科学会専門医) 田中純平 (日本口腔外科学会認定医) 西牟田文香						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	顎変形症研究の動向顎変形症研究の動向について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症研究の動向
2	顎変形症の検査顎変形症の検査について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症の検査
3	顎変形症の分析顎変形症の分析について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症の分析
4	顎変形症の術前評価顎変形症の術前評価について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症の術前評価
5	顎変形症の術前情報の統合顎変形症の術前情報の統合について学習する	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症の術前情報の統合
6	顎変形症の医療連携顎変形症の医療連携について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症の医療連携
7	顎変形症の手術顎変形症の手術について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症の手術
8	顎変形症の術後評価顎変形症の術後評価について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症の術後評価
9	顎変形症の咀嚼機能顎変形症の咀嚼機能について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症の咀嚼機能
10	顎変形症患者の心理的評価顎変形症患者の心理的評価について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症患者の心理的評価
11	顎変形症と呼吸機能顎変形症と呼吸機能について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症と呼吸機能
12	顎変形症と構音機能顎変形症と構音機能について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症と構音機能
13	顎変形症と消化機能顎変形症と消化機能について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症と消化機能

2023年度

口腔内科学 I (顎変形症) (Oral Medicine I (Jaw Deformity))

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉賀大午 (日本口腔外科学会専門医) 岩永賢二郎 (日本口腔外科学会認定医) 大谷泰志 (日本口腔外科学会専門医) 鶴島弘基 (日本口腔外科学会専門医) 坂口修 (日本口腔外科学会専門医) 田中純平 (日本口腔外科学会認定医) 西牟田文香						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
14	顎変形症の3次元的评价顎変形症の3次元的评价について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症の3次元的评价
15	顎変形症の遺伝学的特徴顎変形症の遺伝学的特徴について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎変形症の遺伝学的特徴

2023年度

口腔内科学 II (Oral Medicine II)

開講年次	1~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉賀大午 (日本口腔外科学会専門医) 岩永賢二郎 (日本口腔外科学会認定医) 大谷泰志 (日本口腔外科学会専門医) 鶴島弘基 (日本口腔外科学会専門医) 坂口修 (日本口腔外科学会専門医) 田中純平 (日本口腔外科学会認定医) 西牟田文香						

授業の概要

口腔内科研究の知識と技能を習得する。

学生の到達目標

1. 骨造成研究の知識と技能を理解できる。2. 口腔粘膜疾患研究の知識と技能を理解できる。3. 顎関節疾患研究の知識と技能を理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
プリント		

参考書

タイトル	著者	出版社
口腔外科学	白砂兼光、古郷幹彦編	医歯薬出版
口腔内科学	山根源之、草間幹夫、久保田英朗、中村誠司	永末書店

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	60%
演習課題	40%

講義の事後レポート(第1~15回分) 1回×4点、演習課題の提出(第1~10回、10回分) 1回×4点で評価する。

その他

相談：月～金：17:00～ メールは随時受け付け

2023年度

口腔内科学 II (Oral Medicine II)

開講年次	1~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉賀大午 (日本口腔外科学会専門医) 岩永賢二郎 (日本口腔外科学会認定医) 大谷泰志 (日本口腔外科学会専門医) 鶴島弘基 (日本口腔外科学会専門医) 坂口修 (日本口腔外科学会専門医) 田中純平 (日本口腔外科学会認定医) 西牟田文香						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	骨造成研究の動向骨造成研究の動向について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	骨造成研究の動向
2	顎骨延長モデル動物顎骨延長モデル動物について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	顎骨延長モデル動物
3	サイナスリフトモデル動物サイナスリフトモデル動物について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	サイナスリフトモデル動物
4	移植モデル動物移植モデル動物について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	移植モデル動物
5	硬組織標本の作製方法硬組織標本の作製方法について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	硬組織標本の作製方法
6	口腔粘膜疾患研究の動向口腔粘膜疾患研究の動向について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	口腔粘膜疾患研究の動向
7	口腔粘膜疾患試料採取方法口腔粘膜疾患試料採取方法について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	口腔粘膜疾患試料採取方法
8	口腔粘膜疾患の免疫機構口腔粘膜疾患の免疫機構について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	口腔粘膜疾患の免疫機構
9	口腔乾燥症モデル動物口腔乾燥症モデル動物の作成方法	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	口腔乾燥症モデル動物
10	金属アレルギーモデル動物金属アレルギーモデル動物の作成方法について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	金属アレルギーモデル動物
11	顎関節症研究の動向顎関節症研究の動向について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	顎関節症研究の動向
12	顎関節炎モデル動物顎関節炎モデル動物について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	顎関節炎モデル動物
13	顎関節滑液採取方法顎関節滑液採取方法について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	顎関節滑液採取
14	顎関節滑液分析方法顎関節滑液採取方法について学習する。	講義・演習	吉岡、岩永、鶴島、田中、吉賀、大谷、坂口、西牟田	顎関節滑液分析方法

2023年度

口腔内科学 II (Oral Medicine II)

開講年次	1~4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉賀 大午, 吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉賀大午 (日本口腔外科学会専門医) 岩永賢二郎 (日本口腔外科学会認定医) 大谷泰志 (日本口腔外科学会専門医) 鶴島弘基 (日本口腔外科学会専門医) 坂口修 (日本口腔外科学会専門医) 田中純平 (日本口腔外科学会認定医) 西牟田文香						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
15	顎関節疼痛閾値の計測方法顎関節疼痛閾値の計測方法について学習する。	講義・演習	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	顎関節疼痛閾値の計測方法

2023年度

口腔内科学Ⅲ (Oral Medicine Ⅲ)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 大谷 泰志, 西牟田 文香 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会専門医・指導医) 吉賀大午 (日本口腔外科学会専門医) 岩永賢二郎 (日本口腔外科学会認定医) 大谷泰志 (日本口腔外科学会専門医) 鶴島弘基 (日本口腔外科学会専門医) 坂口修 (日本口腔外科学会専門医) 田中純平 (日本口腔外科学会認定医) 西牟田文香						

授業の概要

口腔内科的疾患、全身疾患と口腔との関連性についての重要な最近の研究の動向を理解するために文献を抄読する。

学生の到達目標

1. 英語文献の内容を理解できる。
2. 研究を客観的に批評できる。
3. 研究の背景を理解できる。
4. 研究をプレゼンテーションできる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
各自が論文を選別し、各自がプレゼンテーションに必要なものを用意する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
論文の選択基準	60%
プレゼンテーション能力	40%

その他

学生相談：月～金：17:00～

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	口腔内科学領域で重要な最新の研究の内容および動向を理解し、説明する。	論文紹介および討論	吉岡、吉賀、岩永、大谷、鶴島、坂口、田中、西牟田	論文の理解

2023年度

歯科麻酔学（障害者歯科コース）（Dentistry for disabled persons）

開講年次	1～3年次	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	4.0
授業方法	講義・実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	原野 望						
担当教員	渡邊 誠之, 椎葉 俊司, 原野 望, 茂山 幸代						
	原野 望 茂山 幸代 椎葉 俊司 渡邊 誠之						

授業の概要

社会と経済の発展によって医療と福祉が高度になるとともに、障害者の保健医療とその需要が増大したことから、歯科医療の拡大、分化と成熟が必要となってきた。そのような中で本コースでは、精神や身体の障害について、また障害者にみられる歯科疾患の特質、原因と症状について研究し、あわせて診断、予防と治療法の研究と開発を行い、それを歯科診療に具体化させていく事を目的とする。

学生の到達目標

1. 障害者の社会的問題と制度・法律について理解できる。
2. 障害の種類と歯科的特徴を理解できる。
3. 障害者の歯科診療とその行動調整を理解できる。
4. 障害者の全身管理を理解できる。
5. 安全な笑気吸入鎮静法、静脈内鎮静法を習得し、実践できる。
6. 障害者医療における歯科医師の役割を理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版	日本障害者歯科学会	医歯薬出版株式会社
歯科麻酔学 第8版	福島和昭	医歯薬出版株式会社

参考書

タイトル	著者	出版社
障害者歯科学会雑誌		日本障害者歯科学会
小児歯科学会雑誌		日本小児歯科学会
有病者歯科医療		日本有病者歯科医療学会
日本歯科麻酔学会雑誌		日本歯科麻酔学会

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義・演習におけるレポート	50%
筆記試験	50%

その他

本コースを履修し当科にて臨床研修を継続すると、日本障害者歯科学会認定医試験の受験資格（学会在籍3年以上が必要）を取得することができるため、選択時に日本障害者歯科学会への入会が望ましい。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題

2023年度

歯科麻酔学（疼痛管理Ⅰ）（Dental Anesthesiology Pain managementⅠ）

開講年次	2～4年次	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	左合 徹平						
担当教員	椎葉 俊司, 左合 徹平						

授業の概要

歯科における治療行為は生体にとって侵害刺激である。この刺激が何らかの理由により痛覚過敏症や触覚過敏を起こすことがある。また、歯科治療後に顔面部の麻痺や三叉神経痛、顎関節症などの併発を起こすこともある。また、歯性疼痛が原因でうつ症状を来すこともある。これらの疾患患者では通常の歯科的対応では治療困難なことが多い。そこで、これら歯科の顎・顔面部の神経疾患（急性・慢性疼痛や麻痺）の原因、機構、対応を学ぶ。

学生の到達目標

1. 患者－歯科医師間の良好な関係を作る情報収集の技法を理解できる。
2. 良好な病診連携ができる。
3. 顎顔面部の疼痛の種類を説明できる。
4. 顎顔面部の疼痛の発生機序を説明できる。
5. 顎顔面部の疼痛の制御機構を説明・実施できる。
6. 顎顔面部の麻痺の種類、発生機序、対応法を説明できる。
7. 救急処置の基本を身につける。

テキスト

タイトル	著者	出版社
口腔顔面痛の診断と治療ガイドブック 第2版	日本口腔顔面痛学会編	医歯薬出版株式会社

参考書

タイトル	著者	出版社
最新の論文を与え、その要約を発表する。Anesthesiology、Anesthesia & Analgesia、British Journal of Anaesthesia、Painなど。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
抄読会の発表	100%

その他

2023年度

歯科麻酔学（疼痛管理Ⅰ）（Dental Anesthesiology Pain managementⅠ）

開講年次	2～4年次	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	左合 徹平						
担当教員	椎葉 俊司, 左合 徹平						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	医療危機管理の概要（リスクマネジメント）緊急時の対応法について学習する。【事前学習課題】一次救命処置、二次救命処置	講義	椎葉・渡邊	一次救命処置、 静脈路確保、 気管挿管
2	インフォームドコンセントの定義インフォームドコンセントのために必要な説明の手法および書類について学習する。【事前学習課題】医療法、パターンリズム	講義	渡邊	事例収集
3	医療事故・医療過誤医療事故・医療過誤について理解する。【事前学習課題】医療法	講義	茂山・渡邊	事例収集
4	インシデント・アクシデントの対応定義と報告書の作製について学習する。【事前学習課題】インシデント・アクシデントの定義	講義	原野・渡邊	事例収集
5	痛みの病態国際疼痛学会の痛みの定義について学習する。【事前学習課題】痛みの発生機序、痛みの種類、国際疼痛学会の痛みの定義	講義	椎葉	不快な感覚と情動体験の関係、慢性痛と急性痛
6	顎顔面部痛の発症と分類侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、心因性疼痛について学習する。【事前学習課題】口腔顔面領域に発生する疼痛の種類	講義	椎葉	口腔顔面痛の分類
7	顎顔面部痛の診断法診断に必要な検査法について学習する。【事前学習課題】顔面部の触診法	講義	椎葉	触診、電流刺激閾値検査
8	疼痛性疾患体性痛の分類と関連痛発症機序について学習する。【事前学習課題】体性痛の分類、口腔顔面領域に発生する関連痛の種類	講義	椎葉	深部痛、異所性疼痛
9	疼痛性疾患神経因性疼痛・心因性疼痛の発症機序と治療法について学習する。【事前学習課題】疼痛の発生機序、鎮痛薬の種類	講義	椎葉	アロディニア、痛覚過敏症、ディセステジア
10	疼痛性疾患癌性疼痛治療の5原則について学習する。【事前学習課題】癌性疼痛の発生機序、麻薬性鎮痛薬の薬理作用	講義	椎葉	ステップラダー、麻薬性鎮痛薬の使用法
11	麻痺性疾患顔面神経麻痺の発症機序と治療法について学習する。【事前学習課題】顔面神経麻痺の症状	講義	椎葉	神経障害程度の評価、誘発筋電図、星状神経節ブロック
12	麻痺性疾患三叉神経麻痺の発症機序と治療法について学習する。【事前学習課題】三叉神経の解剖学的特徴、三叉神経麻痺の症状	講義	椎葉	神経障害程度の分類、神経損傷と治癒機転、星状神経節ブロック
13	顔面筋の不随意運動顔面痙攣・眼瞼痙攣の発症機序と治療法について学習する。【事前学習課題】顔面部の神経、筋の解剖	講義	椎葉	ボトックス、神経血管減圧術
14	顔面筋の不随意運動口腔ジストニアの発症機序と治療法について学習する。【事前学習課題】脳神経の解剖	講義	椎葉	アルコールブロック、ボトックス
15	薬物療法顔面痛治療に使用される薬物と作用機序について学習する。【事前学習課題】鎮痛薬の薬理作用	講義	椎葉	抗うつ薬、プレガバリン、抗てんかん薬、麻薬

2023年度

歯科麻酔学（疼痛管理Ⅱ）（Dental Anesthesiology Pain management Ⅱ）

開講年次	2～4年次	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	椎葉俊司						
担当教員	椎葉 俊司, 原野 望, 茂山 幸代						

授業の概要

顎顔面部に疼痛を持つ患者に行う検査・診断・処置・評価法の研究を行う。

学生の到達目標

- 顎顔面部の疼痛・麻痺の発生機序を理解できる。
- 顎顔面部の疼痛・麻痺の検査法の研究を行う。
- 顎顔面部の疼痛・麻痺の診断法の研究を行う。
- 顎顔面部の疼痛・麻痺の処置法の研究を行う。
- 顎顔面部の疼痛・麻痺の評価法の研究を行う。
- 歯科での救急処置法の基本の研究を行う。

テキスト

タイトル	著者	出版社
口腔顔面痛の診断と治療 ガイドブック	日本航空顔面痛学会	医歯薬出版株式会社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
口頭試問	100%

その他

特になし

2023年度

歯科麻酔学（疼痛管理Ⅱ）（Dental Anesthesiology Pain management Ⅱ）

開講年次	2～4年次	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	椎葉俊司						
担当教員	椎葉 俊司, 原野 望, 茂山 幸代						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	顎顔面部痛・麻痺の発生機序の研究	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
2	顎顔面部痛・麻痺の発生機序の研究	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
3	顎顔面部痛・麻痺の病態の研究	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
4	顎顔面部痛の検査法の研究	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
5	疼痛性疾患の検査と診断法の研究（体性痛、深部痛）	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
6	疼痛性疾患の検査と診断法の研究（体性痛、深部痛）	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
7	疼痛性疾患検査と診断法の研究（神経因性疼痛・心因性疼痛）	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
8	疼痛性疾患検査と診断法の研究（神経因性疼痛・心因性疼痛）	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
9	疼痛性疾患検査と診断法の研究（癌性疼痛）	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
10	疼痛性疾患検査と診断法の研究（癌性疼痛）	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
11	麻痺性疾患検査と診断法の研究（顔面神経麻痺）	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
12	麻痺性疾患検査と診断法の研究（三叉神経麻痺）	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
13	顔面筋の不随意運動の研究（顔面痙攣・眼瞼痙攣）	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
14	顔面筋の不随意運動の研究（口腔ジストニア）	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし
15	薬物療法の研究	演習	椎葉俊司、原野望、茂山幸代	特になし

2023年度

麻酔学特論 (Anesthesiology)

開講年次	1～4年次	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	S.Watanabe						
担当教員	椎葉 俊司, 原野 望, 左合 徹平, 茂山 幸代, 安藤 瑛香						
	左合 徹平						

授業の概要

Every Thursday evening (from 5:00 p.m.), the topic pickup from the article written in English related to Anesthesiology, and You present the summary of the article using your created abstract to the audience in the journal club.

学生の到達目標

1. To augment the ability of the reading and understanding of the article written in English.
2. To understanding the newest topics related to Anesthesiology.
3. To build up the ability to criticize each part of the articles.

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
Anestghesiology	Evan D. Kharasch	LWW Journals
Anesthesia & Analgesia	Jean-Francois Pittet	Wloters Kluwer
British Journal of Anaesthesia	Ravi P. Mahajan	Oxford Journals

成績評価方法・基準

評価項目	割合
Evaluation of oral presentations and discussions	50
Evaluation of the created abstracts	50

ルービック評価表を用いる。

その他

Feel free to contact through the e-mail or visit directly our office, located in the 9th floor of Kyushu Dental University Hospital.

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1-13	Understanding the background and the newest knowledge in the worldwide articles (Anesthesiology, Anesthesia & Analgesia, British Journal of Anesthesia, et al). You will present and discuss the core of the article in our journal club.	Presentation and discussion	S. Watanabe	Read and think about the topics in the articles related to Anesthesiology.
14-15	Review	LecturePractice	S. Watanabe	Review of lecture

2023年度

麻酔学（ベーシックコース）（Anesthesiology(Basic course)）

開講年次	1～4年次	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員							

授業の概要

呼吸循環管理の上で必要な基本的手技の理解、習得を目標とする。基本手技はマスク換気、静脈路確保、モニタリング、気管挿管とする

学生の到達目標

1. 呼吸循環モニタリングの知識を習得し、理解できる。2. マスク換気が理解でき、実践できる。3. 静脈路確保が理解でき、実践できる。4. 気管挿管が理解でき、実践できる。

コアカリキュラム項目

項1	項2	項3	項4	項5	内容

テキスト

タイトル	著者	出版社
ビジュアル基本手技シリーズ（注射・採血法、改訂版、必ずうまくいく 気管挿管 改訂版）		羊土社
周術期モニタリング徹底ガイド		羊土社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
Evaluation of the technique of mask ventilation, tracheal intubation and insertion of iv cath.	35%
Evaluation of the preparation for the ECG, NIBP, SpO2 monitoring.	35%
Evaluation of the anesthesia records	30%

Each maneuver is evaluated by using Rubric method.

その他

Feel free to contact through the e-mail or visit directly our office, located in the 9th floor of Kyushu Dental University Hospital.

2023年度

麻酔学（ベーシックコース）（Anesthesiology(Basic course)）

開講年次	1～4年次	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	実習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員							

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題	講義室等
1,2	呼吸モニタリングの理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み	the operating room in the surgical units
3,4	循環モニタリングの理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み	the operating room in the surgical units
5,6	その他の生体モニタリングの理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み	the operating room in the surgical units
7,8	マスク換気の理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み	the operating room in the surgical units
9,10	気管挿管の理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み	the operating room in the surgical units
11,12	静脈路確保の理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み	the operating room in the surgical units
13,14	呼吸の評価と循環の評価と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み	the operating room in the surgical units
15	試験	試験	渡邊	参考書の該当部分の読み込み	the conference room in the surgical units

2023年度

臨床歯科麻酔学 (Clinical Dental Anesthesiology)

開講年次	1～4年次	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	左合 徹平						
担当教員	左合 徹平						

授業の概要

歯科臨床における麻酔には全身麻酔法、静脈内鎮静法、吸入鎮静法、局所麻酔法があり、安全な歯科診療を行う上で必要不可欠である。各種麻酔法を安全・確実に行うために必要な解剖、生理、画像診断等の基礎的な理論を理解し、術前患者評価や麻酔計画立案に必要な知識を習得する。また提示された症例について麻酔計画立案から周術期管理までのシミュレーション、フィードバックを行い、歯科麻酔の臨床的な能力を高める。

学生の到達目標

1. 情報収集の技法を理解できる。
2. 良好な病診連携について理解する。
3. 麻酔法の種類を理解する。
4. バイタルサイン異常の発生機序を理解する。
5. 麻酔管理上注意を要する疾患について理解する。
6. 手術中の異常事態に対する対応法を学習する。
7. 二次救急処置の基本について学習する。

テキスト

タイトル	著者	出版社
歯科麻酔学		医歯薬出版

参考書

タイトル	著者	出版社
ミラー麻酔科学		メディカルサイエンスインターナショナル

成績評価方法・基準

評価項目	割合
症例検討の発表	100%

その他

2023年度

臨床歯科麻酔学 (Clinical Dental Anesthesiology)

開講年次	1～4年次	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	左合 徹平						
担当教員	左合 徹平						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	術前情報収集手術前の情報収集について学習する。【事前学習課題】 静脈内鎮静法、全身麻酔法	講義	渡邊	参考書の予習・復習
2	麻酔管理上注意を要する疾患(循環器疾患)循環生理と循環器疾患について学習する。【事前学習課題】 心電図、高血圧、循環作動薬、降圧薬、昇圧薬	講義	渡邊	参考書の予習・復習
3	麻酔管理上注意を要する疾患(呼吸器疾患)呼吸生理と呼吸器疾患について学習する。【事前学習課題】 呼吸器疾患の検査法、喘息、喘息発作時の対応	講義	渡邊	参考書の予習・復習
4	麻酔管理上注意を要する疾患(代謝性疾患)代謝生理と代謝性疾患について学習する。【事前学習課題】 糖尿病、甲状腺疾患	講義	渡邊	参考書の予習・復習
5	画像診断麻酔管理に必要な画像診断について学習する。【事前学習課題】 MRI、CT、エコー検査	講義	渡邊	参考書の予習・復習
6	各種麻酔法の適応と分類各種麻酔法の長所・短所および適応について学習する。【事前学習課題】 局所麻酔、硬膜外麻酔、吸入鎮静法、静脈内鎮静法、全身麻酔	講義	渡邊	参考書の予習・復習
7	全身麻酔法(薬剤)全身麻酔で使用する薬剤について学習する。【事前学習課題】 静脈麻酔薬、吸入麻酔薬、麻薬性鎮痛薬、筋弛緩薬	講義	渡邊	参考書の予習・復習
8	全身麻酔法(気道管理)各種気道管理デバイスについて学習し、その使用法に習熟する。【事前学習課題】 気管挿管、声門上器具、ビデオ喉頭鏡、ファイバースコープ	講義	渡邊	参考書の予習・復習
9	全身麻酔法(術後管理)全身麻酔の術後の管理方法について学習する。【事前学習課題】 オピオイドローテーション、超音波ガイド下神経ブロック	講義	渡邊	参考書の予習・復習
10	静脈内鎮静法静脈内鎮静法に使用する薬剤や実際の静脈内鎮静法について学習する。【事前学習課題】 ミダゾラム、プロポフォール、デクスメトミジン	講義	渡邊	参考書の予習・復習
11	まれな疾患の麻酔まれな疾患の麻酔管理法について学習する。【事前学習課題】 周術期に注意を要する症候群	講義	渡邊	参考書の予習・復習
12	周術期トラブルシューティング周術期に生じる各種トラブルとその対処法について学習する。【事前学習課題】 周術期に生じやすいトラブル	講義	渡邊	参考書の予習・復習
13	症例検討 1	講義	渡邊	参考書および症例提示
14	症例検討 2	講義	渡邊	参考書および症例提示
15	症例検討 3	講義	渡邊	参考書および症例提示

2023年度

摂食機能リハビリテーション学Ⅰ（ベーシック）（Oral Care and Rehabilitation I（Basic））

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	講義・実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	久保田潤平						
担当教員	多田 葉子, 久保田 潤平, 唐木 純一						

授業の概要

摂食・嚥下障害の診査を行い、的確な機能訓練を取り入れたリハビリ処方を組み立てることができるために必要な診断の手技、リハビリテーションの手技・効果について学ぶ。

学生の到達目標

1. 摂食・嚥下障害の障害を理解できる。2. 摂食・嚥下障害に対するリハビリテーションを行うことができる。3. 障害に応じた食事形態を選択することができる。4. 摂食・嚥下障害への機能的補綴的対応ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学	向井美恵	医歯薬出版

参考書

タイトル	著者	出版社
食べる機能の障害	金子芳洋	医歯薬出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試問・単位認定試験	70%
レポート（小テスト含む）	30%

その他

質問は授業外でも随時受け付ける。e-mailでも受け付ける。

2023年度

摂食機能リハビリテーション学1 (ベーシック) (Oral Care and Rehabilitation I (Basic))

開講年次	1~2年	期区分	通年	必修/選択	主科目(臨床)	単位数	4.0
授業方法	講義・実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	久保田潤平						
担当教員	多田 葉子, 久保田 潤平, 唐木 純一						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	正常な摂食・嚥下の発達メカニズム 摂食・嚥下障害(発達障害、中途障害、高齢者)	講義	久保田	摂食機能の発達
3,4	摂食嚥下障害患者への口腔ケア	実習	久保田	口腔機能管理
5,6	摂食・嚥下機能評価医療面接、病歴採取	講義	久保田	口腔機能アセスメント
7,8	摂食・嚥下機能評価スクリーニング	実習	久保田	RSST、MWST、咳テスト、FT
9,10	試験1	諮問	久保田	諮問内容の復習
11,12	呼吸訓練、咳嗽訓練	実習	久保田	呼吸訓練、咳嗽訓練
13,14	開口-閉口訓練 開口障害に対する訓練、閉口障害に対する訓練	実習	久保田	開口-閉口訓練
15,16	口腔周囲筋群・舌筋群の訓練1 口唇閉鎖訓練、バンゲード法	実習	久保田	口唇閉鎖訓練
17,18	口腔周囲筋群・舌筋群の訓練2 頬訓練、バンゲード法、舌訓練	実習	久保田	頬訓練
19,20	口腔周囲筋群・舌筋群の訓練3 軟口蓋挙上訓練	実習	久保田	軟口蓋挙上訓練
21,22	口腔周囲筋群・舌筋群の訓練4 舌訓練、舌背挙上訓練、舌尖挙上訓練	実習	久保田	舌訓練、舌背挙上訓練、舌尖挙上訓練
23,24	咀嚼・送り込み訓練 咀嚼訓練、送り込み訓練	実習	久保田	咀嚼訓練、送り込み訓練
25,26	嚥下運動訓練 thermal tactile stimulation	実習	久保田	thermal tactile stimulation
27,28	嚥下運動訓練 舌根後退運動、舌保持嚥下訓練	実習	唐木	舌根後退運動、舌保持嚥下訓練
29,30	嚥下運動訓練 Shaker exercise	実習	唐木	頭部挙上訓練
31,32	頸部リラクゼーション 頸部可動域拡大訓練、喉頭周囲筋群のストレッチ	実習	唐木	頸部ROM訓練
33,34	嚥下手技の獲得 メンデルソン手技、バイオフィードバックの活用	実習	唐木	メンデルソン手技
35,36	代償的嚥下法 側方向き嚥下、複数回嚥下、交互嚥下	実習	唐木	側方向き嚥下、複数回嚥下、交互嚥下
37,38	試験2	諮問	唐木	諮問内容の復習
39,40	鼻咽腔ファイバースコープの操作	実習	久保田	内視鏡下嚥下機能検査について
41,42	鼻咽腔ファイバースコープによる摂食・嚥下障害の診査	実習	久保田	内視鏡下嚥下機能検査での診断
43,44	嚥下造影の手順	講義	久保田	嚥下造影検査について
45,46	嚥下造影模擬食品の調整	実習	久保田	バリウムアレルギーについて
47,48	PAPの作製1 印象、ワイヤークラスプの作製	実習	多田	ワイヤークラスプの作製

2023年度

摂食機能リハビリテーション学Ⅰ（ベーシック）（Oral Care and Rehabilitation I（Basic））

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	講義・実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	久保田潤平						
担当教員	多田 葉子, 久保田 潤平, 唐木 純一						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
49,50	PAPの作製2舌接触面形態調整	実習	多田	舌接触補助床について
51,52	PAPの調整装着・調整	実習	多田	PAPの調整
53,54	PLPの作製1印象、ワイヤークラスプの作製	実習	多田	PLP作成のための印象法
55,56	PLPの作製2軟口蓋延長部の作製	実習	多田	PLP制作時の注意点
57,58	PLPの調整装着・調整	実習	多田	PLPの調整
59,60	総括、諮問3、単位認定試験	試験	久保田	諮問内容の復習

2023年度

摂食機能リハビリテーション学2（アドバンス）（Oral Care and Rehabilitation II（Advanced））

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	主科目（臨床）	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	久保田潤平						
担当教員	多田 葉子, 久保田 潤平, 唐木 純一						

授業の概要

要介護高齢者をはじめとした高齢者の全身状態を考慮した歯科治療と口腔ケア、指導ができるとともに、摂食嚥下機能考慮した要介護者の義歯修正および調整ができる。また、漢方薬や東洋医学などを理解した診療や指導ができる。

学生の到達目標

1. 高齢者の全身状態の評価、ならびに口腔環境および口腔周囲の評価ができる。2. 要介護高齢者の全身状態を考慮した口腔ケアや口腔機能訓練ができる。3. 高齢者の全身状態を考慮した漢方薬による歯科診療ができる。4. 基本的な舌診による保健指導ができる。4. 寝たきり高齢者の基本的な訪問歯科治療ができる。5. 要介護高齢者の摂食嚥下機能を考慮した義歯調整および修正ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
歯科漢方医学	柿木保明	末永書店

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試問・単位認定試験	70%
レポート（小テスト含む）	30%

その他

質問は授業外でも随時受け付ける。e-mailでも受け付ける。

2023年度

摂食機能リハビリテーション学2 (アドバンス) (Oral Care and Rehabilitation II (Advanced))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	久保田潤平						
担当教員	多田 葉子, 久保田 潤平, 唐木 純一						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	QOLおよびADLの評価バイタルサインの評価	実習	久保田	QOLとADLについて
3,4	心理検査とうつ状態の検査	実習	久保田	うつ病
5,6	口腔周囲筋の筋力評価咬合に関連する筋および表情筋、顔面の筋	実習	久保田	筋硬度計の使用法
7,8	口腔機能関連筋の筋力評価頸部と肩周囲の筋	実習	久保田	口腔機能関連筋の解剖
9,10	味覚検査	実習	久保田	味覚検査
11,12	口腔内感覚および顔面部の感覚評価	実習	唐木	感覚受容器について
13,14	唾液分泌検査安静時唾液の評価吐唾法と評価方法	実習	唐木	ワッテ法吐唾法
15,16	唾液分泌検査刺激時唾液の評価サクソン法・ガム法の評価方法	実習	唐木	サクソンテスト・ガムテスト
17,18	唾液分泌および分布度検査唾液湿潤度検査紙による評価口腔水分計ムーカスによる評価	実習	唐木	湿潤度検査紙
19,20	唾液の物性検査粘度計 (超音波型、回転型) 曳糸性測定器	実習	唐木	粘度計曳糸性測定器
21,22	口臭測定オーラルクロマを用いた口臭測定と評価	実習	唐木	口臭測定器の使い方
23,24	試験1	諮問	久保田	諮問内容の復習
25,26	口腔機能向上器質的口腔ケアと機能的口腔ケアの基本	実習	久保田	基本的口腔ケア技術
27,28	口腔機能向上液体タイプおよびゲル状タイプの保湿剤を用いた口腔ケア	実習	久保田	保湿剤
29,30	寝たきり状態の口腔ケア基本技術	実習	久保田	口腔衛生管理
31,32	口腔粘膜疾患の評価法口腔内カメラによる記録	実習	久保田	口腔内カメラの基本技術
33,34	口腔粘膜および舌粘膜の評価法西洋医学的評価および診断東洋医学的評価および診断	実習	久保田	口腔粘膜評価
35,36	舌診の基本技術	実習	久保田	舌診の基本
37,38	舌診からみた漢方薬選択 (1)	実習	久保田	口腔乾燥の漢方薬治療
39,40	舌診からみた漢方薬選択 (2)	実習	久保田	舌痛の漢方治療
41,42	舌診からみた漢方薬選択 (3)	実習	久保田	歯痛の漢方治療
43,44	舌診からみた保健指導、生活指導食事指導	実習	久保田	舌診からみた保健指導
45,46	試験2	諮問	久保田	諮問内容の復習
47,48	訪問歯科治療の準備	実習	多田	器具の理解

2023年度

摂食機能リハビリテーション学2 (アドバンス) (Oral Care and Rehabilitation II (Advanced))

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	主科目 (臨床)	単位数	4.0
授業方法	実習	時間数	120.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	久保田潤平						
担当教員	多田 葉子, 久保田 潤平, 唐木 純一						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
49,50	訪問歯科治療の治療器具選択	実習	多田	歯科訪問診療に持参できる器具の理解
51,52	訪問歯科治療の基本技術注水下の歯科治療(介助者)	実習	多田	バキューム・シリンジ
53,54	訪問歯科治療の基本技術注水下の歯科治療 (術者)	実習	多田	エンジンおよびタービン
55,56	寝たきり患者および要介護高齢者の義歯修正	実習	多田	義歯調整
57,58	寝たきり患者および要介護高齢者の義歯調整	実習	多田	PLPの調整
59,60	総括、試問3、単位認定試験	試験	久保田	諮問内容の復習

2023年度

高齢者歯科学セミナー1（摂食機能リハビリ） （Geriatric Dentistry I）

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目（研究）／副科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	久保田潤平						
担当教員	多田 葉子, 久保田 潤平, 唐木 純一						

授業の概要

高齢者歯科および摂食機能リハビリテーションに関する国内外の研究を理解し、評価方法および必要な治療法や訓練方について学ぶ。

学生の到達目標

1.高齢者歯科学の基本を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。2.摂食機能リハビリテーション学の基本を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。3.臨床研究および基礎研究を評価できる力を高める。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	70%
事前課題（関連領域の文献検索および精読）	30%

その他

質問は授業外でも受け付ける。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	高齢者歯科学および摂食機能リハビリテーションに関する最新の論文を検索し、評価することにより、研究の今後の展望を理解する。	臨床講義ゼミ抄読会	久保田 多田 唐木	関連領域の文献検索および精読

2023年度

高齢者歯科学セミナー 2 (統合医学) (Geriatric Dentistry II)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	久保田潤平						
担当教員	多田 葉子, 久保田 潤平, 唐木 純一						

授業の概要

高齢者の歯科治療や高齢者歯科学の研究に関連する統合医学の基本を理解し、評価方法および必要な治療法や訓練法について学ぶ。漢方薬の西洋医学的および東洋医学的作用や作用機序などについても学ぶ。また、舌診の歯科臨床への応用方法についても学ぶ。高齢者歯科医療において西洋医学と東洋医学を理解した統合医療を実践できる知識を学ぶ。統合医療に関する国内外の基礎的および臨床的研究について学ぶ。

学生の到達目標

1. 統合医学の基本を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。
2. 西洋医学および東洋医学の基本を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。
3. 代替補完医療学の基本を理解し、国内外の研究を理解する能力を養うとともに、臨床に応用できる。
4. 臨床研究および基礎研究を評価できる力を高める。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
歯科漢方医学	柿木保明	永末書店

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	70%
事前課題(関連領域の文献検索および精読)	30%

その他

質問は授業外でも受け付ける。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	東洋医学、漢方医学、統合医学に関する文献を検索し、評価することにより、研究の今後の展望を理解する。	臨床講義演習セミナー	久保田多田唐木	関連領域の文献検索および精読

2023年度

高齢・障害者歯科学特論 (Geriatric and Special Needs Dentistry (Advanced))

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	主科目(研究) / 副科目	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	久保田潤平						
担当教員	多田 葉子, 久保田 潤平, 唐木 純一						

授業の概要

要介護高齢者や特別の対応を必要とする患者に対する歯科診療や口腔ケアの特殊性を理解し、評価方法および必要な治療法やケア方法について学ぶ。とくに、寝たきり高齢者の病態について学ぶことで、訪問歯科診療とリハビリテーションを実践できる知識を学ぶ。また、特別の対応を必要とする患者の歯科診療およびリハビリテーションを実践できる知識や心因性因子の関与する患者の歯科診療に関する知識を学ぶ。

学生の到達目標

1. 高齢者歯科診療の基本を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。2. 要介護高齢者の全身疾患と病態を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。3. 障害者の全身疾患と病態を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。4. 不定愁訴など心因性因子の関与する患者の歯科診療を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。5. 高齢者歯科学及び障害者歯科学、心身医学に関する臨床、基礎研究を評価できる力を高める。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	70%
事前課題 (関連領域の文献検索および精読)	30%

その他

質問は授業外でも受け付ける。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～15	要介護高齢者に対する訪問歯科診療および口腔ケア、障害者の歯科診療とリハビリテーション、心身医学に関する最新の知識と研究を検索し、評価することにより、研究の今後の展望を理解する。	臨床講義、演習、セミナー	久保田 多田 唐木	関連領域の文献検索および精読

2023年度

周術期管理と外科基本手技 (Basic surgical skills)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	副科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 秀彰						
担当教員	中島 秀彰						

授業の概要

基本的な外科手技や、周術期管理の基礎を習得するとともに、臨床実地での応用力を身につける。院内感染対策や医療事故防止についての基本的考え方と手技を身につける。また、医療機器の進歩に伴う、新しい手術手技や手術操作を学び、理解する。更に、鏡視下手術やナビゲーション手術等の新しい治療法を理解するとともに、新しい技術の普及に伴って、治療の安全性を確保し、医療事故を未然に防ぐために行われている、技術の教育(トレーニング)や技術評価の現況について体験する。

学生の到達目標

① 手術・侵襲に伴う生体反応を理解し、説明できる。② 手術前後の患者管理や創傷管理、輸液・輸血・栄養の管理について理解し、説明できる。③ 感染症対策と医療安全・リスクマネジメントについて理解し、説明できる。④ 患者満足度、医療の均てん化、クリニカル(クリティカル)パスについて理解し、説明できる。⑤ 最新の癌治療(抗癌剤治療や終末期治療も含む)、集学的治療について理解し、説明できる。⑥ 最新の手術機器の原理と使用法を理解し、説明できる。⑦ ナビゲーション手術や鏡視下手術・ロボット手術等の最新の手術法について理解し、説明できる。⑧ 鏡視下手術のトレーニング(シミュレータ含む)、技術評価を実際に体験し、その重要性を説明できる。⑨ 基本的な外科手技を理解し、正確な基本手技を身につけ対応できる。⑩ スポーツ医学について理解し、説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
標準外科学		医学書院
歯科医のための外科学		医歯薬出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試問	100%

その他

学生相談：原則として月-金曜の12:00-13:00, 16:30-17:30に対応する

2023年度

周術期管理と外科基本手技 (Basic surgical skills)

開講年次	1~3年	期区分	通年	必修/選択	副科目(研究)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 秀彰						
担当教員	中島 秀彰						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション	講義または遠隔	中島	-
2	侵襲と生体反応 病気が起きた時や外科的侵襲が加わった時、生体にはどのような反応が起き、どの様にしてこのような侵襲から立ち直ることが出来るのか、生体が持つ基本的システムを学習する。	講義または遠隔	中島	講義・演習の復習
3	術前・術後管理と合併症 外科手術を安全に行うために、どのような検査や準備をして手術に臨むか、手術適応はどの様に決定されるか、術中・術後の患者管理の要点、等について学習する。	講義または遠隔	中島	講義・演習の復習
4	外科基本手技1 糸結び等の外科基本手技について、理論的裏付けをふまえて、確実に行えるように学習する。	講義または遠隔、演習	中島	講義・演習の復習
5	外科基本手技2 結紮・縫合等の外科基本手技について、理論的裏付けをふまえて、確実に行えるように学習する。	講義または遠隔、演習	中島	講義・演習の復習
6	医療安全、クリニカルパス 医療安全活動について、アクシデント/インシデント報告等の意義や理論をふまえながら、実践的に学習する。また、医療安全活動における、クリニカルパスの意義についても学習する。	講義または遠隔	中島	講義・演習の復習
7	癌に対する集学的治療と終末期医療 癌の治療について、手術・抗癌剤・放射線等の集学的治療の意義と、癌末期患者に対する終末期医療の重要性をふまえながら、癌に対する初期から終末期までの総合的なシームレスケアの基本を学習する。	講義または遠隔	中島	講義・演習の復習
8	創傷治癒とスポーツ医学 スポーツ医学について、創傷治癒の基礎的知識をふまえながら、学習する。	講義または遠隔	中島	講義・演習の復習
9	感染症対策 院内感染予防について、標準的感染予防策や感染経路別予防策の知識をふまえて、実践的に学習する。	講義または遠隔	中島	講義・演習の復習
10	新しい手術機器 外科手術の安全性を高めることに貢献している、新しい手術機器について、従来の機器との比較をふまえながら、特徴と理論について学習する。	講義または遠隔	中島	講義・演習の復習
11	ロボット手術やナビゲーション手術等の最新の外科手術 通常の外科手術に替わって行われる様になった、ロボット手術やナビゲーション手術の基礎的知識を、長所と短所をふまえながら、学習する。	講義または遠隔	中島	講義・演習の復習
12	院内感染対策と医療安全の実践 院内感染対策と医療安全に関して、他の医療施設との比較をふまえて、本学の優れている点・劣っている点を学習する。	講義または遠隔	中島	講義・演習の復習
13	鏡視下手術のボックストレーニングによるトレーニングと技術評価 ボックストレーニングを用いて行われる鏡視下手術の技術評価について、自らの体験をふまえて、学習する。	講義または遠隔	中島	講義・演習の復習
14	鏡視下手術のVRシミュレータによるトレーニングと技術評価 VRシミュレータを用いて行われる鏡視下手術の技術評価について、自らの体験をふまえて、学習する。	講義または遠隔	中島	講義・演習の復習
15	栄養・輸液・輸血、試問 栄養法・輸液・輸血に関して、安全面をふまえながら、基礎知識と実践法を学習する。/ 試験	講義または遠隔、テスト	中島	-

2023年度

大学院特別講義 (Advanced Lecture)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	歯学研究科長						
担当教員	歯学研究科長, 福泉 隆喜, 北村 知昭, 池田 弘, 小野 堅太郎, 古株 彰一郎, 有吉 渉, 竹内 弘, 安細 敏弘, 牧 憲司, 川元 龍夫, 森本 泰宏						

授業の概要

第一線で活躍されている研究者を招き、最新情報を講演してもらう。

学生の到達目標

1. 各講演者の専門領域の最新情報を得て知識を高める。
2. 研究の背景、研究をするに至った動機、研究の結果および考察を理解できる。
3. 今後の研究の展開について考え、対応できる。
4. 講演内容が各自の研究へどのように反映されるか考え、対応できる。
5. 学会・コンファレンスに参加し、質疑応答ができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席・講義終了後レポート	100%

その他

講義形態(対面/WEB)については、確定次第、本ページに掲載を行います。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、講義形態は変更となる場合があります。

2023年度

大学院特別講義 (Advanced Lecture)

開講年次	1~4年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	歯学研究科長						
担当教員	歯学研究科長, 福泉 隆喜, 北村 知昭, 池田 弘, 小野 堅太郎, 古株 彰一郎, 有吉 渉, 竹内 弘, 安細 敏弘, 牧 憲司, 川元 龍夫, 森本 泰宏						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	活性型ビタミン D によるカルシウム代謝制御における骨芽細胞のビタミン D 受容体 (VDR) と Wnt シグナルの役割	講義 11月14日 (予定)	中道 裕子 (松本歯科大学) 古株 彰一郎	講義後レポート
2	本講義は, ヒトの無意識的な認知とそのバイアスについて, 先行研究によって得られた様々な知見を経営学と関連付けながら紹介していく。	講義 4-5月	松田 憲 (北九州市立大学) 森本 泰宏	講義後レポート
3	舌神経・下歯槽神経障害に対しベッドサイドで簡便に行える予後判定可能な診断とは? 顕微鏡視下の神経修復術の最善の方法とは?	講義 10月26日 (予定)	藤田 茂之 (和歌山県立医科大学) 吉岡 泉	講義後レポート
2	社会調査の数理	講義	飯塚 勝 (九州歯科大学名誉教授) 森本 泰宏	講義後レポート
4	「生涯28」とQOL	講義 12月21日 (予定)	内藤 真理子 (広島大学) 福泉 隆喜	講義後レポート
5	「超早期治療」のススメ-睡眠呼吸生理学的立場から	講義 1月18日 (予定)	小野 卓史 (東京医科歯科大学) 川元 龍夫	講義後レポート
6	変形性関節症の新薬開発の動向と当教室の研究トピックの紹介	講義 9月13日 (予定)	辻 邦和 東京医科歯科大学 古株 彰一郎	講義後レポート
8	デンタルインプラントの生体適合性向上	講義 10月31日 (予定)	鮎川 保則 九州大学 細川	講義後レポート
9	歯科器材における先端デジタルテクノロジー	講義 7月5日 (予定)	森 亮太 有限会社セラモテックシステム (歯科技工所) 池田	講義後レポート
10	唾液の科学	講義 7月3日 (予定)	渡部 茂 明海大学 渡辺	講義後レポート
11	クォーラムセンシング阻害は次世代感染症治療に有効か?-クォーラムセンシング研究の歩み	講義 8月4日 (予定)	前田 憲成 九州工業大学 有吉	講義後レポート
12	三叉神経中脳路核ニューロンの性質	講義	斎藤 充 鹿児島大学 小野	講義後レポート
13	侵害受容三叉神経ニューロンレベルでの神経障害性疼痛発症メカニズム	講義	篠田 雅路 日本大学 小野	講義後レポート

2023年度

大学院特別講義 (Advanced Lecture)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	歯学研究科長						
担当教員	歯学研究科長, 福泉 隆喜, 北村 知昭, 池田 弘, 小野 堅太郎, 古株 彰一郎, 有吉 涉, 竹内 弘, 安細 敏弘, 牧 憲司, 川元 龍夫, 森本 泰宏						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
14	科学的根拠に基づいた臨床予防歯科の実践とその未来	講義	築山鉄平 (医療法人雄之会 つきやま歯科医院 つきやま歯科医院専門医療クリニック天神 院長) 安細	講義後レポート
15		講義	柳楽 隆正 (Techpat知財事務所 弁理士)	講義後レポート

2023年度

生命分子形態学 (Molecular Biological Morphology)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	1.0
授業方法	演習	時間数	16.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						

授業の概要

(1) 硬組織や軟組織を中心に、口腔組織の常態や病態について関連の最新の研究の動向を理解するため、文献を詳読する。(2) 顕微鏡ならびに電顕試料の作製法を理解するとともに、標本作製できる。(3) 免疫組織化学法、in situ Hybridization法を理解するとともに標本作製できる。

学生の到達目標

1. 英語文献を読み込む能力を養うとともに、論文を書く能力を習得し、実践できる。2. 免疫組織化学法を理解できる。3. in situ Hybridization法の基礎を理解できる。4. 免疫電顕微鏡法の基礎を理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の試問に対する回答	10%
実験操作の正確性・達成度	90%

演習中の試問に対する回答(10%)や、実験操作の正確性・達成度を計る評価表(90%)に基づいて点数をつける。評価表は講義の初回時に学生に配布する。

その他

学生相談：随時

2023年度

生命分子形態学 (Molecular Biological Morphology)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	1.0
授業方法	演習	時間数	16.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司, 豊野 孝, 片岡 真司, 松山 佳永						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション本演習で学ぶ手技について原理・応用を学習する。	講義	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
2	組織切片の作製法1 各種固定液の調整法、マウスの還流固定を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
3	組織切片の作製法2 固定した組織の包埋を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
4	組織切片の作製法3 包埋したブロックからの切片作製法を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
5	免疫染色演習（組織における蛋白局在の検索） 抗体を用いて切片上での蛋白質の局在の検索を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
6	In situ Hybridization法演習1 In situ Hybridization用の組織切片の作製法を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
7	In situ Hybridization法演習2 プローブを用いて、組織切片上での遺伝子発現を検索する方法を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習
8	免疫電子顕微鏡法の基礎と実際 post embedding法による蛋白の微細局在の検出を演習する。	演習	瀬田、豊野、片岡、松山	文献及び参考文献の学習

2023年度

分子生物学演習 I (Molecular Biology Training Program I)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	1.0
授業方法	講義・演習	時間数	20.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松原 琢磨						
担当教員	古株 彰一郎, 松原 琢磨, Addison William						

授業の概要

分子生物学実験でよく用いられるWestern Blotting法とRT-PCR法を理解し、各自の研究に応用する。また、科学論文で上記方法がどのような解析に用いられているか理解する。分子生物学演習 I ではWestern Blotting法とRT-PCR法をマスターする。具体的には、骨芽細胞を骨誘導因子BMPで刺激し、BMPのシグナル伝達分子Smad1/5/8のリン酸化をWestern Blotで検討する。またBMP刺激によって発現が誘導される転写因子 (Id1, Osterix) や骨芽細胞の分化マーカー (I型コラーゲン、Osteonectin, Osteocalcin) の発現の変化をRT-PCR法で検討する。

学生の到達目標

・セントラルドグマを説明できる。・RNA、タンパク質の取り扱いができる。・RT-PCRの原理を説明できる。・Western Blottingの原理を説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
必要に応じて各自入手する。		

参考書

タイトル	著者	出版社
必要に応じて各自入手する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
口頭試問	100%

成績評価はルーブリック評価によりおこなう。
ルーブリック評価表は初回に配布する。

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	Western Blotting について学ぶ#1 骨芽細胞をBMPで刺激し、経時的(0,15,30,60,120分)にタンパク質を調製する。	講義・演習 (遠隔及び対面)	松原	タンパク質の取扱の予習
3,4	Western Blotting について学ぶ#2 タンパク定量、SDS-PAGE、transferからblocking後、1次抗体を反応させる。	講義・演習 (遠隔及び対面)	松原	Western Blottingの原理の
5,6	Western Blotting について学ぶ#3 2次抗体の反応、結果を見る。RT-PCR について学ぶ#1 骨芽細胞をBMPで刺激し、経時的(1,2,4,12,24 h)にRNAを調製し、RNAの定量をおこなう。	講義・演習 (遠隔及び対面)	松原	RNAの取り扱いの予習
7,8	RT-PCR について学ぶ#2 cDNAの合成およびPCRをおこなう。	講義・演習 (遠隔及び対面)	古株	RT-PCRの原理の予習
9,10	RT-PCR について学ぶ#3 PCRの結果をアガロース電気泳動で確認する。	講義・演習 (遠隔及び対面)	Addison WN	RT-PCRおよびWestern Blottingの復習

2023年度

分子生物学演習 II (Molecular Biology Training Program II)

開講年次	1～3年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	1.0
授業方法	講義・演習	時間数	20.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松原 琢磨						
担当教員	古株 彰一郎, 松原 琢磨, Addison William						

授業の概要

分子生物学実験でよく用いられる遺伝子導入法を理解し、各自の研究に応用する。また、科学論文で上記方法がどのような解析に用いられているか理解する。分子生物学演習 II では遺伝子導入法とその発現量、機能解析法をマスターする。

学生の到達目標

・遺伝子導入の原理について説明できる。・タグの種類、検出法が説明できる。・ルシフェラーゼアッセイの原理が説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
必要に応じて各自入手する。		

参考書

タイトル	著者	出版社
必要に応じて各自入手する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
口頭試問	100%

成績評価はルーブリック評価によりおこなう。
ルーブリック評価表は初回に配布する。

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1,2	遺伝子導入法の原理と手技を学ぶ。① 遺伝子導入法の種類およびルシフェラーゼアッセイの原理の説明。② FLAGタグ、V5タグを付加した遺伝子とルシフェラーゼ遺伝子を導入する。	講義・演習（遠隔及び対面）	古株	遺伝子導入の原理およびタグの予習
3,4	ルシフェラーゼアッセイの原理と手技を学ぶタンパク質の調製およびルシフェラーゼアッセイ。	講義・演習（遠隔及び対面）	Addison WN	ルシフェラーゼアッセイの予習
5,6	タグの原理と検出方法を学ぶタグに対する抗体を用いたWestern blottingによる遺伝子導入したタンパク質の発現確認	講義・演習（遠隔及び対面）	松原	タグを付加した遺伝子の発現確認法の予習
7,8	GFP融合タンパク質の原理を学ぶ。GFP融合タンパク質の説明とGFP誘導タンパク質の遺伝子導入	講義・演習（遠隔及び対面）	松原	GFP融合タンパク質の予習
9,10	GFP融合タンパク質の検出方法を学ぶ。蛍光顕微鏡によるGFPの発現確認	講義・演習（遠隔及び対面）	松原	遺伝子導入の復習

2023年度

神経生理実験法 (Neurophysiological Techniques)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	1.0
授業方法	演習	時間数	16.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎, 中富 千尋, 徐 嘉鍵						

授業の概要

スライス標本作製法および単離神経細胞の作製方法を教授する。パッチクランプ法を教授する。動物実験による痛みの評価方法を教授する。

学生の到達目標

1.スライス標本作製法を習得する。2.神経細胞の単離の仕方および単離した神経細胞からの電気信号の記録法を理解する。3.疼痛の評価方法を理解する。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

提出されたレポートを独自のルーブルック評価表に基づいて評価する。ルーブルック評価表の内容はMoodleに掲載している。

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～8	スライス標本作製パッチクランプ法疼痛評価法スライス標本作製し、神経細胞からパッチクランプにより電気活動記録を行う方法を学ぶ。動物を用いた痛覚評価法を学ぶ。	演習	小野、中富、徐	文献、参考書の予習と演習の復習

2023年度

画像撮影技術と解析法 (Imaging technique and its analysis)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏, 小田 昌史, 松本 忍, 若杉 奈緒 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏, 小田 昌史 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 西村 瞬 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏, 若杉 奈緒, 小田 昌史, 松本 忍, 西村 瞬						

授業の概要

CT及びコーンビームCTの撮影技術と解析法を教授する。MRIの撮影技術と解析法を教授する。超音波検査の検査技術と解析法を教授する。

学生の到達目標

CT及びコーンビームCTの撮影を経験し、知識を高める。MRI撮影の技術を経験し、知識を高める。超音波検査を経験し、知識を高める。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
CT、CBCT、MRI及び超音波装置の取扱説明書		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	60%
演習での口頭試問	40%

その他

【オフィスアワー】講義の前後、またはメールで受け付ける。病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1～3	最新のCTの撮影技術と画像解析法について実践を通して理解する。	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
4, 5	最新の歯科用コーンビームCT (CBCT) の撮影技術と画像解析法について実践を通して理解する。	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
6, 7	基礎的MRIの撮影技術と画像解析法について実践を通して理解する。	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
8～12	Dynamic MR、functional MRI及びCine-MRI等、最新のMRI撮影技術と画像解析法について実践を通して理解する。	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む
13～15	Power DopplerやElastography等、基礎から最新の超音波検査の撮影技術と画像解析法について実践を通して理解する。	演習	森本、若杉、小田、松本、西村	予習、復習として参考書を読む

2023年度

摂食脳科学 (Brain Science for Eating Behavior)

開講年次	1~4年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉野 賢一						
担当教員	吉野 賢一						

授業の概要

認知期、咀嚼期、口腔期、咽頭期、食道期の5期に分類される摂食嚥下において、大脳皮質は重要な役割を担っている。本授業では、とくに認知期において不可欠なヒト高次脳機能について学ぶ。

学生の到達目標

1. ヒトと他の動物の摂食行動の違いを、大脳生理学的に説明できる。2. 摂食行動に関与する高次脳機能について説明できる。3. 神経系を介した口腔と全身の関わりについて理解する。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
Principles of Neural Science, Fifth Edition	Kandel ER, Schwartz JH, Jessell TM, Siegelbaum SA, Hudspeth AJ	

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義後レポート課題	100%

提出されたレポート（6~7点満点×15回）により評価する。

その他

吉野賢一：月～金の9:00～17:00

2023年度

摂食脳科学 (Brain Science for Eating Behavior)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉野 賢一						
担当教員	吉野 賢一						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	脳から見たの摂食行動（概念①）目ではなく脳で「見る」ことを理解し、口ではなく脳で「食べる」ことについて学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
2	脳から見たの摂食行動（概念②）脳が「味わう」、脳が「痛い」を学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
3	摂食行動の認知期（情報処理①）視覚情報処理の「注意」について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
4	摂食行動の認知期（情報処理②）視覚情報処理の複雑な処理「輪郭の検出」「融合」「恒常性」について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
5	摂食行動の認知期（情報処理③）視覚情報処理における「意味（形・色）」の処理について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
6	摂食行動の認知期（情報処理④）視覚情報処理における「動き・場所」の処理について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
7	摂食行動の認知期（情報処理⑤）視覚情報処理における「空間情報」の処理について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
8	摂食行動の認知期（情報処理⑥）視覚情報処理における情報の「統合・認知・選択」について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
9	摂食行動の認知期（空間認知・運動準備）認知期における対象物の位置や性状の処理、運動のプログラミングや準備について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
10	摂食行動の準備期準備期における運動制御と感覚情報処理、および記憶の関与について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
11	ヒトの摂食行動①動物は栄養摂取のために摂食行動を行うが、ヒトは栄養摂取以外の目的でも「食べる」ことを理解し、食と心の関係を学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
12	ヒトの摂食行動①ヒトの「食べる」には、感情の抑制と行動の制御、記憶（作動記憶）が深く関係することを学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
13	脳に関する基礎知識脳の機能局在性を理解し、大脳基底核、大脳辺縁系、大脳皮質、白質の機能を学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
14	記憶①記憶の過程、長期記憶の種類および特徴について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出
15	記憶②短期記憶の特徴について学ぶ。	講義	吉野	事後レポートの提出

2023年度

保険診療実践演習 (Practice of Appropriate Dental Treatment in Health Care Insurance System)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

まず、保険診療の制度概要、基本事項の告示・留意事項通知、運用ルールの疑義解釈などを確認する。その後、実際の臨床で経験した具体的事例に基づいた演習を行い、適切な保険診療の進め方を学ぶ。この演習を通じて、適切かつ効率的に診療報酬を算定出来るスキルや、類似の症例にも即応できる応用力を習得する。

学生の到達目標

1. 診療報酬制度の概要を説明できる。
2. 保険診療の算定ルールを実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
歯科点数表の解釈		社会保険研究所

参考書

タイトル	著者	出版社
演習に使用する事例は、各自の症例を用いる。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
症例の理解度	50%
他の症例への応用力	50%

本科目は、毎年実施内容が異なるため、8単位まで取得可能である。各評価項目については、ルーブリック評価表によって評価する。ルーブリック評価表は、初回の授業の際に提示する。

その他

学生相談：随時

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	保険診療の制度概要、基本事項の告示・留意事項通知、運用ルールの疑義解釈などを確認する。	概要説明、意見交換	福泉	保険診療の制度概要を把握する。
2～15	実際の臨床で経験した具体的事例に基づいた演習を行い、適切な保険診療の進め方を学ぶ。この演習を通じて、適切かつ効率的に診療報酬を算定出来るスキルや、類似の症例にも即応できる応用力を習得する。	症例説明、意見交換	福泉	各症例に関係する部分の歯科点数表の解釈を詳読する。

2023年度

統計解析の基礎 (Theory of Statistical Analysis)

開講年次	1~4年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数		曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	深井 康成						
担当教員	深井 康成						

授業の概要

例題を解きながら統計学の方法を体得する。できる範囲で、統計学の方法の理論的な基礎についても説明する。例題としては、医療に関連したテーマを多く採用する。

学生の到達目標

1. さまざまな仮説検定法を体得し、実践できる。
2. 統計的推定を理解できる。
3. 統計学の考え方を理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
プリントを配布する。		

参考書

タイトル	著者	出版社
例題中心 確率・統計入門	水原昂廣、宇野力	学術図書出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

レポートとして、各講義ごとに統計の演習問題を解いて提出してもらいます。15回のレポートを100満点として、成績評価をします。

その他

平方根が計算できる電卓を持参すること。

2023年度

統計解析の基礎 (Theory of Statistical Analysis)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数		曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	深井 康成						
担当教員	深井 康成						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	確率論からの準備 (その1) 集合について学ぶ	講義	深井	図書館の本 (例えば、例題中心 確率・統計入門 (改訂版)、水原昂廣、宇野力著、学術図書出版の1ページから3ページ) で集合についての復
2	確率論からの準備 (その2) 確率空間の定義と確率の性質について学ぶ。	講義	深井	集合についての復習
3	確率論からの準備 (その3) 離散型確率変数の平均と分散について学ぶ。	講義	深井	確率空間の定義の復習
4	確率論からの準備 (その4) 確率変数の独立性、連続型確率変数の平均と分散について学ぶ。	講義	深井	離散型確率変数の平均と分散の復習
5	確率論からの準備 (その5) 確率論からの準備 (その1) ～ (その4) のまとめ	講義	深井	確率変数の独立性、連続型確率変数の平均と分散の復習
6	統計学の考え方 母集団、母数、母集団分布について学ぶ。	講義	深井	確率空間、確率変数、独立性、平均と分散の定義の復習
7	統計的推定 点推定、不偏推定量と区間推定法について学ぶ。	講義	深井	母集団、母数、母集団分布についての復習
8	統計的検定 (その1) 仮説検定法、帰無仮説、対立仮説、危険率、棄却領域について学ぶ。	講義	深井	点推定、不偏推定量と区間推定法についての復習
9	統計的検定 (その2) 平均値の検定について学ぶ。	講義	深井	仮説検定法、帰無仮説、対立仮説、危険率、棄却領域についての復習
10	統計的検定 (その3) 出現率の検定について学ぶ。	講義	深井	平均値の検定についての復習
11	統計的検定 (その4) 符号検定について学ぶ	講義	深井	出現率の検定についての復習
12	統計的検定 (その5) 順序和検定について学ぶ。	講義	深井	符号検定についての復習
13	統計的検定 (その6) 適合度検定と独立性の検定について学ぶ。	講義	深井	順序和検定についての復習
14	統計的検定 (その7) フィッシャーの直接検定法について学ぶ。	講義	深井	適合度検定と独立性の検定についての復習
15	統計的検定 (その8) 相関係数を用いた検定について学ぶ。	講義	深井	フィッシャーの直接検定法についての復習

2023年度

学術基礎英語 (Academic English for Research Purposes)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	海寶 康臣						
担当教員	海寶 康臣						

授業の概要

この科目では、研究に必要なライティング力の基礎を養うことを目指すと同時に、語彙力の増強にも力を入れる。また、受講者はオンライン教材も使用する。

学生の到達目標

①よくまとまったパラグラフを書くことができる。②しっかりした構成のエッセイを書くことができる。③論文の抄録を書くことができる。④ 1,000語単語を増やす。⑤英語を使う習慣を身に着ける。

テキスト

タイトル	著者	出版社
テキストについては初回の授業で説明する。		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
課題	70%
オンライン教材	30%

各評価項目については、ルーブリック評価表によって評価する。

その他

使用するオンライン教材は受講者の要望を踏まえて決定する。

2023年度

学術基礎英語 (Academic English for Research Purposes)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	選択科目	単位数	2.0
授業方法	演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	海寶 康臣						
担当教員	海寶 康臣						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション語彙サイズテスト	演習	海寶 康臣	オンライン教材
2	フリーライティングパラグラフの構造についてオンライン教材	演習	海寶 康臣	アウトラインの作成復習オンライン教材
3	パラグラフの構造を踏まえたライティング (テーマ1) オンライン教材	演習	海寶 康臣	復習オンライン教材
4	パラグラフの構造を踏まえたライティング (テーマ1) オンライン教材	演習	海寶 康臣	アウトラインの作成復習オンライン教材
5	パラグラフの構造を踏まえたライティング (テーマ2) オンライン教材	演習	海寶 康臣	復習オンライン教材
6	パラグラフの構造を踏まえたライティング (テーマ2) エッセイの構成についてオンライン教材	演習	海寶 康臣	アウトラインの作成復習オンライン教材
7	エッセイライティング (テーマ1) オンライン教材	演習	海寶 康臣	復習オンライン教材
8	エッセイライティング (テーマ1) オンライン教材	演習	海寶 康臣	アウトラインの作成復習オンライン教材
9	エッセイライティング (テーマ2) オンライン教材	演習	海寶 康臣	復習オンライン教材
10	エッセイライティング (テーマ2) オンライン教材	演習	海寶 康臣	アウトラインの作成復習オンライン教材
11	エッセイライティング (テーマ3) オンライン教材	演習	海寶 康臣	復習オンライン教材
12	エッセイライティング (テーマ3) 抄録の構成についてオンライン教材	演習	海寶 康臣	復習オンライン教材
13	抄録の執筆オンライン教材	演習	海寶 康臣	復習オンライン教材
14	抄録の執筆オンライン教材	演習	海寶 康臣	復習オンライン教材
15	自己評価語彙サイズテスト	演習	海寶 康臣	復習オンライン教材

2023年度

バイオ分析化学特論 (Advanced Bioanalytical Chemistry)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 竹中 繁織						
担当教員	〔非常勤講師〕 竹中 繁織						

授業の概要

分析化学は科学のあらゆる領域に必要な不可欠な学問として位置付けられる。特に、バイオテクノロジーの発展に伴ってバイオ分析化学が発展してきている。ここでは、最近のバイオ技術を取り上げ基礎から応用まで講義する。

学生の到達目標

バイオ分析に関して以下の項目に関して原理と応用について理解できるようになる。(1) バイオ分析の基礎 (2) クロマトグラフィーの概念と生体物質への応用 (3) 電気泳動の歴史と概念 (4) タンパク質、核酸の電気泳動 (5) 可視・紫外分光光度法 (6) 蛍光の理論 (7) 蛍光分光光度法 (8) 蛍光共鳴エネルギー移動の理論と応用 (9) 赤外分光光度法 (10) 円二色分光光度法 (11) 電子スピン共鳴吸収 (ESR) (12) 核磁気共鳴 (13) マス分光光度法 (14) 酵素免疫測定法およびフローサイトメトリー (15) 熱分析

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
バイオ機器分析入門	相澤益男・山田秀徳 編	講談社サイエンティフィク

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義ノート提出を求め、授業中の小テストや試験にて評価を行う。	100%

・講義ノートの提出を求める。・授業中の小テストや試験にて評価を行う。・秀 (100～90点)・優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点) を合格とする。

その他

学部において、物理化学・分析化学関連科目を修得しており、内容を理解していること。学生相談：随時

2023年度

バイオ分析化学特論 (Advanced Bioanalytical Chemistry)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 竹中 繁織						
担当教員	〔非常勤講師〕 竹中 繁織						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	バイオ分析の基礎	講義	竹中	関係する学習内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと
2	クロマトグラフィーの概念と生体物質への応用	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
3	電気泳動の歴史と概念	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
4	タンパク質、核酸の電気泳動	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
5	可視・紫外分光光度法	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
6	蛍光の理論	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
7	蛍光分光光度法	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
8	蛍光共鳴エネルギー移動の理論と応用	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
9	赤外分光光度法	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。

2023年度

バイオ分析化学特論 (Advanced Bioanalytical Chemistry)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 竹中 繁織						
担当教員	〔非常勤講師〕 竹中 繁織						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
10	円二色スペクトロメトリー	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
11	電子スピン共鳴吸収 (ESR)	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
12	核磁気共鳴	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
13	マススペクトロメトリー	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
14	酵素免疫測定法およびフローサイトメトリー	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
15	熱分析、バイオ分析法のまとめ	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。

2023年度

バイオ計測学特論 (Advanced Bioanalytical chemistry)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 佐藤 しのぶ						
担当教員	〔非常勤講師〕 佐藤 しのぶ						

授業の概要

バイオ分析化学は生命化学を学ぶ上で必要不可欠な学問として位置付けられる。ここでは、小分子と核酸、小分子と蛋白質の相互作用を分析するための最新のバイオ分析手法を取り上げ講義する。

学生の到達目標

1. 生体高分子である蛋白質、核酸、酵素に関する知識を習得する。2. 生体高分子の代表的な分析手法である分子分光分析、等温滴定型カロリメトリー、水晶発振子マイクロバランス、表面プラズモン共鳴、円偏光二色性分析、電気化学測定、原子間力顕微鏡の原理を理解する。3. データの取り扱い方、統計解析法を習得する。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
Essential 細胞生物学	中村桂子・松原謙一 監訳	南江堂
ベーシック分析化学	高木誠 編著	化学同人
生命科学のための物理化学	稲葉章・中側敦史 訳	東京科学同人

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義の事後レポートもしくは演習課題の提出 (10項目) 10回×10点	100%

その他

学生相談：随時

2023年度

バイオ計測学特論 (Advanced Bioanalytical chemistry)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 佐藤 しのぶ						
担当教員	〔非常勤講師〕 佐藤 しのぶ						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	授業の概説	講義	佐藤	講義の復習
2	蛋白質、核酸、酵素の構造と特徴	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
3	分子分光分析-1 (結合解析)	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
4	分子分光分析-2 (速度論解析)	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
5	分子分光分析-3 (熱力学的解析)	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
6	等温滴定型カロリメトリー	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
7	水晶発振子マイクロバランス	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
8	表面プラズモン共鳴	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
9	円偏光二色性分析	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
10	電気化学測定(拡散系)	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
11	電気化学測定(固定化系)-1	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
12	電気化学測定(固定化系)-2	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
13	原子間力顕微鏡	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
14	測定データの取り扱い・統計解析	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
15	まとめ	講義	佐藤	講義の復習

2023年度

知的システム構成特論 (Advanced Intelligent System)

開講年次	1年	期区分	前期	必修/選択	歯工学連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 神谷 亨						
担当教員	〔非常勤講師〕 神谷 亨						
	〔非常勤講師〕 神谷 亨						

授業の概要

高度な情報処理機器を実現するためには、装置としてのハードウェアに関する知識とそれを効果的に動かすための最適なソフトウェアの開発が必要である。本講義では、システムとしての画像計測装置を取り上げ、その効果的な知的システムを構築するための各種データ構造とアルゴリズムの考え方について学ぶ。

学生の到達目標

1. アルゴリズムについての知識を習得できる。2. データ構造のための知識を習得できる。3. データ探索問題に関する知識を習得できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
オリエンテーション時に提示する		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の質疑や内容の理解度	60%

演習中の質問に対する回答や、内容の理解度に基づいて点数をつける。
・秀 (100～90点) ・優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点) を合格とする。

その他

学生相談：金12:00～17:30

2023年度

知的システム構成特論 (Advanced Intelligent System)

開講年次	1年	期区分	前期	必修/選択	歯工学連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 神谷 亨						
担当教員	〔非常勤講師〕 神谷 亨						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	オリエンテーション	講義	神谷	文献、参考書予習
2	知的システムとは知的システムの概要について、ハードウェア、ソフトウェアの両面で必要な基礎知識を学ぶ。	講義	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
3	医用工学の概要医療現場で利用されている工学的装置について幾つかの例を挙げ、ハードウェアとしての概念を学ぶ。	講義	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
4	医用画像システム医用画像計測装置の中で、CTやMRIなどのハードウェアとしての構成と、それらを効率的に動かすためのソフトコンピューティングの考え方について学ぶ。	講義	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
5	アルゴリズムとはアルゴリズムについて、問題分析能力やデータ構造の基本的な考え方について学ぶ。	講義	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
6	アルゴリズムの設計と解析計算機を利用する上で必要なアルゴリズムの設計について、計算量を踏まえながら解析法について学ぶ。	講義	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
7	データ構造とはプログラミング言語がサポートしている基本的なデータ型やユーザが定義したデータ型を利用したデータ構造の考え方について学ぶ。	講義	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
8	基本的なデータ構造基本的なデータ型として数値型や配列、構造体などについて学ぶ。	講義・演習	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
9	線形リスト順序付けられたリストの基本的操作について学ぶ。	講義・演習	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
10	スタックと待ち行列リスト構造の特別な場合としてのスタックと待ち行列について、データの挿入と削除法などを学ぶ。	講義・演習	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
11	木構造階層関係を表現するためのデータ構造として、木構造について学ぶ。	講義・演習	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
12	データ探索問題種々のデータ構造を利用したデータの探索法と計算時間について学ぶ。	講義・演習	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
13	2分探索と平衡木代表的なデータ構造である2分探索と平衡木の基本的な考え方について学ぶ。	講義・演習	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
14	グラフ構造データ構造を表現する一般的な方法として、グラフの考え方について学ぶ。	講義・演習	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
15	総括アルゴリズムやデータ構造を利用した知的システムとしての構築法について学ぶ。	講義	神谷	講義・演習の復習と次回講義部分の予習

2023年度

微生物機能と化学循環 (Clean Cycle Chemistry based on Microbial Functions)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 前田 憲成						
担当教員	〔非常勤講師〕 前田 憲成 前田 憲成 / Maeda T.						

授業の概要

細菌は精巧な環境適応機能により、ヒトでは生活できないような極限環境でさえも生き延びる術を兼ね備えている。そのような細菌が持つ有用な機能を工学的に応用するために、バイオフィーム形成機構や細菌間コミュニケーション機構などを遺伝子工学的かつ生物化学的な視点から講述し、その細菌機能に基づいた新規有用技術について論じる。

学生の到達目標

1. 環境適応機能の概説を修得する。2. 生命情報のもとになるDNAと染色体の構造を理解する。3. DNA複製と修復の仕組み、遺伝子変異の誘発機構などを理解する。4. セントラルドグマの概念を修得する。5. 6. 遺伝子発現と発現制御機構を修得する。7. 8. 翻訳機構と触媒機構などを修得する。9. タンパク質の進化について考察し、その応用を修得する。10. 11. 捕食機構と共食いの仕組みを修得し、考察する。12. 13. バイオフィーム形成やクォーラムセンシングなどの仕組みを修得し、考察する。14. 走化性の仕組みを修得する。15. バイオテクノロジーの展望を理解して、次世代技術を考察する。

テキスト

タイトル	著者	出版社
講義資料をホームページ上に公開する		

参考書

タイトル	著者	出版社
参考書や文献などは、授業中に適宜知らせる		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
最終試験	100%

その他

学習相談：随時

2023年度

微生物機能と化学循環 (Clean Cycle Chemistry based on Microbial Functions)

開講年次	1～2年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 前田 憲成						
担当教員	〔非常勤講師〕 前田 憲成 前田 憲成 / Maeda T.						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	微生物機能の概説および化学循環への関わり	講義	前田憲成	講義資料予習
2	DNAと染色体の構造	講義	前田憲成	講義資料予習
3	DNA複製、修復、遺伝子変異	講義	前田憲成	講義資料予習
4	セントラルドグマ	講義	前田憲成	講義資料予習
5	遺伝子発現機構	講義	前田憲成	講義資料予習
6	遺伝子発現の制御機構	講義	前田憲成	講義資料予習
7	翻訳機構?メッセンジャーRNAからタンパク質まで?	講義	前田憲成	講義資料予習
8	タンパク質・酵素の触媒機構	講義	前田憲成	講義資料予習
9	タンパク質進化	講義	前田憲成	講義資料予習
10	異種細菌の捕食機構	講義	前田憲成	講義資料予習
11	同種細菌の共食い機構	講義	前田憲成	講義資料予習
12	バイオフィルム形成機構	講義	前田憲成	講義資料予習
13	細菌間コミュニケーションとクォラムセンシング	講義	前田憲成	講義資料予習
14	細菌の走化性の機構	講義	前田憲成	講義資料予習
15	バイオテクノロジーの展開：基礎から応用まで	講義	前田憲成	講義資料予習

2023年度

生体機能材料 (Functional Biomaterials)

開講年次	1～3年	期区分	前期	必修/選択	歯工学連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 宮崎 敏樹						
担当教員	〔非常勤講師〕 宮崎 敏樹						

授業の概要

本講義では、まず生体の骨格構造と、その構成要素である骨および歯の基本構造、微細組織について説明する。続いて、これら生体硬組織を代替する生体機能材料の種類、生体親和性、機械的特性、作製法および各種元素の細胞毒性について述べる。さらに、生物が硬組織を作る営みに学んだバイオメテックプロセスの医用材料、環境浄化材料などへの応用を講述するとともに、再生医療やがん治療などの先端医療に各種材料が貢献している例を紹介する。

学生の到達目標

以下の項目に関して原理と応用について理解できるようになる。(1) 生体材料に求められる物性 (2) 生体材料の作製プロセス (3) 生体材料の物性と歯科材料・医用材料への応用

テキスト

タイトル	著者	出版社
事前に講義資料をPDFファイルにて配付する		

参考書

タイトル	著者	出版社
生体材料(2008)	日本セラミックス協会	日刊工業新聞社
バイオマテリアル-材料と生体の相互作用(2008)	田中順三ほか編	内田老鶴園
セラミックバイオマテリアル(2009)	岡崎正之・山下仁大編著	コロナ社
バイオマテリアルの基礎(2010)	石原一彦, 塙隆夫, 前田瑞夫編	日本医学館
バイオセラミックス(2009)	田中順三ほか著	コロナ社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義中に課す課題または期末試験	100%

その他

学部において、化学、歯科理工学関連科目を修得しており、内容を理解していることが望ましい。学生相談：随時

2023年度

生体機能材料 (Functional Biomaterials)

開講年次	1～3年	期区分	前期	必修/選択	歯工学連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 宮崎 敏樹						
担当教員	〔非常勤講師〕 宮崎 敏樹						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	生体材料とは何か	講義	宮崎	予め配付する講義資料の予習
2	生体材料の開発プロセスと生産の動向	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
3	骨の構造と機能	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
4	歯の構造と機能	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
5	材料と生体の相互作用	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
6	各種元素の細胞毒性	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
7	医用セラミックス	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
8	医用高分子	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
9	有機-無機ハイブリッド生体材料	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
10	医用金属材料	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
11	生物の作るセラミックス	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
12	バイオメテックプロセスの原理	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
13	バイオメテックプロセスによる生体材料・環境浄化材料の創成	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
14	再生医療を支える生体材料	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
15	がん治療を支える生体材料	講義	宮崎	講義の復習

2023年度

生体力学 (Biomechanics)

開講年次	1～2年	期区分	前期	必修/選択	歯工学連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	32.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 山田 宏						
担当教員	〔非常勤講師〕 山田 宏						

授業の概要

身体各部は内外で生じる力を受けており、その機能や挙動の一部は力学的現象である。生体現象と力学的因子との関係の解明は工学的観点から健康増進や障害・疾病の予防を支援する第一歩となる。本講義では筋骨格系等における生体組織の力学特性と工学的アプローチの習得のため、固体力学の立場から生体の構造、機能と応答を評価・解析する方法論を教授する。

学生の到達目標

1. バイオメカニクスの概要と関連分野を説明できる。2. ニュートン力学の理論に基づいて筋骨格系に働く力を計算できる。3. 材料力学の考え方に基づいて骨や歯の力学特性や応力状態を説明できる。4. 粘弾性理論に基づいて生体軟組織の応力緩和やクリープ変形を説明できる。5. 連続体力学の考え方に基づいて生体軟組織の大変形を説明できる。6. 組織と細胞の材料力学試験と有限要素法による応力・ひずみ解析の方法を説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
力学の基礎とバイオメカニクス	山田宏	コロナ社

参考書

タイトル	著者	出版社
講義内で紹介する		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
小課題	40%
調査学習の発表・レポート	60%

小課題は毎回の講義で課す。レポートは1週間以内に提出すること。

その他

学生相談：随時。
遠隔授業を受講可能。

2023年度

生体力学 (Biomechanics)

開講年次	1～2年	期区分	前期	必修/選択	歯工学連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	32.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 山田 宏						
担当教員	〔非常勤講師〕 山田 宏						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	バイオメカニクスの概要と関連分野	講義	山田	文献、参考書予習
2	無重量状態での身体の力学的状態	講義	山田	講義・演習の予復習
3	静止状態で筋骨格系に働く力	講義	山田	講義・演習の予復習
4	硬組織の微小変形	講義	山田	講義・演習の予復習
5	骨や歯の力学特性 (正常・修復状態)	講義	山田	講義・演習の予復習
6	軟組織の粘弾性特性	講義	山田	講義・演習の予復習
7	調査学習 (範囲: 第1～6回)	演習	山田	調査の準備と復習
8	調査学習の発表 (範囲: 第1～6回)	演習	山田	調査の準備と復習
9	能動的収縮力を発揮する骨格筋の力学特性	講義	山田	講義・演習の予復習
10	軟組織の大変形	講義	山田	講義・演習の予復習
11	心臓・血管の力学特性1 (生理的機能)	講義	山田	講義・演習の予復習
12	心臓・血管の力学特性2 (加齢・病変)	講義	山田	講義・演習の予復習
13	衝撃を受ける生体組織の動的力学特性	講義	山田	講義・演習の予復習
14	組織・細胞の材料力学試験と有限要素解析	講義	山田	講義・演習の予復習
15	調査学習 (範囲: 第9～14回)	演習	山田	調査の準備と復習
16	調査学習の発表 (範囲: 第9～14回)	演習	山田	調査の準備と復習

2023年度

歯科放射線学概論 (Introduction to Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏						
	森本 泰宏						

授業の概要

放射線取扱主任者試験を見据え、放射線物理学、放射線化学、放射線生物学、放射線防護学及び管理技術並びに放射線の測定に関する技術の基礎を学ぶ。更に、医学・歯学領域で使用されている放射線関連の各種撮影装置についてその原理及び利用法を理解する。

学生の到達目標

放射線取扱主任者試験を見据え、放射線物理学、放射線化学、放射線生物学、放射線防護学及び管理技術並びに放射線の測定に関する技術の基礎を理解する。

テキスト

タイトル	著者	出版社
絵とき 放射線のやさしい知識	飯田 博美, 安齋 育郎	オーム社

参考書

タイトル	著者	出版社
絵とき 放射線のやさしい知識	飯田 博美, 安齋 育郎	オーム社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	50%
口頭試問	50%

その他

【オフィスアワー】講義の前後、またはメールで受け付ける。

2023年度

歯科放射線学概論 (Introduction to Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏						
	森本 泰宏						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	放射線の発生原理と物質との相互作用について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
2	放射性核種の製造、利用法について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
3	放射線被曝により引き起こされる生物学的作用の発生機序及び代表的疾患について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
4	被曝線量の測定機器の原理と放射線測定について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
5	放射線被曝に対する防護について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
6	放射線障害防止法の概要について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
7	エックス線写真の画像化について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
8	単純エックス線検査の特徴とその画像上での所見について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
9	エックス線CT検査の画像化機序および疾患における特徴的所見について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
10	MRI検査の画像化機序および疾患における特徴的所見について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
11	超音波検査の画像化機序および疾患における特徴的所見について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと

2023年度

歯科放射線学概論 (Introduction to Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
12	核医学検査の種類及び画像化機序について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
13	放射線治療の方法及び作用機序について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
14	第一種及び二種放射線取扱主任者試験について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
15	口頭試問	講義	森本	

2023年度

顎顔面外科学概論 (Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	笹栗 正明						

授業の概要

口腔顎顔面に現れるさまざまな疾患の診断、治療の概略を理解し、臨床の現場で用いられている診断・分析技術、治療用具や薬剤、材料の進歩について理解を深める。また、それから発して、再生医療や創薬、癌の予防やより早期の診断、低侵襲な治療など臨床の求めに工学の技術、手法がどのように役立てられるかについて考える

学生の到達目標

口腔顎顔面疾患の診断と治療における医療者側のニーズを理解する。

テキスト

タイトル	著者	出版社
資料配布		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義後の課題レポートによる評価	100%

その他

学生相談：随時

2023年度

顎顔面外科学概論 (Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	笹栗 正明						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	顎顔面の解剖と発生	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
2	先天異常	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
3	発育異常	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
4	外傷 (創傷治癒)	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
5	炎症	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
6	良性腫瘍	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
7	悪性腫瘍 (1)	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
8	悪性腫瘍 (2)	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
9	顎関節疾患	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
10	粘膜疾患	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
11	血液疾患	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。

2023年度

顎顔面外科学概論 (Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	笹栗 正明						
担当教員	笹栗 正明						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
12	インプラント	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
13	顎顔面補綴	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
14	手術学 (滅菌消毒)	講義	笹栗	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
15	まとめ	講義	笹栗	

2023年度

骨・骨格筋の分子生物学 (Molecular Biology for Bone and Skeletal muscle)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	15.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	古株彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎, 松原 琢磨, Addison William						
	松原琢磨、Addison WN						

授業の概要

骨・骨格筋の衰弱による運動機能の低下は要支援・要介護状態の大きな原因であり、超高齢社会のわが国では骨と骨格筋の再生医療の確立が急務である。骨・骨格筋は組織量が多く、大きな荷重がかかるため、骨や骨格筋の再生医療では工学的視点が不可欠である。そこで本講義・実習ではベースとなる骨・骨格筋の生理学、関連する疾患ならびに実験手法を学ぶ。

学生の到達目標

骨・骨格筋の生理学、病態生理学、ならびに骨・骨格筋の分子生物学研究の基本となる知識、考え方や実験手法の知識の獲得を目指す。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
必要に応じて各自入手する。		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	80%
口頭試問	20%

成績評価はルーブリック評価により行う。
ルーブリック評価表は初回に配布する。

その他

学生相談：随時

2023年度

骨・骨格筋の分子生物学 (Molecular Biology for Bone and Skeletal muscle)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	15.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	古株 彰一郎						
担当教員	古株 彰一郎, 松原 琢磨, Addison William						
	松原琢磨、Addison WN						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	培養細胞の扱いと骨格筋細胞増殖モデルの作製法	講義 (遠隔または対面)	古株	細胞培養について予習
2	骨格筋細胞増殖の評価法	講義 (遠隔または対面)	Addison WN	骨格筋について予習
3	骨格筋分化モデルの作製法	講義 (遠隔または対面)	Addison WN	細胞分化について予習
4	骨格筋細胞分化の評価	講義 (遠隔または対面)	Addison WN	骨格筋幹細胞について予習
5	骨格筋萎縮モデルの作製法	講義 (遠隔または対面)	古株	骨格筋の萎縮について予習
6	骨格筋萎縮の評価	講義 (遠隔または対面)	古株	サルコペニアについて予習
7	初代培養骨格筋幹細胞の採取と培養	講義 (遠隔または対面)	Addison WN	初代培養について予習
8	骨芽細胞分化モデルの作製	講義 (遠隔または対面)	松原	骨芽細胞について予習
9	骨芽細胞分化の評価I	講義 (遠隔または対面)	松原	骨芽細胞の分化について予習
10	骨芽細胞分化の評価II	講義 (遠隔または対面)	松原	骨芽細胞の石灰化について予習
11	マウス頭蓋冠からの骨芽細胞採取法と培養	講義 (遠隔または対面)	古株	骨芽細胞と骨細胞の関係について予習
12	骨髄間質幹細胞の採取法と培養	講義 (遠隔または対面)	古株	骨髄間葉系幹細胞について予習
13	破骨細胞分化モデルの作製法	講義 (遠隔または対面)	松原	破骨細胞について予習
14	破骨細胞分化モデルの評価法I	講義 (遠隔または対面)	松原	破骨細胞の分化について予習
15	破骨細胞分化モデルの評価法II	講義 (遠隔または対面)	松原	骨粗鬆症など骨代謝性疾患について予習

2023年度

感染症の分子生物学 (Molecular Biology for Infectious Diseases)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有吉 渉						
担当教員	有吉 渉, 山崎 亮太						

授業の概要

感染症を病原体-宿主相互作用という観点から捉え、これに関わる病原微生物と宿主の感染防御システムである免疫について分子生物学的に解説する。さらに、現在展開されている感染症に関する歯工学連携研究の一部を紹介し、新しい機序に基づく健康・医療技術シーズの創出を担う複眼的視点を持つ人材育成を目指す。

学生の到達目標

- ① 感染に関わる病原体側の因子を説明できる。
- ② バイオフィルムの機能や細菌間情報伝達機構を説明できる。
- ③ 口腔内の感染症について分子生物学およびマイクロバイオームの観点から説明できる。
- ④ 免疫による病原体の認識機構と排除機構を説明できる。
- ⑤ サイトカインや炎症性メディエーターを説明できる。
- ⑥ パターン認識受容体を説明できる。
- ⑦ 炎症応答における免疫細胞の機能を説明できる。
- ⑧ 口腔内の病原体排除機構を説明できる。
- ⑨ 感染症に対する診断、予防、治療を説明できる。
- ⑩ インフラマソームを説明できる。
- ⑪ 骨リモデリングの分子メカニズムを説明できる。
- ⑫ 骨代謝における免疫系の関与を説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
事前に資料を配布の上、学習項目を提示。		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

- ・講義後に提出するレポート (3回) の評価を数値化して評価する。配点は、各1回0～30点 (計90点) とし、100点満点に換算する。
- ・評価にはルーブリックを使用する。ルーブリックは、初回講義の際に配布する。

その他

【オフィスアワー】講義・演習の前後、またはメールで受け付ける。

2023年度

感染症の分子生物学 (Molecular Biology for Infectious Diseases)

開講年次	1～4年	期区分	通年	必修/選択	歯工学連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有吉 渉						
担当教員	有吉 渉, 山崎 亮太						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	病原微生物の分子生物学Ⅰ： 感染症学に必要な分子生物学および細菌学の概要を学ぶ。	講義	山崎	【事前学修】配布資料の精読
2	病原微生物の分子生物学Ⅱ： 病原体のもつ定着因子や内毒素について学ぶ。	講義	山崎	【事前学修】配布資料の精読
3	病原微生物の分子生物学Ⅲ： バイオフィルムの構造や機能について学ぶ。	講義	山崎	【事前学修】配布資料の精読
4	病原微生物の分子生物学Ⅳ： 口腔内の細菌のもつ病原因子について学ぶ。	講義	山崎	【事前学修】配布資料の精読
5	病原微生物の分子生物学Ⅴ： マイクロバイオームの生態と機能について学ぶ。	講義	山崎	【事前学修】配布資料の精読 【事後学修】レポート作成
6	感染防御の分子生物学Ⅰ： 免疫学の学習に必要な分子生物学の概要について学ぶ。	講義	有吉	【事前学修】：配布資料の精読
7	感染防御の分子生物学Ⅱ： 自然免疫による異物の認識と抗原排除に関するメカニズムについて学ぶ。	講義	有吉	【事前学修】配布資料の精読
8	感染防御の分子生物学Ⅲ： 体液性免疫による異物の認識と抗原排除に関するメカニズムについて学ぶ。	講義	有吉	【事前学修】配布資料の精読
9	感染防御の分子生物学Ⅳ： 細胞性免疫による異物の認識と抗原排除に関するメカニズムについて学ぶ。	講義	有吉	【事前学修】配布資料の精読
10	感染防御の分子生物学Ⅴ： 唾液および抗菌物質など、口腔内の感染防御機構について学ぶ。	講義	有吉	【事前学修】配布資料の精読
11	感染防御の分子生物学Ⅵ： 病因論に基づいた感染症の診断、予防、治療について学ぶ。	講義	有吉	【事前学修】配布資料の精読
12	感染防御の分子生物学Ⅶ： 炎症応答におけるインフラマソームの活性化メカニズムについて学ぶ。	講義	有吉	【事前学修】配布資料の精読 【事後学修】レポート作成
13	炎症性骨破壊Ⅰ： 骨リモデリングの制御システムについて学ぶ。	講義	有吉	【事前学修】配布資料の精読
14	炎症性骨破壊Ⅱ： 骨代謝の制御に関わる様々な免疫調節分子について学ぶ。	講義	有吉	【事前学修】配布資料の精読
15	炎症性骨破壊Ⅲ： 骨免疫学を応用した炎症性骨吸収に対する治療アプローチについて学ぶ。	講義	有吉	【事前学修】配布資料の精読 【事後学修】レポート作成

2023年度

臨床研究デザインⅠ (Clinical Research DesignⅠ)

開講年次	1～4年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館直樹						
担当教員	角館 直樹, 唐木 純一						

授業の概要

本講義では、臨床研究の基礎的内容を学習し、臨床研究デザインについて理解する。また、各自で考えた診療現場における疑問に基づいて文献を検索し、選んだ論文を批判的に吟味してプレゼンテーションを行うことで、Evidence-Based Dentistry(EBD)の実践力を養う。

学生の到達目標

1. 診療上の疑問をリサーチクエスチョンにすることができる。2. 臨床研究デザインの概略を理解する。3. 適切な臨床研究デザインを選択できる。4. 臨床研究論文・構造化抄録の批判的吟味ができる。5. Evidence-Based Dentistryを実践できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
Evidence-Based Dentistry 入門		永末書店

参考書

タイトル	著者	出版社
医学的研究のデザインー研究の質を高める疫学的アプローチ第3版		メディカルサイエンスインターナショナル社
歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド		医歯薬出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の成果物	60%
発表会	40%

その他

開講日程の事前確認：履修希望者は科目責任者に連絡し、講義日程を事前に確認した上で履修届を提出してください。【オフィスアワー】講義の前後、またはメールにて随時受付。

2023年度

臨床研究デザイン I (Clinical Research Design I)

開講年次	1～4年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館直樹						
担当教員	角館 直樹, 唐木 純一						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	臨床研究とEBD臨床研究とEBDの関係について学び、臨床研究の全体像を理解する。	講義	角館	予習：EBDの定義 復習：エビデンスレベル
2	研究デザイン各種の臨床研究デザインについて学び、その利点と欠点について理解する。	講義	角館	予習：研究デザイン 復習：横断研究、症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験
3	臨床研究におけるバイアスについてバイアスについて学び、主に3大バイアスについて理解する。	講義	角館	予習：バイアス 復習：3大バイアス
4	批判的吟味①(観察研究) 観察研究に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	講義+演習	角館	予習：課題論文の読解 復習：スクリーニングについて
5	批判的吟味②(介入研究) ランダム化比較試験(RCT)に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	講義+演習	角館	予習：課題論文の読解 復習：RCT論文の批判的吟味
6	臨床研究論文・構造化抄録の読み方臨床研究論文の構成および構造化抄録の読解方法を学ぶ。	講義	角館	予習：論文の構成 復習：論文読解のポイント
7	システマティックレビュー・メタアナリシス・診療ガイドラインデータ統合型研究・診療ガイドラインの詳細について学び、その評価方法について理解する。	講義+演習	角館	予習：システマティックレビュー 復習：メタアナリシス
8	批判的吟味③(システマティックレビュー・メタアナリシス) システマティックレビュー・メタアナリシスに関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	講義+演習	角館	予習：課題論文の読解 復習：論文の批判的吟味方法
9	診療上の疑問の定式化各自のリサーチクエスチョンをPICOのフォーマットを用いて定式化する。	講義+演習	角館	予習：疑問の定式化 復習：PICOを用いた
10	情報検索演習①文献検索方法について学び、PICOに基づいて実際にPubMed等を用いて文献検索する。	講義+演習	角館	予習：文献検索方法について 復習：PubMed、医中誌を用いた検索
11	情報検索演習②Cochrane Library, Mindsを用いて、システマティックレビューや診療ガイドラインを検索する。	講義+演習	角館	予習：Cochrane Library/Minds 復習：システマティックレビュー・診療ガイドライン
12	情報検索演習③PubMed等を用いて、受講者自身の診療上の疑問に基づいて文献検索する。	演習	角館	予習：文献検索方法について 復習：文献検索結果のまとめを作成
13	プレゼンテーションスライド作成各自で選んで批判的吟味した論文についてスライドを作成し、発表資料を作成し、質疑応答を行う。	演習	角館	予習：発表資料の作成 復習：発表資料の修正

2023年度

臨床研究デザインⅠ (Clinical Research DesignⅠ)

開講年次	1～4年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館直樹						
担当教員	角館 直樹, 唐木 純一						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
14	論文の批判的吟味発表会①各自で検索した論文を読解して批判的吟味をした結果を発表する。	演習	角館唐木	予習：発表用スライド準備復習：スライド修正
15	論文の批判的吟味発表会②各自で検索した論文を読解して批判的吟味をした結果を発表する。	演習	角館唐木	予習：発表用スライド準備復習：スライド修正

2023年度

臨床研究デザイン II (Clinical Research Design II)

開講年次	1～4年	期区分	後期	必修/選択	大学間連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹, 唐木 純一						

授業の概要

本講義では、臨床研究の専門的な知識および臨床研究を実践する上での応用力を養う。また演習では診療現場における実際の疑問に基づいて研究をデザインし、プロトコルを作成するための能力を養う。最後に研究プロトコルの発表会を行う。

学生の到達目標

1. 臨床疫学研究の計画から実施までの流れを理解できる。2. 各自の診療上の疑問を定式化することができる。3. 研究デザインを立案できる。4. 基本的な統計学的分析方法を理解できる。5. 研究プロトコルを作成することができる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
Evidence-Based Dentistry 入門		永末書店

参考書

タイトル	著者	出版社
医学的研究のデザインー研究の質を高める疫学的アプローチ第3版		メディカルサイエンスインターナショナル社
歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド		医歯薬出版

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の成果物	60%
発表会	40%

その他

開講日程の事前確認：履修希望者は科目責任者に連絡し、講義日程を事前に確認した上で履修届を提出してください。【オフィスアワー】講義の前後、またはメールにて随時受付。

2023年度

臨床研究デザイン II (Clinical Research Design II)

開講年次	1～4年	期区分	後期	必修/選択	大学間連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹, 唐木 純一						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	疑問の定式化各自の診療上の疑問を用いてPICOのフォーマットを用いて定式化することの意義を学び、実践する。	講義	角館	予習：PICOについて復習：Finerチェックについて
2	バイアスの制御①情報バイアス、選択バイアスなどについて理解し、その対処法を学ぶ。	講義＋演習	角館	予習：研究デザイン復習：情報バイアスと選択バイアスの制御方法
3	バイアスの制御②交絡バイアスについて理解し、それを制御する方法について学ぶ。	講義＋演習	角館	予習：交絡バイアス復習：交絡バイアスの制御方法
4	概念モデルの作成第3の因子について学び、自らの仮説に基づいて概念モデルを作成する。	講義＋演習	角館	予習：概念モデル復習：概念モデルの作成
5	研究デザインの立案①自らの臨床上の疑問を解決するために適切な臨床研究デザインを選択する。	演習	角館	予習：臨床研究デザイン復習：各種の研究デザインの利点・欠点
6	研究デザインの立案②自らの臨床上の疑問を解決するために臨床研究をデザインを立案・計画する。	演習	角館	予習：臨床研究デザイン復習：各種の研究デザインの利点・欠点
7	文献検索演習①文献検索方法について理解し、各自のPICOを基に文献検索する。	演習	角館	予習：文献検索方法復習：PubMed、医中誌、Mindsの検索
8	文献検索演習②文献検索方法について理解し、各自のPICOを基に文献検索する。	演習	角館	予習：文献検索方法復習：PubMed、医中誌、Mindsの検索
9	質問票の作成/研究計画書の倫理委員会への申請質問票の作り方を学び、実際に各自の質問項目を考える。また、研究計画書の作成方法・疫学研究における医療倫理について学び、実際に倫理委員会への書類提出のプロセスについて理解する。	講義＋演習	角館	予習：質問紙調査、各種倫理指針・利益相反等復習：質問票の作成、倫理委員会提出のプロセス
10	統計解析の基本①データの種類と取扱い方について学び、相関について学習する。	講義	角館	予習：データの種類について復習：相関について
11	統計解析の基本②仮説検定の方法について学び、カイ2乗検定およびt検定について学習する。	講義＋演習	角館	予習：仮説検定について復習：カイ2乗検定、t検定
12	統計解析の基本③多変量解析、生存分析をはじめとする様々な統計学的分析方法について学習する。	講義	角館	予習：多変量解析、生存分析について復習：各種の統計学的分析方法について

2023年度

臨床研究デザイン II (Clinical Research Design II)

開講年次	1～4年	期区分	後期	必修/選択	大学間連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹, 唐木 純一						

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
13	プレゼンテーションスライド作成各自で作成した研究計画についてプレゼンテーションの準備を行う。	演習	角館	予習：発表用スライド準備復習 ：スライド修正
14	研究プロトコル最終発表会①各自で作成した研究計画についてプレゼンテーションを行う。	演習	角館唐木	予習：発表用スライド準備復習 ：スライド修正
15	研究プロトコル最終発表会②各自で作成した研究計画についてプレゼンテーションを行う。	演習	角館唐木	予習：発表用スライド準備復習 ：スライド修正

2023年度

高齢期歯科疾患概論Ⅰ (Introduction to Geriatric DentistryⅠ)

開講年次	1～3年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	(歯学) 唐木 純一						
担当教員	多田 葉子, 久保田 潤平, 磯部 彩香, 唐木 純一						
	唐木 純一 久保田 潤平 磯部 彩香 多田 葉子						

授業の概要

高齢期歯科疾患概論Ⅰ(講義・演習)では、高齢者の身体的・社会的・精神的特徴について理解し、現在高齢者を取り巻く医療・介護制度についての把握をする。また、高齢期における歯科疾患の特徴を把握したうえで、口腔環境改善を通じた健康増進の観点から高齢者支援の知識を養う。

学生の到達目標

1. 高齢者の身体的な変化と口腔領域の老化を理解する。2. 高齢者を取り巻く社会状況、医療・介護制度について理解する。3. 高齢期に多い歯科疾患を理解する。

テキスト

タイトル	著者	出版社
教科書は特に用いず、講義・演習プリントを配布する。各自の必要性に応じて参考書を購入すればよいが、どの参考書がよいか分からないときは随時相談に応じる。		

参考書

タイトル	著者	出版社
老年医学への招待		
高齢者歯科ガイドブック		
口腔微生物学・免疫学		
改訂PCR実験ノート		
細胞培養入門ノート		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート・成果物	100

その他

随時学習相談に対応する。本科目は大学間連携共同教育推進事業科目に設定されている。遠隔講義、対面講義にて講義を行う。

2023年度

高齢期歯科疾患概論 I (Introduction to Geriatric Dentistry I)

開講年次	1～3年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	(歯学) 唐木 純一						
担当教員	多田 葉子, 久保田 潤平, 磯部 彩香, 唐木 純一						
	唐木 純一 久保田 潤平 磯部 彩香 多田 葉子						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	高齢者医療を取り巻く現状①	講義	唐木	事前・事後学習: 少子高齢化の進行と課題
2	高齢者医療を取り巻く現状②	講義	唐木	事前・事後学習: 高齢者医療制度
3	高齢者に多い口腔内疾患の特徴①	講義	唐木	事前・事後学習: う蝕
4	高齢者に多い口腔内疾患の特徴②	講義	唐木	事前・事後学習: 歯周病
5	口腔機能と感染症①	演習	久保田	事前・事後学習: 口腔機能
6	口腔機能と感染症②	講義	久保田	事前・事後学習: 口腔機能向上
7	口腔機能と感染症③	講義	久保田	事前・事後学習: 感染と免疫について
8	要介護高齢者の訪問歯科診療①	講義	多田	事前・事後学習: 介護度
9	要介護高齢者の訪問歯科診療②	講義	多田	事前・事後学習: 介護老人福祉施設
10	要介護高齢者の訪問歯科診療③	講義	多田	事前・事後学習: 経管栄養
11	口腔内の環境に関する基礎知識と口腔ケア①	講義	磯部	事前・事後学習: バイオフィルム
12	口腔内の環境に関する基礎知識と口腔ケア②	講義	磯部	事前・事後学習: 誤嚥性肺炎
13	口腔内の環境に関する基礎知識と口腔ケア③	講義	磯部	事前・事後学習: 機能的口腔ケア
14	学際領域としての高齢者医療に対するアプローチ①	講義・演習	唐木	事前・事後学習: 高齢者医療の問題点
15	学際領域としての高齢者医療に対するアプローチ②	講義・演習	唐木	事前・事後学習:

2023年度

高齢期歯科疾患概論Ⅱ (Introduction to Geriatric Dentistry II)

開講年次	1～3年	期区分	後期	必修/選択	大学間連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	(歯学) 唐木 純一						
担当教員	多田 葉子, 久保田 潤平, 磯部 彩香, 唐木 純一						
	唐木 純一 久保田 潤平 磯部 彩香 多田 葉子						

授業の概要

高齢期歯科疾患概論2では、高齢期における歯科疾患の特徴と全身状態との関連について把握するとともに、高齢者歯科医学の隣接分野や患者報告型アウトカムについて学ぶことで、健康増進の観点から高齢者支援の知識を養うことを目的とする。

学生の到達目標

1. 高齢期に多く見られる口腔関連疾患について理解する。2. 高齢者歯科医療分野における患者報告型アウトカム、QOLの重要性について理解する。3. 高齢者歯科医学の隣接分野の知識を得る。

テキスト

タイトル	著者	出版社
教科書は特に用いず、講義・演習プリントを配布する。各自の必要性に応じて参考書を購入すればよいが、どの参考書がよいか分からないときは随時相談に応じる。		

参考書

タイトル	著者	出版社
高齢者歯科ガイドブック		
口腔微生物学・免疫学		
改訂PCR実験ノート		
細胞培養入門ノート		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

その他

遠隔講義及び対面講義を行う。随時学習相談に対応する。本科目は大学間連携共同教育推進事業科目に設定されている。

2023年度

高齢期歯科疾患概論Ⅱ (Introduction to Geriatric Dentistry II)

開講年次	1～3年	期区分	後期	必修/選択	大学間連携科目 (九歯大)	単位数	2.0
授業方法	講義・演習	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	(歯学) 唐木 純一						
担当教員	多田 葉子, 久保田 潤平, 磯部 彩香, 唐木 純一						
	唐木 純一 久保田 潤平 磯部 彩香 多田 葉子						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	高齢者医療に関する保険制度①	遠隔授業	唐木	介護保険制度
2	高齢者医療に関する保険制度②	遠隔授業	唐木	医療保険制度
3	QOL (生活の質) とPRO(患者報告型アウトカム)①	遠隔授業	唐木	健康関連QOL
4	QOL (生活の質) とPRO(患者報告型アウトカム)②	遠隔授業	唐木	患者報告型アウトカム
5	認知症①	遠隔授業	多田	認知症
6	認知症②	遠隔授業	多田	認知症
7	災害と歯科①	遠隔授業	多田	DMAT
8	災害と歯科②	遠隔授業	久保田	災害拠点病院
9	災害と歯科③	遠隔授業	唐木	広域災害救急医療情報システム
10	摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎①	遠隔授業	唐木	摂食嚥下障害のスクリーニング検査
11	摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎②	遠隔授業	唐木	間接訓練
12	摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎③	遠隔授業	唐木	直接訓練
13	高齢者の臨床評価①	遠隔授業	磯部	臨床評価
14	高齢者の臨床評価②	遠隔授業	唐木	臨床評価
15	学際領域としての高齢者医療に対するアプローチ	遠隔授業	唐木	高齢者医療の問題点

2023年度

高分子物性論 (Introduction to Polymer Physics)

開講年次	1~2年	期区分	後期	必修/選択	大学間連携科目 (北九大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 望月 慎一						
担当教員	〔非常勤講師〕 櫻井 和朗, 〔非常勤講師〕 望月 慎一						

授業の概要

タンパク質などの生体高分子や医療材料につかわれるシリコンなどの合成高分子の理解に不可欠な高分子物性の基礎に関して学ぶ。

学生の到達目標

医療分野で使われるプラスチック材料の理解に、必要な高分子の性質の基礎について、分子量、結晶化、レオロジー、散乱に関して理解をする。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
基礎高分子科学(2006, ISBN 978-4-8079-0635-2)	高分子学会	東京化学同人
高分子の物理学(1994, ISBN 978-4-7853-2056-0)	田中文彦	裳華房

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

その他

2023年度

高分子物性論 (Introduction to Polymer Physics)

開講年次	1~2年	期区分	後期	必修/選択	大学間連携科目 (北九大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 望月 慎一						
担当教員	〔非常勤講師〕 櫻井 和朗, 〔非常勤講師〕 望月 慎一						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	高分子とは	講義	望月	
2	分子鎖の形態	講義	望月	
3	高分子のコンフィギュレーション	講義	望月	
4	高分子のコンフォメーション	講義	望月	
5	結晶化状態	講義	望月	
6	一次結晶化	講義	望月	
7	二次結晶化	講義	望月	
8	エントロピー弾性力	講義	望月	
9	粘弾性	講義	望月	
10	誘電性	講義	望月	
11	界面物性	講義	望月	
12	高分子と散乱 I	講義	望月	
13	高分子と散乱 II	講義	望月	
14	高分子と散乱 III	講義	望月	
15	まとめ	講義	望月	

2023年度

生体材料論 (Biomaterials)

開講年次	1～2年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (北九大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 中澤 浩二						
担当教員	〔非常勤講師〕 中澤 浩二						

授業の概要

生体材料は、医療器具、再生医療、人工臓器、細胞培養などのライフサイエンス分野において欠くことのできない材料である。本講義では、生体材料として利用される材料の種類とその特徴、生体材料に求められる条件、さらには材料と生体間で起こる反応について理解する

学生の到達目標

1. 生体材料の特徴と必要条件を理解する。2. 材料と生体間で起こる反応を理解する。3. 生体材料の設計や開発に必要な知識を修得する。4. 生体材料の開発に関する近年の動向を知る。5. 生体適合性を高めるための方針やアイデアを提案できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社

参考書

タイトル	著者	出版社
新版ヴィジュアルでわかるバイオマテリアル(2011, ISBN 978-4-7809-0845-9)	古菌勉・岡田正弘	秀潤社
先端バイオマテリアルハンドブック(2012, ISBN 978-4-86469-003-4)	秋吉一成・石原一彦・山岡哲二監修	NTS

成績評価方法・基準

評価項目	割合
積極的な授業参加	30%
レポート	70%

その他

2023年度

生体材料論 (Biomaterials)

開講年次	1～2年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (北九大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 中澤 浩二						
担当教員	〔非常勤講師〕 中澤 浩二						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	バイオマテリアルとは	講義	中澤	
2	バイオマテリアルの必要条件	講義	中澤	
3	生体適合性	講義	中澤	
4	異物反応	講義	中澤	
5	マテリアルと生体反応	講義	中澤	
6	マテリアルの界面設計	講義	中澤	
7	安全性試験	講義	中澤	
8	金属	講義	中澤	
9	セラミックス	講義	中澤	
10	高分子	講義	中澤	
11	天然高分子	講義	中澤	
12	プレゼンと討論 1 (前半組)	講義	中澤	
13	プレゼンと討論 2 (後半組)	講義	中澤	
14	総合討論	講義	中澤	
15	まとめ	講義	中澤	

2023年度

物理化学概論 (Introduction to physical chemistry)

開講年次	1～2年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 竹中 繁織						
担当教員	〔非常勤講師〕 竹中 繁織, 〔非常勤講師〕 横野 照尚						
	〔非常勤講師〕 竹中 繁織						

授業の概要

学部で習得した物理化学に関する知識をさらに発展させ物理化学の応用について講義する。学年に応じてトピック的な主題を取り上げ、基礎から応用まで講義する。

学生の到達目標

①熱力学を理解できる。②動力学を理解できる。③化学平衡を理解できる。④量子化学を理解できる。⑤統計熱力学を理解できる。⑥電気化学を理解できる。⑦群論を理解できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
関連資料を事前に配布する		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
授業中の小テスト・試験	100%

講義ノート of 提出を求める。

その他

学習相談：竹中繁織：月～金12:00～13:00・16:30～18:00

2023年度

物理化学概論 (Introduction to physical chemistry)

開講年次	1～2年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 竹中 繁織						
担当教員	〔非常勤講師〕 竹中 繁織, 〔非常勤講師〕 横野 照尚						
	〔非常勤講師〕 竹中 繁織						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	気体と熱力学第零法則	講義	竹中	文献、参考書予習
2	熱力学第一法則	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
3	熱力学第二法則と第三法則	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
4	自由エネルギーと化学ポテンシャル	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
5	化学平衡	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
6	一成分系・多成分系における平衡	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
7	電気化学とイオン溶液	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
8	量子力学入門	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
9	量子力学の適用－モデル系と水素原子－	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
10	原子と分子	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
11	量子力学における対称性	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
12	回転分光と振動分光	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
13	統計熱力学	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
14	気体分子運動論	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
15	反応速度論	講義	竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習

2023年度

生体力学 (Biomechanics)

開講年次	1～2年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	32.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 山田 宏						
担当教員	〔非常勤講師〕 山田 宏						

授業の概要

身体各部は内外で生じる力を受けており、その機能や挙動の一部は力学的現象である。生体現象と力学的因子との関係の解明は工学的観点から健康増進や障害・疾病の予防を支援する第一歩となる。本講義では筋骨格系等における生体組織の力学特性と工学的アプローチの習得のため、固体力学の立場から生体の構造、機能と応答を評価・解析する方法論を教授する。

学生の到達目標

1. バイオメカニクスの概要と関連分野を説明できる。
2. ニュートン力学の理論に基づいて筋骨格系に働く力を計算できる。
3. 材料力学の考え方に基づいて骨や歯の力学特性や応力状態を説明できる。
4. 粘弾性理論に基づいて生体軟組織の応力緩和やクリープ変形を説明できる。
5. 連続体力学の考え方に基づいて生体軟組織の大変形を説明できる。
6. 組織と細胞の材料力学試験と有限要素法による応力・ひずみ解析の方法を説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
力学の基礎とバイオメカニクス	山田宏	コロナ社

参考書

タイトル	著者	出版社
講義内で紹介する		

成績評価方法・基準

評価項目	割合
各回の講義の中で課す小課題	40%
調査学習の発表・レポート	60%

小課題は毎回の講義で課す。レポートは1週間以内に提出すること。

その他

学生相談：随時
遠隔授業を受講可能。

2023年度

生体力学 (Biomechanics)

開講年次	1～2年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (九工大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	32.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 山田 宏						
担当教員	〔非常勤講師〕 山田 宏						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	バイオメカニクスの概要と関連分野	講義	山田	文献、参考書予習
2	無重量状態での身体の力学的状態	講義	山田	講義・演習の予復習
3	静止状態で筋骨格系に働く力	講義	山田	講義・演習の予復習
4	硬組織の微小変形	講義	山田	講義・演習の予復習
5	骨や歯の力学特性 (正常・修復状態)	講義	山田	講義・演習の予復習
6	軟組織の粘弾性特性	講義	山田	講義・演習の予復習
7	調査学習 (範囲: 第1～6回)	演習	山田	調査の準備と復習
8	調査学習の発表 (範囲: 第1～6回)	演習	山田	調査の準備と復習
9	能動的収縮力を発揮する骨格筋の力学特性	講義	山田	講義・演習の予復習
10	軟組織の大変形	講義	山田	講義・演習の予復習
11	心臓・血管の力学特性1 (生理的機能)	講義	山田	講義・演習の予復習
12	心臓・血管の力学特性2 (加齢・病変)	講義	山田	講義・演習の予復習
13	衝撃を受ける生体組織の動的力学特性	講義	山田	講義・演習の予復習
14	組織・細胞の材料力学試験と有限要素解析	講義	山田	講義・演習の予復習
15	調査学習 (範囲: 第9～14回)	演習	山田	調査の準備と復習
16	調査学習の発表 (範囲: 第9～14回)	演習	山田	調査の準備と復習

2023年度

産業医学研究基盤コース (Basic Course on Research in Occupational Medicine)

開講年次	1年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (産業医大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	医学研究科長 (産業医大)						
担当教員	医学研究科長 (産業医大)						

授業の概要

産業医学研究を進めるにあたって、医学倫理・研究倫理、研究における利益相反、疫学・統計学基礎、英語論文作成方法等の基盤的な専門知識と技能、ならびに、研究を企画・遂行できる能力を修得する。

学生の到達目標

1. 大学院の使命を論じることができる。
2. トランスレーショナルリサーチについて説明できる。
3. 医学倫理・研究倫理について説明できる。
4. 研究における利益相反について説明できる。
5. 産業医学研究における疫学的手法について説明できる。
6. 基本的な統計学的手法を使うことができる。
7. 論文投稿・発表の倫理について説明できる。

テキスト

タイトル	著者	出版社
講義の中で必要に応じ紹介する。		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表等	60%
討論等	20%
レポート等	20%

発表、討論、レポート等により、総合的に評価する。
秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点) を合格とする。

その他

2023年度

産業医学研究基盤コース (Basic Course on Research in Occupational Medicine)

開講年次	1年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (産業医大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	医学研究科長 (産業医大)						
担当教員	医学研究科長 (産業医大)						

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	大学院の使命	講義	医学研究科長	-
2	医学研究法	講義	医学研究科長	-
3	トランスレーショナルリサーチ 1	講義	医学研究科長	-
4	トランスレーショナルリサーチ 2	講義	医学研究科長	-
5	医学研究の倫理	講義	医学研究科長	-
6	研究における利益相反	講義	医学研究科長	-
7	研究デザイン	講義	医学研究科長	-
8	統計学	講義	医学研究科長	-
9	組織形態学観察法についての基礎知識	講義	医学研究科長	-
10	英語論文作成手法	講義	医学研究科長	-
11	論文投稿・発表の倫理	講義	医学研究科長	-
12	研究用微生物の取り扱い	講義	医学研究科長	-
13	遺伝子組換え実験講習会	講義	医学研究科長	-
14	動物実験を行う上での基礎知識	講義	医学研究科長	-
15	放射線及びラジオアイソトープの取り扱い	講義	医学研究科長	-

2023年度

医学研究概論 (Introduction of Medical Research)

開講年次	1年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (産業医大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	医学研究科長 (産業医大)						
担当教員							

授業の概要

各専門領域における最新の医学研究 (基礎医学や臨床医学) の基盤的な専門知識と技能、ならびに、研究を企画・遂行できる能力を修得し、研究を進めるにあたって必要なりサーチマインドの熟成を目指す。

学生の到達目標

1. 医学研究の目的や意義について説明できる。
2. 最新の医学研究の動向について理解する。
3. 医学研究の特徴と様々な方法について学び、研究の基本的なプロセスを理解する。
4. 医学研究を行うにあたっての倫理的配慮および社会的責務について理解する。
5. 実際の研究方法について、具体例を通じて理解する。
6. 研究計画書の書き方を理解する。

テキスト

タイトル	著者	出版社
講義の中で必要に応じ紹介する。		

参考書

タイトル	著者	出版社

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表等	60%
討論等	20%
レポート等	20%

発表、討論、レポート等により、総合的に評価する。
秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点) を合格とする。

その他

※ 所属講座の教員の指導のもと、15コマを選択し受講すること。

2023年度

医学研究概論 (Introduction of Medical Research)

開講年次	1年	期区分	前期	必修/選択	大学間連携科目 (産業医大)	単位数	2.0
授業方法	講義	時間数	30.00	曜日		時限	
開講学科	大学院 歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	医学研究科長 (産業医大)						
担当教員							

授業計画

回	学修内容	授業方法	担当教員	事前・事後学修課題
1	構造形態と組織構造 (第1解剖学)	講義	医学研究科長	-
2	機能形態と細胞構造 (第2解剖学)	講義	医学研究科長	-
3	法医診断学概論 (法医学)	講義	医学研究科長	-
4	分子生物学概論 (分子生物学)	講義	医学研究科長	-
5	統合の生理機構 (第1生理学)	講義	医学研究科長	-
6	分子標的薬 (薬理学)	講義	医学研究科長	-
7	生体防御と認識機構 (免疫学・寄生虫学)	講義	医学研究科長	-
8	神経疾患の分子生物学 (神経内科学)	講義	医学研究科長	-
9	臨床免疫学 (第1内科学)	講義	医学研究科長	-
10	病態病理学 (第1病理学)	講義	医学研究科長	-
11	感染病態学 (微生物学)	講義	医学研究科長	-
12	臓器障害学概論 (第1外科学)	講義	医学研究科長	-
13	臓器障害学概論 (第2外科学)	講義	医学研究科長	-
14	運動器の機能と障害 (整形外科学)	講義	医学研究科長	-
28	運動器障害学概論 (リハビリテーション医学)	講義	医学研究科長	-
15	消化器障害 (第3内科学)	講義	医学研究科長	-
16	皮膚腫瘍における遺伝子変異のメカニズム (皮膚科学)	講義	医学研究科長	-
17	尿路機能異常 (泌尿器科学)	講義	医学研究科長	-
18	仮説提示の重要性 (第2内科学)	講義	医学研究科長	-
19	医用画像から得られる最新生体情報 (放射線科学)	講義	医学研究科長	-
20	びまん性肺疾患 (呼吸器内科学)	講義	医学研究科長	-
21	脳腫瘍学 (脳神経外科学)	講義	医学研究科長	-
22	遺伝子診断と遺伝カウンセリング (眼科学)	講義	医学研究科長	-
23	嚥下障害 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)	講義	医学研究科長	-
24	麻酔と患者転帰について (麻酔科学)	講義	医学研究科長	-
25	産婦人科癌の病因について (産科婦人科学)	講義	医学研究科長	-
26	小児感染症と宿主遺伝要因 (小児科学)	講義	医学研究科長	-
27	生体侵襲とエネルギー代謝 (救急医学)	講義	医学研究科長	-